

学部・研究科等の現況調査表

教 育

平成28年6月

秋田大学

目 次

1. 国際資源学部	1-1
2. 教育文化学部	2-1
3. 教育学研究科	3-1
4. 医学部	4-1
5. 医学系研究科	5-1
6. 理工学部	6-1
7. 工学資源学研究科	7-1

1. 国際資源学部

I	国際資源学部の教育目的と特徴	・・・	1 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	・・・	1 - 4
	分析項目 I 教育活動の状況	・・・	1 - 4
	分析項目 II 教育成果の状況	・・・	1 - 12
III	「質の向上度」の分析	・・・	1 - 15

I 国際資源学部の教育目的と特徴

1. 国際資源学部の教育目的

国際資源学部では、学則に定めた大学の目的を踏まえて、学部全体の目的を国際資源学部規程に定め、それに基づいた教育目標を定めている（資料1-1、2）。また、それに沿って、コースごとの教育目標を定めている（資料1-3）。

資料1-1：国際資源学部の目的

第2条 本学部は、地球の資源・エネルギー問題の解決を目指し、資源を網羅的かつ多角的に学び、豊かな人間性と国際的視野を併せ持ち、新たな資源技術と将来の資源・エネルギー戦略の発展・革新を担う人材を養成することを目的とする。

(出典：国際資源学部規程)

資料1-2：国際資源学部の教育目標

1. 資源学を通じて社会に貢献し、科学技術の発展に寄与したいと言う意欲を持つ人材の受け入れ
2. 国際舞台で通用する教育と人材の育成
3. 地球スケールのダイナミクスを俯瞰し、科学的好奇心からの積極的な問題解明と科学技術の創出を試みる資源技術者の育成
4. 資源国の背景を理解し、倫理観と社会的責任を有した問題解決能力を身につけた人材の育成
5. 学生の教育・研究環境の整備と勉学・研究のための生活支援
6. 教育・研究成果の社会への還元

(出典：国際資源部の概要 <http://www.akita-u.ac.jp/shigen/info/outline.html>)

資料1-3：コースごとの教育目標

資源政策コース	継続的な資源開発交流維持のための文化・歴史・宗教理解を中心としつつ、法学、経済、外交等までの多角的視点から資源・エネルギー問題を俯瞰し、責任ある資源開発と明日の資源戦略を描ける世界的リーダーを育てる教育を行う。
資源地球科学コース	最先端の地球史解析手法を学ぶと共に、資源形成過程の解明や新たな資源の可能性の探究を通じて資源科学分野で世界をリードする技術者・研究者育成のための教育を行う。
資源開発環境コース	資源の開発・生産からリサイクル技術までのレアメタル等をはじめとする鉱物資源の開発生産理論を学び、資源循環型社会の形成に貢献する人材を育てるための教育を行う。

(出典：国際資源学部設置計画書)

2. 国際資源学部の特徴

本学における資源学研究は、明治43年に開学した官立秋田鉱山専門学校に端を発する。以後、秋田大学鉱山学部（昭和24年開学）、工学資源学部（平成10年改組）と組織の形を変えながら、脈々と実績を重ね、100年以上にわたり我が国の資源産業界を牽引してきた。

そして平成26年度4月、国内外の大学や企業との連携体制を更に強化し、秋田の地に第一線の研究者及び教育者が集う世界水準の資源学教育研究拠点を形成することを目指して、国際資源学部を開設した（資料1-4）。

資料1-4：国立大学法人秋田大学の中期目標を達成するための計画（中期計画）（部分）

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

（中略）

（2）教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

【11】④世界水準の資源学教育拠点を形成し、国際資源学部（仮称）の設置を目指す。

（出典：秋田大学中期計画（平成27年3月31日文科科学大臣変更認可））

エネルギー資源および鉱物資源は、我々が日常生活を送る上で不可欠であるが、産出国・地域における政治・外交情勢の変化が、供給に大きな影響を及ぼすようになっている。

加えて、諸外国や政府系ファンドによる資源の囲い込み、金属鉱物資源市場への投機資金の流入、度重なる金融危機によるコモディティ価格の変動幅の拡大等、様々な要因による供給の不安定化が問題視されている。先進国・途上国・新興国の別を問わず、世界中の国や地域の様々な状況・要因が相互に関連・影響し、資源の需給バランスが変動することが認識されている。

こうした社会の動向に、柔軟かつ多角的に対応できる高度資源人材の育成や研究拠点の形成を目指し、本学部は開設された。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者としては、まず他の学部同様、受験生、在学生やその家族、卒業生が挙げられる。また、本学部の性質から、資源業界、政府関係機関、留学生やその出身国政府等も挙げることができる。

本学部に対する期待としては、何よりもまず高度資源人材の育成が挙げられる。

資源業界においては、将来を支える若手技術者の不足、資源の消費拡大に伴う資源開発人材の需要増加、最先端の技術を体系的に学べる環境の不足といった課題への対応が急務である。また、政府が進めている「ABEイニシアティブ」や「資源の絆」による外国人留学生の増加等、グローバルな教育環境の整備にも対応していかなければならない。

こうした課題に的確に対応するため、最先端の技術を体系的に学べる教育カリキュラム・環境を整備することや、幅広い視点と能力を備えた高度資源人材の育成が本学部に期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 教育研究組織及び教員

国際資源学部は1学科3コース(資源政策コース、資源地球科学コース、資源開発環境コース)で構成されている(資料1-5)。各学科に、大学設置基準上必要とされる人数を配置している(資料1-6)。

本学部の教員組織は、国際化に対応し、かつ文理融合による資源学教育を実施するため、外国人教員を含む多様性に富んだ人材を配置している。資源開発に直接係わる研究分野の専門家のほか、資源系企業や資源開発の最前線で豊富な実務経験を有する者、語学教育経験を有する者、資源国理解に必要な文化・宗教・法律・政治・経済などの人文・社会科学を担当できる者等、幅広い人材を配置し、分野の枠にとらわれない総合的な「資源学」を学ぶことを可能にしている。また、平成26年10月には全学組織である「国際資源学教育研究センター」の専任教員を本学部に配置換えし、資源学教育の推進や資源保有国からの要請に臨機応変に対応できるよう組織改革を進めた(資料1-7)。

資料1-5：国際資源学部の組織編成

コース名	教育分野
資源政策コース	政治学・国際関係論分野、法律・制度研究分野、資源経済学・地政学分野、国際協力・開発分野、社会人類学・地域研究分野、異文化コミュニケーション分野
資源地球科学コース	地史解析学・古環境解析学分野、鉱物資源・テクトニクス分野、岩石学分野、金属鉱床学分野、油地質学分野
資源開発環境コース	資源環境物質循環研究分野、物理探査研究分野、岩盤工学分野、エネルギー資源工学分野、資源分離工学分野、精錬プロセス工学研究分野

(出典：国際資源学部概要)

資料1-6：学科別の教員組織の構成と専任教員の配置(平成27年5月1日現在)

学科/コース	専任教員数[人]					設置基準 必要教員 数[人]
	教授	准教授	講師	助教	計	
資源政策コース	6	5	0	1	12	—
資源地球科学コース	5	5	1	3	14	—
資源開発環境コース	7	6	0	2	15	—
計	18	16	1	6	41	15(8)

※()は教授の数で内数(出典：国際資源学部調査)

資料1-7：専任教員の主に担当する教育分野(平成27年5月1日現在)

コース	担当教育分野	専任教員数[人]	内外国人教員数	
			内外国人教員数	内実務家教員数
資源政策コース	政治学・国際関係論分野	2	1	—
	法律・制度研究分野	1	—	1
	資源経済学・地政学分野	2	—	—
	国際協力・開発分野	1	—	1
	社会人類学・地域研究分野	3	—	—
	異文化コミュニケーション分野	3	2	—
	小計	12	3	2

資源地球科学コース	地史解析学・古環境解析学分野	3	1	-
	鉱物資源・テクトニクス分野	4	-	1
	岩石学分野	3	-	-
	金属鉱床学分野	2	-	-
	石油地質学分野	2	-	1
	小 計	14	1	2
資源開発研究コース	資源環境物質循環研究分野	3	-	1
	物理探査研究分野	3	-	-
	岩盤工学分野	2	-	-
	エネルギー資源工学分野	3	1	-
	資源分離工学分野	2	-	-
	精錬プロセス工学研究分野	2	-	-
	小 計	15	1	1
学部全体	合 計	39	5	5

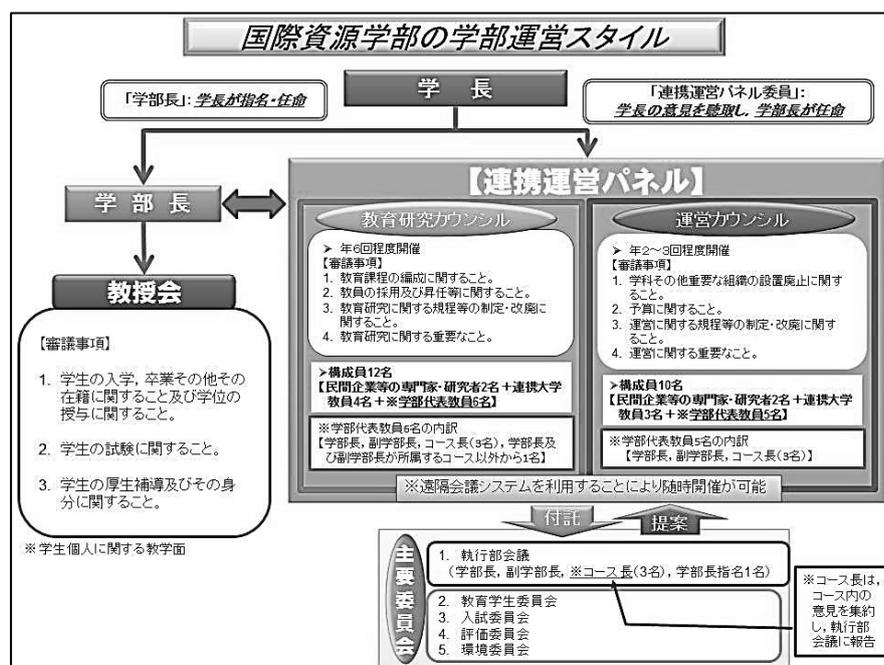
(出典：国際資源学部概要)

2. 組織体制

本学部は、学長のリーダーシップの下、他学部在先駆けて「教育研究カウンスル」及び「運営カウンスル」を学部開設当初から設置した（資料1-9）。教育研究カウンスルでは教育課程の編成方針、教員の人事方針、教育研究に関する重要事項について審議・決定し、運営カウンスルでは、組織の設置廃止、学部予算、運営に関する重要事項について審議・決定している（資料1-10）。学外委員を構成員に加えることにより、社会のニーズに対応した教育課程の編成等が可能となり、意思決定過程の透明化が図られる体制を構築している。

入学・卒業その他在籍に関すること及び学位の授与に関すること、試験に関すること、厚生補導及びその身分に関すること等、学生個人に関する教学面については、学部教授会で審議・決定している。

資料1-9：学部運営組織



(出典：国際資源学部設置計画書)

秋田大学国際資源学部 分析項目 I

資料1-10：各カウンシルの構成及び審議事項

	構成委員	審議事項
教育研究カウンシル	外部委員（6名） 1. (独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 理事（金属資源開発本部長） 2. 東京大学生産技術研究所 サステイナブル材料国際研究センター 客員教授 3. 東北大学大学院理学研究科教授 4. 東京大学大学院工学系研究科教授 5. 東京大学大学院工学系研究科教授 6. 九州大学工学研究院副研究院長 内部委員（6名） 1. 学部長 2. 副学部長 3. 資源政策コース長 4. 資源地球科学コース長 5. 資源開発環境コース長 6. 学部長が指名した教授	(1) 教育課程の編成に関すること。 (2) 教員の採用及び昇任等に関すること。 (3) 教育研究に関する規程等の制定・改廃に関すること。 (4) 教育研究に関する重要なこと。
運営カウンシル	外部委員（5名） 1. 国際石油開発帝石（株）相談役 2. DOWAホールディングス（株） 代表取締役 3. 電気通信大学産学官連携センター 特任教授 4. 東京大学生産技術研究所教授 5. 東北大学多元物質科学研究所教授 内部委員（5名） 1. 学部長 2. 副学部長 3. 資源政策コース長 4. 資源地球科学コース長 5. 資源開発環境コース長	(1) 学科その他重要な組織の設置廃止に関する こと。 (2) 予算に関すること。 (3) 運営に関する規程等の制定・改廃に関する こと。 (4) 運営に関する重要なこと。

（出典：国際資源学部カウンシル規程）

3. 入学者選抜

求める学生像やその能力について、アドミッション・ポリシーとして定め、公表している（資料1-11）。

これに沿って入試委員会を中心に学生募集要項等を作成し、推薦入試Ⅱ、私費外国人留学生入試、前期日程、後期日程により入学選抜を実施している（資料1-12）。語学能力の高い学生を受け入れるため、TOEFLやTOEIC等英語資格の条件を満たしている者に対し、英語科目を満点として個別学力検査の英語科目を免除する特色ある入試を実施している。

また、本学部は外国人留学生を積極的に受け入れることから、学部共通の外国人留学生枠5名を設定しており、本人が希望するコースを受験させるなど柔軟に対応している。

秋田大学国際資源学部 分析項目 I

資料 1-11: 国際資源学部 入学者受入方針

国際資源学部では、次のような人材を求めています。

1. 資源・エネルギー・環境問題への強い関心を持ち、その解決のためにねばり強く探求し柔軟に思考できる人
2. 自然科学と人文社会科学の両面から資源問題を総合的に捉え、実務家、技術者、研究者として社会の発展に貢献したいという意欲をもち、新たな分野へ立ち向かうチャレンジ精神のある人
3. 国際的に通用する論理的思考力と判断力および外国語による表現力とコミュニケーション能力を身につけ、グローバルなフィールドで活躍しようとする人

(出典: 求める学生像 (アドミッション・ポリシー) <http://www.akita-u.ac.jp/shigen/reason/image.html>)

資料 1-12: 試験種ごとの入学状況

コース	区分	平成 26 年度		平成 27 年度	
		定員	入学者	定員	入学者
資源政策コース	推薦入試Ⅱ	3	3	3	3
	私費外国人留学生入試	-	2	-	4
	前期日程	20	21	20	18
	後期日程	7	9	7	10
	小計	30	35	30	35
資源地球科学コース	推薦入試Ⅱ	5	6	5	3
	私費外国人留学生入試	-	1	-	-
	前期日程	22	19	22	21
	後期日程	8	12	8	9
	小計	35	38	35	33
資源開発環境コース	推薦入試Ⅱ	5	5	5	5
	私費外国人留学生入試	-	2	-	2
	前期日程	35	34	35	32
	後期日程	10	13	10	13
	小計	50	54	50	52
合計	推薦入試Ⅱ	13	14	13	11
	私費外国人留学生入試	5	5	5	6
	前期日程	77	74	77	71
	後期日程	25	34	25	32
	計	120	127	120	120

※私費外国人留学生については、学部全体で5名

(出典: 秋田大学入学試験状況調)

4. 教員の教育力向上

学業の成果に関する学生の評価として、専門教育科目における授業評価を実施している。授業評価の結果は、5点満点中概ね4点を超えており、教員個々の教育力がある程度明確になった(資料1-13)。学部開設2年目で専門科目が開始したばかりであり、更なる授業内容の充実に向け準備を進めている。

さらに3年次から始まる必修科目「海外資源フィールドワーク」の実施に向けて、学部内に海外資源フィールドワーク委員会を立ち上げ、危機管理体制の構築やプログラムの安全性について検討を開始している(資料1-14)。

秋田大学国際資源学部 分析項目 I

資料 1-13：授業評価結果

国際資源学部専門教育科目における授業評価結果

	平成27年度
	前期
実施科目数	24
回答者数	1065
個々の回答項目(5点満点)	
授業の目的や達成目標及び評価基準が明確に示されていましたか。	4.30
授業の内容は、シラバスと一致していましたか。	4.32
授業はよく準備されていましたか。	4.38
説明は明確でわかりやすいものでしたか。	3.96
授業内容は興味深いものでしたか。	4.06
授業の内容は、理解できる分量でしたか。	3.76
授業の進む速さは適切でしたか。	4.02
学習の課題、問題演習等の指示が適切に行われましたか。	4.20
授業に対する教員の熱意が感じられましたか。	4.28
あなたは授業の内容を理解し、目標を達成できたと思いますか。	3.65
この授業に対する学習時間(授業時間を除く)は授業1回あたり、どのくらいですか。(パーセンテージ)	
3時間以上	12.30%
2～3時間	10.14%
1～2時間	16.15%
30分～1時間	19.15%
30分未満	24.04%
ほとんどない	17.18%
無回答	1.03%

(出典：国際資源学部教育学生委員会)

資料 1-14：国際資源学部海外資源フィールドワーク委員会の審議事項

<p>(審議事項)</p> <p>第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 海外資源フィールドワークに係る各プログラムの安全性に関すること。 (2) 海外渡航する学生との連絡体制に関すること。 (3) その他海外資源フィールドワークに関すること。

(出典：国際資源学部フィールドワーク委員会細則)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 社会のニーズに対応した人材を養成するため、学部を新設するとともに、大学改革強化推進補助金や大学機能強化経費により実験設備や語学学習システムの設置、海外資源フィールドワークの事前視察・調整や海外教育研究拠点の整備を行った。

また、他学部在先駆けて、外部委員が半数を占める教育研究カウンシルを設置して、教育課程の編成方針や教員人事等についての意思決定の過程を透明化し、社会のニーズに即した学部運営の体制を構築した。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 体系的な教育課程の編成

授与する学位及びその基準、教育の目的を踏まえて教育課程の編成方針・実施方針を定め、体系的に授業科目を編成・開設している(資料1-15、16)。また、本学部では一部科目について、各学期をそれぞれ半分にした8週間で1科目を完結するクォーター制を導入している。

資料1-15: 国際資源学部カリキュラム・ポリシー

国際資源学部では、次のような方針に基づいて教育課程を構成しています。

1. 少人数教育を基本とし、入学から卒業までの継続性を重視し4年一貫教育を行っています。
2. 地球規模の金属・非金属資源、石油・天然ガス資源に関わる資源分野の問題解決能力、国際的に活躍できる実務家・技術者・研究者に必要な知識・技術を修得できる教育を行っています。
具体的な教育カリキュラムの編成例を挙げれば以下のとおりです。
3. 応用力や創造性を重視した専門教育(国際資源クリエイティブ演習)
4. 専門知識を応用して資源に関する問題解決できる能力の養成(各専門教育科目および実験、演習科目)
5. 野外における実践的な手法と技能を重視した教育(資源学実習、地質調査法実習、進級論文、海外資源フィールドワーク)
6. 国際的に通用する論理的思考力と判断力、外国語による表現力とコミュニケーション能力の養成(I-EAP、ディスカッション演習、専門プレゼンテーション技法)
7. 資源に関する最新情報および最新研究成果収集のために必要な文献講読能力の養成(資源地球科学文献講読I・II、資源開発環境文献講読)
8. 自然科学と人文科学の両面から資源問題を捉える能力の養成(理系・文系の幅広い学部共通科目)

(出典: 教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー))

<http://www.akita-u.ac.jp/shigen/curriculum/curriculumpolicy.html>

資料1-16: 国際資源学部ディプロマ・ポリシー

国際資源学部では、次のような知識、態度等を身につけた学生に、「学士(資源学)」の学位を授与します。

1. 地球規模となった金属・非金属資源、石油・天然ガス資源問題の解決のため、国際的に活躍できる実務家・技術者・研究者としての知識・技術を身につけたと認定された場合、学士(資源学)が授与されます。
2. 地球的視点から多面的に物事を考える能力。
3. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任を理解する能力。
4. 自然科学および情報処理技術に関する知識とそれを応用する能力。
5. 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力。
6. 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力。
7. 日本語、および英語による論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション能力。
8. 自主的および継続的に学習できる能力。
9. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力。

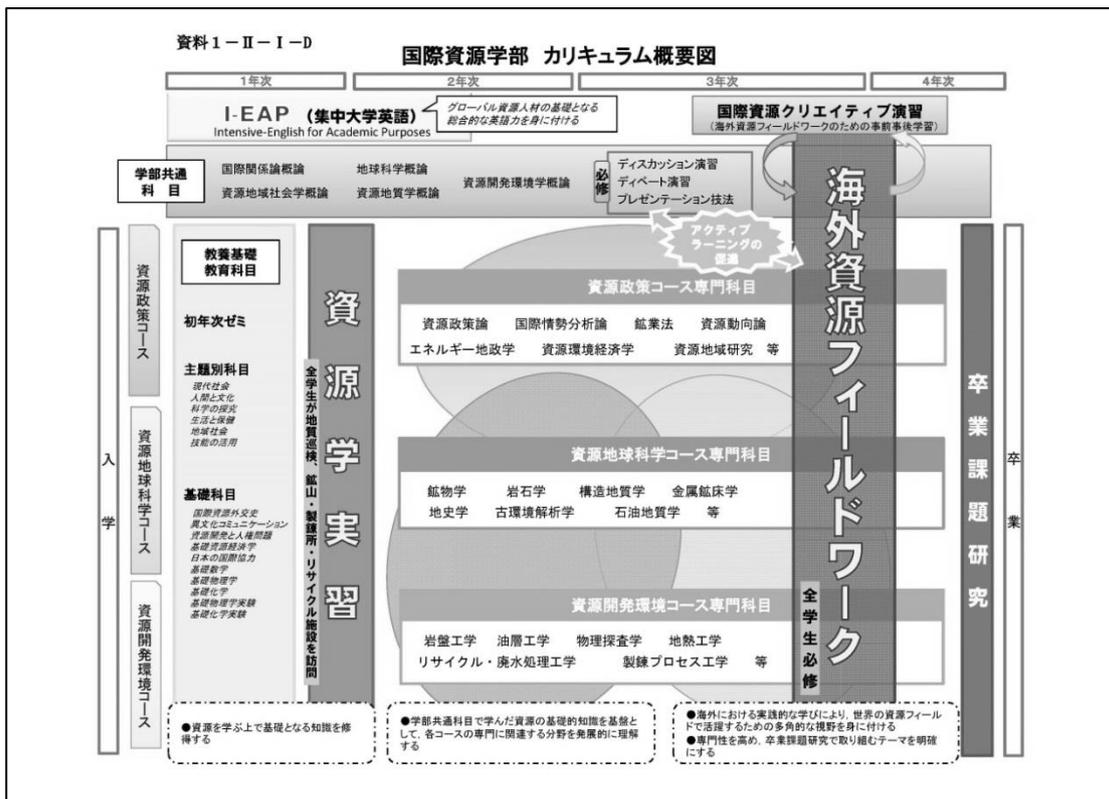
(出典: 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー) <http://www.akita-u.ac.jp/shigen/reason/diploma.html>)

文系の資源政策コースと理工系の資源地球科学コース、資源開発環境コースそれぞれの専門科目を互いに履修できる文理融合カリキュラムを構築している。

また、2年次以降の専門教育をすべて英語で実施し、実際に資源開発の現場で学ぶ「資源学実習」「海外資源フィールドワーク」を全学生必修とするなど、4年間を通じ、資源開発の現場で活躍するための実践的な能力を養成することを目標とした編成を行っている。

(資料1-17)。

資料1-17:カリキュラム概要図



(出典：国際資源学部概要)

2. 英語による専門教育

2年次以降の専門教育をすべて英語で行い、世界の資源フィールドで専門知識とコミュニケーション力を同時に発揮できる専門家の育成を目指している。英語での授業に対応できる語学力を育成するため、1・2年次に英語技能を集中的に強化する英語集中プログラム「I-EAP」を全学生必修とし、技能別にI～VIまでのプログラムで段階的に英語力を養うこととしている。

また、4年間を通じ継続的に語学力を高めていけるよう、「ディスカッション演習」「ディベート演習」を開設し、英語による会話・議論について基本的な能力の習得を可能にしている。さらに学生の自主学習を促進するため自主学習スペースに「語学学習システム」を導入し、大学の内外を問わずいつでも英語の学習ができるように環境を整備した。

3. 資源学実習・海外資源フィールドワーク

「資源学実習」(1年次)、「海外資源フィールドワーク」(3年次)を全学生必修授業として設け、実際に現場に赴くことで、様々な課題を理解し解決する実践能力を育てることを目指している。

「資源学実習」は、地質巡検や鉱山・事業所訪問を通して、鉱床学から製品化までの流れを学ぶ。複数の重要な地質遺産や鉱山資源を擁する、秋田県という地域を生かした学びとなっている(資料1-18)。

「海外資源フィールドワーク」は、本学部の重要科目であり、世界の資源学最前線を学ぶべく、各国の鉱山およびそれに付随する研究機関等を1か月程度訪問・実習を行う(資料1-19)。事前・事後学習の「国際資源クリエイティブ演習」と合わせ、4年次の卒業課題研究へとつなげていく構成となっている。

秋田大学国際資源学部 分析項目 I

資料 1-18：資源学実習の内容

コース	概 要
地質巡検	2000年前から現在までの火成岩類や堆積岩類が分類する男鹿半島で地質巡検を行う
石油生産基地・鉱山事業所	由利原油ガス田・八橋油田などの石油生産基地と、北鹿黒鉱・荒川鉱山・院内銀山などの鉱山事業所の見学
資源の下流部門	小坂製錬・リサイクル施設・松尾鉱山排水処理施設の見学

(出典：授業紹介 <http://www.akita-u.ac.jp/shigen/curriculum/introduction.html>)

資料 1-19：海外資源フィールドワーク 実習先一例（予定）

国・地域名	概 要
アメリカ	石油探査会社での実習とテキサス～ニューメキシコでの地質調査実習
イギリス	石油会社ロンドン事務所での講義実習、ジュラシックコースト～セブンシスターズでの地質実習
オーストラリア	石油会社でのインターンシップ、関連大学及び鉱山での実地研修
タイ	タイ国内の鉱山での実地研修、フィールドスタディ
フィリピン	フィリピン国内の鉱山での実地研修、フィールドスタディ
UAE	石油会社との連携による石油開発と生産の実地研修
インドネシア	インドネシア国内の鉱山での実地研修、フィールドスタディ
南アフリカ	関連大学及び鉱山での実地研修
チリ	チリ国内の鉱山での実地研修、フィールドスタディ
ボツワナ	関連大学及び鉱山での実地研修
モンゴル	モンゴル国内の鉱山での実地研修、フィールドスタディ
セルビア	ボール冶金研究所でのインターンシップ及び実地研修

(出典：国際資源学部海外資源フィールドワーク委員会)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 専門科目を全て英語で実施するなど国際的に通用する資源学教育に対応したカリキュラムを構築している。

また、最新の資源学実験装置を設置し、実験環境の整備を進めている。

さらに、海外資源フィールドワークの安全な実施に向けて、専門の委員会を立ち上げ危機管理体制の整備やプログラムの安全性の審査、マニュアルの作成など学生が安心して海外実習が行えるように配慮している。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 成績評価

本学部では、GPA制度を導入し4点満点として運用しており、学期ごとの平均値はおおむね2.2前後となっている(資料1-20、21)。データの蓄積がまだ少ないため、引き続き運用・分析を行い、教育の質の保証につなげていく予定である。

資料1-20：GPA制度における評価の内容

点数	評価	意味	グレードポイント
100～90点	S	きわめて優れている	4
89～80点	A	優れている	3
79～70点	B	標準的なレベルである	2
69～60点	C	最低限の基準を満たしている	1
60点未満	D	不合格	0

(出典：国際資源学部履修案内)

資料1-21：各年度GPA平均値

		学生数 [人]	平均値 [%]	3.0以上 [人]	3.0以上の割合 [%]
平成26年度	前期	127	2.24	12	9.5%
	後期		2.23	13	10.4%
平成27年度	前期	263	2.17	29	11.8%
	後期		2.18	30	12.7%

(出典：国際資源学部教育学生委員会)

2. 単位取得等の状況

留年率、休学率及び退学率を以下に示す(資料1-22)。適性等によりやむなく進路変更に至る学生が数名ほどいたが、いずれも教育学生委員会が中心となって学生本人及び保護者との面談により適切に対応している。

資料1-22：留年率・休学率・退学率 [単位：%]

区 分		平成26年度	平成27年度
資源政策コース	留年率	8.6	1.4
	休学率	0	4.3
	退学率	0	1.4
資源地球科学コース	留年率	7.9	2.8
	休学率	5.3	2.8
	退学率	0	1.4
資源開発環境コース	留年率	1.9	5.6
	休学率	1.9	2.8
	退学率	1.9	0
平均	留年率	5.5	3.6
	休学率	2.4	3.2
	退学率	0.8	0.8

(出典：学校基本調査)

3. 資格等取得

本学部における所定の科目・単位の取得が、特定の資格取得に結びついている（資料1-23）。

現在ではまだ資格を取得した学生はいないが、いずれ卒業生の専門性の担保の一助となることが期待される。

資料1-23：取得可能な主な資格

	資格種	取得可能コース等
特定の科目・単位を修得し、卒業後所定の実務経験を経ることにより取得できる資格	測量士・測量士補	資源地球科学コース
	ダム水路主任技術者	全コース
所定の科目・単位を修得し、卒業後所定の実務経験を経ることにより受験資格を得ることができる資格	土木施工管理技士（1級）	全コース
	管工事施工管理技士（1級）	全コース
所定の科目・単位を修得することにより受験資格を得ることができる資格	危険物取扱者（甲種）	全コース
所定の科目・単位を修得することにより試験の一部を免除される資格	火薬類取扱保安責任者	資源地球科学コース
		資源開発環境コース

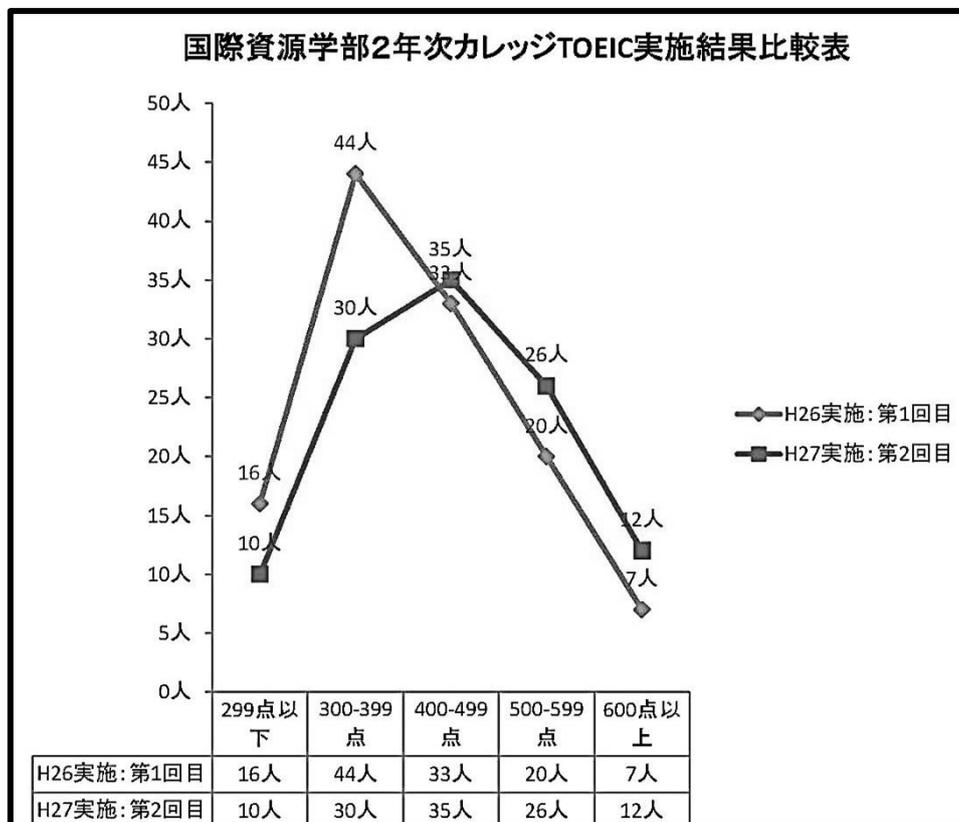
（出典：取得可能な資格 <http://www.akita-u.ac.jp/shigen/curriculum/license.html>）

4. 英語力の向上

2年次から始まる専門科目の英語での講義や3年次の海外資源フィールドワークへ対応するため、学生にカレッジTOEIC（年2回）を受験させ、英語力の向上に努めている。

学生は、個々人の能力により成果に差はあるものの、着実に英語力を身に付けている（資料1-24）。

資料1-24：カレッジTOEIC比較表



（出典：国際資源学部教育学生委員会）

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) グローバル資源人材の基礎となる総合的な英語力の修得のため、I-EAPにより集中的に英語を学習させるとともに、カレッジTOEICを年2回受験させ英語力を測っている。英語力向上に向けたワーキンググループを設置するなど学生の英語教育に対するサポート体制が整備されている。

したがって、期待される水準にあると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況) 該当なし

(水準) 該当なし

(判断理由) 該当なし

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

第2期中期目標期間中の学部設置のため、第1期終了時からの変化なし

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

第2期中期目標期間中の学部設置のため、第1期終了時からの変化なし

2. 教育文化学部

I	教育文化学部の教育目的と特徴	・・・	2-2
II	「教育の水準」の分析・判定	・・・	2-3
	分析項目 I 教育活動の状況	・・・	2-3
	分析項目 II 教育成果の状況	・・・	2-19
III	「質の向上度」の分析	・・・	2-30

I 教育文化学部の教育目的と特徴

1. 教育文化学部の教育目的

教育文化学部は学校教育課程と地域文化学科の1課程1学科で構成されており、学部および課程・学科の目的については、教育文化学部規程に定めている（資料2-1）。

資料2-1：教育文化学部の目的

<p>(目的)</p> <p>第2条 本学部は、人間の発達への深い理解にたつて、人間存在をめぐる現代的諸課題を総合的に探求し、新たな生活文化の創造を担う人材の養成を目的とする。</p> <p>2 学校教育課程及び地域文化学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 学校教育課程は、子どもに対する深い理解を持ち、多様な教育的諸課題に対処しうるように、豊かな人間性と専門的知識・技術、幅広い教養を基盤とする実践的な指導力を備えた教員を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 地域文化学科は、地域社会の実状と課題を深く理解し、豊かな人間性と幅広い教養、高い専門的知識・スキルを基盤として、地域の経済や文化の活性化、生活・コミュニティの創成・再生などの様々な方面で、地域振興活動の中核となり得る能力・資質を備えた人材を養成することを目的とする。</p>

(出典：教育文化学部規程)

2. 特徴

本学部は、平成26年度、従来の4課程（学校教育課程、地域科学課程、国際言語文化課程、人間環境課程）から大幅な改組がなされた。秋田県が抱える次のような社会的要請によるものである。

- 1) 秋田県においては、平成20年代中頃から、教員構成の大きな部分を占める団塊の世代が大量退職期を迎えて、平成30年代後半までの期間、教員採用枠の大幅増が必要となっている
- 2) 全国でも最も急速に進む人口減少と少子高齢化によって、地域経済が疲弊し、一部地域ではコミュニティの維持が困難になりつつあり、その再生・創成のための人材確保が急務となっている

再編に際しては、学問領域を軸とした従来の考え方ではなく、「地域に貢献する人材の養成」を学部共通の基本コンセプトとしながら、「地域の教育の活性化に貢献する教員の養成」を目的とした学校教育課程、「地域活性化に貢献する人材の養成」を目的とした地域文化学科と、人材養成の理念を前面に掲げ、その目的のために必要とされる諸学を有機的に結合させた学部への変貌を強く意識している。

[想定する関係者とその期待]

想定される関係者としては、在学生の他、本学部に入學を志望する高校生等、本学部卒業生を受け入れる就職先（学校・自治体・企業等）、在学生や卒業生を受け入れる地域社会等が挙げられる。

また、想定される関係者からの期待については、次のようなものが挙げられる。

- 1) 将来の夢を叶えるのに適した教育システムや修学環境の提供
- 2) カリキュラム等を含む様々な学習環境が適切に整備され、FD活動に基づいて積極的に改善されていくこと
- 3) 在学中に得た知識やスキルが将来において十分に役立つものであること
- 4) 「人間存在をめぐる現代的諸課題を総合的に探求」する事ができることを基礎的な資質とした上で、専門的知識と高いスキルを有する教員や、地域への理解に基づく問題発見能力・課題解決能力を有する人材の供給
- 5) 地域住民と協働し、地域の未来を創造しうる豊かな人間性と活力を有する人材の養成に貢献する教育研究活動

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 教育研究組織及び教員

教育文化学部は、学校教育課程と地域文化学科の1課程1学科からなる学部であり、教員養成に関わる教育関連諸分野と、地域を総合的に捉えるための社会科学・人文科学をベースとした諸分野を2本の柱とする(資料2-2)。

資料2-2：教育文化学部の構成

課程・学科	入学定員	コース	教育目的
学校教育課程	45	教育実践コース	高度な教育実践力を備えた小学校教員の養成
	10	英語教育コース	小学校から社会人までを視野に入れた英語教育を実践できる教員の養成
	20	理数教育コース	理科教育や数学教育につよい教員の養成
	15	特別支援教育コース	障がいのある子どもの心理や支援を深く考えられる教員の養成
	20	こども発達教育コース	乳児期から児童期の子どもの発達・教育を支援する教員の養成
地域文化学科	100	地域社会コース	社会科学の知識と実習による実践力を身につけた人材の養成
		人間文化コース	国際的視野に基づく人文科学の素養を身につけた人材の養成

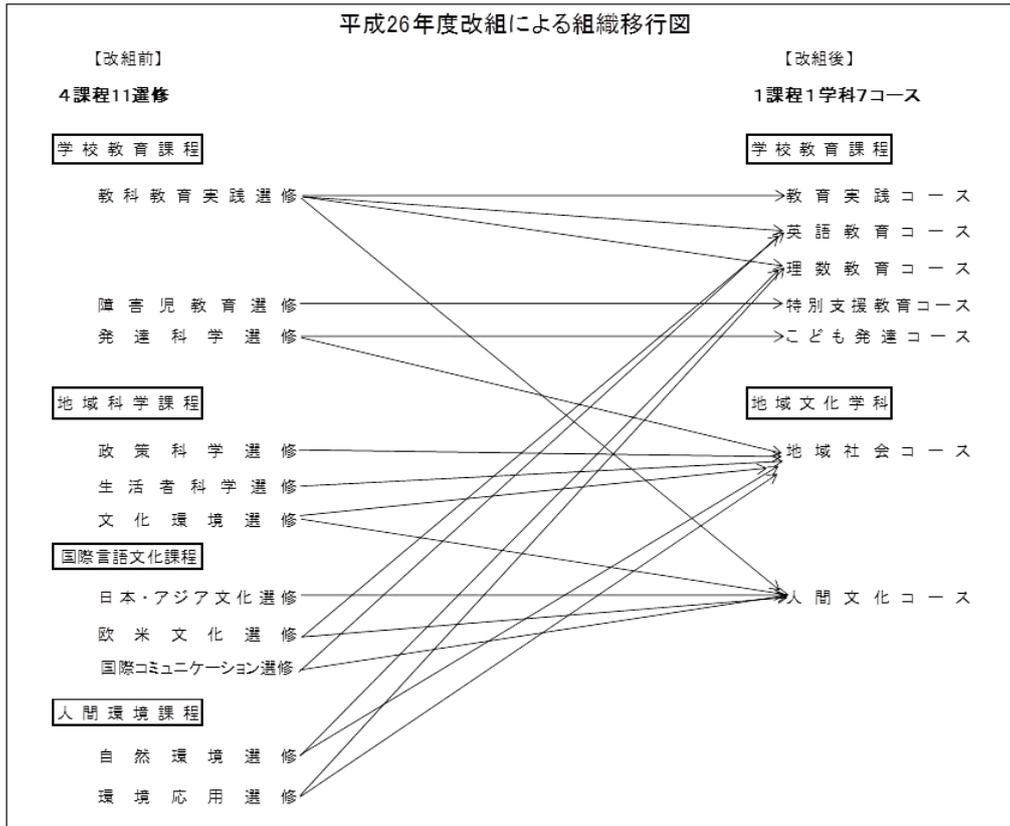
(出典：平成27年度教育文化学部案内)

秋田県の抱える最大の課題は、人口減少・少子高齢化・経済活動の縮小・若年人口の流出という負のスパイラルをいかに食い止めるかという点にある。その打開策として、グローバル化と新産業の振興を掲げ、そのための人材養成(英語教育を軸としたグローバル教育と、理数教育の強化)を教育施策としている。また併せて、普通学級における障害者対応のためのインクルーシブ教育も重点課題としている。

一方、地域にあって住民とともに地域活性化のために活動する人材は、地域社会・地域経済界が強く求めるところであった。

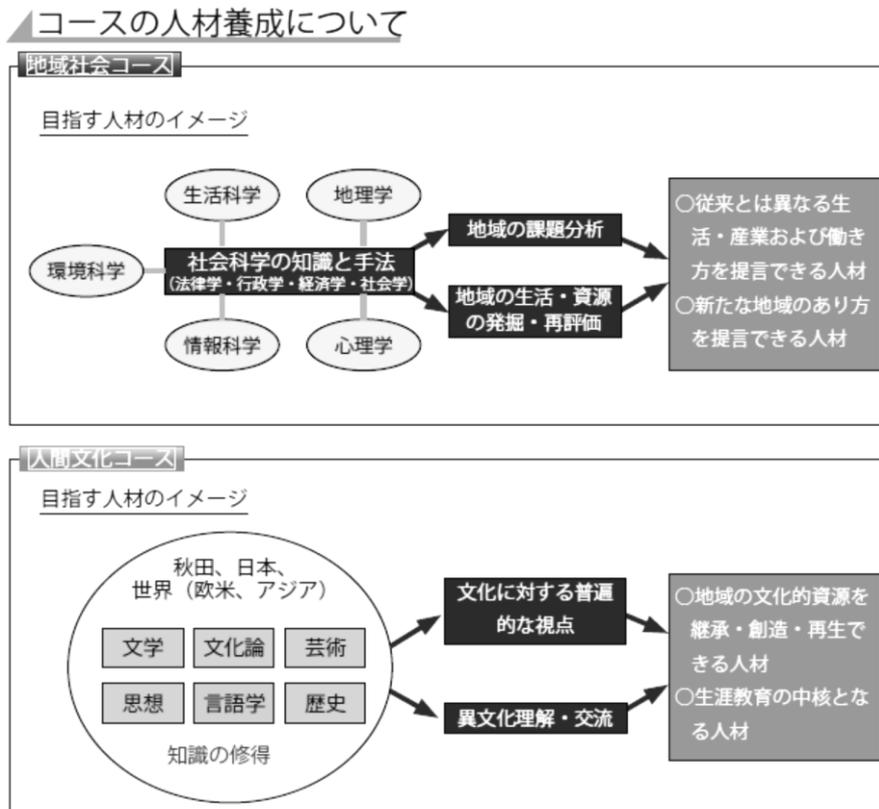
こうした地域のニーズを踏まえ、「地域を志向した大学」として平成26年度に学部組織の全面的改編を行なった(資料2-3、4)。

資料 2-3:学部改組による移行図



(出典：教育文化学部 学部改組概要)

資料 2-4:地域文化学科 コース人材養成



(出典：地域文化学科詳細 <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/pdf/society.pdf>)

秋田大学教育文化学部 分析項目 I

また、課程・学科ごとに、教職課程認定等に必要となる人数の教員を配置している（資料2-5）。非常勤講師（学外兼務教員）については、平成26年度改組後のカリキュラムでは大幅に削減し、専任教員が責任を持って教育に当たる体制を整えた（資料2-6）。

資料2-5：課程・学科別の専任教員現員数（平成27年5月1日現在）

学科	専任教員数 [人]					教職課程認定等に必要となる教員数	非常勤講師数 [人]
	教授	准教授	講師	助教	計		
学校教育課程	32 (1)	24 (0)	5 (1)	0 (0)	61 (2)	47 <13>	79
地域文化学科	16 (1)	15 (0)	5 (0)	0 (0)	36 (1)		
計	48 (2)	39 (0)	10 (1)	0 (0)	97 (3)		

※()は外国人教員数、< >は教授の数でいずれも内数（出典：教育文化学部・総合学務課作成）

資料2-6：兼務教員数（専任教員数に占める割合）（平成27年5月1日現在）

	専任教員	学内兼務教員	学外兼務教員	占有率	
				専任教員	兼務教員
学校教育課程	61	2	47	55.5%	44.5%
地域文化学科	36	2	28	54.5%	45.5%
計	97	4	75	55.1%	44.9%

（出典：教育文化学部調査）

教員養成においてより実践的な指導を行なう体制を整えるため、学校教育課程において、現場経験のある教員を積極的に採用しており、教諭の職歴をもつ教員の比率が平成25年度時点で5割近くを占めるに至っている（資料2-7）。これは全国的に見ても極めて高い水準といえる。現場経験を持たない教員には、附属中学校における科学講座などの企画を通して、定期的に現場経験を積んでもらう試みを積極的に展開している。

さらに、一部の教科教育担当教員を県教育委員会との交流人材によって採用するほか、平成27年度には教職大学院設置の準備も兼ねて4名の実務家教員を採用、いっそうの拡充に努めている。

資料2-7：現場経験のある教員の具体的な人数と比率（平成25年5月1日現在）

	教員数	教職経験者数	教職経験のある教員比率
学校教育課程（改組前）	52	24	46.1%

（出典：教育文化学部調査）

2. 組織体制及び改善体制

平成26年度の改組と同時に、教育の実施・改善に関わる組織体制を全面的に見直した。それ以前は、教育に関するさまざまな問題が別々の委員会で所掌され、各委員会間の連携が十分に取れないこともあった。そこで教育全体を統括する教育担当副学部長を議長とした「教育企画会議」を設置し、この組織のもとに各種専門委員会を置いて、全体が有機的・効率的に運用される体制を整えた（資料2-8、9）。

また、学生代表を交えた組織「学生協議会」（議長は教育担当副学部長）を設置、定期的に会議を開くとともに、学部長との懇談の場を設けるなど、学生の評価・意見を取り入れて、教育全体の向上に取り組んでいる。

さらに、平成24年度からは学生による授業評価に加えて、教員によるティーチング・ポートフォリオを実施している。これは、授業の全記録（シラバス、配付資料、授業ノート、学生からの提出物等）、学生アンケート、教員側の省察レポートをセットにして提出させ、授業評価に対する教員の振り返りを制度化するものである。教員には、年間に開講してい

秋田大学教育文化学部 分析項目 I

る授業の1つ以上でこれを提出するように求めており、その実施状況は教員評価にも反映している（資料2-10、11）。

また、学生に卒業時アンケートを実施し、4年間の学びについて満足度を確認している（資料2-12）。

資料2-8：教育企画会議の下に置く専門委員会

<p>第8条 会議に、専門的事項を審議するため、会議の下に次の各号に掲げる専門委員会を置く。</p> <p>(1) 教員養成委員会</p> <p>(2) 教育改善推進委員会</p> <p>(3) 入学試験委員会</p> <p>(4) 教務学生委員会</p> <p>(5) 学務委員会</p> <p>(6) キャリア委員会</p> <p>(7) 地域文化コアカリキュラム委員会</p> <p>(8) 留学生委員会</p>

(出典：教育文化学部教育企画会議要項)

資料2-9：専門委員会の機能

教員養成委員会	教育実習をふくむ教員養成に関わるカリキュラムを所掌する
教育改善推進委員会	教育全体の改善を担う
入学試験委員会	入学者選抜方法等に関することを所掌する
教務学生委員会	学部カリキュラム全体の実質的運用を所掌する
学務委員会	大学院カリキュラム全体の実質的運用を所掌する
キャリア委員会	学生のキャリア形成支援の一部を所掌する
地域文化コアカリキュラム委員会	地域文化学科の地域連携型・ワークショップ型授業の円滑な実施に関することを所掌する
留学生委員会	留学生の派遣、受け入れの選考等を所掌する

(出典：各委員会要項)

資料2-10：授業評価の概要（質問票、実施形態）

<p>教育文化学部専門教育科目授業アンケート</p> <p>【1】あなたが授業目標（授業の意義・目的・到達目標）を理解する上でシラバスの記載は有効でしたか。</p> <p>【2】あなたにとって授業中の説明はわかりやすいものでしたか（説明の論理性・合理性、声の大きさ、言葉づかい等）。</p> <p>【3】授業は授業目標を達成するために工夫されていませんか（例えば補助資料の提示、課題の提示、適宜行われる補足説明、テスト・演習のフィードバック等）。</p> <p>【4】授業の成績評価に関して、明確な基準が提示されていませんか。</p> <p>【5】この授業の受講によりあなたはシラバスの到達目標にある事項をおおよそ身につけられたと思いますか。</p> <p>【6】あなたは授業にきちんと出席しましたか。</p> <p>【7】あなたはこの授業のために、授業外の学習（予習・復習、授業で出された課題、試験のための勉強、授業に関係する図書の読書等を指します）をしましたか。</p> <p>【8】あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか。</p> <p>【9】この授業について良かったこと・改善してほしいこと等を自由にお書きください。</p> <p style="text-align: center;">実施方法</p> <p>1. 授業アンケートには、以下の2種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マークシート方式」（受講生数がおおむね10名以上の科目用） ・「教員記述式」（受講生数がおおむね10名未満の科目用）
--

2. 「マークシート方式」の授業アンケートについて

「マークシート方式」の授業アンケートは、教養基礎教育科目の場合と同様に実施してください。実施と回収の手順は以下の通りです。

- (1) 受講生の中から1名指名し、授業アンケートの回収と総務担当への提出を指示する。
- (2) 授業アンケートを配布して、回答させる。(教員は学生が授業アンケートを記入しているところを見ないようにお願いいたします。)
- (3) 受講生のアンケート回答後、指名された受講生がアンケートを回収し、アンケートが入っていた封筒に回収したアンケート用紙およびあまった用紙を入れて総務担当へ提出する。(回収の際にも裏返して回収するなどのご配慮をお願いいたします。)

(出典：教育改善推進委員会)

資料2-11：ティーチング・ポートフォリオ実施要領

ティーチング・ポートフォリオ実施要領

目的

従来行われてきた授業アンケート（授業評価）をより効果的に活用し、各教員の授業改善に資することを目的とする。

方法

- 1) 年度当初ないし学期当初に授業評価を受ける予定の専門教育科目（できるだけオムニバスは避けてください）を各自で設定し、シラバス、配布資料、授業メモなどその授業に関する資料をできるだけ一括して保管する。
- 2) 授業評価を受けた後に、学生からの指摘事項（高い評価が得られた点・評価が低かった点など）について上記の資料などを確認し、授業内容を振り返る。
- 3) その結果を「ティーチング・ポートフォリオ報告書」としてまとめ教育改善推進委員会に提出する。
- 4) 教育改善推進委員会はこれを「授業改善の記録」として保管し、FD活動への基礎資料とする。
- 5) 提出された報告書は、原則としてFD活動等のみに活用する。また本人の承諾がない限り公表しない。
- 6) 各教員は、「ティーチング・ポートフォリオ報告書」作成に用いた資料一式を、必要に応じて閲覧に供することができるように、各自で責任を持って3年間保管する。
- 7) 「ティーチング・ポートフォリオ」制度は、中期計画実績報告の「学部独自の取り組み」に記載する予定であるので、評価を受ける際に資料の提出が求められた場合にはご協力をお願いいたします。

(出典：ティーチング・ポートフォリオ実施要領)

資料2-12：卒業時アンケートの概要（質問票、実施形態）

平成28年1月

4年次学生各位

教育改善推進委員会委員長

「卒業生アンケート」の実施について

卒業を間近に迎えた皆さんの大学生活は、充実したものであったでしょうか。大学の教育カリキュラムは、十分に皆さんの要求に応じていたでしょうか。また、在学中に困ったこと、もっとこうしてほしかったなどの意見を持ったこともあったかと思えます。

教育改善推進委員会では、皆さんの率直なご意見を参考に、カリキュラムや指導体制、施設や相談体制など、さまざまな改善を図っていきたく考えております。また、卒業後の進路の一つとしての大学院の受け入れ態勢の改善も進めております。これらのことについてご理解いただき、アンケートへのご協力の程をよろしくお願いいたします。

なお、このアンケートは、本学の中期計画に記された「学習成果の検証」に基づく「卒業時調査」として実施するものです。いただきましたご意見は、学部のさまざまな改善、大学院入試の改善のみに利用させていただき、それ以外に用いられることはありません。

提出先：総合学務課教育文化担当（学生支援棟）

※ 卒業論文と一緒に提出してください。

卒業生アンケート

入学年度：() 年度 性別：()

所属：() 課程 () 選修

次の質問に対してどのように感じていますか。当てはまるものに○をつけてください。

○カリキュラムについて

1. あなたの課程・選修のカリキュラムは課程の人材養成の目標に合致したものであったと思いますか。
(1) 思う (2) 少し思う (3) あまり思わない (4) 思わない
2. あなたの課程・選修のカリキュラムはあなたが入学時に期待していた教育内容と合致していましたか。
(1) 合致していた (2) おおよそ合致していた (3) あまり合致していなかった (4) 合致していなかった
3. 授業を担当した教員は概ね熱意を持って指導していましたか。
(1) そう思う (2) 少しそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

課程・選修のカリキュラムや教員の指導に対してご意見があれば自由に書いてください。

[]

○教育体制、制度について

4. シラバスはわかりやすく、また役立ったと思いますか。
(1) そう思う (2) 少しそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない
5. シラバスはどのように利用しましたか。(複数回答可)
(1) 受講する授業を選ぶため (2) 予習や復習をするために、進行予定を確認する
(3) その日の授業内容を進行予定で確認するため (4) 評価基準を確認するため (5) 参考書を探すため
(6) その他 (具体的に) (7) 利用したことがない
6. 時間割はあなたの希望する科目が問題なく受講できるようになっていましたか。
(1) そう思う (2) 少しそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない
7. 教育実習を受講した方にお聞きします。教育実習は満足がいく内容でしたか。
(1) そう思う (2) 少しそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない
8. インターンシップ(企業・行政研修、人間環境学体験実習)を受講した方にお聞きします。インターンシップは満足がいく内容でしたか。
(1) そう思う (2) 少しそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない
9. 単位互換制度を利用した方にお聞きします。単位互換制度はあなたにとって有効な制度でしたか。
(1) そう思う (2) 少しそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない
10. 留学した方にお聞きします。学部の留学生制度はあなたにとって満足できる制度だと思いますか。
(1) 十分満足である (2) おおよそ満足である (3) 若干不満である (4) 不満である

教育体制や制度に対してご意見があれば自由に書いてください。

[]

○就職活動について

11. あなたは教員採用試験を受けましたか。
(1) はい (A の問いにも答えてください) (2) いいえ
(A) 教員採用試験に対しての学部による支援はいかがでしたか。
(1) 満足している (2) だいたい満足している (3) 若干不満である (4) 不満である
12. あなたは幼稚園や保育園への就職活動(採用試験を受ける等)を行いましたか。
(1) はい (A の問いにも答えてください) (2) いいえ
(A) 幼稚園や保育園への就職活動に対しての学部による支援はいかがでしたか。
(1) 満足している (2) だいたい満足している (3) 若干不満である (4) 不満である
13. あなたは公務員試験を受けましたか。
(1) はい (B の問いにも答えてください) (2) いいえ
(B) 公務員試験に対しての学部による支援はいかがでしたか。
(1) 満足している (2) だいたい満足している (3) 若干不満である (4) 不満である
14. あなたは企業への就職活動を行いましたか。
(1) はい (C の問いにも答えてください) (2) いいえ

(C) 就職活動に対しての学部による支援はいかがでしたか。

(1) 満足している (2) だいたい満足している (3) 若干不満である (4) 不満である

教員や厚生担当（現在の就職推進課）、就職情報室による学部の就職支援に対してご意見・ご要望があれば自由に書いてください。

[

○学生相談・生活支援について

15. 学部の学務担当や厚生担当（現在、総合学務課教育文化担当）での対応は満足いくものだったでしょうか。

(1) 満足している (2) だいたい満足している (3) 若干不満である (4) 不満である

16. 学習や大学生活について相談できる学部教員または職員はいましたか。

(1) いた (2) いない

17. 学習や大学生活で困った施設の不都合はありましたか。

(1) あった（具体的に書いてください）

(2) なかった

18. 学習や大学生活で経済的支援を必要としたことはありましたか。

(1) あった

具体的にどのようなことで必要でしたか。

[

(2) なかった

その他、学生相談・生活支援についてについてご意見がありましたら自由に書いてください。

(

○大学院について

19. あなたは秋田大学大学院教育学研究科（教職大学院 教職実践専攻／修士課程 心理教育実践専攻）への受験を考えたことがありますか。

(1) ない（→ 質問 20 へ） (2) あるが受験しなかった（→ 質問 21 へ）
 (3) 考えたことがあるが他大学の大学院を受験した（→ 質問 22 へ）
 (4) 実際に受験した（→ 質問 23 へ） (5) その他（

20. 質問 19 で(1)と回答した方にお聞きます。秋田大学大学院教育学研究科が以下のようにあれば受験を考えましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（どのような場合でも教育学研究科進学を考えなかった場合は、○をつけなくてよいです。）

(1) 大学院を修了していることで優遇措置が受けられるなど、教員にとって魅力的な大学院
 (2) 教員養成以外にも力を入れた大学院
 (3) 専門科目と小論文のみで受験できるなど、より専門性を重視した入試を行う大学院
 (4) その他（

21. 質問 19 で(2)と回答した方にお聞きます。なぜ受験をしなかったのですか。

(1) 教員採用試験への合格
 (2) 公務員・企業等への進路変更
 (3) 大学院入試が大変そうだから
 (4) 最終的に秋田大学大学院教育学研究科に魅力を感じなかったから
 （具体的な点：）
 (5) その他（

22. 質問 19 で(3)と回答した方にお聞きます。なぜ他大学の大学院を受験したのですか。

(1) 他大学の大学院のほうが魅力的だったから
 （具体的な点：）
 (2) 秋田大学教育学研究科の入試が大変そうだから
 (3) その他（

23. 質問 19 で(4)と回答した方にお聞きます。大学院教育学研究科を受験した理由は何ですか。(複数回答可)
- (1) 専修免許状を取得するため
 - (2) 教職チャレンジ制度を利用して、教員免許状を取得するため
 - (3) 資格を取得するため
 - (4) 専門分野の研究を深めるため
 - (5) その他 ()

ご協力ありがとうございます。いただいたご意見は学部の教育体制・大学院の入試の改善に役立てます。

(出典：教育改善推進委員会)

3. 入学者選抜

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）には、学生に求める資質を次のように定め、それに即した入学者選抜を実施している（資料 2-13、14）。

なお、入学者選抜は推薦入試及び一般入試を実施している（資料 2-15）。

資料 2-13：入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

教育文化学部では次のような人材を求めています。

1. 子どもに対する理解と教育や保育に強い情熱を持ち、学校および保育関連施設で働こうとする強い意志のある人
2. 児童・生徒との交流に積極的に取り組むことを通して、教育者としての専門性を身につけようとする人
3. 地域社会のさまざまな問題を、日本全体や世界の状況も視野に入れて考察し、地域社会の活性化に積極的、具体的な提言を行う意欲を持った人

(出典：教育文化学部 学部案内 <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/department/index.html>)

資料 2-14：教育文化学部入学試験委員会の審議事項

第 2 所掌事項

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 入学者選抜方法に関する事。
- (2) 学生の募集要項に関する事。
- (3) 合格者の選考方針基準及び合格者の選考に関する事。
- (4) 選抜の広報に関する事。

(出典：教育文化学部入学試験要項)

資料 2-15：教育文化学部入試区分別入学者数

	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
教育文化学部	入学定員	290	290	290	290	210	210
	推薦入試 I	14	11	12	13	24	25
	推薦入試 II	31	31	31	32	14	16
	前期日程入試	183	191	185	185	138	139
	後期日程入試	67	66	75	67	42	36
計		295	299	303	297	218	216

※外国人留学生を含まない。(出典：秋田大学入学試験状況調(総表))

過去 6 年間の入学者の状況について、改組前を含め、学部全体で入学定員の 101%~104% の範囲で推移している。過去の受入状況から、合格者判定の手続きが有効に機能し、入学者の適正化が図られている(資料 2-16)。また、学年全体の定員充足率の平均は 108.5%

となっており、110%を下回っている（資料2-17）。

資料2-16：教育文化学部年度別入学状況

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入学定員	290	290	290	290	210	210
入学者*	295	299	303	295	218	216
定員超過率	101.7	103.1	104.4	101.7	103.8	102.8

※外国人留学生を含まない。（出典：秋田大学概要）

資料2-17：課程・学科別の学生定員と現員（平成27年5月1日現在）

課程・学科	入学定員[人]	収容定員[人]	現員 [人]					定員充足率 [%]
			1年次	2年次	3年次	4年次	計	
学校教育課程	110	420	116	118	112	114	460	109.5
地域文化学科	100	200	102	102	—	—	204	102.0
地域科学課程	募集 停止	130	—	—	69	70	139	106.9
国際言語文化課程		130	—	—	72	77	149	114.6
人間環境課程		120	—	—	64	69	133	110.8
計	210	1,000	218	220	317	330	1,085	108.5

（出典：秋田大学概要）

4. 教員の教育力向上

教育改善の一環としてのFDフォーラムを開催（資料2-18）、年度毎にテーマを設定して改善に向けて活発な討論を展開し、その成果は基礎教育科目や教育実習の見直し、授業方法の改善などへと結びつけている。近年では、学生からの意見を積極的に取り入れるために、学生参加型のFDも開催しており、「学生協議会」の設置とあわせて、教員・学生が連携した教育の改善に取り組んでいる。

資料2-18：教育文化学部FDフォーラム

平成22年度	前期FDフォーラム 平成22年8月2日開催	ディプロマ・ポリシーに沿ったカリキュラムマップ 作成に向けて
	後期FDフォーラム 平成23年3月2日開催	新しいFDの形に向けて
平成23年度	前期FDフォーラム 平成23年7月7日開催	専門教育におけるGPA導入の課題 —実データに基づいて—
	後期FDフォーラム 平成24年2月9日開催	授業外における学習をどのようにすすめるか —現状の把握と事例紹介—
平成24年度	FDフォーラム 平成25年2月21日開催	データから見た教育文化学部の学生像
平成25年度	前期FD・SDフォーラム 平成25年10月25日開催	教員・職員の連携による精神的な問題を抱える学生の対応について
	後期FD・SDフォーラム 平成26年2月20日開催	データから見た教育文化学部の学生像 —学生の学習意識調査を中心に—

平成 26 年度	前期FD・SDフォーラム 平成 26 年 10 月 29 日開催	学生・教員・職員の相互理解を目指して ～意識の「齟齬」を生まないキャンパス環境づくり～ ※学生協議会から学生が参加（2名）
	後期FDフォーラム 平成 27 年 2 月 19 日開催	データから見た教育文化学部の学生像（2） —学生の学習意識調査を中心に—
平成 27 年度	FDフォーラム 平成 28 年 2 月 18 日開催	学生参加型授業を振り返る ～現状把握と課題の明確化に向けて～

(出典：教育改善推進委員会)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 平成 26 年度の改組により、教員養成を目的とした学校教育課程と、地域の活性化に貢献する人材の養成を目的とした地域文化学科の、1 課程 1 学科体制となり、地域課題に対応したコースが設定された。これに伴い、従来の学問領域中心ではない、人材養成の目的に沿ったカリキュラム体系を確立している。

また、1 学年の学生数に対し、専任教員数が約 2 対 1 の比率で配置されており、きわめて手厚い指導体制が確立されている。教員養成課程所属教員の半数近くが教職経験者となっており、学校現場に即した指導が可能な体制となっている。

さらに、その時々の授業改善の課題を掲げたFDフォーラムなどを開催しているほか、授業評価に加えてティーチング・ポートフォリオを実施するなど、教員が自らの授業を振り返り、授業改善に努めることが可能な体制が整えられている。

加えて、毎年学部長による学生との懇談会を開催しているほか、学生協議会を設置して学生の目線からの授業・カリキュラムや施設等の改善意見を吸い上げる体制が整えられて、これが教育の改善に生かされている。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断できる。

観点 教育内容・方法

(観点到係る状況)

1. 教育課程の編成

それぞれの課程・学科で授与する学位及びその基準、教育の目的を踏まえて教育課程編成方針を定め、体系的に授業科目を開設・編成している（資料 2-19、20）。

資料 2-19：教育文化学部 学位授与方針

教育文化学部では、次のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「学士（学校教育）」「学士（地域文化）」の学位を授与しています。

1. 人間発達を中核として、幅広い諸科学の基礎的な体系を理解している
2. 学校教育に関する専門的知見や、地域の社会・文化に対する確かな見識を有している
3. 日本語や他の言語を適切に運用する能力を有している
4. さまざまな人々と協働するためのコミュニケーション能力を有している
5. さまざまな情報を適切に収集し、科学的・批判的に分析・処理し、創造的に発信する能力を有している
6. 得られた知識、情報を活用し、人間存在をめぐる現代的課題を総合的、多面的に探究することができる
7. 人権が尊重され、平和で民主的、かつ持続可能な社会の進展のために、自らの知識、能力を活用し、人々と協力しながら主体的に行動する
8. 生涯にわたって主体的に学び続け、専門的な知の継承・発展・創造に寄与しようとする
9. 地域社会の風土や文化を理解し、新たな生活文化の創造を主体的に担おうとする
10. 社会人として、また専門的職業人としての高い倫理観、使命感、責任感を持って行動できる

(出典：秋田大学の学士課程教育の方針<http://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>)

教育文化学部では、次のような方針に基づいて教育課程を構成しています。

1. 人文科学、社会科学、自然科学を横断統合する学際的なカリキュラムを構成する
2. 初年次ゼミから卒業研究までの一貫した学習指導の体制を取り、学生のニーズに応じたカリキュラムを構成する
3. 学部の共通科目として、人間発達に関わる科目を配することで、学部共通の基盤的な知識を習得できるカリキュラムを構成する
4. 教養、基礎、専門科目の構造的・体系的な配置により、諸事象を多角的・多面的にとらえるカリキュラムを構成する
5. 学生参加型授業を推進し、授業内容・方法の工夫・改善を図り、問題解決力や社会的実践力の育成に資するカリキュラムを構成する

(出典：秋田大学の学士課程教育の方針<http://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>)

授業科目は、全学部学生が共通して履修する教養教育科目・基礎教育科目と、課程・学科ごとに構成された専門教育科目からなる(資料2-21)。

専門教育科目は平成26年度に科目群の見直しを行い、それぞれの課程・学科に対応した専門基礎科目群を新設したほか、学校教育課程では実践科目群・発展科目群、地域文化学科では特定領域科目群・発展科目群を新たに設け、カリキュラムの体系性と実践力をより高めるよう改善している。

資料2-21：教育文化学部 教育課程の編成

	科目群	卒業要件
教養基礎教育科目	教養教育科目 初年次ゼミ 主題別科目 国際言語科目 スポーツ文化科目 基礎教育科目	教養教育科目 16～20 単位 基礎教育科目 24～28 単位
専門科目 (学校教育課程)	専門基礎科目 基盤科目 基幹科目 実践科目 発展科目 専門教育科目内自由選択科目 自由選択科目	140 単位
専門科目 (地域文化学科)	専門基礎科目 基盤科目 基幹科目 特定領域科目 発展科目 自由選択科目	124 単位

(出典：教育文化学部規程)

2. 教員養成への取り組み (学校教育課程)

高度な専門性と高い実践力を備えた教員を養成するため、様々な取り組みを進めている。

まず、平成22年度に、教員を目指す学生が身につけるべき能力・資質について明示した「教職スタンダード」を作成し、それに基づいて「教職ポートフォリオ」を導入した。これにより、学生自身が現在の達成状況を客観的に把握しつつ、それを教員と共有して指導を受けられる体制が整った(資料2-22)。

同じく平成22年度、特別経費(プロジェクト分)「高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実に「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型教員養成」が採択された。これは、実務家教員と学部教員の連携により、教員養成と教職研修の垣根を低くした統合型の教員養成を行う組織場「まなびの総合エリア」を核として、教員養成・現

秋田大学教育文化学部 分析項目 I

職教員研修のための多様なプロジェクトを実施するものである（資料2-23、24）。

これを実践力向上に傾斜させながら更に発展させる形で、平成24年度には「“教員養成秋田モデル”発信プロジェクト」を開始した（資料2-25）。

秋田県教育委員会との連携によって、各教育事務所、出張所、秋田県総合教育センター及び各教育研究団体などの協力のもと、現職教員の優れた教育実践及び授業記録を附属学校園に集積・データベース化し、教育実習の段階で実習生に提供するとともに、実務家教員を「教育実習コーディネーター」として配置し、学生の活動を支援しながら実践知の継承を図っている。

また、通常の教育実習・介護等体験に加えて、「教育実地研究」（Iは必修、II～IVは選択必修2単位）を新設し、継続的に児童生徒とふれあうことができるようにしたほか、地域や保護者と触れ合う機会を設け、教育に必要とされる多様な実践力が養えるよう工夫をしている。

こうした取り組みにより、大学・教育委員会・学校地域及び保護者が一体となった教員養成システムを開発し、全国に“教員養成秋田モデル”として発信していく。

また、課題解決のための高い専門性を有する教員の養成に努めており、教員を目指す学生全員に「インクルーシブ教育論」を必修とするほか、小学校英語の教科化への対応や実験に強い小学校教員養成など、各コースで様々な取り組みを展開している（資料2-26）。

さらに、集団面接や小論文の対策を行う教員採用支援講座「スタージュ」に加えて、合宿型研修のオースタムキャンプ（3年次生対象）、スプリングキャンプ（4年次生対象）など、教員採用試験に対する様々な支援を行っている（資料2-27）。

資料2-22：教職ポートフォリオ

教職ポートフォリオ(1) —教師への学びの軌跡—				学籍番号 _____ 氏名 _____			
				記録状況・記録内容の確認			
授業科目名	履修年・時期	配属・体験校園及び施設	配属学級等	記録内容	記録日	記録確認印	学務係確認印
教職入門				教職リフレクション① 大学生生活を振り返って①	年 月 日 年 月 日	学 生	
教育福祉実習 (介護等体験を含む)				教職リフレクション② 大学生生活を振り返って②	年 月 日 年 月 日	学 生	
教職実践演習				教職リフレクション③ 大学生生活を振り返って③	年 月 日 年 月 日	学 生	
教育実地研究 I				教職リフレクション④ 大学生生活を振り返って④	年 月 日 年 月 日	学 生	
教育実地研究 II				面談教員からのコメント①	年 月 日	担 任	
教育実地研究 III				面談教員からのコメント②	年 月 日	担 任	
教育実地研究 IV				面談教員からのコメント③	年 月 日	卒 論 指 導	
				面談教員からのコメント④	年 月 日	卒 論 指 導	
学籍番号 _____ 課程・学科/コース _____ 氏 名 _____							
秋田大学教育文化学部 Akita University							

(出典：2015教職ポートフォリオ)

資料 2-23 : 「まなびの総合エリア」を教員養成・研修拠点とした統合型教員養成 実施プロジェクト概要



(出典：教育文化学部「まなびの総合エリア」事業推進委員会)

資料 2-24 : 「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型教員養成 実施プロジェクト概要

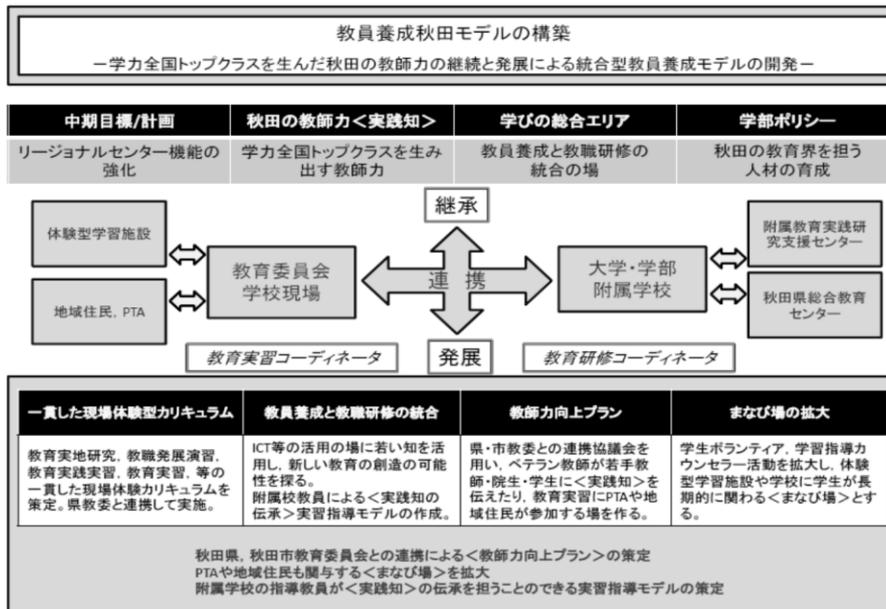
1. 附属学校園等を活用して現職教員（特に研修の場を求める臨時採用教員）に対する教育方法技術に関する研修を行います。
2. 普通学級の中で特別な支援を必要としている児童生徒の指導を教師が行うための方法について、大学教育・現職研修の場で実践的な指導・研究を行います。
3. 教育相談活動を行うための環境を整えます。相談室と模範となる授業風景のビデオライブラリを整備し、対面での相談活動に活用します。また、遠隔での相談を行うための「あきた教職.net」を活用してネット上での教育相談活動にあたります。
4. 新規授業科目である教職実践演習について試行を行い、教師力を高めるための教育内容について研究します。
5. 全国学力テストにみられた秋田の学力・教師力を分析してモデル化し、伝承・創造すべき力についての実証研究を行います。

(出典：平成 23 年度秋田大学概要 p.9)

資料 2-25：“教員養成秋田モデル”発信プロジェクト 概要図

“教員養成秋田モデル”発信プロジェクト

—教育委員会との連携による附属学校を活用した高度な教員養成システムの構築—



資料 2-26：専門性を有する教員養成のための取り組み

コース	取り組み内容
英語教育コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校英語の教科化への対応 「初等英語科教育学」等の科目を開設
理数教育コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験に強い小学校教員養成 児童生徒を対象とした「秋田大学ジュニアサイエンスクラブ」「ドリームサイエンスクラブ」などの活動を展開

(出典：理科教育研究室ウェブサイト「開設講義一覧」)

資料 2-27：教員志望者に対して行っている正課外支援の利用者数 [単位：人]

	スタージュ		オータムキャンプ	スプリングキャンプ
平成 22 年度	88 (10)		—	—
平成 23 年度	スタージュ	87 (4)	—	—
	プレスタージュ	39		
平成 24 年度	スタージュ	90 (11)	—	—
	プレスタージュ	96 (3)		
平成 25 年度	97 (13)		52 (4)	49 (6)
平成 26 年度	99 (6)		43 (3)	72 (6)
平成 27 年度	117 (6)		93 (6)	78 (4)

※ () 内は大学院生

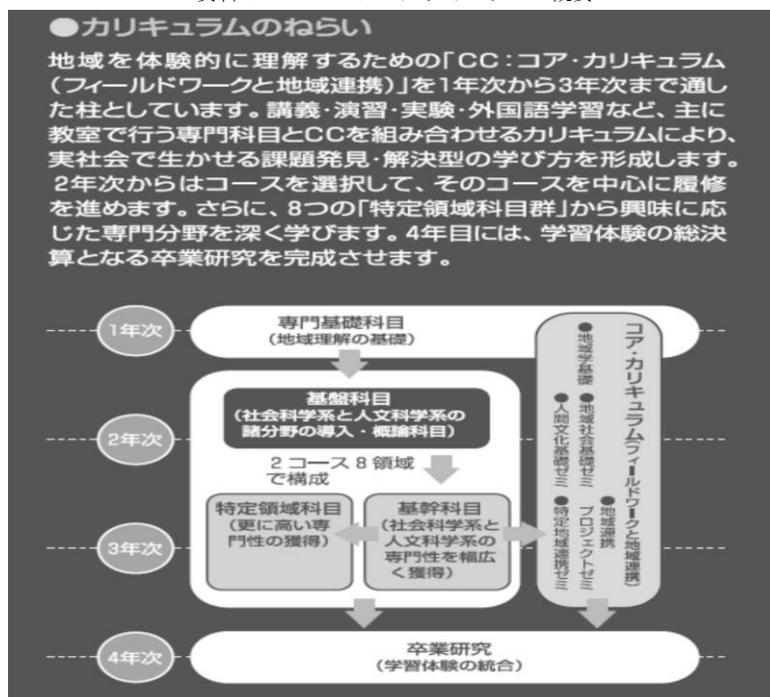
(出典：キャリア委員会)

3. 地域で求められる能力の養成 (地域文化学科)

地域文化学科においては、キャンパスと地域現場を往還する実践的な教育を目指して、コア・カリキュラムが設定された。地域現場でのフィールドワーク等を通して、自らの将来における地域社会での活動と結びつけながら大学での学びの意義を理解させることを意図したプログラムである (資料 2-28)。これによって、地域現場への理解を深めるとともに、地域で求められている能力・資質を体験的に理解させるというねらいがある。特に、地域連携プロジェクトゼミ (平成28年度から実施) では、地域の諸団体 (自治体・企業・

NPO等)の協力を仰いで学生数名ずつを受け入れてもらい、大学との話し合いによって設定されたプログラムを、諸団体のスタッフと協働して遂行するという形態で実施が予定されており、インターンシップを超えた教育効果が期待される。このゼミの運営には、一般の教員と、北都銀行の協力によって派遣されている実務家教員がスタッフとしてあたり、諸団体との連携や学生の指導を行なうよう準備が進められている(資料2-29)。

資料2-28: コア・カリキュラムの概要



(出典: 教育文化学部概要 2016)

資料2-29: 地域連携プロジェクトゼミ (シラバス)

科目名: 地域連携プロジェクトゼミ

【授業の目的と到達目標】

授業の目的は実習生が実習受入機関で社員や職員、地域住民等と協働する実務体験を通して、課題や資源を(再)発見し、解決策や活用方法を見出すことにより実践力を養成することにある。

到達目標は地域に関する認識を深め、地域社会や職場で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力や態度を養うことにある。

【授業の概要と進行予定及び進め方】

この授業は実習受入機関に実際に出向き、その機関の職員、社員、地域住民等と共に活動し、掲げられた課題を解決していくものである。実習の期間については実習受入機関毎に異なる。課題についても、それぞれの実習機関によって異なる。概ね次のような流れで実習先の決定と最後の発表を行う。

- 1) 前年度12月をめどに実習受入機関が決定する。
- 2) 前年度1月をめどに説明会を開催し、希望を提出する。
- 3) 前年度2月に調整を行い、仮決定とする。ただし、受入先機関によっては、自ら面接等を行い決定することもある。
- 4) 当該年度に履修登録を行うことで正式決定とする。
- 5) 受講学生は実習開始前までに誓約書を大学に提出する。
- 6) 4月14日 ガイダンス(実習の内容について)
- 7) 4月21日 マナー講習(予定)
- 8) 4月28日 担当者との顔合わせ
- 9) 5月以降実習受入機関毎に実習を開始
- 10) 実習が終了次第報告会を、7月、10月、1月のいずれかに行う。

(出典: 秋田大学A・net)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 教養教育科目・基礎教育科目に加えて、専門教育科目についても、専門基礎科目・基盤科目・基幹科目・実践／特定領域科目・発展科目と、段階的なカリキュラム体系を構築している。

また、学校教育課程、地域文化学科ともに、地域現場に即した実践力の養成に力点を置いたカリキュラム体系の整備を行なっている。学校教育課程では、通常教育実習・介護等体験に加えて「教育実地研究」を設定、実務家教員を中心とした教員チームによって実践的な指導に当たっている。地域文化学科では、地域実習を重視したコア・カリキュラムを設定、北都銀行との連携による実務家を交えた指導体制を整えるなど、地域理解と実践力の涵養に努めている。

さらに、学校教育課程・地域文化学科ともに、実践科目を重視したカリキュラム体系を構築しており、実践力の向上が図られている。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断できる。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 学習成果の評価

平成26年度の改組を機に、全ての科目においてナンバリングを行なうことで分野および水準を明示し、学生自身が自らの学びを体系的に把握できるようにしている。加えてGPAの導入と評価基準の統一を同時に行ない、自らの学習の達成度が客観的に把握できるように体制を整えた(資料2-30、31)。

また、平成22年度より教職ポートフォリオを導入、教員を目指す学生が自らの学習を省察しつつ、記録を教員と共有しながら指導を受ける体制が確立されている(資料2-22(再掲))。

さらに、平成26年度より地域文化学科の学生に対しては、キャリアポートフォリオを導入し、学生が1年次から自らのキャリア形成を意識しながら大学での学びを構築しつつ、教員がポートフォリオに基づいてアドバイスを行なう体制を構築している(資料2-32)。

資料2-30: 専門教育科目ナンバリング

授業科目コードのナンバリングについて

平成26年4月から「ナンバリング制度」に基づいて授業科目コードを8桁数字で構成し、各授業科目の学問の分野と水準を示して、科目選択の参考にしていきます。教育文化学部の専門教育科目では以下のとおり設定しています。

科目コード

① 科目群		② 分野		③ 水準	通し番号		
6	5	9	6	2	1	1	0

①科目群

学校教育課程(共通)	65
教育実践、英語教育、理数教育	66
特別支援教育、こども発達	67
地域文化学科	68
卒業研究	69

②分野

哲学	11	政治学	19	物理学	33	地理学	78	特別支援教育	97
芸術学	12	経済学	20	地球惑星科学	34	社会・安全システム科学	79	卒後研究	98
文学	13	社会学	22	基礎化学	36	健康・スポーツ科学	81	その他	99
言語学	14	心理学	23	基礎生物学	52	子ども学	82		
史学	15	教育学	24	情報学	71	外国語	92		
文化人類学	17	地域研究	25	環境学	72	教科教育学	95		
法学	18	数学	31	生活科学	74	教職に関する科目	96		

③水準

番号	水準	説明	学校教育課程	地域文化学科
2	基礎	中核的水準の前段階として学ぶ基礎的水準	専門基礎科目、基盤科目	専門基礎科目、基盤科目 基幹科目※注
3	中核	専門分野の中核的水準	基幹科目(教科教育学・教科専門)※注 実践科目	特定領域科目
4	発展	中核的水準より発展的な水準	発展科目	発展科目

注：学校教育課程と地域文化学科において、カリキュラムの構造が異なるため、「基幹科目」の水準が異なっている。

(出典：平成27年度開設講義一覧)

G P A (Grade Point Average)に関する内規

学生指導に役立つため、G P Aについて以下のように定める。

1. 履修者の成績評語に対して以下のG P (Grade Point) をあて、加重平均してG P Aを算出する。

- S (90 点以上) : 4 ポイント
- A (80 点以上 90 点未満) : 3 ポイント
- B (70 点以上 80 点未満) : 2 ポイント
- C (60 点以上 70 点未満) : 1 ポイント
- D (60 点未満) : 0 ポイント

※100 点満点換算

2. クラスG P Aについて

クラスG P Aは

$$\frac{\{(S \text{ 修得者数} \times 4) + (A \text{ 修得者数} \times 3) + (B \text{ 修得者数} \times 2) + (C \text{ 修得者数} \times 1)\}}{\text{(履修登録者数)}}$$

で算出する。ただし、以下の科目については算出しない。

- ①成績が可か不可かの二択に近く、主に学外で行われる実習系の科目 (別表1)
- ②受講生数が5名以下の授業

3. 学生G P Aについて

学生G P Aは

$$\frac{\{(S \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1)\}}{\text{(履修登録した科目の総単位数)}}$$

で算出し、通算G P Aと学期G P Aの二種類を学生本人に通知する。ただし、前項①の科目は除外する。

また、以下の科目についても除外する。

- ③入学・編入学・転入学前に修得した単位認定科目
- ④他大学との単位互換等で修得した科目

4. 履修登録変更期間について

履修登録期間後約一月が過ぎた時点で学生が履修登録を変更できる期間を設ける。

5. 追試験等について

病気等のやむを得ない理由で試験等を受けられなかった学生については、可能な範囲で追試験などの機会を与えるものとする。

6. 放棄の扱いについて

試験を受けない、レポートを出さないなど、成績評価を受けなかった学生については、D評価とする。学生が成績評価を正当な理由なく受けなかった場合には追試験などの機会を与えない。

病気等のやむを得ない理由で成績評価を受けられなかった学生については、学務担当宛に理由を付して放棄を申請できるものとする。教務学生委員会が担当教員に確認の上、妥当と判断した場合、放棄として認定する。放棄と認定された場合は、当該科目をG P A算出の対象から除くこととする。

7. 不合格科目の再履修について

不合格科目を再履修して合格した場合、当該科目の過去の成績については通算の学生G P Aの算出から除外する。ただし、過去に計算された当該学期の学生G P Aの値は変更しない。

8. 成績基準及び成績分布の適正化について

成績評価はシラバスに設定された目標を基準として行い、Bを標準とする。SやA、ないしCやDが多すぎる場合、担当教員は授業の目標や内容の難易度を調整することが望ましい。SとDはそれぞれ全体の30%以下に抑えることが望ましい。

G P Aの妥当性を高めるため、F D活動などを通じて、成績基準や成績分布の適正化に努める。

9. G P Aの活用について

学生の通算G P A及び学期G P Aは成績表に記載するが、成績証明書等の書類には、学生からの要望があった場合以外には記載しない。

G P Aは、学生G P Aが一定水準以下の学生に対して学習指導等を行うことや、科目間のクラスG P Aのばらつきを緩和することに利用するが、それ以外の用途については引き続き検討する。

別表1 (第2項①による除外科目)

教育実習 教育実地研究 保育実習 教育福祉実習 特別支援学校教育実習 障害児教育・福祉制度実習 企業・行政研修 人間環境学体験実習 卒業研究 附 則 この内規は、平成 26 年 4 月 1 日から実施する。

(出典：G P A (Grade Point Average) に関する内規)

資料 2-32: キャリアポートフォリオ

キャリアポートフォリオ

年度 _____ 年生 _____ 記載日: 年 月 日

学籍番号			
氏 名			

1. あなたの現在について
次の能力について自己評価してください

能力	能力要素	説明	自己評価 (5点満点)
主体性 (前に 踏み 出す 力)	主体性	物事に進んで取り組んでいく力	
	自己評価の点数を裏付けるエピソード		
	働きかけ力	他人に働きかけ、巻き込む能力	
実行力 (シス テム シキ ンク)	実行力	目的を設定し確実に行動する力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
課題発見力 (シス テム シキ ンク)	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
計画力 (シス テム シキ ンク)	計画力	課題への解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
創造力 (チ ーム で 働 く 力)	創造力	新しい価値を生み出す力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
伝達力 (チ ーム で 働 く 力)	伝達力	自分の意見をわかりやすく伝える力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
傾聴力 (チ ーム で 働 く 力)	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
柔軟性 (チ ーム で 働 く 力)	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
状況把握力 (チ ーム で 働 く 力)	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
規律性 (チ ーム で 働 く 力)	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
ストレスコントロール力 (チ ーム で 働 く 力)	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	
自己評価の点数を裏付けるエピソード			
学習 (チ ーム で 働 く 力)	基礎的・基本的な知識・技能	これまでに学んできた知識・技能がどれだけ身についているか	
	知識・技能の活用能力	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力がどれだけ身についているか	
	主体的に学習する態度	積極的に学習する態度が身についているか	

これは毎年度作成し、新年度の面接の際に、担任に見せてください。

既読	昨年度読んだ本の冊数	冊
読んだ本リスト		

2. あなたの昨年度の振り返り(1年生では記入不要)
昨年度、あなたが実際にやったことや、成果を記録してください。

いつ(日時や期間)	何をしたこと、工夫したこと、成果、身についたこと等を具体的に記述してください

3. あなたの今年度の計画
今年度のあなたの計画を記入してください。実行できたら「実行できたか」の欄に○をつけてください。

実行できたか	いつごろ	何をするか	そこでどんな能力が磨かれるか

2, 3については足りなければ行を追加してください

(出典：地域文化学科キャリアポートフォリオ)

2. 単位取得・成績等

単位の実質化に向けて、年間の取得単位の上限設定、卒業までの取得単位数と平均評定値の関連性などについても継続的にデータを集めており、その妥当性についての検証を行っている(資料2-33)が、卒業までの修得単位数の平均は150単位弱、GPAの平均は2.5弱と、妥当な水準を維持している。なお、留年率・休学率には、留学を理由としたものも含まれているため(平成22~27年度の休学者は平均28.5人、うち留学が理由は7.0人)一概に論じることができないが、平成25年度以降は標準修業年限卒業率が90%以上となっている(資料2-34)。なお、平成26年度改組に際して提携校への留学については、単位互換の範囲を拡大、留学による留年の解消に努めている。

秋田大学教育文化学部 分析項目Ⅱ

資料 2-33：単位実質化に向けたデータ検証（卒業時）

年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
G P A 平均値	2.51	2.47	2.48	2.47	2.43	2.44
習得単位数の平均値	147.99	150.88	148.79	149.77	146.40	147.02

(出典：総合学務課調査)

資料 2-34：留年率：休学率：退学率の推移

教育文化学部	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
留年率	3.9%	3.3%	5.4%	5.9%	6.3%	7.6%
休学率	2.3%	1.7%	2.4%	2.4%	2.1%	2.6%
退学率（4年内）	2.9%	1.6%	1.7%	2.3%	1.3%	1.6%
標準修業年限卒業率	87.6%	87.6%	85.5%	91.6%	93.0%	91.5%

※留年・休学については留学による者を含む（出典：平成 27 年度版秋田大学基本データ）

3. 資格取得状況

平成 26 年度に学部改組がなされたが、平成 27 年度までは 4 課程体制のもとでの数値となる（資料 2-35）。義務教育教員養成を主目的とする学校教育課程（定員 100 名）では、小学校教諭一種と中学校教諭一種の免許をあわせて取得する学生が 9 割程度となっている。発達科学選修（定員 20 名）では、幼稚園教諭と保育士免許の取得が可能となっており、教員養成という学部の目的を果たしている。地域科学課程および国際言語文化課程では 1～2 割程度、人間環境課程では 5 割を超える学生が高等学校教諭一種免許状を取得しており、特に人間環境課程は実際に教員を志望・採用される学生も多かった。しかし平成 26 年度の学部改組により、教員養成は学校教育課程に集約・整理している。

また、教員免許状以外の取得可能な資格としては、社会教育主事等がある（資料 2-36）。

資料 2-35：教員免許状等取得状況

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	総計
高等学校教諭一種免許状	111	130	118	122	116	111	597
小学校教諭一種免許状	97	90	85	93	86	96	451
小学校教諭二種免許状	13	13	13	13	13	6	65
中学校教諭一種免許状	112	126	119	107	108	114	572
中学校教諭二種免許状	3	3	1	4	2	2	13
特別支援学校教諭一種免許状	31	37	24	27	37	25	156
特別支援学校教諭二種免許状	7	4	5	6	-	-	22
幼稚園教諭一種免許状	16	21	11	19	16	17	83
幼稚園教諭二種免許状	-	1	4	-	-	-	5
保育士資格	16	19	15	19	17	18	104
総計	406	444	395	410	395	389	2,439

(出典：総合学務課調査)

資料 2-36：卒業により取得につながる主な資格（教員免許状以外）

所定の科目・単位を修得し、卒業後所定の実務経験を経ることにより 得ることができる資格	社会教育主事
所定の科目・単位を修得することにより、資格取得要件の一部を満たす資格	学校図書館司書教諭
所定の科目・単位を修得することにより申請資格を得ることができる資格	認定心理士
所定の授業科目を修得し、申請することで資格取得又は講習会の 受講が免除される	日本体育協会公認 スポーツ指導者

(出典：取得できる免許・資格 http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/department/dept_license.html)

4. 学業の成果の達成度・満足度に係る調査

授業アンケート（再掲資料2-10）や、卒業研究提出時に4年間の教育を振り返るアンケート調査（再掲資料2-12）を実施、学生の満足度の把握や、課題についての把握に努めている。授業アンケートからは、学生が授業をかなり高く評価していること、自身が到達目標をおおむね達成していると感じていることがわかる。また、卒業時アンケートでは、カリキュラムの妥当性、入学時の期待との合致、教員の熱意、教育実習への満足度などで高い評価結果が得られている（資料2-37、38）。

資料2-37:授業アンケート集計結果（5段階評価の平均値）

	平成24年度	平成25年度
【1】シラバスの有効性	3.95	3.97
【2】説明のわかりやすさ	4.30	4.29
【3】授業の工夫	4.22	4.30
【4】評価基準の明確さ	4.13	4.20
【5】達成度（学生の自己評価）	3.83	3.89

（出典：「授業評価結果報告」より項目・数値を抽出）

資料2-38:卒業時アンケート集計結果（肯定的評価〔4段階の上位2段階〕の割合）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
カリキュラムが人材養成の目標に合致していたか	90.8%	86.8%	88.0%
入学時に期待した教育内容と合致していたか	80.7%	86.8%	79.0%
教員は熱意を持って指導していたか	95.0%	94.4%	96.0%
教育実習は満足いく内容だったか	（未調査）	94.0%	97.7%

（出典：「卒業時アンケート集計結果」より項目・数値を抽出）

（水準） 期待される水準にある

（判断理由） 成績評価基準の統一を伴うGPAや、ナンバリングの導入など、学業成果の検証体制が適切に構築されており、修得単位数やGPAの平均値も妥当な水準を維持している。

また、専門教育に関する授業アンケートからは、「わかりやすさ」や「授業の工夫」に関する質問項目で高い評価が得られており、卒業時アンケートでも、カリキュラムの適正さや教育内容（教育実習を含む）に対する満足度に関する質問項目で8～9割程度の満足度が得られている。

さらに、「教職ポートフォリオ」「キャリアポートフォリオ」が導入され、学生の状態を細かく把握しながらの指導が行なわれている。

教員免許・保育士資格の取得状況も順調で、教員養成という学部の目的が十分に達成されている。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

観点 進路・就職の状況

（観点に係る状況）

1. 進路・就職状況

キャリア委員会が中心となり、就職情報室と連携しながら進路選択・就職活動等を支援しており、就職率は一貫して9割台を維持している（資料2-39～41）。

秋田大学教育文化学部 分析項目Ⅱ

資料2-39:進路状況

	卒業者数	進学者数	就職者数		その他	未就職者	就職率
			県内	県外			
平成22年度	301	26	239		21	15	94.1%
			129	110			
平成23年度	299	21	228		29	21	91.6%
			124	104			
平成24年度	283	18	236		22	7	97.1%
			102	134			
平成25年度	309	15	261		23	10	96.3%
			129	132			
平成26年度	299	15	260		20	4	98.5%
			125	135			
平成27年度	302	13	270		13	6	97.8%
			135	135			

(出典:秋田大学概要)

資料2-40:就職状況(産業別)

	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究・専門技術サービス	宿泊・飲食業	医療・福祉	学校教育※	教育学習支援業	複合サービス業	サービス業	公務員	就職者合計
平成22年度	1	4	1	16	5	22	29	2	0	6	15	73	5	6	17	37	239
平成23年度	1	7	0	8	6	16	19	1	0	2	21	73	5	6	17	46	228
平成24年度	4	4	0	10	7	21	20	0	0	4	14	87	6	3	19	37	236
平成25年度	8	7	0	13	7	27	13	0	0	7	11	90	6	2	21	49	261
平成26年度	4	5	1	12	10	18	23	2	0	8	10	89	1	3	18	56	260
平成27年度	3	6	0	14	12	16	27	0	1	4	8	107	6	3	13	50	270

※学校教育は教員以外を含む

(出典:秋田大学概要)

資料2-41 主な就職先(企業名等)

秋田銀行、損保ジャパン、秋田県信用組合、農林中央金庫、羽後信用金庫、東日本旅客鉄道、第一生命保険秋田支社、北都銀行、秋田魁新報社、秋田放送、ヤマダフーズ、日本赤十字秋田看護大学、荘内銀行、全日本空輸、日本通運、ヤマト運輸、JTB首都圏、NTTデータソウトウェア、ジャパンネット、三井住友銀行、山形銀行、楽天野球団

(出典:教育文化学概要)

教員採用率は全国的に見ても低い水準にあり、長年の課題であったが、教育実習プログラムの改善を始めとした教員養成に係る様々な取組により、平成24年度以降は大きく改善しており、平成27年度には67.3%まで上昇した(資料2-42)。

秋田大学教育文化学部 分析項目Ⅱ

資料2-42：教員採用率

年度	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27
学校教育課程(教員養成課程)	44.5%	41.7%	56.7%	59.0%	58.2%	67.3%
秋田県内教諭+講師(教諭)	29(7)名	28(9)名	38(5)名	39(9)名	38(16)名	46(16)名
秋田県教員採用数(養護・栄養教諭を除く)	72名	89名	99名	126名	116名	114名

(出典：教育文化学部調査)

2. 卒業生・就職先アンケート

平成 27 年度に、卒業生および卒業生の就職先(過去 5 年間に 2 名以上が採用されている組織)に対して、教育成果に関するアンケート調査を行なった(資料 2-43)。

資料2-43：教育成果に関するアンケート調査票(就職先事業所用)

第 2 期中期目標期間(平成 22 年度～27 年度)における

秋田大学教育文化学部の教育成果に関するアンケート調査票(就職先事業所用)

【調査の目的】

このアンケート調査は、秋田大学教育文化学部の学部教育(学士課程)における教育成果に対して、卒業生を受け入れてくださっている事業所(学校・病院・会社・行政機関など)がどのような意識を持っているのかを把握・分析し、その結果を踏まえて教育課程の編成、授業方法の改善・充実に反映させることを目的として実施するものです。

【回答方法】

- ・選択項目については、該当する番号や項目等を○で囲んでください。
- ・記述項目については、記述欄にご自由にお書きください。記述欄が不足の場合は、適宜余白をお使いください。

I. 秋田大学教育文化学部の学位授与方針※についておたずねします。

(学位授与方針については、以下をご参照ください。)

※学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)・・・学位授与に関する基本的な方針で、学生が卒業・修了するまでにどのような知能・技能・態度を習得すべきかを明文化したものです。

秋田大学教育文化学部学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1 人間発達を中核として、幅広い諸科学の基礎的な体系を理解している。
- 2 学校教育、地域科学、国際言語文化、人間環境に関する専門的知識を有している。
- 3 日本語や他の言語を適切に運用する能力を有している。
- 4 さまざまな人々と協働するためのコミュニケーション能力を有している。
- 5 さまざまな情報を適切に収集し、科学的・批判的に分析・処理し、創造的に発信する能力を有している。
- 6 得られた知識、情報を活用し、人間存在をめぐる現代的課題を総合的、多面的に探求することができる。
- 7 人権が尊重され、平和で民主的、かつ持続可能な社会の進展のために、自らの知識、能力を活用し、人々と協力しながら主体的に行動する。
- 8 生涯にわたって主体的に学び続け、専門的な知の継承・発展・創造に寄与しようとする。
- 9 地域社会の風土や文化を理解し、新たな生活文化の創造を主体的に担おうとする。
- 10 社会人として、また専門的職業人としての高い倫理観、使命感、責任感を持って行動できる。

問 1：学位授与方針についてどのように思われますか。

次の(1)～(4)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。また、その他にお感じのことがあれば、記述欄にご自由にお書きください。

	①非常に そう思う	② そう 思う	③ 普通であ る	④ あまりそ う思わな い	⑤そう思わ ない
(1)実現性がある	1	2	3	4	5
(2)わかりやすい	1	2	3	4	5

秋田大学教育文化学部 分析項目Ⅱ

(3) あなたの事業所のニーズに合致している	1	2	3	4	5
(4) 地域のニーズに合致している	1	2	3	4	5

(学位授与方針についてお感じのことがあればお書きください)

(記述欄)

Ⅱ. あなたの事業所に勤務している秋田大学教育文化学部の卒業生（特に、平成23年3月～26年3月に卒業した者）についておたずねします。

問2：あなたの事業所に勤務する秋田大学教育文化学部の卒業生について、日頃どのように感じているかをおたずねします。それぞれの能力・知識を卒業生が有しているかについて、回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。

	①非常に そう思う	⑥ そう思 う	⑦ 普通で ある	⑧ あまりそう 思わない	⑤そう思 わない
(1) 幅広い教養	1	2	3	4	5
(2) 常に新しい知識・技術を吸収しようとする向上心	1	2	3	4	5
(3) 外国語運用能力	1	2	3	4	5
(4) 専門的能力	1	2	3	4	5
(5) 専門分野以外の課題にも柔軟に対応することが出来る応用力	1	2	3	4	5
(6) 独創性	1	2	3	4	5
(7) 課題を的確に解決することが出来る課題解決力	1	2	3	4	5
(8) 組織の中での自分の役割を認識し、的確な振る舞いが出来る組織的行動力	1	2	3	4	5
(9) 自分の意見を的確に伝えたり、相手の話を聞いたり理解するコミュニケーション能力	1	2	3	4	5
(10) 高度な倫理性	1	2	3	4	5

問3：秋田大学教育文化学部の卒業生はどのような良い点がありますか。お気づきのことがございましたらご自由にお書きください。

(記述欄)

問4：秋田大学教育文化学部を卒業し、あなたの事業所に就職する者について、どのようなことを在学中に身につけておいてほしいと思いますか。次の(1)～(10)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。また、これら以外に在学中に特に身につけておいてほしいことがございましたら、記述欄にご自由にお書きください。

	①非常に そう思う	⑩ そう思 う	⑪ 普通で ある	⑫ あまりそう 思わない	⑤そう思 わない
(1) 幅広い教養	1	2	3	4	5
(2) 向上心	1	2	3	4	5
(3) 外国語運用能力	1	2	3	4	5
(4) 専門的能力	1	2	3	4	5
(5) 応用力	1	2	3	4	5
(6) 独創性	1	2	3	4	5
(7) 課題解決力	1	2	3	4	5
(8) 組織的行動力	1	2	3	4	5
(9) コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
(10) 高度な倫理性	1	2	3	4	5

(上記以外に、在学中に特に身につけておいてほしいことがございましたらお書きください)

(記述欄)

Ⅲ. 事業所として、秋田大学教育文化学部にお感じになっていることについておたずねします。

問5：秋田大学教育文化学部は、あなたの事業所（あるいは業種）として求める人材を養成していると思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

(記述欄)

問6：あなたの事業所において、今後秋田大学教育文化学部の卒業生を積極的に採用したいと思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

(記述欄)

問7：貴事業所の業種について、該当するものを1つ選択してください。

①農業, ②林業, ③漁業, ④鉱業, ⑤建設業, ⑥製造業, ⑦電気・ガス・熱供給・水道業, ⑧情報通信業, ⑨運輸業, ⑩卸売・小売業, ⑪金融・保険業, ⑫不動産業, ⑬飲食店・宿泊業, ⑭医療・福祉, ⑮教育・学習支援業, ⑯複合サービス業, ⑰サービス業（他に分類されないもの）, ⑱公務（他に分類されないもの）, ⑲その他（ ）

問8：差し支えなければ、事業所におけるあなたの職位についてお教えてください。

アンケート回答者の職位：（ ）

※秋田大学や大学教育全般、あるいはこの調査についてのご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にお書きください。本学の将来設計を考える際の参考とさせていただきます。

(記述欄)

ご協力、ありがとうございました。最後に、この調査票の記入日をお書きください。

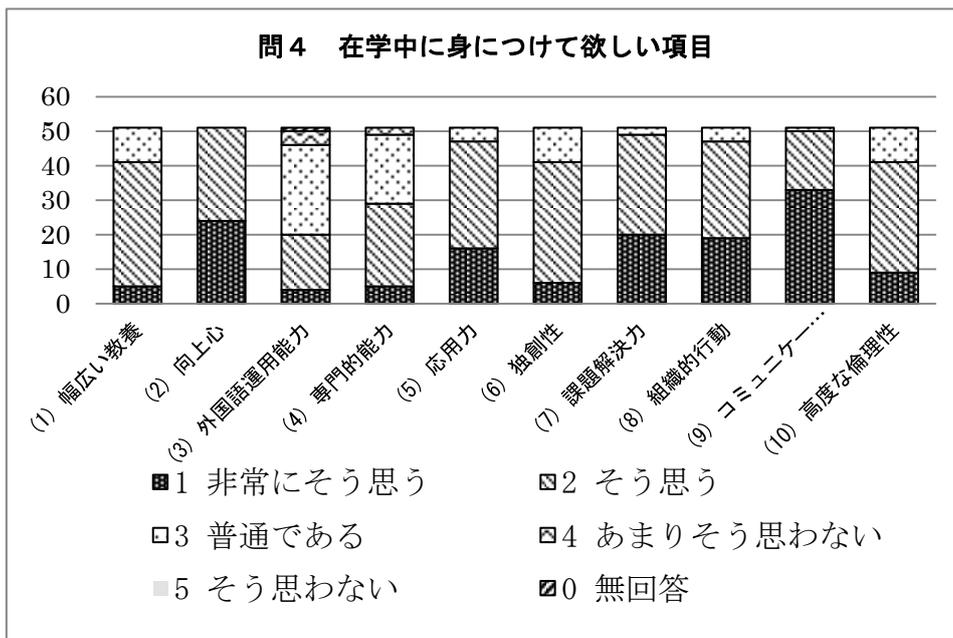
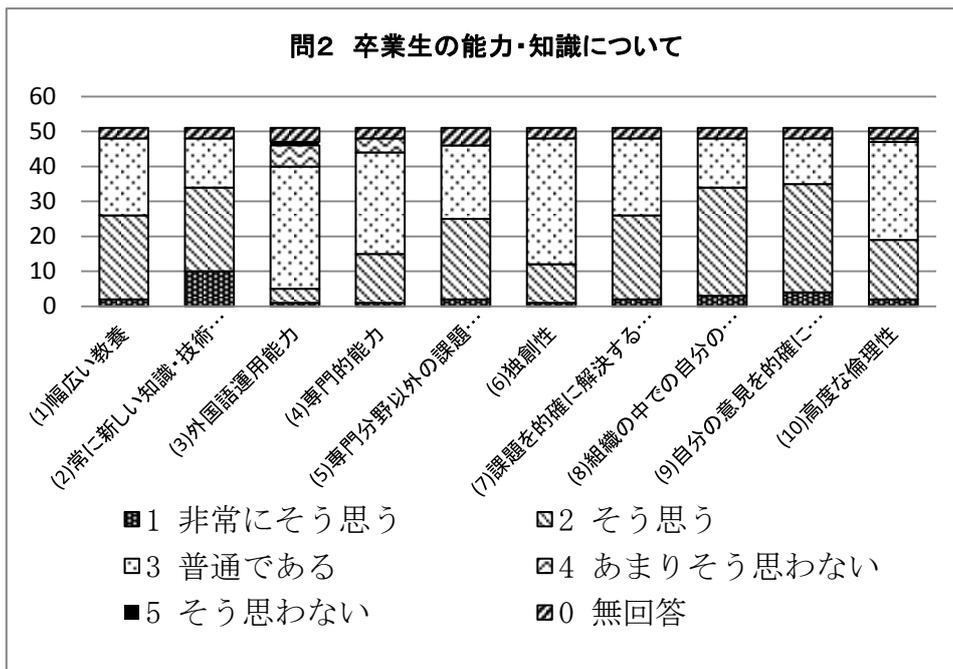
記入日 → 平成27年（ ）月（ ）日

(出典：教育文化学部調査)

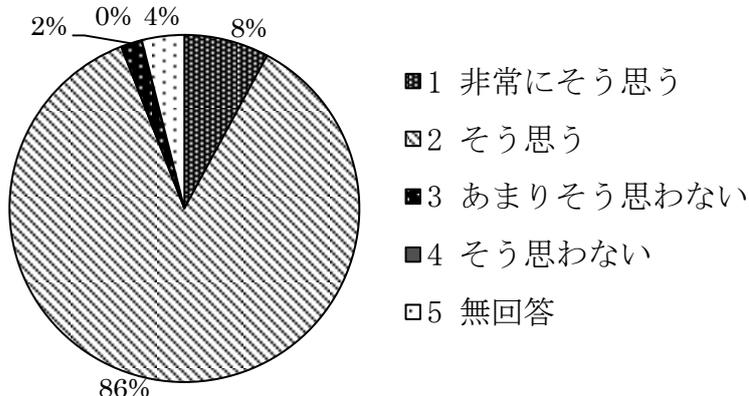
51 団体からの回答結果を分析すると、8割以上の企業等が求めている能力・資質としては(1)幅広い教養、(2)向上心、(5)応用力、(7)課題解決能力、(8)組織的行動力、(9)コミュニケーション能力、(10)高度な倫理性等が挙げられる。これらの項目に関して、5段階評価で上位2段階の評価が、(1)51.0%、(2)66.7%、(5)49.0%、(7)51.0%、(8)66.7%、(9)68.6%という結果を得ている。

また、本学部が求める人材を養成しているかという問に対しては94%、本学部の学生を積極的に採用したいかという問に対しては90%の企業が、肯定的な評価を下している(資料2-44)。

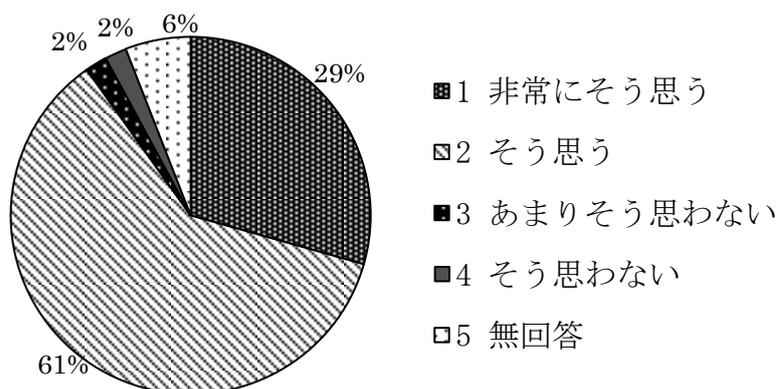
資料 2-44：企業アンケート集計結果



問5 秋田大学教育文化学部は、あなたの事業所（あるいは業種）として求める人材を養成していると思いますか。



問6 あなたの事業所において、今後秋田大学教育文化学部の卒業生を積極的に採用したいと思いますか。



(出典：教育文化学部調査)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 平成 23 年度を底に、教員採用率が大きく改善され、平成 27 年度は前年度の全国平均を上回る水準まで到達している。これは、カリキュラムや教育内容の改善、指導体制の充実を図ってきたことによる成果と考えられる。

また、就職率も、平成 23 年度を底として、以後は 95%を超える高い水準を維持している。

さらに、就職先を対象としたアンケートからも、卒業生が一定程度以上の評価を得ていることがわかる。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断した。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

教員養成に関しては、第1期と比べて、教育実習内容の改善、教育実習以外の実習科目の導入、教職ポートフォリオの導入、実務家教員による指導体制の強化などが実現されており、その成果は教員採用率にも表れている。また、平成26年度の学部改組により、教員養成とそれ以外とのカリキュラム体系が明確に区別された。それによって、それぞれの人材養成目的に即した実習系の科目が導入・強化され、教員養成以外の分野でも実務家を採用するなど、実践力の向上が図られている点も、第1期からの大きな改善点といえる。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

第1期に比べ、教員採用率が大幅に向上している。これは、カリキュラム改革、教育実習等の実習内容の改善や実務家の採用による実践的な指導強化の成果と考えられる。なお、平成26年度の改組で発足した地域文化学科においても、地域と連携した実習が導入されるなど、実践力向上が図られており、その成果が期待できる。就職率は一貫して高い水準を保っており、教育成果が一定以上の水準にあることを示している。就職先へのアンケート結果も、採用された人材が水準を十分に満たしていることを示しており、教育成果を裏付けている。

3. 教育学研究科

I	教育学研究科の教育目的と特徴	・・・	3-2
II	「教育の水準」の分析・判定	・・・	3-3
	分析項目 I 教育活動の状況	・・・	3-3
	分析項目 II 教育成果の状況	・・・	3-9
III	「質の向上度」の分析	・・・	3-16

I 教育学研究科の教育目的と特徴

1. 教育学研究科の教育目的

教育学研究科の教育目的については、教育学研究科規程に定めている（資料3-1）。

資料3-1：教育学研究科の目的

（目的）

第2条 研究科は、児童・生徒の発達と学習及び教育科学をはじめとする諸科学分野に関する専門的知識の修得並びに高度の教育実践能力と研究能力の涵養とによって、21世紀の初等中等教育を担う、優れて質の高い教員の養成を目的とする。

（出典：教育学研究科規程）

本研究科は、北東北において教育職の高度な専門教育を求める学生に対し、より高い水準の継続教育の機会を与えてきており、その成果は地域社会の教育水準の向上に寄与してきた。同時に現職教員の再教育の機会を提供し、専門的・実践的な資質向上に大きく貢献してきた。

2. 特徴

本研究科修了者は秋田県内の学校教育現場や教育委員会等で指導的な役割を果たしており、そのネットワークは設置後20年近くが経過した今、大きな広がりを見せている。

秋田県の教育界においては、平成20年代中頃からベテラン教員の大量退職時代を迎えており、全国トップレベルの学力を支えていた教育現場における「実践知の伝承」が大きな課題となっているが、その解決についても本研究科は大きな役割を果たしてきた。

このように、秋田県の教育界への優れた人材供給や、教育委員会との密接な関係が設置以来持続していること、地域教育の課題解決への貢献等、地域に根差した教員養成系大学院であるということが本研究科の特徴であると言える。

さらに、より高い実践力を有する教員を求める学校現場からの声、これまで以上に現職教員の研修機能の強化を求める教育委員会などからの声を受けて、本研究科では教職大学院の平成28年度開設にむけて準備を進めており、これにあわせて従来の組織について、その役割を含めた全面的な見直しを行なっている。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者としては、本研究科に入学を志望する大学生、現職教員、在学生、学校現場・教育委員会等を含む秋田県の教育界が挙げられる。

こうした関係者の期待として想定されるのは以下の通りである。

- 1) 将来の夢をかなえる希望が持てる教育システムや研究、修学に適した環境
- 2) 現場での課題の解決方法を模索しうる高度な専門性に裏付けられた教育・研究システムと、就学に適した環境
- 3) 大学院在籍中に得た専門分野の知識や研究に対する姿勢が、実際の教育現場の運営に役立つこと
- 4) 現職教員への研修機能・再教育機能を含め、高度な専門性と実践力を備えた質の高い優れた教員を養成すること

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 教育研究組織及び教員

教育学研究科は、学校教育・教科教育の2専攻からなり、学校教育専攻は2専修、教科教育専攻は各教科に分かれた9専修から構成されている(資料3-2)。なお、平成28年度に教職大学院開設を予定し、既存の教育学研究科の組織や規模の全面的な見直しが計画された(資料3-3)。

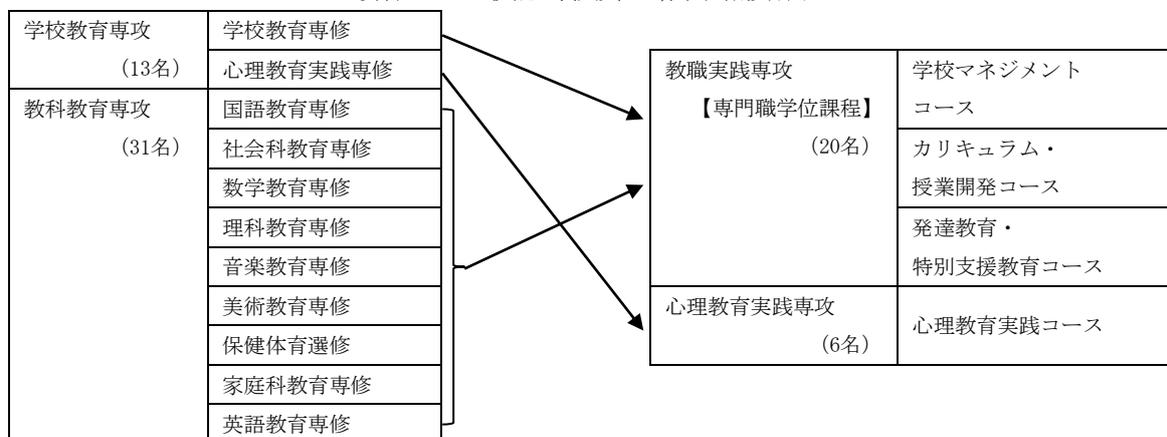
大学院課程に配置されている教員については、平成27年5月1日時点において、教職大学院設置準備のため研究者教員から実務家教員への切り替えを行なったために、一部の教科において、研究指導教員、研究指導補助教員及びその総数が大学院設置基準に定める基準数を満たせない状態だった(資料3-4)。しかし、教職大学院の設置に伴い、既存の教科教育専攻が廃止されたことにより現在では解消している。また、不足が解消する以前も、教育上必要な部分については非常勤講師の手当などを行ない、支障のないよう配慮した。

資料3-2: 大学院教育学研究科の構成

専攻名	専修名	入学定員	収容定員
学校教育専攻	学校教育、心理教育実践	13	26
教科教育専攻	国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育 美術教育、保健体育、家政教育、英語教育	31	62

(出典: 大学院学則)

資料3-3: 教職大学院設置に伴う組織移行図



(出典: 教育学研究科作成)

資料3-4：教育学研究科専任教員組織の構成と配置 [単位：人] (平成27年5月1日現在)

専攻	大学院指導教員数				大学院設置基準必要教員数				
	研究 指導 教員	うち 教授 数	研究 指導 補助 教員	計	研究 指導 教員	うち 教授 数	研究 指導 補助 教員	計	
学校教育専攻	12	10	7	19	7	5	5	12	
教科教育専攻	国語教育専修	4	4	1	5	4	3	3	7
	社会科教育専修	7	7	12	19	6	4	6	12
	数学教育専修	5	4	5	10	4	3	3	7
	理科教育専修	4	4	5	9	6	4	6	12
	音楽教育専修	2	1	3	5	4	3	3	7
	美術教育専修	4	3	1	5	4	3	3	7
	保健体育専修	5	5	2	7	4	3	3	7
	家政教育専修	3	2	2	5	4	3	3	7
英語教育専修	8	7	3	11	3	2	2	5	
合計	54	47	41	95	46	33	37	83	

(出典：総合学務課作成)

2. 組織体制及び改善体制

大学院教育に関する実施・改善は、従来は学務委員会が全てを担ってきた。しかし、「「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型教員養成」及び「“教員養成秋田モデル”発信プロジェクト」が開始されたことで体制の見直しが必要となった。

これらのプロジェクトは、いずれも教員養成と研修を一体的に捉え、附属学校園を中心的な実践・研修の場として、学部と大学院、現職教員をクロスオーバーさせながら事業を展開させることを基本理念としている。そのため、附属学校園での実習等を含め、学部・大学院のカリキュラムの緊密な連携が重要となる。

そこで平成26年度の学部改組を機に、教育文化学部と教育学研究科の教育全体を統括的に運用・改善していく組織として、教育担当副学部長を議長とした教育企画会議を立ちあげ、そのもとに大学院の教育プログラム運用組織である学務委員会を配置、学部と大学院の教育が一体的に運用・改善されていくように整備した。

教育企画会議のもとには教育全体の改善を担う教育改善推進委員会や、教育に学生の意見を反映するため学生代表(院生を含む)を交えた学生協議会(議長は教育担当副学部長)を設置し、学修者の視点を含んだ教育改善に取り組んでいる。

また、前記プログラムの開始と連動して、秋田県教育委員会・秋田市教育委員会との連携を強化した。平成23年度には協議の場として教師力向上協議会を設置、平成24年度には連携協定を締結し、定期的に教職大学院設置に向けた議論や、大学院での実習科目の実施などについて協議を行なってきた。

3. 入学者選抜

入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)には、学生に求める資質を次のように定め、それに即した入学者選抜を実施している(資料3-5、6)。

秋田大学教育学研究科 分析項目 I

資料 3-5：教育学研究科 アドミッション・ポリシー

1. 教育に対する使命感と熱意を持ち、高度な学識と専門性及び実践力を持った教育指導者となることを志向する人
2. 更なる高度な知識と教育・指導・マネジメント能力を身につけようとする現職教員
3. 広い視野に立って精深な学識を身につけ、専攻分野における研究能力あるいは高度の専門性を有する職業等に必要能力を修得しようとする人
4. 国際的視野と志を持った人

(出典：教育学研究科平成 27 年度履修案内)

資料 3-6：入学選抜の体制

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を協議し、研究科専修主任会議(以下「専修主任会議」という。)の議を経て、研究科委員会の審議に付すものとする。

- (1) 合格者の選考方針、選考基準に関すること。
- (2) 合格者の選考に関すること。
- (3) 修了者の判定に関すること。
- (4) 学生の懲戒に関すること。
- (5) 学生の除籍に関すること。
- (6) 転入学、再入学に関すること。
- (7) その他、専修主任会議の議を経て、研究科委員会の審議に付すことが必要と認められること。

(出典：教育学研究科学務委員会要項)

4. 定員充足率の改善

平成 22～27 年度までの定員の充足率は 80%未満で推移し、現在大きな課題となっている(資料 3-7、8)。

最大の要因は、平成 10 年度の学部改組によって、教員養成課程が 240 名から 100 名に縮小されたにもかかわらず、教育学研究科の学生定員 44 名を削減しなかったことにある。他大学と比較しても、学部に対し院の定員比率がかなり大きくなっている。

定員充足率改善のため、現職教員や留学生を積極的に入れている他、教員免許を持たない学生、あるいは免許種を追加したい学生のために、学部の授業の聴講・単位取得についての授業料を免除する教職チャレンジ制度を設けている(資料 3-9)。充足率に限らず、卒業後に教員を目指す社会人の再教育機能も視野に入れた制度となっている。

また、平成 28 年度に設置した教職実践専攻(教職大学院)には、秋田県教育委員会から計 10 名の派遣が確約されており、定員問題を解消しようと考えている。

資料 3-7：入学者数の推移

[単位：人]

	入学 定員	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
学校教育専攻	13	12	11	17	11	10	9
教科教育専攻	31	15	23	18	16	21	17
合計	44	27	34	35	27	31	26
定員比(%)		61.4	77.3	79.5	61.4	70.5	59.1
現職教員入学者数		7	5	7	4	5	6
留学生入学者数		0	2	0	0	2	0

(出典：総合学務課)

秋田大学教育学研究科 分析項目 I

資料 3-8 : 学生定員と現員 (平成27年 5月 1日現在)

[単位 : 人]

	入学定員	収容定員	現員		計	定員充足率
			1 年次生	2 年次生		
学校教育専攻	13	26	9	11	20	76.9%
教科教育専攻	31	62	17	27	44	70.9%
合計	44	88	26	38	64	72.7%

(出典 : 秋田大学基本データ)

資料 3-9 : 教職チャレンジ制度利用者の推移

[単位 : 人]

	入学定員	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
学校教育専攻	13	0	3	4	2	3	1
教科教育専攻	31	7	7	6	5	7	6
合計	44	7	10	10	7	10	7

(出典 : 総合学務課作成)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 全国学力調査で長年トップクラスの実績を維持している秋田の教育力を、秋田県や秋田市の教育委員会と連携して次世代に継承していこうとするプロジェクト、教員養成と教員研修を一体的に捉えた試みは、教育改革の秋田モデルとして評価できる。また、教育委員会との連携も密接かつ活発である。

入学者定員未充足について大きな課題を残しているものの、28年度の教職大学院設置によって解消されている。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 教育課程の編成

授与する学位及びその基準、教育の目的を踏まえて教育課程編成方針を定め、体系的に授業科目を開設・編成している (資料 3-10、11)。

資料 3-10 : 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

1. 教育科学等の諸理論を習得するとともに、専門領域に関する高度な研究能力を身につけている。
2. 学校における実践知の継承・発展を可能にする高度な専門性と実践力を有している。
3. 継続的に自己研鑽に励み、学校教育の諸問題に主体的に取り組む意欲と態度を有している。
4. また、専攻の教育課程により、学生場身につけるべき学習成果は次のとおりです。

学校教育専攻

1. 学校教育または心理・発達に関する高度な専門知識を習得している。
2. 学校教育機能を向上させるマネジメント能力を備えている。

教科教育専攻

1. 教科に関する高度な専門知識を習得している。
2. 卓越した研究能力をもとに、教科指導・授業改善ができる高度な実践力を身につけている。

(出典 : 教育学研究科平成 27 年度履修案内)

資料3-11：教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）

秋田大学大学院教育学研究科では、次のような方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 教育課程は共通科目・研究方法ゼミ及び専門科目群から構成される。共通科目・研究方法ゼミは全専修の共通カリキュラムである。
専門科目は各専修ごとのくくりで開設され、内容に応じて基盤、発展、フィールドインターンシップ（FIS）型に区分される。理論と実践・フィールド経験をともに重視した多様かつ体系化されたカリキュラムによって、本研究科の教育目的を達成する。
2. 共通科目については、学生各人の興味対象・研究テーマに留意しながらも、幅広い視野で学校教育の総合的な理解が可能となるカリキュラムを提供する。
3. 研究方法ゼミについては、演習を通して問題解決能力、研究遂行能力を培うカリキュラムを提供する。
4. 専門科目については、少人数ゼミナール形式で各教科に関する教育法や専門知識の獲得が出来るカリキュラムを提供する。
5. 心理教育実践専修については、高度専門職業人としての実践技能と研究に資するカリキュラムを提供する。

（出典：秋田大学大学院教育学研究科平成27年度履修案内）

2. 教育プログラムの改革

教員養成に関わるプロジェクトとして、平成22年度から「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型教員養成」が、平成24年度から「“教員養成秋田モデル” 発信プロジェクト」が開始された。

「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型教員養成」は、実務家教員と学部教員の連携により、教員養成と教職研修の垣根を低くした統合型の教員養成を行う組織場「まなびの総合エリア」を核として、教員養成・現職教員研修のための多様なプロジェクトを実施するものである。「まなびの総合エリア」においては、学部学生・大学院生・現職教員などが直接交流することで、秋田の教員が培ってきた「実践知の伝承」を目指している。

これを実践力向上に傾斜させながら更に発展させる形で、平成24年度には「“教員養成秋田モデル” 発信プロジェクト」を開始した。

秋田県教育委員会との連携によって、各教育事務所、出張所、秋田県総合教育センター及び各教育研究団体などの協力のもと、現職教員の優れた教育実践及び授業記録を附属学校園に集積・データベース化し、教育実習の段階で実習生に提供するとともに、実務家教員を「教育実習コーディネーター」として配置し、学生の活動を支援しながら実践知の伝承を図っている（資料3-12）。

資料3-12：大学院教育学研究科における教育改善の経緯

平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教育文化学部にて教育実践研究支援センター設置 ・文部科学省特別経費「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型教員養成」プロジェクト開始
平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実習科目「教育実践実習」および省察科目「授業実践研究」を導入
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省特別経費「“教員養成秋田モデル” 発信プロジェクト」開始 ・秋田県教育委員会及び秋田市教育委員会との連携協定締結
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教育文化学部改組 ・学部・大学院の教育全体を統括する組織「教育企画会議」設置
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学研究科改組（教職大学院設置）

（出典：教育文化学部作成）

3. 実践力向上の取り組み

上記プロジェクトと連動させる形で、平成23年度に実践力向上を目的として、学部の教育実習に準ずる「教育実践実習」（実習科目）及び「授業実践研究」（省察科目）を開設、実務家教員や学校現場と連携した実践的な教育を展開している。

秋田大学教育学研究科 分析項目 I

平成 24 年度には、これに加えて「教職総合基礎」「教職発展演習」を開設した。また、現職教員大学院学生の多くが、教育現場に戻った際に指導的な役割を期待されていることを踏まえて、若手教員への指導力を養うため、現職教員である院生がストレートマスターを指導する要素を取り入れた「教職指導実習」「教職指導演習」を開設した。これらの科目は、いずれも「教えることで学ぶ」（経験知を整理し、指導方法を工夫する）という要素を取り入れた試みであり、前記プロジェクトの成果を生かしたものとなっている。

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 秋田県教育委員会・秋田市教育委員会との連携強化による実務家教員の配置、教育実習を含む実践的科目の実施体制の整備、教員養成と教員研修を一体化した教員養成プログラムの開発等は、秋田県の教育界への波及効果が大いに期待できる試みとして特筆に値する。

また、研究に重点を置いた従来型の大学院から、実践力を重視した教職大学院型への動きを先取りして、実習・省察などをカリキュラムに導入している点、「教えることで学ぶ」（現職院生による学部卒院生への指導）要素を取り込んだ実践力向上の試みなどは、秋田県の実践知の継承という面でも高く評価できる。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 単位取得・成績等

修了生の平均修得単位数は 40.14 単位、評定値の平均は 2.94 となっており、おおむね妥当な水準にあると判断される (資料 3-13)。

資料 3-13: 大学院修了者 年度別の平均取得単位数・平均評定値

修了年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
修了者数						
平均修得単位数	38.5	41.13	39.07	43.32	41.25	37.61
修了者平均評定値 (GPA)	2.94	2.93	2.95	2.94	2.93	2.93

(出典: 教育学研究科調査)

2. 資格取得状況

学校教育専攻心理教育実践専修の臨床心理士資格合格率は、平均で 9 割の水準を維持しており、スクールカウンセラーとなり得る臨床心理士養成という目的を十分に果たしている (資料 3-14)。

資料 3-14: 臨床心理士資格合格率

修了年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
修了者数	8	7	6	9	7
修了年度受験者数	5	4	6	8	7
合格者数	5	3	6	6	7
合格率	100%	75%	100%	75%	100%

(出典: 教育学研究科調査)

3. 学業の成果の達成度・満足度に係る調査

平成 24 年度から、修了時アンケートを実施している (資料 3-15)。

平成 24 年度の調査において、教育内容がアドミッション・ポリシーにふさわしいかという質問項目では多数がふさわしいと回答している。また、大学院での教育内容については、「学問・研究の内容を深める上で有効」との回答が 89%となっている。また、修士論文執筆のための研究指導・教育体制についても 88%が「十分であった」と回答している。

その一方で、「教員養成、あるいは現職教員の養成として有効であったか」という項目については少数の同意しか得られておらず、より高度な実践力をもった教員の養成という面では課題を残している。これについては、平成 28 年度の教職大学院設置によって解消を目指している。

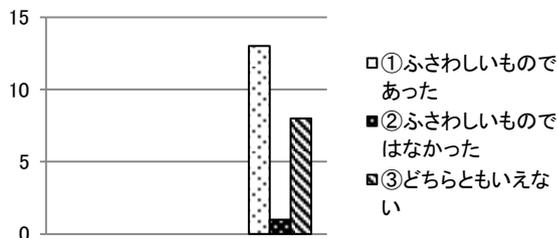
資料：3-15：大学院（修了時）評価アンケート

平成24年度 大学院評価アンケート

(論文提出29名中 26名分回収(89.7%))

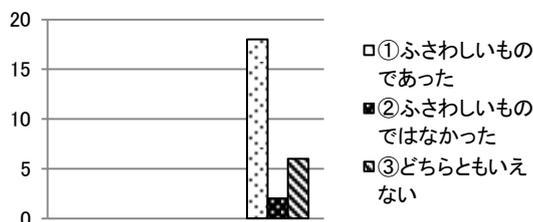
1. 平成24年度に制定されたアドミッションポリシーでは、「専門性及び実践力を持った教育者」、「高度な知識とマネジメント能力を身につけようとする現職教員」、「専攻分野における研究能力を修得しようとする人」、「国際的視野と志を持った人」にあてはまる人材を受け入れるとなっています。あなたが受けた教育課程が、アドミッションポリシーに照らしてふさわしいものでしたか。

①ふさわしいものであった	13
②ふさわしいものではなかった	1
③どちらともいえない	8



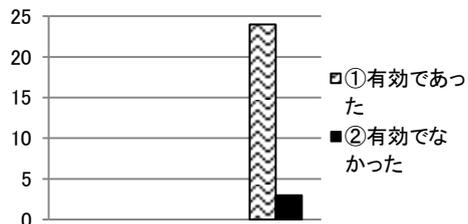
2. あなたが受験した際の入学試験は、上記のアドミッションポリシーにふさわしいものとなっていましたか。

①ふさわしいものであった	18
②ふさわしいものではなかった	2
③どちらともいえない	6



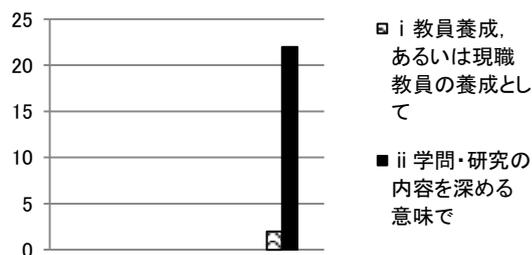
3. 教育学研究科の教育課程は全体としてあなたにとって有効なものでしたか。

①有効であった	24
②有効でなかった	3



①有効であった

i 教員養成、あるいは現職教員の養成として	2
ii 学問・研究の内容を深める意味で	22
iii その他(可能であれば具体的に)	0



(出典：学務委員会)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 単位の取得状況・成績等については、十分な水準を満たしている。教育内容についても、研究機関としては学生の要求には十分に答える水準であることが、アンケート結果からも判断できる。また、臨床心理士の合格率からも、臨床心理士養成機関としての役割を十分に果たしているといえる。

ただし、教員としての高度な実践力の涵養という側面に関しては課題を残す結果となっている。なお、この事については、平成28年度に教職大学院を発足させることでカリキュラムや実習内容を全面的に見直し、課題の克服に努めている。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1. 進路・就職状況

修了者の就職状況は平均で9割程度の水準を維持している。就職先の県内と県外の比率は、平成24年度以降はおよそ2:1となっており、秋田県に貢献する人材の養成という目的に関して、十分な水準にあるといえる(資料3-16)。

資料3-16: 進路状況

[単位: 人]

	修了者数	進学者数	就職者数		その他	未就職者	就職率
			県内	県外			
平成22年度	30	1	27		2	0	90%
			14	13			
平成23年度	24	0	21		3	0	88%
			12	9			
平成24年度	29	1	27		1	0	93%
			17	10			
平成25年度	34	0	30		4	0	88%
			20	10			
平成26年度	24	0	24		0	0	100%
			16	8			
平成27年度	31	0	26		3	2	84%
			18	8			

(出典: 秋田大学概要)

教員採用試験については、臨床心理士養成を主眼とした心理教育実践専修を除くと、平均で82.5%(現職教員を含む)と高い水準を維持している。平成23・24年度は70%台とやや低くなっているが、その後は85%程度の水準に回復している。

また、臨床心理士を志望する学生については、過去6年間の修了時就職者数の平均は7.2名であり、就職率は95%である。なお、平成22年度に大学院博士課程後期進学に進学したものについては就職率の分母から除外している(資料3-17)。

資料3-17: 心理教育実践専修 修了者数、修了時就職者数、就職率、及び県内就職者の状況

修了年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
修了者数 [人]	8	7	6	12	7	6
修了時就職者 [人]	7	6	6	12	7	5
進学者数 [人]	1	0	0	0	0	0
就職率 [%]	100%	86%	100%	100%	100%	83%
県内就職者 [人]	2	2	1	7	4	3
県内就職率 [%]	29%	29%	17%	58%	57%	50%

(出典: 教育学研究科作成)

2. 修了生・就職先アンケート

平成27年度に、修了生および修了生の就職先に対して、教育成果に関するアンケート調査を行なった(資料3-18、19)。

就職先の組織が卒業生に在学中に身につけてほしい能力と、組織から卒業生への評価を比較すると、ポイント的には不十分ながらも、大学での学習がおおむね就職先の求める能

力に結びついているという傾向が読み取れる（資料3-20）。

一方、修了生自身の自己評価を見ると、就職先からの評価と若干のずれが見られ、(8)と(9)の自己評価が低い。これは、大学院の授業の場合、専門分野の細分化から1科目の受講者が少なく、グループワークなどはほとんど行なわれておらず、組織的行動力やコミュニケーション能力が育成されにくいためと考えられる。しかし教職大学院においては、教科や専門分野の枠を取り払った授業・指導が行なわれるため、今後大きく改善する見込みである。

資料3-18：修了生への教育成果に関するアンケート調査（質問票）

**第2期中期目標期間（平成22年度～27年度）における
秋田大学大学院教育学研究科の教育成果に関するアンケート（大学院修了生） 調査票**

【調査の目的】
このアンケート調査は、秋田大学大学院教育学研究科の大学院教育（修士課程）における学習成果に対して修了生がどのような意識を持っているのかを把握・分析し、その結果を踏まえて教育課程の更なる改善・充実を進めることを目的として実施するものです。

【回答方法】
・選択項目については、該当する番号や項目等を○で囲んでください。
・記述項目については、記述欄にご自由にお書きください。記述欄が不足の場合は、適宜余白をお使いください。

I. あなたの在学中のことについておたずねします。

問1：あなたの入学及び修了年について、該当するものを1つ選択してください。

(1) 入学年月	(2) 修了年月
① 平成21年4月	① 平成23年3月
② 平成22年4月	② 平成24年3月
③ 平成23年4月	③ 平成25年3月
④ 平成24年4月	④ 平成26年3月
⑤ その他 (平成 年4月)	⑤ その他 (平成 年 月)

問2：あなたが修了した専攻について、該当するものを1つ選択してください。

教育学研究科	① 学校教育専攻
	② 教科教育専攻

II. 秋田大学大学院で学んだ専門教育についておたずねします。

問3：あなたが修了した研究科・専攻などの専門教育は、現在の生活全般に役立っていると思いますか。該当するものを1つ選択してください。

(1) 大いに役立っている
(2) 多少役立っている
(3) あまり役立っていない
(4) 全く役立っていない

問4：どのような分野の科目や学習が役立っていると思いますか。具体的な分野の科目や学習した内容がございましたらお書きください。

問5：あなたが大学院時代に学んだ専門分野は、現在の仕事や業務と関連がありますか。該当するものを1つ選択してください。

(1) 大いに関連がある
(2) 多少関連がある
(3) あまり関連が無い
(4) 全く関連がない

問6：あなたが大学院時代に学んだ専門教育は、現在の仕事や業務に役立っていると思いますか。該当するものを1つ選択してください。

(1) 大いに役立っている
(2) 多少役立っている
(3) あまり役立っていない
(4) 全く役立っていない

問 7: 社会に出て、大学院在学中にどのような分野をもっと勉強しておけば良かったと思いますか。具体的な分野や科目等がございましたらお書きください。

(記述欄)

問 8: 専門教育で学んだことは、あなたにとって意義があると思いますか。該当するものを1つ選択してください。

(1) 大いに意義がある
(2) 多少意義がある
(3) あまり意義がない
(4) 全く意義がない

問 9: 専門教育について何かご意見があればお書きください。

(記述欄)

Ⅲ. 在学中の秋田大学の状況についてお答えします。

Ⅳ. 本大学院修了後のあなたの仕事についてお答えします。

問 10: 在学中の秋田大学の教育環境(施設・設備等)について、どのくらい満足していましたか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 満足している
(2) どちらかといえば満足している
(3) どちらかといえば不満である
(4) 不満である

(記述欄)

問 11: 在学中の秋田大学のサービス(学務や学生支援の窓口対応・就職支援等)について、どのくらい満足していましたか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 満足している
(2) どちらかといえば満足している
(3) どちらかといえば不満である
(4) 不満である

(記述欄)

問 12: 修了直後に就いた仕事を選択した理由について、該当するものを3つまで選択してください。

①自分のやりがい仕事である
②自分の専門を生かすことができる
③自分の業務上の知識や技能等に関して、向上を図ることを期待できる
④良好な業績や経営の安定性
⑤将来的な有望性
⑥給与等の待遇や福利厚生
⑦人生をエンジョイし、ゆとりのある生活を送ることができ
⑧社会に貢献できる仕事である
⑨人事担当者に魅力を感じ、信頼することができた
⑩職場訪問や実習等
⑪保護者や教員等からの勧め
⑫勤務地
⑬とりあえず
⑭その他()

問 13: 現在の仕事について、該当するものを1つ選択してください。

①企業・団体の事務・営業職
②企業・団体の技術・研究職
③教員
④公務員(②を除く)
⑤大学院に在学している
⑥その他()

問 14: 現在の仕事の業種について、該当するものを1つ選択してください。

①農業、 ②林業、 ③漁業、
④鉱業、 ⑤建設業、 ⑥製造業、
⑦電気・ガス・熱供給・水道業、
⑧情報通信業、 ⑨運輸業、

⑩卸売・小売業、 ⑪金融・保険業、
⑫不動産業、 ⑬飲食店・宿泊業、
⑭医療・福祉、 ⑮教育・学習支援業、
⑯複合サービス業、
⑰サービス業(他に分類されないもの)、
⑱その他()

問 15: 修了後、現在の仕事に就くまでに転職をしましたか。

(1) 転職していない
(2) 転職した……回数()回
↓
転職した方にお答えします。転職した理由として、該当するものを選択してください(複数回答可)。

①仕事内容
②残業や休日出勤
③給料、休暇取得等
④人間関係
⑤勤務地
⑥その他()

問 16: あなたは現在の仕事の内容に満足していますか。該当するものを1つ選択してください。また、差し支えなければその理由を記述欄にお書きください。

(1) 満足している
(2) どちらかといえば満足している
(3) どちらともいえない
(4) どちらかといえば不満である
(5) 不満である

(記述欄)

資料3-19: 修了生の就職先への教育成果に関するアンケート調査(質問票)

大学院

第2期中期目標期間(平成22年度～27年度)における
秋田大学大学院教育学研究科の教育成果に関するアンケート調査票(就職先事業所用)

【調査の目的】
このアンケート調査は、秋田大学大学院教育学研究科の大学院教育(修士課程)における教育成果に対して、修了生を受け入れてくださっている事業所(学校・病院・会社・行政機関など)がどのような意義を持っているのかを把握・分析し、その結果を踏まえて課程編成、授業方法の改善・充実に反映させることを目的として実施するものです。

【回答方法】
・選択項目については、該当する番号や項目等を○で囲んでください。
・記述項目については、記述欄にご自由にお書きください。記述欄が不足の場合は、適宜余白をお使いください。

1. 秋田大学大学院教育学研究科の学位授与方針等についてお答えします。
(学位授与方針については、以下をご参照ください。)
※学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)……学位授与に関する基本的な方針で、学生が卒業・修了するまでにどのような知識・技能・態度を習得すべきかを明文化したものです。

秋田大学大学院教育学研究科学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

秋田大学大学院教育学研究科では、次のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「修士(教育学)」の学位を授与しています。

1 教育科学等の諸理論を習得するとともに、専門領域に関する高度な研究能力を身につけている。
2 学校における実践知識の継承・発展を可能にする高度な専門性と実践力を有している。
3 継続的に自己研鑽に励み、学校教育の諸問題に主体的に取り組む意欲と態度を有している。

問1: 学位授与方針についてどのように思われますか。
次の(1)～(4)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。また、その他に感じることがあれば、記述欄にご自由にお書きください。(学位授与方針についてお感じることがあればお書きください)

	①非常に そう 思う	②そう 思う	③普通 であ る	④あまり そ う 思 わ な い	⑤そう 思 わ な い
(1) 実現性がある	1	2	3	4	5
(2) わかりやすい	1	2	3	4	5
(3) あなたの事業所のニーズに合致している	1	2	3	4	5
(4) 地域のニーズに合致している	1	2	3	4	5

(記述欄)

大学院

Ⅱ. あなたの事業所に勤務している秋田大学大学院教育学研究科の修了生(特に、平成23年3月～26年3月に修了した者)についてお答えします。

問2: あなたの事業所に勤務する秋田大学大学院教育学研究科の修了生について、日頃どのように感じているかをお答えください。それぞれの能力・知識を修了生が有しているかについて、回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。

	①非常に そう 思う	②そう 思う	③普通 であ る	④あまり そ う 思 わ な い	⑤そう 思 わ な い
(1) 幅広い教養	1	2	3	4	5
(2) 常に新しい知識・技術を吸収しようとする 向上心	1	2	3	4	5
(3) 外国語運用能力	1	2	3	4	5
(4) 専門的能力	1	2	3	4	5
(5) 専門分野以外の課題にも柔軟に対応するこ とができる応用力	1	2	3	4	5
(6) 独創性	1	2	3	4	5
(7) 課題を的確に解決することが出来る課題解 決力	1	2	3	4	5
(8) 組織の中での自分の役割を認識し、的確な 振る舞いが出来る組織的行動力	1	2	3	4	5
(9) 自分の意見を的確に伝えたり、相手の話を 聞いたり理解するコミュニケーション能力	1	2	3	4	5
(10) 高度な倫理性	1	2	3	4	5

問3: 秋田大学大学院教育学研究科の修了生はどのような良い点がありますか。お気づきのことがございましたらご自由にお書きください。

(記述欄)

問4：秋田大学大学院教育学研究科を修了し、あなたの事業所に就職する者について、どのようなことを在学中に身につけておいてほしいと思いますか。次の(1)～(10)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。また、これら以外に在学中に特に身につけておいてほしいことがございましたら、記述欄にご自由にお書きください。

	①非常に そう思う	②そう 思う	③普通 である	④あまり そう 思わない	⑤そう 思わ ない
(1) 幅広い教養	1	2	3	4	5
(2) 向上心	1	2	3	4	5
(3) 外国語運用能力	1	2	3	4	5
(4) 専門的能力	1	2	3	4	5
(5) 応用力	1	2	3	4	5
(6) 独創性	1	2	3	4	5
(7) 課題解決力	1	2	3	4	5
(8) 組織的行動	1	2	3	4	5
(9) コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
(10) 高度な倫理性	1	2	3	4	5

(上記以外に、在学中に特に身につけておいてほしいことがございましたらお書きください)

(記述欄)

Ⅲ. 事業所として、秋田大学大学院教育学研究科にお感じになっていることについておたずねします。

問5：秋田大学大学院教育学研究科は、あなたの事業所（あるいは業種）として求める人材を養成していると思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

(記述欄)

大学院

問6：あなたの事業所において、今後秋田大学大学院教育学研究科の修了生を積極的に採用したいと思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

(記述欄)

問7：貴事業所の業種について、該当するものを1つ選択してください。

①農業、 ②林業、 ③漁業、 ④鉱業、 ⑤建設業、 ⑥製造業、 ⑦電気・ガス・熱供給・水道業、
⑧情報通信業、 ⑨運輸業、 ⑩卸売・小売業、 ⑪金融・保険業、 ⑫不動産業、 ⑬飲食店・宿泊業、
⑭医療・福祉、 ⑮教育・学習支援業、 ⑯複合サービス業、 ⑰サービス業（他に分類されないもの）、
⑱公務（他に分類されないもの）、 ⑲その他（ ）

問8：差し支えなければ、事業所におけるあなたの職位についてお教えてください。

アンケート回答者の職位：()

※秋田大学や大学院教育全般、あるいはこの調査についてのご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にお書きください。本学の将来設計を考える際の参考とさせていただきます。

(記述欄)

ご協力、ありがとうございました。最後に、この調査票の記入日をお書きください。

記入日 → 平成27年()月()日

資料 3-20：修了生・就職先アンケート結果

	就職先		修了生の 自己評価
	求める能力	評価	
(1)幅広い教養	4.0	3.6	3.9
(2)常に新しい知識・技術を吸収しようとする向上心	4.7	3.8	4.1
(3)外国語運用能力	3.1	3.3	2.4
(4)専門的能力	3.9	3.7	4.5
(5)専門分野以外の課題にも柔軟に対応することが出来る応用力	4.4	3.7	4.0
(6)独創性	4.0	3.3	3.7
(7)課題を的確に解決することが出来る課題解決力	4.7	3.7	4.1
(8)組織の中での自分の役割を認識し、的確な振る舞いが出来る組織的行動力	4.5	3.7	3.5
(9)自分の意見を的確に伝えたり、相手の話を聞いたり理解するコミュニケーション能力	4.7	3.8	3.7
(10)高度な倫理性	4.3	3.6	3.5

(出典：教育学研究科調査)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 高度な専門性を持った教員または臨床心理士の養成という目的については、おおむね達成されており、ことに臨床心理士については高い就職率を維持している。

教員については就職率に課題があり、実践的な教員としての資質・能力の育成という面にカリキュラム面での課題を残している。ただし、修了生については、職先からは一定程度の評価を得ており、実践面の課題についても平成 28 年度からの教職大学院設置によって、大きく改善することが見込まれる。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

秋田県教育委員会との連携によって、多くの実務家教員の支援を受けながら教員養成と教員研修を一体化した新たな教員養成プログラムを開発し、全国学力調査でトップクラスの秋田県の教育力・実践知を継承・発展させる試みに取り組んでいる。その実践知はデータベース化されて附属学校園に蓄積、学部・大学院の教育ばかりでなく、秋田県の教育界全体へと還元されている。

また、大学院カリキュラムにも教育実習に準じた実習科目を導入したのに加えて、実習についての省察科目も導入、実務家教員等の支援を受けながら実践力向上に取り組んでいる。ことに、現職院生に対しては、省察などの場で学部卒院生への指導の要素を取り込んだ「教えることで学ぶ」というシステムによって、学校現場に戻った際の若手教員への指導力などの向上をも図っている。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

単位の取得・成績の状況については、おおむね満足すべき水準を維持している。臨床心理士の合格率についても高い水準を維持している。ことに、平成24年度以降は県内就職率が向上し、地域に貢献する人材の養成という大学の目的の達成に寄与している。就職先アンケートの結果からも、おおむね採用者側のニーズに即した人材が養成されていることを裏付けている。

ただし、教員採用率という問題とも関連して、教員としての実践力涵養という側面には課題を残していることが、アンケート結果からも読み取れる。この課題に関しては、平成28年度から、臨床心理士養成を除く部分を全面的に教職大学院へと改組することによって、教育の主目的を教員としての実践力向上に特化したカリキュラムと指導体制を整えたことによって、克服を図っている。

4. 医学部

I	医学部の教育目的と特徴	4-2
II	「教育の水準」の分析・判定	4-4
	分析項目 I 教育活動の状況	4-4
	分析項目 II 教育成果の状況	4-20
III	「質の向上度」の分析	4-33

I 医学部の教育目的と特徴

1. 医学部の教育目的

本学は、国際的な水準の教育・研究の遂行、地域の振興と地球規模の課題の解決への寄与、及び、国の内外で活躍する有為な人材の育成を基本理念に掲げ、第2期中期目標期間中、教育の内容と質が国際的に通用する水準を維持するように努め、時代の諸課題に取り組む人材を育成すべく取り組んできた。

医学部は、医学・医療及び健康科学の分野においてその責務を果たすべく、学部の理念及び学科ごとの教育目標を定めている（資料4-1）。

資料4-1：医学部の理念及び学科の教育目標

<p><医学部の理念> 豊かな教養に支えられた人間性と高い倫理観及び学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解のもとに、人々の健康と医療・福祉に貢献できる国際的視野を備えた使命感にあふれる人材を育成する</p>
<p><医学科の教育目標> 豊かな感性と高い教養、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけ、人間に対する深い理解と愛情を持ち、医学・医療の発展のために必要な意欲と能力を持つ人材を育成するとともに、国際的に高く評価される独創性の高い医学研究を推進し、特色ある研究拠点を形成する</p>
<p><保健学科の教育目標> 豊かな感性、高い教養と倫理性、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけ、国民の健康と医療・福祉に貢献できる医療技術者、並びに教育・研究の発展に寄与できる創造性豊かな人材を育成する</p>

(出典：医学部規程)

2. 医学部の特徴

本学部は昭和45年に、我が国における戦後初の医学部として創設された。立ち遅れていた秋田の医療を憂いた県民の強い熱意に後押しされ、旧県立中央病院を国に移管させて秋田大学医学部附属病院とし、開設されたものである。以後40数年、秋田県内唯一の医育機関かつ北東北における最先端の学術研究拠点としての役割を果たしてきた。平成14年には、秋田大学医療技術短期大学部を医学部保健学科として医学部に設置し、医学科と保健学科の2学科から成る学部へ改組した。保健学科は看護学、理学療法学、作業療法学の3つの専攻より成る。医学部卒業生の数は医学科と保健学科あわせて4000人以上にのぼり、医師、看護師、理学療法士、作業療法士を、秋田県内をはじめ全国各地に輩出している。

平成25年、創設以来秋田大学医学部が担ってきた社会的役割、強みと特色を「ミッションの再定義」として整理した（資料4-2）。

資料4-2：秋田大学医学部・医学系研究科の強みや特色

<p><医学部医学科・医学系研究科医学専攻の強みや特色></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 秋田大学の存立の理念及び医学部設置の理念等に基づき、地域医療を担い、世界を意識した探求や研鑽を行う医師・研究者の養成を積極的に推進する。 ○ 秋田県や地域の医療機関、他大学等と連携し、県内の地域医療を支える人材の育成、確保を積極的に推進する。特に、高齢化が最も進行している秋田県において、卒前・卒後を一貫した総合的な臨床能力を有する医療人育成、シミュレーション教育センターを活用した多職種連携教育や女性医師の復職支援、ICTを活用した医療安全管理システム構築等を推進することにより、高齢社会における医療モデルを構築する。 ○ 生体情報学（主ながん・免疫系）や移植医療等を始めとする研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。 ○ 県内唯一の医育機関及び特定機能病院としての取組や都道府県がん診療連携拠点病院、基幹災害拠点病院、難病医療拠点病院等としての取組を通じて、秋田県における地域医療の中核的役割を担う。

<医学部保健学科・医学系研究科保健学専攻の強みや特色>

- 秋田大学の理念等に基づき、豊かな人間性、柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、健康科学に対する十分な理解をもち、超高齢社会における地域包括ケア及び介護予防に関する実践ができる人材を育成する。
- 緩和ケアの充実に向けたがん看護専門看護師の育成や高齢者ケア及びリハビリテーション実践のための技術開発教育、研究を推進し、超高齢社会で必要とされるネットワーク構築等の展開において、それぞれの専門分野でリーダー的に活躍できる人材の育成を行い、秋田県が直面する医療問題に貢献する。
- 女性・小児の健康課題及び高齢者の生活機能向上に関する研究を推進し、地域の健康課題を解決できる人材を育成する。将来的には、大学院博士課程においてグローバルな保健人材養成を目指す。

(出典：ミッションの再定義)

[想定する関係者とその期待]

医学部の想定する関係者は、全国並びに地域において質の高い医療サービスを求める住民の方々、地域医療を担っている医療機関・保健機関や公的機関、地域社会及び学界、医学・保健学を目指す受験生、医学部で学ぶ学生とその家族、卒業生である。医療を支える高度専門職医療人及び医学研究者の養成とともに、医学及び医療の発展に寄与する教育研究開発と研究成果の社会への還元が期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

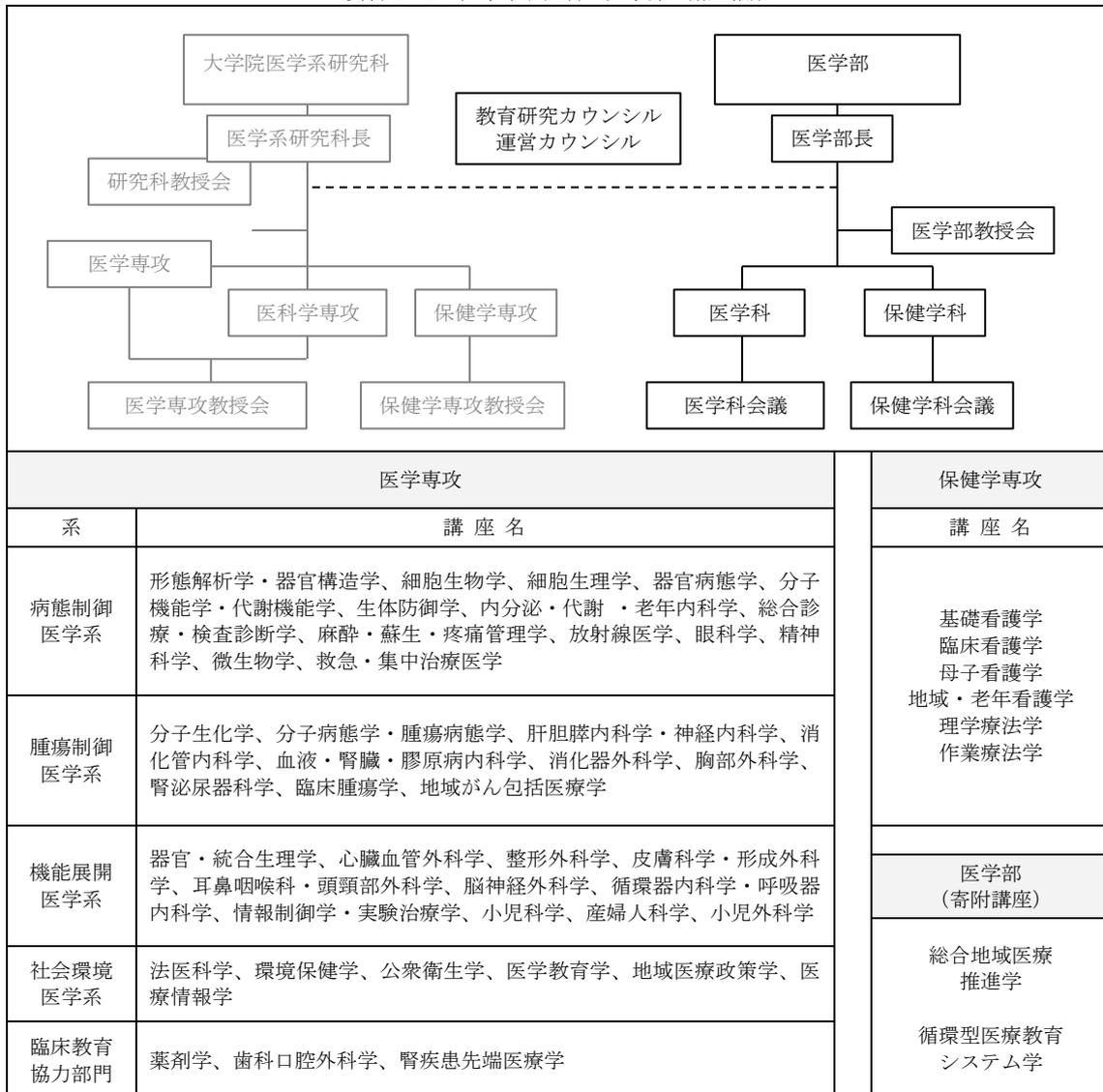
(観点に係る状況)

1. 教員組織

秋田大学医学部は平成 21 年に大学院部局化により、秋田大学大学院医学系研究科として再スタートし、平成 27 年 7 月現在、医学専攻は 4 系 41 講座及び臨床教育協力部門、保健学専攻は 6 講座から成る (資料 4-3)。

第 2 期中期目標期間中、地域医療政策学講座、医学教育学講座、総合診療・臨床検査診断学講座、医療情報学講座、地域がん包括医療学、消化管内科学講座を創設あるいは学部内改組した(資料 4-4)。これに、臨床教育協力部門として薬剤学講座、歯科口腔外科学講座、腎疾患先端医療学講座 (寄附講座) が加わる。また、秋田県からの助成により、医学部に総合地域医療推進学講座と循環型医療教育システム学講座が設置されている。

資料 4-3 : 医学系研究科・医学部の講座編成



(出典：秋田大学大学院医学系研究科・医学部 医学部附属病院・2015 概要)

資料 4-4：第 2 期中期目標期間中に新設・再編された講座

年度	講座名	講座設置の目的
23 年度	地域医療政策学講座	地域における医療政策、地域保健・医療保険・介護保険に関する研究と医学教育への貢献を図る
25 年度	医学教育学講座	グローバル化に対応した医学教育を進め、臨床技術や問題解決力を重視した 6 年一貫医学教育プログラムを開発・実践する
25 年度	総合診療・検査診断学講座	地域医療の担い手として期待されている総合医の育成と学生教育における総合診療分野の充実を図る
25 年度	医療情報学講座	医学・医療分野における情報技術の活用と IT 時代の医学・医療に関する教育の充実を図る
25 年度	地域がん包括医療学講座	がんプロフェッショナル養成プラン・ネクストを通じて、地域で質の高いがん医療を行う医療人を養成する
27 年度	消化管内科学講座	消化器内科医の育成と学生教育における消化器内科領域の充実を図る

(出典：秋田大学大学院医学系研究科・医学部・医学部附属病院 2015 概要)

医学部の教員は医学系研究科に所属する教員が兼ね、大学設置基準上必要な教員数を満たしている（資料 4-5）。これに医学科非常勤講師 160 名と保健学科非常勤講師 108 名が加わる。また、関連する医療機関と連携し（資料 4-6）、臨床医師 168 名を臨床教授・准教授・講師に任命して、地域医療実習などの学外での臨床実習において学生教育に加わっていただいている。

資料 4-5：教員数

区分	医学系研究科		医学部	附属病院	
	医学専攻	保健学専攻			
教育系職員	教授	36 (1)	18	0	2
	准教授	27 (1)	8	<1>	6 (1)
	講師	5	6	<1>	29 (3)
	助教	48 (3)	19 (1)	5 <6>	54 (2)
計	116 (5)	51 (1)	5 <8>	91 (6)	

※ () 内は特任教員、< > 内は寄附講座教員でそれぞれ外数

(出典：秋田大学大学院医学系研究科・医学部・医学部附属病院概要 2015)

資料 4-6：秋田大学医学部学生の主な実習等協力病院・センター

かづの厚生病院	男鹿みなと市民病院	由利組合総合病院	市立大森病院
大館市立総合病院	藤原記念病院	本荘第一病院	国立病院機構あきた病院
大館市立扇田病院	秋田厚生医療センター	市立角館総合病院	秋田県立脳血管研究センター
秋田労災病院	市立秋田総合病院	大曲厚生医療センター	秋田赤十字病院
北秋田市民病院	中通総合病院	市立横手病院	平鹿総合病院
能代厚生医療センター	雄勝中央病院	森岳温泉病院	都南の園（岩手県療育センター）
あきた保育園	大曲中通病院	杉山病院	藤原記念病院
並木クリニック	湯沢保健所	菅原病院	能代保健所
外旭川病院	ラ・ナシカあきた	清和病院	函館渡辺病院
訪問看護いずみ	秋田回生会病院	秋田魁新報社	秋田緑ヶ丘病院

(出典：医学科学務委員会資料、保健科学務委員会資料)

2. 組織体制

教育に関する審議は医学部教授会で行われる。平成 26 年に学校教育法が改正されたのを機に、教授会の役割を明確化するとともに（資料 4-7）、学部長を始めとする学内委員 5 名と外部委員 5 名からなるから成るカウンシルを設置した（前掲資料 4-3、資料 4-8）。これは、社会のニーズを学部運営に反映させ、意思決定過程の透明化を図ることを目的としており、外部委員は医師会、看護・保健、マスコミ・メディア関係者等、関連する分野からのステークホルダーで構成されている。教授会に付託した重要事項以外は全てカウンシルにて審議することとしており、とりわけ、教育課程の編成や教員の採用に関する重要事項は教育研究カウンシルで審議・決定される。医学部長は医学系研究科長が兼ねる。

秋田大学医学部 分析項目 I

医学部教授会の中に医学科会議及び保健学科会議を設置し、各学科会議において医学科及び保健学科に関する審議が行われる（資料4-9）。

資料4-7：医学部教授会審議事項

- (1) 学生の入学、卒業その他その在籍に関する事及び学位の授与に関する事。
- (2) 学生の厚生補導及びその身分に関する事。
- (3) 教育研究カウンスル又は運営カウンスルから付託された専門的事項。

(出典：秋田大学院医学部教授会規程)

資料4-8：教育研究カウンスル審議事項

第2条 本研究科及び本学部の重要事項を審議するため、本研究科に教育研究カウンスル及び運営カウンスルを置く。

(教育研究カウンスル)

第3条 教育研究カウンスルは、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事。
- (2) 教員の採用及び昇任等に関する事。
- (3) 教育研究に関する規程等の制定・改廃に関する事。
- (4) 教育研究に関する重要な事。

2 教育研究カウンスルは、前項に定める審議事項のうちの一部の事項の審議を当該カウンスル以外の審議機関に付託することができる。

(組織)

第4条 教育研究カウンスルは、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 研究科長が所属する専攻以外の専攻長
- (3) 前号の者を除く研究科長が指名する副研究科長1名
- (4) 附属病院長
- (5) 研究科長が指名する教授1名
- (6) 外部委員5名
- (7) その他議長が必要と認めたる者

(出典：秋田大学大学院医学系研究科カウンスル規程)

資料4-9：医学部学科会議

第1条 秋田大学医学部教授会規程第4条第1項の規定に基づき、秋田大学医学部に、各学科の自主性を尊重し、かつ、教授会の円滑な運営を図るため、次の学科会議を置く。

- (1) 医学科会議
- (2) 保健学科会議

(出典：秋田大学医学部学科会議規程)

3. 教育体制及び学生支援のための組織的取り組み

教授会の下に学務委員会を設け、教育課程の編成及び改正、学生の進級及び卒業、授業及び試験、学生の厚生補導等に関する事を審議し、教授会に提案している（資料4-10）。医学科学務委員会内には各種ワーキンググループ（WG）が置かれ、学務委員及び医学専攻の教員で構成される（資料4-11）。

資料4-10：学務委員会審議事項

<医学科学務委員会の審議事項>

第2条 委員会は、医学専攻等における次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 教育課程に関する事。
- 二 学生の進級及び卒業並びに大学院学生の終了に関する事。
- 三 授業及び試験に関する事。
- 四 学生の退学、転学、休学、留学及び復学に関する事。
- 五 学生の厚生補導及びその身分に関する事。

(出典：秋田大学大学院医学系研究科医学専攻・医学部医学科学務委員会内規)

<保健科学務委員会の審議事項>

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程に関する事。
- 二 学生の進級、退学、休学、卒業その他学生の身分に関する事。
- 三 授業及び試験に関する事。
- 四 学生の厚生補導及び団体に関する事。
- 五 その他学生に関する事。

(出典：秋田大学医学部医学科保健学科学務委員会内規)

資料4-11：医学科の学務に関するWG・委員会

医学専攻・医学科学務委員会	<学業・生活支援WG> ・ 医学科の教員のほか、保健管理センターの専任教員が加わり、支援対象の学生について心身両面からの対応をおこなう。
	<国家試験対策検討委員会> ・ 医師国家試験に向けての対策（模試、面談等）を行う。
	<OSCE・クリクラWG> ・ 臨床各科において実技教育を担当している教員から成る。 ・ 臨床実習やOSCEの指導や実習評価について教員間の連携を図る。 ・ 4年次OSCEや卒業時アドバンスOSCEの運営と実践・評価において中心的役割を果たしている。
	<医学教育カリキュラム検討WG> ・ 医学教育カリキュラムに関わること全般の検討を行う。 ・ 平成24年には、国際認証に対応した医学教育カリキュラムの作成のため、医学教育カリキュラム検討ワーキンググループを発足させた。本WGが中心となって作成した新カリキュラムは、診療参加型臨床実習を74週とし、臨床技術や問題解決能力を重視した教育への転換をはかっており、平成27年度入学生より適用されている。
	<地域医療実習検討委員会> ・ 実習協力病院の選定と人数割り振り、成績管理を行う。

(出典：医学科学務委員会資料)

このうち、OSCE・クリニカルクラークシップWG（OSCE・クリクラWG）は、臨床実習やOSCEにおいて中心的役割を果たす。学業・生活支援WGは、支援の必要な学生について心身両面からの対応を図っており、毎年10～35名の学生に個別支援を行う（資料4-12）。保健学科ではクラス担任制が効果的に機能しており、個々の学生の学業面や精神面の悩みを把握し支援している。また、学年進行とともに、チューター制や少人数制のグループ学習により個々の学生に応じた指導を強化している（資料4-13）。

※OSCE：客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination）。臨床実習を行う臨床能力を身につけているかを試す実技試験。

※クリニカルクラークシップ：臨床参加型実習。学生が医療チームの一員として実際の医療に参加する。

資料4-12：学業・生活支援WGの支援対象学生数の年次推移

	平成22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
対象の学生数（名）	16	24	20	34	33

(出典：学業・生活支援WG会議資料)

資料4-13：保健学科学生支援体制

支援のための取り組み	主な内容
クラス担任制	クラス担任と副担任が協力して個々の学生の学業面や精神面の悩みを把握し支援する。本人及び保護者に対する対応を行う。
チューター制	看護学専攻では、4年次学生に対してチューター制を導入して1名の教員がそれぞれ3～4名の学生を担当し、卒業研究に加えて学生の学習面、生活面、進路支援を細やかに指導している

(出典：総務課調査)

4. 入学者選抜方法の工夫

入学者として求める学生像や必要な水準等をアドミッション・ポリシーとして作成し、公表している（資料4-14）。

資料 4-14：医学部及び各学科のアドミッション・ポリシー

医学部では、次のような人材を求めています。

1. 病気に悩む人々の痛みや苦しみを理解し真摯な態度で接することができる人
2. 医療・保健・福祉の発展を目指して一生にわたり医学の研鑽にたゆみない努力を継続できる人
3. 素直で協調性に富み、周囲の人々と円滑な人間関係を築けるコミュニケーション能力を持つ人

〔医学科〕

医学科では、次のような能力、適性等を持った人を求めています。

1. 地域医療への理解と共感を有し、将来の医師としての強い倫理観を持ち、住民の健康・福祉に寄与できる人
2. 基礎および臨床医学や社会医学の研究に深い関心を持ち、国際性を備えた研究者としての資質を有する人
3. 大学入学後の学業に支障ないだけの隔たりのない基礎学力を持ち、生命科学に対する関心を持つ将来性豊かな人

〔保健学科〕

○看護学専攻

看護学専攻では、次のような人を求めています。

1. 医療や保健活動に関する高度の技術と優れた技術に高い関心を持つ人
2. 高い倫理性を備えている人
3. 目的達成のために努力を惜しまない人

また、入学までに身につけて欲しいことは次のとおりです。

- ・高等学校等で学ぶ各科目について偏りのない知識
- ・論理的に思考する力
- ・他者に関する関心と基本的なコミュニケーション能力
- ・向上心をもって努力する姿勢・作業療法学専攻

○理学療法学専攻

理学療法学専攻では、次のような人を求めています。

1. 理学療法学に対する強い関心や学習意欲を持つ人
2. 地域住民の健康や福祉に寄与したいとする意志と豊かな人間性を持つ人
3. 国際的な視野を持ち、科学的探求心の強い人

また、入学までに身につけて欲しいことは次のとおりです。

- ・総合的な基礎学力
- ・基本的なコミュニケーション能力
- ・科学的・論理的思考能力

○作業療法学専攻

作業療法学専攻では、次のような人を求めています。

1. 十分な基礎学力を身につけ、国際的な視野を持っている人
2. 対人技能としての優れたコミュニケーション能力と協調性を持つ人間性に優れた人
3. 作業療法学に興味関心があり、学習意欲・探究心と論理的思考能力を併せ持つ人

また、入学までに身につけて欲しいことは次のとおりです。

- ・授業科目についての偏りのない知識
- ・対人技能として優れたコミュニケーション能力と協調性

(出典：平成 27 年度入学者選抜要項)

(1) 医学科

医学科では、入試委員会（資料 4-15）及びアドミッション・オフィス（資料 4-16）が入試に係る事項を担当する。第 1 期中期目標期間から第 2 期中期目標期間にかけて入学定員の増員を図り、とりわけ地域枠の入学者を多く受け入れている（資料 4-17）。入学定員は毎年 100%の充足率である。

推薦入試、前期日程、後期日程のすべてにおいて、基礎学力検査とともに面接を導入しており、平成 24 年度には一般入学試験の配分の見直しを行った（資料 4-18）。また、学部専門教育の再構築にともない、平成 23 年度に学士編入学を 3 年次編入学から 2 年次編入学へ移行した。平成 27 年 4 月時点で在籍数は医学科 760 名（うち女子学生 318 名）である（資料 4-19）。また、私費外国人留学生に対しても毎年入学者選抜を行っており、平成 27 年度に 1 名の入学者を得た。

資料 4-15：医学科入試委員会の審議事項

第 2 条 委員会は、医学専攻等における次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 入学者選抜の基本方針に関すること
- 二 試験実施に関すること
- 三 その他入学者選抜に関すること

(出典：秋田大学大学院医学系研究科医学専攻・医学部医学科入試委員会内規)

資料4-16：医学科アドミッション・オフィスの目的と任務

<p>(目的) 第2 医学科アドミッション・オフィスは、2年次学士編入学者及び地域枠入学者の選抜においてアドミッションポリシーに適合する学生を選抜することを目的とする。</p> <p>(任務) 第3 医学科アドミッション・オフィスは、第2の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行うことを任務とする。</p> <p>一 2年次学士編入学者及び地域枠入学者の選抜に関する事項 二 前号に係る企画・立案に関する事項 三 2年次学士編入学者及び地域枠入学者の追跡調査に関する事項 四 その他2年次学士編入及び地域枠入学者に関し必要な事項</p>
--

(出典：秋田大学医学部医学科アドミッション・オフィス要項)

資料4-17：医学科学生入学状況

学科・専攻	区分	第1期		第2期						
		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
医学科	定員	一般選抜	70	70	77	80	80	80	80	80
		推薦入学Ⅱ一般枠	20	20	20	20	20	20	20	20
		推薦入試Ⅱ地域枠	10	15	20	20	20	20	22	24
		推薦入試Ⅰ	5	5						
		学士編入学	5	5	5	10	5	5	5	5
	計	110	115	122	130	125	125	127	129	
	入学者数	110 (5)	114 (4)	122 (5)	127 (7)	124 (3)	123 (3)	127 (4)	130 (5)	

※ () 内は学士編入学生で内数 (出典：医学部・病院概要)

資料4-18：医学科入試選抜における配点

入試区分	センター試験	個別学力検査				計
		数学	外国語	小論文	面接	
一般	前期日程	550	100	100	200	950
	後期日程	700		100	200	1000
推薦入試Ⅱ		450		100	150	700

(出典：平成27年度入学者選抜要項)

資料4-19：医学科学生定員及び現員

学科	区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
医学科	定員	124	127	125	125	125	122	748
	現員	130(54)[1]	127(54)	123(53)	128(50)	129(56)	123(51)	760(318)

※ () 内は女子、[] 内は外国人留学生で内数を示す。(出典：医学部・病院概要2015)

(2) 保健学科

保健学科では、入学者選抜の基本方針や試験実施全般については入試委員会が中心となっていく(資料4-20)。入試選抜における配点は資料4-21の通りである。第2期中期目標期間中、保健学科の充足率は毎年100%近い数値を示しており、看護学専攻では3年次編入生も一部の年度を除いて毎年定員枠の10名が入学している。(資料4-22)。

平成27年4月時点での在籍数は保健学科405名(うち女子学生352名)である(資料4-23)。また、私費外国人留学生に対しても毎年入学者選抜を行っており、平成27年度に2名の入学者を得た。

資料4-20：保健学科入試委員会内規

<p>第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。</p> <p>一 入学者選抜の基本方針に関する事。</p> <p>二 学生募集要項に関する事。</p> <p>三 その他入学者の選抜に関する重要事項</p>

(出典：秋田大学医学部保健学科入試委員会内規)

秋田大学医学部 分析項目 I

資料4-21：保健学科入試選抜における配点

専攻	入試区分		センター試験	外国語	小論文	面接	計
看護学専攻	一般	前期日程	720	100	/	100	920
		後期日程	720	100	/	100	920
	推薦入試Ⅱ		640	/	200	200	840
理学療法学専攻	一般	前期日程	900	200	/	200	1300
		後期日程	900	200	/	200	1300
	推薦入試Ⅱ		900	/	200	200	1300
作業療法学専攻	一般	前期日程	630	200	/	200	1030
		後期日程	630	200	/	200	1030
	推薦入試Ⅱ		630	/	200	200	1300

(出典：平成27年度選抜要項)

資料4-22：保健学科学生入学状況

専攻		第1期		第2期					
		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
看護学	定員	80(10)	80(10)	80(10)	80(10)	80(10)	80(10)	80(10)	80(10)
	入学者数	83(10)	80(10)	83(13)	80(10)	78(8)	75(5)	78(8)	83(10)
理学療法学	定員	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)
	入学者数	20	18	19	18	18	18	20	20
作業療法学	定員	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)	20(2)
	入学者数	18	18	20	19	19	19	20	19

※ () 内は学士編入学生数で内数。

(出典：医学部・病院概要)

資料4-23：保健学科学生定員及び現員

学科及び専攻		区分	1年	2年	3年	4年	合計
保健学科	看護学	定員	70	70	80	80	300
		現員	74(64) [1]	74(60)	76(68)	78(66)	302(258)
	理学療法学	定員	18	18	20	20	76
		現員	20(6) [1]	21(14)	14(7)	19(9)	74(36)
	作業療法学	定員	18	18	20	20	76
		現員	19(15)	21(11)	19(13)	20(19)	79(58)

※ () 内は女子、[] 内は外国人留学生数で内数。

(出典：医学部・病院概要 2015)

5. 教員の教育力向上

医学科では、FD活動の一環として、統一試験作問のための説明会とブラッシュアップを毎年全学年の担当教員に対して行っている(資料4-24)。OSCE・クリクラWGを中心として、臨床実習や4年次OSCE、6年次アドバンスOSCEの実施に向けて、毎年数回のミーティングを開催し、教員の臨床技術伝達能力向上を図っている(資料4-25)。FD講演会については、保健学科では毎年、医学科では不定期に実施している(資料4-26)。また、医学科、保健学科ともに授業評価の優秀者に対して、毎年医学部長表彰(医学教育賞)を行い、教員のモチベーション向上を図っている。平成24年度からは医学科臨床実習科目においても「臨床実習教育賞」を設け、優秀な教員を表彰している。

資料4-24：統一試験、CBT作問説明会及びブラッシュアップ

統一試験	<ul style="list-style-type: none"> ● 2年次1回、3年次1回、4年次1回、6年次1回(平成22～23年度) ● 2年次2回、3年次2回、4年次1回、6年次1回(平成24～26年度) (平成24年度から2, 3年次統一試験がⅡ期制になったため)
CBT	毎年4月前半のみ

(出典：医学科学務委員会会議資料)

資料4-25：OSCE・クリクラWG主催のFD活動

<p><平成22～26年度のOSCE・クリクラWGの開催数> 平成22年度5回、平成23年度7回、平成24年度6回、平成25年度6回、平成26年度5回（5～7回となっているが、委員長が開催を必要とした時は随時開催する。）</p>
<p><主な活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4～5月（アドバンスOSCE実施・試験問題について、1・3年次臨床実習について） ● 6～7月（アドバンスOSCE説明会、試験問題について） ● 7月（アドバンスOSCE合否判定） ● 9月～10月（基本的臨床技能カリキュラムについて、4年次OSCE実施について、診療参加型臨床実習実技テキスト作成について） ● 2月（4年次OSCE合否判定）

(出典：医学科学務委員会会議資料、OSCE・クリクラ委員会会議資料)

資料4-26：医学部（医学科・保健学科）主催のFD講演会

開催年度	講演会タイトル
22年度	SCQRMから質的研究のエッセンスを学ぶ 秋田大学医学部FDシンポジウム
23年度	研究研磨を通して質的研究（Grounded Theory Approach）のエッセンスを学ぶ
24年度	秋田から発信するこれからの医師・医療者育成教育の新展開 2013
25年度	専門職養成教育とキャリア教育
26年度	地域へつなぐ、地域でつなぐ暮らしの保健室の実践から見えてきたこと
27年度	看護教育における模擬患者参加型教育方法の検討

(出典：医学系研究科・医学部附属病院便り、保健学科FD委員会)

6. 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫

医学科においては、専門科目は全て客観試験による統一試験方式で行われており、低学年から卒業までの試験成績は一括して管理されている。平成24年度には、そのデータを分析することで成績不良者への個別支援とともに、教育課程の課題発見と原因探索及び改善を行った。具体的には、統一試験を年2回とし、試験成績（席次を含む）を学生に開示し、さらに講義室を夜間開放し自主学習を推進するなどの改善策が実行された。また、知識伝授に偏重したこれまでの教育から、臨床技術や問題解決力を重視した教育への転換を促進するため、講座の再編や施設・設備の整備を行っている（前掲資料4-4、資料4-27）。

平成22年度には、チュートリアル用ステーションの整備をおこない、各ステーションの個室化及びビデオ撮影録画設備を設置した。また、平成24年に設置したシミュレーション教育センターは全国有数の専有面積を誇る。それらの結果、平成26年度から始まった日本医学教育学会主催のシムリンピック2014（シミュレーションを用いたOSCEの医学生全国大会）では、医学科6年次の学生チームが全国優勝した（資料4-46参照）。

資料4-27：教育改善の取組

取組例	内容	効果の事例
総合地域医療推進学講座の設置	平成20年に、秋田県からの助成を得て、寄附講座を設置	医学教育の推進と地域医療の充実
シミュレーション教育センター設置	平成24年に、秋田県からの助成を得て設置。全国有数の専有面積を誇る。	学生のみならず多くの医療関係者が利用しており、臨床実技教育が向上した。
チュートリアル・ステーションの改修	平成22年実施。各ステーションの個室化、自動ドア及びビデオ撮影録画設備の設置、等。	初年次医療面接、4年次OSCE、6年次アドバンスOSCEにおいて、学生の評価及びフィードバックが可能となり、学修効率が向上した。
講義室、実習室の改修	平成25年度実施。入学定員増に対応するため。	

(出典：医学科教授会資料)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 外部委員が半数を占める教育研究カウンスルの設置により、教育課程の編成や教員の採用等についての意思決定過程を透明化し、社会のニーズを学部運営の体制整備に反映させるための制度づくりをおこなった。

また、社会のニーズに則した人材育成を促進するための組織づくり（講座新設・再編）をおこなうと共に、学内外の資金によりシミュレーション教育センターの設置、チュートリアル・ステーションや実習・講義室の改修等、必要な設備機器の整備をおこなった。そ

の結果、平成 26 年度日本医学教育学会主催のシムリンピック 2014 において、医学科 6 年次の学生チームが全国優勝するなど、臨床医学教育において顕著な成果が認められた。さらに、医学科では統一試験方式による学生の成績評価と分析から教育課程の問題発見と解決へ結びつける P D C A サイクルを機能させた。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 体系的な教育課程の編成

(1) 医学科

医学科は、本学の医学教育の理念と目的に則り、卒業生が備えているべき基本的な素養や資質としての要件として、グラジュエーション・ポリシーを定めている（資料 4-28）。

資料 4-28：医学科のグラジュエーション・ポリシー

1. 豊かな教養と倫理性
豊かな人間性を有し、医師としての職責への十分な自覚のもと、生命倫理や医の倫理を遵守し、行動できる。
2. コミュニケーション能力
チーム医療の一員として協調して行動し、患者と良好な関係を構築できる。
3. 適応能力
絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れることができる。
4. 課題探求・問題解決能力
自ら課題を探求し、英語・日本語で記載された情報を収集して論理的に思考する、あるいは自ら医学研究をすることで、問題を解決することができる。
5. 基礎医学能力
個体の仕組みと外界への反応を理解し、基礎的な病因や病態が理解できる。
6. 社会医学能力
社会と医学・医療の関連性を理解できる。
7. 基本的臨床能力
疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解し、基礎となる臨床能力を発揮できる。
8. 実践的臨床能力
基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決できる。

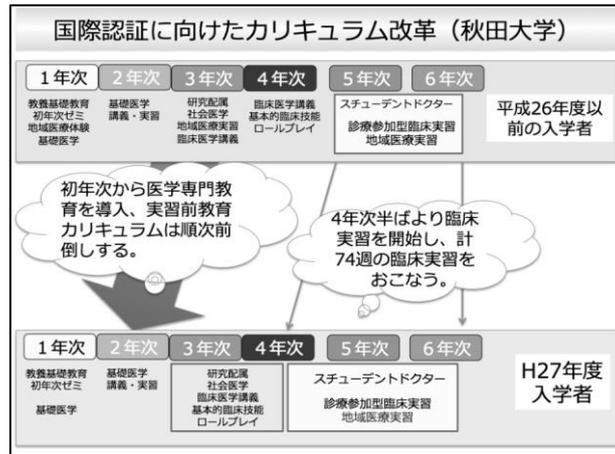
(出典：平成 27 年度秋田大学医学部医学科授業計画)

医学科の教育課程は教養基礎科目と専門教育科目により構成されており、卒業単位取得者には学士（医学）が授与される。近年、国際認証制度に対応したカリキュラムへの準備を進め、平成 27 年度入学者より新たなカリキュラムが開始した（資料 4-29、30）。

専門教育科目は「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を考慮した統合型カリキュラムに基づいて、1 年次から 6 年次まで系統立てて行われる。ほとんどが必修科目であるが、選択科目や研究配属（海外短期留学を含む）、臨床配属においては、学生が興味のある分野や診療科で深く学ぶことができる科目構成となっている（資料 4-31）。

平成 27 年度入学者からの新しいカリキュラムでは、教養基礎教育科目の単位数を減少させる一方、専門教育科目に「医療行動科学」を設けるとともに、診療参加型臨床実習を従来の 52 週から 74 週へ拡大するなど、医療従事者として必要な教養、患者や医療従事者とのコミュニケーション能力の育成、臨床技術や問題解決能力を重視した教育への転換を進めている（資料 4-32）。

資料4-29：新旧医学科カリキュラムの概略



(出典：平成27年度医学科オープンキャンパス資料)

資料4-30：医学科の履修科目及び単位数

	教養基礎科目	専門教育科目	合計
平成26年度以前の入学者	42以上	154	196単位以上
平成27年度入学者	32以上	182.5	214.5単位以上

(出典：平成27年度教養基礎教育ガイド、秋田大学医学部医学科授業計画)

資料4-31：医学科の履修科目（平成26年度までの入学者）

教養基礎教育科目		
履修年次	授業科目名	
1年次	<教養教育科目(22単位以上)> 初年次ゼミ、国際言語科目、主題別科目、スポーツ文化科目	
	<基礎教育科目(20単位以上)> 基礎解析、基礎統計、応用統計、基礎物理1、基礎化学1、基礎生物1、基礎物理2、基礎化学2、基礎生物2、基礎科学実験2、情報処理	
専門教育科目		
履修年次	区分	授業科目名
1年次	必修	細胞の生理学・生化学、個体の構成と機能I
2年次	必修	個体の構成と機能II、人体解剖学実習(神経解剖学実習を含む)、組織学実習、臓器の機能、個体の反応、感染症・生体防御学実習、原因と病態、医の倫理と原則、生体分子解析学実習、生体機能学実習
	選択	形態形成の機構、ヘルスプロモーションと地域の健康福祉、免疫学研究のトピックス、英語で医学一読もう、話そう、神経科学研究の紹介、細胞内シグナリングとその研究、心臓循環の電気生理学、病理学症例検討実習I、病理学症例検討実習II、分子代謝とシグナル伝達、医系統計学、神経解剖学・骨学・断層解剖学、医系画像処理、外科系手術手技への応用、腫瘍の分子生物学、ハワイ大学の基礎英語教育
3年次	必修	社会環境と健康、疫学と予防医学、福祉と介護、社会医学実習、生活習慣と疾病、臨床研究と医療、地域医療・コミュニケーションとチーム医療、早期地域医療研修、研究配属、臨床医学入門、循環器、呼吸器、消化器、乳房、免疫疾患・膠原病、皮膚、眼、耳鼻・咽喉・口腔、腎、尿路・男性生殖器、女性生殖器
4年次	必修	神経、精神、運動器、造血、臨床腫瘍学、妊娠と分娩、成長と発達、小児感染症、加齢・老化、内分泌・代謝、アレルギー、感染制御、臨床検査と診断学、人の死・死と法(法医学実習を含む)、基本的診療知識(放射線診断と治療)、基本的診療知識(薬物治療・漢方)、基本的診療知識(麻酔)、基本的診療知識(リハビリテーション・在宅医療・緩和医療)、基本的診療知識(外科的治療・移植・輸血)、物理・化学的因子疾患、救急疾患、医療安全管理・危機管理、医療情報、基本的臨床技能・病態症候からのアプローチ
	選択	口腔外科疾患と医療における生体材料・再生医療、整形外科アドバンスコース、循環器外科、救急医療体制における病院前救護とトリアージ、アドバンスト・コース消化器病学、マスターコース血液・腎臓・膠原病学、緑内障における最近のトピックス、画像解剖総論・各論、呼吸器外科疾患の手術適応と最近の治療法、輸血医学と血液事業、精神活動の評価法とその実際、乳腺疾患における最近のトピックス、皮膚科治療学の基本、めまいへの対応、小児の黄疸・出生前診断と周産期医療、感染・免疫アレルギー・総合診療アドバンスト・コース、臨床神経科学における最新テクノロジーの進歩、泌尿器科臨床への実践演習、心肺脳蘇生セミナー、産婦人科における実地臨床の考え方、食道外科治療の変遷と進歩、コミュニケーション障害への対応、内分泌・栄養・代謝疾患の診断技術演習、臨床遺伝学、循環器内科・呼吸器内科アドバンスコース、臨床腫瘍学特論
5年次	必修	臨床実習、地域医療実習
6年次	必修	臨床配属

(出典：平成27年度教養基礎教育ガイド、秋田大学医学部医学科授業計画)

資料 4-32：医学科の履修科目（平成 27 年度入学者）

教養基礎教育科目			
履修年次	授業科目名		
1 年次	< 教養教育科目（16 単位以上） > 初年次ゼミ、国際言語科目、主題別科目、スポーツ文化科目		
	< 基礎教育科目（16 単位以上） > 基礎解析、基礎統計、応用統計、医系物理、医系化学、医系生物、情報処理		
専門教育科目			
履修年次	分類	区分	授業科目名
1 年次	基礎医学Ⅰ	必修	細胞の構成と機能Ⅰ、生体物質の代謝Ⅰ
	基礎医学Ⅱ	必修	細胞の構成と機能Ⅱ、生体物質の代謝Ⅱ、人体解剖学入門、個体の発生、個体・細胞の分子生化学、骨学実習、生体分子解析学実習
	医療・社会・行動科学Ⅰ	必修	医療行動科学
2 年次	基礎医学Ⅲ	必修	個体の構成、組織学、臓器の機能Ⅰ、人体解剖学実習、組織学実習
	基礎医学Ⅳ	必修	臓器の機能Ⅱ、生体と微生物、免疫と生体防御、生体と薬物、生体と放射線・電磁波・超音波、病因と病態、生体機能学実習、感染症・生体防御学実習、病理学実習
	医療・社会・行動科学Ⅱ	必修	環境と健康、医の倫理と原則、地域医療・コミュニケーションとチーム医療
	基礎医学アドバンスコース	選択	細胞生物学、公衆衛生学、生体防御学、医学教育学、器官・統合生理学、微生物学、細胞生理学、病理学Ⅰ、病理学Ⅱ、分子機能学・代謝機能学、形態解析学・器官構造学、医療情報学、情報制御学・実験治療学、戦略的外科系医師養成プログラム、分子性科学、環境保健学
3 年次	臨床医学Ⅰ	必修	循環器、呼吸器、消化器、腎、尿路・男性生殖器
	臨床医学Ⅱ	必修	神経、運動器（筋骨格）、血液・造血器・リンパ、精神、リハビリテーション、乳房、女性生殖器、加齢と老化、内分泌・栄養・代謝、免疫・アレルギー疾患・膠原病、腫瘍、妊娠と分娩、成長と発達、臨床検査
	医療・社会・行動科学Ⅲ	必修	疫学と予防医学、生活習慣病と臨床研究、保健と封止の制度、社会医学実習、感染症、感染制御
4 年次	臨床医学Ⅲ	必修	皮膚、眼・視覚、耳鼻・咽喉・口腔、麻酔、薬物治療の基本原則、外科治療と周術期管理、放射線診断と治療、救急疾患、物理・化学的因子による疾患、基本的診療技能
	医療・社会・行動科学Ⅳ	必修	診療情報、医療における安全性確保
	臨床医学Ⅳ		医学医療総合講義Ⅰ、臨床実習Ⅰ
	臨床医学アドバンスコース	選択	歯科口腔外科学、整形外科、心臓血管外科学、救急・集中治療医学、消化器外科学・消化器内科学、血液・腎臓・膠原病内科学、眼科学、放射線医学、胸部外科学Ⅰ、輸血学、精神科学、胸部外科学Ⅱ、皮膚科学・形成外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学Ⅰ、小児外科学、総合診療・検査診断学、脳神経外科学、腎泌尿器科学、麻酔・蘇生・疼痛管理学、産婦人科学、食堂外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学Ⅱ、内分泌・代謝・老年内科学、小児科学、循環器内科・呼吸器内科学、臨床腫瘍学
5 年次	臨床医学Ⅴ	必修	医学医療総合講義Ⅱ、臨床実習Ⅱ
	臨床医学Ⅵ	必修	医学医療総合講義Ⅲ、臨床実習Ⅲ
6 年次	臨床医学Ⅶ	必修	医学医療総合講義Ⅳ、臨床実習Ⅳ

(出典：平成 27 年度教養基礎教育ガイド、秋田大学医学部医学科授業計画)

(2) 保健学科

保健学科では卒業生が備えているべき基本的な素養や資質としての要件として、ディプロマ・ポリシーを定めており（資料 4-33）、教養基礎教育と専門教育からなる教育課程において卒業要件を満たした者に「学士（看護学）」「学士（保健学）」の学位を授与している（資料 4-34、35）。

資料4-33：医学部保健学科の学位授与方針

<p>医学部保健学科では、次のような知識・理解、技術、態度、興味・関心、思考・判断等を身に付けた学生に、「学士（看護学）」「学士（保健学）」の学位を授与しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野についての必要な知識と技術を修得している 2. 人間性や倫理観、基本的人権に関する教養を身につけている 3. 基本的な医療行為を安全に実施することができる 4. 患者・障害のある人々・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員としての役割を果たすことができる 5. 向上心と協調性、そして地域住民の健康や福祉に貢献する意欲を示すことができる 6. 健康の維持・増進と病気や障害からの回復に寄与するために責任をもった行動をとることができる 7. 科学の進歩および社会における医療ニーズの変化に対応し、国際的な視野をもとに生涯を通して自らを高めることができる 8. 障害のある人々やその家族を理解し、柔軟で豊かな人間性を身につけ、支援することができる 9. 医療や保健活動に関する身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の総合と適確な判断を行い、必要な行動を示すことができる

(出典：医学部保健学科 学科案内 2016)

資料4-34：保健学科の履修単位数

	教養基礎教育科目	専門教育科目	計
看護学専攻	32 単位以上	93 単位以上	125 単位以上
理学療法学専攻	32 単位以上	92 単位以上	124 単位以上
作業療法学専攻	32 単位以上	93 単位以上	125 単位以上

(出典：医学部保健学科 学科案内 2016)

資料4-35：保健学科の履修科目

		看護学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻
1 年 次	専門基礎科目	人体構造学、人体機能学、保健生化学、リハビリテーション概論		
	専門科目	看護学概論、看護基礎技術論、成人看護学概論、障がい者福祉援助実習	理学療法学概論Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価学Ⅰ、生活環境学、基礎臨床実習Ⅰ	作業療法学概論、基礎作業学、臨床見学実習
	教養基礎教育科目	【教養教育科目】初年次ゼミ（保健と医療）		
	教養基礎教育科目	【基礎教育科目】 情報処理 応用統計 基礎物理学 基礎化学 基礎生物 総合科学実験 行動科学	【教養教育科目】〈主題別科目〉 現代社会：暮らしと法、他 15 科目 人間と文化：日本文化入門Ⅰ、他 31 科目 科学の探求：ライフサイエンスⅡ、他 17 科目 生活と保健：医学と健康Ⅰ、他 12 科目 地域社会：秋田の自然と文化Ⅰ、他 9 科目 技能の活用：就業力分析論、他 15 科目	【教養教育科目】 〈国際言語科目〉 英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 朝鮮語 日本語
2 年 次	専門基礎科目	臨床心理学、病態生理学、人間発達学、一般臨床医学 薬理薬剤学、公衆衛生学、社会福祉学、障がい者福祉援助論 生体防御学	運動機能解剖学、運動機能生理学、運動学、運動学実習、 神経系運動障害学、筋骨格系運動障害学、内部障害学、 小児期障害学、老年期障害学、精神障害学Ⅰ	
	専門科目	看護援助技術論 看護過程論 基礎看護学実習Ⅰ 精神保健看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 老年看護学概論 急性期・周手術期看護方法論Ⅰ、慢性期・終末期看護方法論Ⅰ 母性看護方法論Ⅰ 小児看護方法論Ⅰ 老年看護方法論Ⅰ 他	理学療法評価学Ⅱ 運動療法学Ⅰ・Ⅱ 物理療法学 日常生活活動学 理学療法技術実習 他	基礎作業学実習 作業療法評価法総論 運動・神経障害作業療法評価法実習 発達障害作業治療学Ⅰ 生活活動学 生活支援技術学
3 年 次	専門基礎科目	保健統計学、保健情報学、健康管理学、医療福祉関連職種論 リハビリテーション医学、救急医療 他		
	専門科目	看護研究 基礎看護学実習Ⅱ 臨床看護技術実習 院内感染対策論	運動療法学実習 臨床運動学 義肢装具学 神経系障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ	作業分析学実習 作業行動学 運動障害作業治療学Ⅰ・Ⅱ 神経障害作業治療学

秋田大学医学部 分析項目 I

		急性期・周手術期看護実習 慢性期・終末期看護実習 精神保健看護方法論 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護方法論（選択） 助産学専門科目（選択） 急性期・周手術期看護方法論Ⅱ 慢性期・終末期看護方法論Ⅱ 母性看護方法論Ⅱ 小児看護方法論Ⅱ 在宅看護方法論 他	筋骨格系理学療法学 内部障害理学療法学 老年期障害理学療法学 生活支援工学 理学療法学セミナー 理学療法学研究法 医療コミュニケーション論 基礎臨床実習Ⅱ・Ⅲ 他	ハンドセラピー論 精神障害作業治療学Ⅰ・Ⅱ 発達障害作業治療学Ⅱ 老年期障害作業治療学 各種作業療法評価法実習 生活支援技術学実習 職業関連活動管理学Ⅰ・Ⅱ 作業療法学研究法 臨床評価法実習Ⅰ 他
4 年 次	専 門 科 目	看護管理学 精神看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 老年看護学実習 海外看護協力 公衆衛生看護実習（選択） 在宅看護実習 助産学実習（選択） 統合看護実習Ⅰ・Ⅱ 統合看護演習 リスクマネジメント 卒業研究 他	地域理学療法学 理学療法国際協力論 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ 卒業研究 他	作業療法管理学 精神障害者生活環境適応論 臨床評価法実習Ⅱ 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 卒業研究

（出典：秋田大学医学部保健学科 学科案内 2016）

2. 養成しようという人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

医学科では、講義や実習、演習をバランスよく組み合わせつつ、6年間のカリキュラムが構成されており、さまざまな教育方法を取り入れている（資料4-36）。保健学科では、地域の医療機関や市町村との連携により様々な実習や演習を行っている（資料4-37）。また、理学療法学専攻や作業療法学専攻は学生数の少なさを生かした少人数教育が中心となっている。

臨床診療能力の習得向上のため、平成24年にキャンパス内にシミュレーション教育センターが設置され、医学科及び保健学科の学生が利用している。医学科においては、初年次ゼミ、4年次実習において全ての学生がシミュレータを用いた実技トレーニングを行うほか（資料4-36）、臨床実習中、学生はこの施設を自由に使うことができる。

資料4-36：医学科におけるさまざまな教育方法

科目	学年	特徴
初年次ゼミ及び医療行動科学	1年次	病院見学実習（早期体験学習）、模擬患者（外国人を含む）を用いた医療面接実習、TBL、PBL
基礎医学、臨床医学	2-4年次	教員による講義のほか、症例提示と少人数によるグループ学習（チュートリアル教育）及び実習がおこなわれている。
基礎医学、臨床医学	3-4年次	講義室にICカード連携型クリッカーを使用した双方向対話型教育支援システム（レノンシステム）が設置されており、学生の出席を把握すると同時に、双方向型授業が可能である。
研究配属	3年次	基礎系講座の研究室に配属され、6週間にわたって研究者と一緒に基礎研究をおこなう。
基礎選択科目	2年次	生命科学分野及び医科学分野における最新の進歩を学ぶ。学生自身が興味ある分野を選択することができる
早期地域実習	3年次	学外医療機関での病院実習
多職種連携授業	4年次	リハビリテーション医学について、医学科と保健学科の学生と一緒に学ぶことができる。
臨床選択科目	4年次	臨床医学分野における最新の進歩を学ぶ。学生自身が興味ある分野を選択することができる
基本的臨床技能・症候病態からのアプローチ	5年次	臨床実習に先立って、基本的臨床技能をロールプレイやシミュレータを使って学ぶ。
地域医療実習	5年次	学外医療機関での病院実習（診療参加型）
臨床配属	6年次	希望する診療科において3週間の診療参加型臨床実習をおこなう。4診療科を選択する。新しい医学教育カリキュラムにおいては実習期間が4～5週間へ延長され、選択できる診療科も8診療科に増える予定（平成27年度入学者より適用）

（出典：平成27年秋田大学医学部医学科授業計画、保健学科授業計画）

秋田大学医学部 分析項目 I

資料 4-37：保健学科における教育方法の取り組み例

専攻・学年	取り組み	効果の事例
看護学専攻 4年次	「統合看護実習Ⅰ」において地域における多職種連携やネットワークづくりを視察して、生活者の視点から医療者の役割を学ぶ	高齢化社会の秋田県の地域包括ケア
看護学専攻 4年次	平成 24 年度に統合看護実習Ⅱと統合看護演習を必修科目として新設	卒業前の実践能力の到達度の適正な評価
作業療法学専攻 3年次	三種町上岩川地区住民組織「房住里の会」の協力を受けて、高齢者の心身機能と社会生活機能、生活リズムの調査を3年次学生の評価実習の中で行っている。	地域医療の実践
全ての専攻 1年次	初年次ゼミでは3専攻の学生が共同でグループ学習を行い、保健・医療・福祉に関する諸問題についての情報収集、議論、発表、報告書作成を実施している	多職種連携の動機付け
全ての専攻 3年次	4年次生の卒論発表会へ参加	研究マインドの涵養
理学療法学専攻 3年次前期	「理学療法セミナー」での少人数教育	能動的学習の促進
理学療法学専攻 3年次後期	「理学療法学研究法」での少人数教育	研究マインドの涵養
理学療法学専攻 1年次と3年次	クリニカルクラークシップの導入	高い実践能力の育成
作業療法学専攻 全ての学年	アクティブラーニングと学生参加型授業を各学年のカリキュラムを組み合わせ実施しており、3年次前期に評価法演習を設置して学生の到達度を適切に評価	能動的学習の促進

(出典：総務課調査)

3. 国際交流

医学科では、医学教育の国際化を視野に入れ、医学部国際交流基金からの支援を得て、毎年、学生の短期海外派遣及び海外学生の受け入れを行っている（資料 4-38）。研究配属期間中に、この制度により海外医学部において基礎医学研究やクリニカルクラークシップ等の実習に参加し修了した者については、秋田大学でその期間、実習を行ったものとして単位を認定している。保健学科では、平成 25 年から王立ブータン大学健康科学院に、毎年2名の学生(看護学専攻教員1名が引率)が滞在し2週間の研修を行っている。平成 21 年度と比較して海外短期留学を行う学生が増加した。（資料 4-38）。

資料 4-38：学部学生の国際交流実績一覧

年度	派遣・受入	派遣先・派遣元	人数	学科	期間
21 年度	学生派遣	ハワイ大学 (米国)	2 (5 年)	医学科	26 日間
22 年度	学生派遣	カリアリ大学 (イタリア)	2 (3 年)	医学科	39 日間
		華中科技大学同済医学院 (中国)	2 (3 年)	医学科	30 日間
	学生受入	ハワイ大学 (米国)	1	医学科	15 日間
		華中科技大学同済医学院 (中国)	2	医学科	25 日間
23 年度	学生派遣	リール大学 (フランス)	2 (3 年)	医学科	25 日間
		カリアリ大学 (イタリア)	3 (3 年)	医学科	25 日間
		ハワイ大学 (米国)	1 (5 年)	医学科	390 日間
	学生受入	リール第2大学 (フランス)	2	医学科	39 日間
		カリアリ大学 (イタリア)	1	医学 K	88 日間
24 年度	学生派遣	ハワイ大学 (米国)	2 (5 年)	医学科	28 日間
		華中科技大学同済医学院 (中国)	1 (3 年)	医学科	21 日間
		リール第2大学 (フランス)	2 (3 年)	医学科	40 日間
		カリアリ大学 (イタリア)	3 (3 年)	医学科	40 日間
	学生受入	華中科技大学同済医学院 (中国)	2	医学科	28 日間
		リール第2大学 (フランス)	1	医学科	21 日間
25 年度	学生派遣	カリアリ大学 (イタリア)	2 (5 年)	医学科	25 日間
		カリアリ大学 (イタリア)	2 (3 年)	医学科	40 日間
		華中科技大学同済医学院 (中国)	1 (5 年)	医学科	40 日間
		リール第2大学 (フランス)	2 (3 年)	医学科	40 日間
		王立ブータン大学	2 (3 年)	保健学科	14 日間

	学生受入	キャリアリ大学 (イタリア)	1	医学科	25 日間
		リール第 2 大学 (フランス)	2	医学科	40 日間
		華中科技大学同済医学院 (中国)	2	医学科	30 日間
26 年度	学生派遣	ハワイ大学 (米国)	1 (5 年)	医学科	28 日間
		テキサス州立 MD アンダーソンがんセンター (米国)	1 (4 年) 1 (5 年)	医学科	25 日間
		キャリアリ大学 (イタリア)	3 (3 年)	医学科	40 日間
		リール第 2 大学 (フランス)	2 (3 年)	医学科	40 日間
		王立ブータン大学	2 (3 年)	保健学科	14 日間
		学生受入	リール第 2 大学 (フランス)	2	医学科
	華中科技大学同済医学院 (中国)	2	医学科	30 日間	
	27 年度	学生派遣	テキサス州立 MD アンダーソンがんセンター (米国)	1 (4 年) 2 (5 年) 1 (6 年)	医学科
キャリアリ大学 (イタリア)			3 (3 年)	医学科	40 日間
リール第 2 大学 (フランス)			2 (3 年)	医学科	40 日間
王立ブータン大学			2 (3 年)	保健学科	14 日間
学生受入		華中科技大学	2 (6 年)	保健学科	25 日間
		リール大学	2 (4 年)	医学科	29 日間

(出典：医学部国際交流委員会及び学務委員会会議資料)

4. 学生の主体的な学習を促すための取り組み

医学科では、正規の講義・実習時間以外での学生の自主学習は基本的に学生に委ねているが、医師免許取得を目標とする医学生へのモチベーションは比較的高い。自主学習を促進するためのスペース確保には十分配慮し、授業時間外の講義室を深夜 12 時まで開放している。

保健学科では、学生用 Web システム、アクティブラーニング、学生参加型授業等により、積極的に学生に働きかけをおこなっている。

また、医学科、保健学科ともに附属図書館医学図書館を自主学習室として開放しているほか、試験成績の開示や成績優秀者への奨励金の贈呈、海外短期留学の推薦と経済的支援等により、モチベーションの向上を図っている（資料 4-39）。

資料 4-39：主体的学習促進のための取り組み

学科	取り組み	具体的な内容	効果の事例
医学科	自主学習室の確保	講義室、附属図書館の夜間開放による自主学習の促進	留年率の低下 国家試験合格率の向上
	統一試験成績開示	統一試験成績（席次を含む）を学生個人に対して開示	留年率の低下 国家試験合格率の向上
	学業・生活支援WG	学力不足の学生、生活支援が必要な学生への指導	留年率の低下
	国家試験対策委員会	医師国家試験の受験対策	国家試験合格率の向上
	スチューデントドクター認定証授与式	臨床実習開始前に、医学部、医学部附属病院、秋田県内関連医療機関のスタッフを招いて、授与式をおこない、学生とスタッフとの親睦を図る	モチベーション向上
	秋田県医師会奨学賞の贈呈	4 年次の学業成績優秀者 2 名に対し、秋田県医師会より奨学金を贈呈する	モチベーション向上
保健学科	動画の配信	看護技術に関する用語や技術的な動画の掲載	国家試験合格率の向上
	アクティブラーニングと学生参加型授業の組み合わせ	専門科目の中で関連する科目を組み合わせ、1 年次から 3 年次の学生が自主的に課題設定を行い、発表会にてプレゼンテーションをしている。	モチベーション向上
医学科 保健学科	秋田大学学業奨励金の贈呈	2 年次、3 年次の成績優秀者 1 名ずつに対して、秋田大学みらい創造基金より奨励金を贈呈する	モチベーション向上

(出典：総務課調査)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 医学科において、医学教育の国際認証に対応したカリキュラムを構築し、平成 27 年度入学生より適用する体制を整えた。

また、様々な教育方法・手法をバランスよく活用するとともに、初年次からの英語による医療面接実習や症候学など、新たな教育手法を開発し実践している。

さらに、シミュレーション教育・研究センターを設置し、シミュレータを用いた医学及

び保健学教育を積極的におこなっている。

海外短期留学を行う学生数を増やし、国際交流を活発化させている。また、優れた学生への授賞、海外短期留学の旅費支援など学生が意欲を持って学習することを促進している。以上のことから、期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 成績判定手法

医学科では、専門教育は全て客観試験による統一試験及びC B T共用試験により可否を判定している(資料4-40)。統一試験終了後は学生からの疑義を受け付け、出題者とともにその正当性を検討した後、採点結果に反映される。本試験の問題は全て学生に渡され、最終成績は本人に開示される(席次を含む)。また、個々の問題の正答率及び識別指数を出題者にフィードバックしている。

保健学科では各専攻でそれぞれ単位数を基準に進級の要件を設定している。また、平成24年度からG P Aによる成績評価を導入して、学生の自己の学力を客観的かつ総合的に評価できるようにしている。このほか、成績優秀者に対する学生表彰の客観的指標としてG P Aを活用している。

資料4-40：成績評価手法(医学科)

学年	進級判定のための成績評価
2年次	統一試験 <ul style="list-style-type: none"> ● 時期：8月及び2月 ● 出題範囲：8月の試験は4～7月に履修した科目、2月は9～1月に履修した科目 ● 出題方式及び可否判定：客観試験方式とし、6割以上を合格
3年次	統一試験 <ul style="list-style-type: none"> ● 時期：8月及び2月 ● 出題範囲：8月の試験は4～7月に履修した科目、2月は9～1月に履修した科目 ● 出題方式及び可否判定：客観試験方式とし、6割以上を合格
4年次	統一試験 <ul style="list-style-type: none"> ● 時期：12月 ● 出題範囲：4～11月に履修した科目 ● 出題方式及び可否判定：客観試験方式とし、6割以上を合格 C B T共用試験 <ul style="list-style-type: none"> ● 時期：1月 O S C E共用試験 <ul style="list-style-type: none"> ● 時期：2月
5年次	臨床実習の評価による(資料4-41)
6年次 卒業判定	卒業試験 <ul style="list-style-type: none"> ● 時期：9月から10月 ● 出題範囲：全て ● 出題方式及び可否判定：客観試験方式とし、6割以上を合格 アドバンスO S C E <ul style="list-style-type: none"> ● 時期：7月 ● 実施方法：資料4-42 参照。

(出典：医学科学務委員会資料)

2. 臨床能力の評価

臨床実習は、クリニカルクラークシップ評価表に基づいて様々な視点から評価される。指導教員の評価は他の診療科の評価表とともに集計され、進級判定に用いられる(資料4-41)。

平成13年度より実施している6年次アドバンスO S C Eは、ステーション数16という全国最多の規模を誇ると共に、全ての診療科から教員が評価に加わり、職員及び患者役の学生等、医学部全体でサポートする体制が整備されている(資料4-42)。

資料4-41：臨床実習評価表（指導医用）

クリニカルクラークシップ評価表（指導医用） 指導医署名 _____ 月 日 ~ 月 日 診療科名 _____ 班 学籍番号 _____ 氏名 _____						
評価項目	評価					
	1 明らかに 不合格	2 不合格 (改善可)	3 ボーダー	4 普通	5 良い	6 非常に 良い
1. (必須)項目1から7について6段階で評価し、該当する数字を○で囲んでください。「普通」が4です。 2. (必須)項目7の総合評価は記入漏れがないようお願いします。 3. 総合評価が1あるいは2の場合には、その理由を項目8に記入して下さい。 4. 次の実習先指導医へのメッセージがある場合は記載してください。 5. 記入後は、各講座でグループ分まとめて学務課に提出してください。						
1. 実習前の学習態度	1	2	3	4	5	6
2. 医師・患者関係	1	2	3	4	5	6
3. 時間管理・服装・態度	1	2	3	4	5	6
4. 職種間の連携に関するスキル	1	2	3	4	5	6
5. 診療態度・学習意欲に関して	1	2	3	4	5	6
6. 診療・スキルへの姿勢	1	2	3	4	5	6
7. 総合評価（全体を通しての評価）	1	2	3	4	5	6
8. 次の実習先指導医へのメッセージ (特に、学習者に対し、実習態度、知識、コミュニケーション課題など、各科連携して指導して改善していくべき事項がありましたら記載してください。)						

(出典：秋田大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表)

資料4-42：アドバンスOSCEの実施体制と実施内容

実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価者の教員数 58名 (H27) ● 学務課職員 14名 (H27) 学生アルバイト 45名 (H27) ● 総合地域医療推進学講座職員 2名 (H27) ● 医学教育学講座・総合地域医療推進学講座教員等 3名 (H27)
実施内容	16ステーション実施 (内訳) ・医療面接 (胸部、腹部、神経) 3ステーション ・医療面接 (老年・精神) 1ステーション ・手技等 (小児科、外科、泌尿器科、整形外科、放射線科、脳神経外科、眼科、耳鼻科、臨床検査、救急・麻酔、産婦人科、皮膚科) 12ステーション

(出典：秋田大学医学部医学科OSCE・クリクラWG資料)

3. 単位取得・成績等

第2期中期目標期間中の留年率、休学率及び退学率を資料4-43に示す。適性等によりやむなく進路変更に至る学生が数名ほどいたが、いずれも学業生活支援WG及び学務委員会が中心となって学生本人及び保護者との面談により適切に対応している。

資料4-43：留年率・休学率・退学率の推移

[単位：％]

区分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
医学科	留年率	2.5	2.4	3.4	2.8	2.2	2.2	
	休学率	0.8	0.1	1.6	1.4	0.5	0.5	
	退学率	0	2.1	0	2.9	0.9	0.9	
保健学科	看護学専攻	留年率	1.6	1.0	1.0	2.4	3.7	3.2
		休学率	0.6	1.0	1.0	2.4	1.0	0.7
		退学率	1.0	0.7	0	1.7	0	0.7
	理学療法学専攻	留年率	0	0	2.7	2.7	1.3	1.5
		休学率	0	0	2.7	1.3	5.3	1.5
		退学率	1.3	1.3	2.7	1.3	2.7	0
	作業療法学専攻	留年率	0	1.3	1.3	3.9	2.6	3.8
		休学率	0	2.6	1.3	3.9	0	3.8
		退学率	0	2.6	1.3	1.3	0	2.5

(出典：総務課調査)

4. 資格取得状況及び学会・論文発表

医師国家試験合格率は概ね良好で、唯一平成22年度卒業生において88.2%と低い合格率であったが、翌年からは全国平均以上を維持している(資料4-44)。平成22年度の結果を受け、それまでの学内統一試験成績を分析し、試験成績の開示、自主学習促進のための講義室夜間開放、統一試験の年2回開催等の改革を行った。平成17年に始まった共用試験C B Tは、平成22年度以降ほぼ全国平均以上を維持している(資料4-45)。

学会発表や論文発表の機会を得た学生の多くは医学科3年次の研究配属が契機となり、研究配属期間が終了した後も引き続き研究を継続したことによる。また、平成26年度から始まった日本医学教育学会主催のシムリンピック2014(シミュレーションを用いたOSCEの医学生全国大会)では、医学科6年次の学生チームが全国優勝した(資料4-46)。

保健学科は、在学時に取得できる5つの国家資格の合格率において、平成22年度以降、全国平均以上を維持している。また、平成26年度及び平成27年度においては4つの国家試験において合格率100%を達成した。(資料4-47)。

資料4-44：医学科卒業生の医師国家試験合格率(新卒)

[単位：％]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
秋田大学	88.2	94.7	96.9	98.2	98.0	98.3
全国平均	92.6	93.9	93.1	93.9	94.5	94.3
全国順位(位)	69	43	18	14	13	11

(出典：学務課調査)

資料4-45：医学科4年次のC B T成績

[単位：％]

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
秋田大学	82.40	80.47	80.11	78.22	76.49	79.08
全国平均	77.10	77.30	77.90	77.20	77.70	77.90

(出典：公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構資料)

秋田大学医学部 分析項目Ⅱ

資料4-46：学部学生の学会表彰、論文発表、学内表彰

年 度	研究実績の内容		学内表彰
平成 24年度	会賞	タイトル：長期生存自然経過単心室症の一部検 学 会 名：第101回日本病理学会総会 病理学会発表賞	
平成 25年度	論文発表	タイトル：Relationships between QT interval and heart rate variability at rest and the covariates in healthy young adults. 発表雑誌：Autonomic Neuroscience: Basic & Clinical 173: 53-57, 2013	学長表彰
	学会賞	タイトル：伸展刺激に応じた食道上皮からのATP分泌の制御機構。 学 会 名：第90回日本生理学会大会 Junior Investigator's Award	学長表彰
	学会賞	タイトル：Analysis of the host epigenetic responses to influenza virus infection - role of histone methylations in the pathogenesis of influenza - 学 会 名：第87回日本薬理学会 優秀発表賞	
平成 26年度	学会賞	タイトル：インフルエンザウイルス感染症におけるマクロファージ由来のニューロペプチドY (NPY) の役割 学 会 名：第88回日本薬理学会 優秀発表賞	
	学会賞	タイトル：ARDS肺における損傷関連分子パターンDNAのイメージング 学 会 名：第88回日本薬理学会 優秀発表賞	
	論文発表 (共著者)	タイトル：Pathological impact of hyperpolarization-activated chloride current peculiar to rat pulmonary vein cardiomyocytes. 発表雑誌：Journal of Molecular and Cellular Cardiology 66: 53-62, 2014	
	学会賞	タイトル：シムリンピック2014（シミュレーションを用いたOSCEの医学生全国大会）優勝 学 会 名：日本医学教育学会	学長表彰
平成 27年度	学会賞	タイトル：ヒト心不全例の心筋介在板を中心とする心筋リモデリングの形態解析 学 会 名：第104回日本病理学会総会 病理学会発表賞	
	学会賞	タイトル：卵巣の子宮内膜症性嚢胞におけるARID1A発現消失 学 会 名：第104回日本病理学会総会 日本病理学会発表賞	
	学会賞	タイトル：Critical role of lung macrophage-derived NPY in the pathogenesis of influenza virus infection 年会優秀発表賞 学 会 名：日本薬理学会	
	学会賞	タイトル：肘窩・前腕屈側における皮静脈と皮神経の交差についての研究 優秀発表賞 学 会 名：第121回日本解剖学会総会・全国学術集会	
	論文発表	タイトル：Structure-Activity Relationships of the Antitumor C ₅ -Curcuminoid GO-Y030. 発表雑誌：Molecules 2015	

(出典：医学科評価委員会及び医学科学務委員会資料)

資料4-47：保健学科の国家試験合格率

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	秋田大学	全国平均										
看護師	98.6	91.8	100	90.1	98.5	88.8	98.6	89.8	100	90.0	98.6	94.9
保健師	97.5	86.3	98.8	86.0	98.7	96.0	98.7	86.5	100	99.4	100	92.6
助産師	100	97.2	100	95.0	100	98.1	100	96.9	100	99.9	100	99.8
理学療法士	90.9	74.3	100	82.4	100	89.0	100	83.7	100	82.7	100	82.0
作業療法士	100	71.1	94.4	79.7	100	77.3	100	86.6	93.3	77.5	100	94.1

(出典：保健学科学務委員会会議資料)

5. 学業の成果の達成度や満足度に関する調査結果

毎年おこなっている授業評価において、教育に対する教員の熱意や講義手法、資料の適切さ、シラバスとの整合性や学生の満足度を測っている（資料4-48）。平成22年から27年までの満足度は医学科で平均3.8（5段階評価）（資料4-49）、保健学科で3.9であった（資料4-50）。

資料4-48：講義に対する授業評価表

別紙1

(1) 評価は、各項目で当てはまる評価をマークシートに記入し、提出してください。(記入例：裏面参照)
 マークカード記載上の注意
 ① 学生番号欄には学籍番号を記載し、右詰でマークしてください。
 ② 氏名欄には授業科目名を、その右欄には授業月日を記入してください。
 ③ マークは鉛筆でしてください。(ボールペン等でされたマークは、読み取ることができません)
 (2) 自由記載がある場合は、本評価表に授業月日、授業科目、評価対象教員を記載のうえ、マークカードと一緒に提出してください。

講義に対する評価表

授業月日: _____ 授業科目: _____ 評価対象教員: _____

評価項目	非常に優れている	優れている	普通	やや劣る	劣る
1. 教育に対する熱意が感じられましたか	a	b	c	d	e
2. 質問や学生による発表の機会を与えられましたか	a	b	c	d	e
3. 質問をしやすい雰囲気でしたか	a	b	c	d	e
4. 明瞭で聞き取りやすい話し方でしたか	a	b	c	d	e
5. 教材(プリント、スライド、板書等)は適切でしたか	a	b	c	d	e
6. 学生の学習意欲を刺激する講義内容でしたか	a	b	c	d	e
7. 教員が学問分野の専門家として信頼できましたか	a	b	c	d	e
8. 講義はよく準備がなされていましたか	a	b	c	d	e
9. シラバスに記載された到達目標を達せられる講義内容でしたか	a	b	c	d	e
	難しすぎる	少し難しい	適切な難易度	少し易しい	易すぎる
10. 講義内容の難易度はどうでしたか	a	b	c	d	e
	非常に優れている	優れている	普通	やや劣る	劣る
11. あなた自身の学習態度を自己評価してください	a	b	c	d	e
	非常に高い	高い	普通	やや低い	低い
12. あなた自身の講義に対する満足度はどうでしたか	a	b	c	d	e

本教員に改善してもらいたい点を含め、本講義の長所短所について、自由に記載してください。

(出典：医学科授業評価表)

資料4-49：医学科授業評価アンケートの実施授業数と学生の満足度

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
実施授業数	138	146	139	アンケート未実施	129	121
満足度平均	3.803	3.760	3.783		3.872	3.810
満足度最大	4.700	4.700	4.600		4.500	4.727
満足度最小	3.200	2.700	3.234		3.367	2.900

資料4-48の設問12「あなた自身の講義に対する満足度はどうでしたか」を集計。1～5の5段階評価で、5に近づくほど満足度が高いことを示す。

(出典：医学科評価委員会)

資料4-50：保健学科授業評価アンケートの実施授業数と学生の満足度

	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
実施授業数	45	45	47	47	50	48
満足度平均	3.773	3.873	3.783	3.922	3.974	3.88
満足度最大	4.500	4.500	4.600	4.588	4.667	4.36
満足度最小	3.100	3.100	2.900	3.117	3.165	3.32

資料4-48の設問12「あなた自身の講義に対する満足度はどうでしたか」を集計。

1～5の5段階評価で、5に近づくほど満足度が高いことを示す。

(出典：保健学科評価委員会)

医学科5年生の臨床実習においては、平成22年度より診療科の教育内容に関するアンケートを実施しており(資料4-51)、設問全ての集計から全体的な満足度を測っている(資料4-52)。アンケート開始以来比較的高い評価を得ており、科目(診療科)間のばらつきも少ない。

資料4-51：臨床実習評価表

(1) 評価は、各項目で当てはまる評価をマークシートに記入し、提出してください。(記入例：裏面参照)
 マークカード記載上の注意
 ① 学生番号欄には学籍番号を記載し、右詰でマークしてください。
 ② 氏名欄には実習科目名を、その右欄には実習期間を記入してください。
 ③ マークは鉛筆でしてください。(ボールペン等でされたマークは、読み取ることができません)
 (2) 自由記載がある場合は、本評価表に記載年月日、実習科目名を記載のうえ、マークカードと一緒に提出してください。

臨床実習評価表

記載年月日: _____ 実習科目名: _____

評価項目	非常に 優れている	優れて いる	普通	やや 劣る	劣る
1. 実習内容と計画についてオリエンテーションはありましたか	a	b	c	d	e
2. 実技実習について指導された内容は適切でしたか	a	b	c	d	e
3. 指導教員の態度には熱意が感じられましたか	a	b	c	d	e
4. 実技実習の時間は十分でしたか	a	b	c	d	e
5. 実習は充実したものでしたか	a	b	c	d	e
6. 学生の質問に充分に対応してくれましたか	a	b	c	d	e
7. 学習の評価は適切になされていましたか	a	b	c	d	e

	非常に 優れている	優れて いる	普通	やや 劣る	劣る
8. あなた自身の学習態度を自己評価してください	a	b	c	d	e

この科目の臨床実習教育について、良かったと思う点を記載してください

この科目の臨床実習教育について、改善した方が良いと思う点を記載してください

(出典：医学科評価委員会)

資料4-52：医学科臨床実習授業評価アンケートの実習科目数と学生評価の合計

	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
実習科目数	29	28	28	28	28	30
評価平均	31.448	32.261	31.702	32.681	31.970	32.026
評価最大	33.500	33.600	32.890	33.468	32.845	33.000
評価最小	29.000	30.400	30.040	31.292	30.125	30.647

平均、最大、最小は全て臨床実習教育賞の集計対象である設問1～7を集計（35点満点）。

（出典：医学科評価委員会）

6. 卒業予定者へのアンケート調査

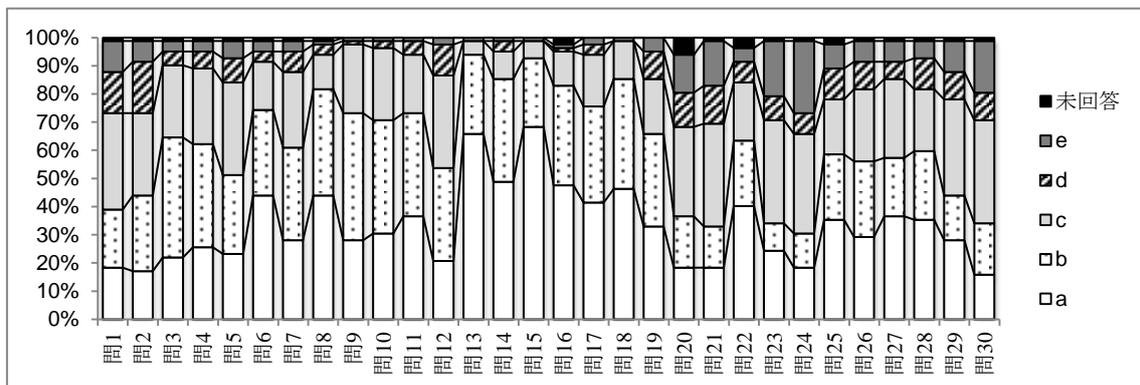
医学科においては、平成26年度卒業予定者に、医学科の教育カリキュラムと学生生活支援・施設に関してアンケート調査を行い、82名から回答を得た（資料4-53）。教育カリキュラムに関しては、半数以上の学生が「大いに役に立った」「多少役に立った」と答えており、とりわけ臨床講義や臨床実習については7割以上の学生が「役に立った」としている（資料4-54）。学生生活支援・施設に関する項目については、医学図書館、自習室、体育館、運動場、食堂など多くの学生が利用する施設については「役に立った」とする意見が多かったのに対し、クラス担任制度や学業・生活支援制度、後援会奨学金制度や国際交流基金制度、保健管理センター等については「役に立った」とする意見が3割程度に留まった。

資料4-53：医学科卒業生に対するアンケート内容

■医学部医学科の教育について	■学生生活支援・施設について
a. 「大いに役に立った」あるいは「非常に満足」 b. 「多少役に立った」あるいは「やや満足」 c. 「どちらとも言えない」あるいは「普通」 d. 「あまり役に立たなかった」あるいは「やや不満」 e. 「全く役に立たなかった」あるいは「非常に不満」	a. 「大いに役に立った」あるいは「非常に満足」 b. 「多少役に立った」あるいは「やや満足」 c. 「どちらとも言えない」あるいは「普通」 d. 「あまり役に立たなかった」あるいは「不満」 e. 利用したことがない
① 教養基礎教育 ② 初年次ゼミ ③ 2年次の基礎医学の講義・実習 ④ 2年次統一試験 ⑤ 3年次を中心に実施した社会医学の講義・実習 ⑥ 研究配属 ⑦ 3年次早期地域医療研修 ⑧ 3年次～4年次の臨床医学の講義 ⑨ 3年次統一試験 ⑩ 4年次統一試験 ⑪ 4年次 OSCE ⑫ CBT ⑬ 臨床実習 ⑭ 臨床講義 ⑮ 臨床配属実習 ⑯ 6年次地域包括保健・医療・福祉実習 ⑰ 6年次 OSCE ⑱ 卒業試験 ⑲ シミュレーション教育センターにおける実習	⑳ クラス担任制度 ㉑ 学業・生活支援制度 ㉒ 国試対策支援制度 ㉓ 医学科後援会奨学金制度 ㉔ 国際交流基金制度 ㉕ 医学図書館 ㉖ 基礎講義棟等の自習室 ㉗ 体育館・運動場・テニスコート・サークル棟 ㉘ 本道会館の食堂・生協 ㉙ 本道会館の自習室 ㉚ 保健管理センター（手形）

（出典：医学科評価委員会）

資料4-54：医学科卒業生に対するアンケート結果



（出典：医学科評価委員会）

秋田大学医学部 分析項目Ⅱ

アンケートの結果を受け、平成26年度は学生用食堂の改修工事をおこない、座席数の増加を図った。また、体育館や運動場、テニスコート等、学生のサークル活動に関する設備の補修や改修については毎年学生の要望を踏まえた上で対応している。教育カリキュラムに関しては、臨床実技能力に重点を置いた新医学教育カリキュラムが平成27年度より始まっており、卒業生アンケート結果に示された臨床医学教育への期待に応えている。

保健学科においても、医学科と同様、平成26年度の卒業生を対象に教育カリキュラム及び学生生活支援・施設に関してアンケート調査をおこない、67名から回答を得た(資料4-55)。教育カリキュラムに関する設問は、全学年での講義、演習、実習及び臨地実習について「大いに役に立った」「多少役に立った」の回答が大半であった。学生生活支援・施設に関する項目については、概ね良好な評価だが、設問⑳(本道会館自習室)については「利用したことがない」が多数を占めた。これは医学図書館の夜間開放によって本道会館自習室の利用者が減少したことが原因と考えられる(資料4-56)。

資料4-55：保健学科卒業アンケート内容

次の①～⑳の各項目について、あてはまる a～e の感想をマークシートに「鉛筆」でご記入ください(学籍番号もご記入願います)。

■医学部保健学科の教育について

a. 「大いに役に立った」あるいは「非常に満足」
b. 「多少役に立った」あるいは「やや満足」
c. 「どちらとも言えない」あるいは「普通」
d. 「あまり役に立たなかった」あるいは「やや不満」
e. 「全く役に立たなかった」あるいは「非常に不満」

※該当なしの場合は、マークなし

①教養基礎教育
②初年次ゼミ
③1年次の講義・演習
④1年次の実習
⑤2年次の講義・演習
⑥2年次の実習
⑦3年次の講義・演習
⑧3年次の実習
⑨4年次の講義・演習
⑩4年次の実習
⑪学外実習臨地実習(全学年通じて)
⑫卒業研究

■学生生活支援・施設について

a. 「大いに役に立った」あるいは「非常に満足」
b. 「多少役に立った」あるいは「やや満足」
c. 「どちらとも言えない」あるいは「普通」
d. 「あまり役に立たなかった」あるいは「不満」
e. 利用したことがない

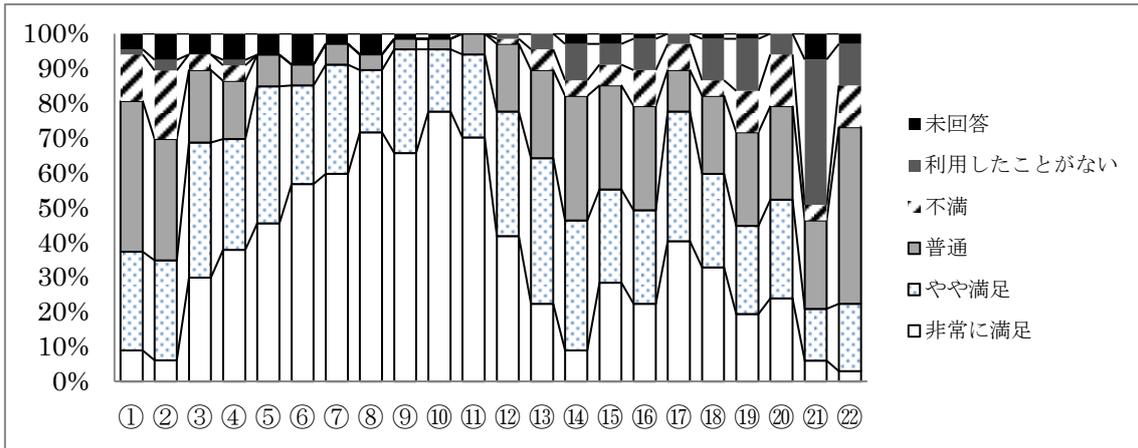
※該当なしの場合は、マークなし

⑬クラス担任制度
⑭学業・生活支援制度
⑮国試対策支援制度
⑯就職支援制度
⑰医学図書館
⑱学生多目的ルームコモンズ
⑲体育館・運動場・テニスコート・サークル棟
⑳本道会館の食堂・生協
㉑本道会館の自習室
㉒保健管理センター(手形)

■その他、何かご意見がありましたら裏面に記入して下さい。ご協力ありがとうございました。

(出典：保健学科評価委員会)

資料4-56：保健学科卒業生アンケート結果



(出典：保健学科評価委員会)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 医学科では、入学から卒業まで客観的な尺度で学力を測っている。学生への成績開示とともに、学力向上へ向けた制度改善や個別学生支援及び学生表彰等へ活用するといったフィードバック機構が機能している。また、前述の制度改善に加え講義室の夜間開放や統一試験の年2回開催といった取り組みを実施することで、医師国家試験合格率が第2期中期目標期間中に大きく改善した。

また、アドバンスOSCEの必要性が全国医学部で議論される中、平成13年以来全国最多の16ステーションから成るアドバンスOSCEを実施しており、医学科全体（学生も含む）でサポートする体制が整備されている。

さらに、保健学科では、在学時に受験できる5つの国家試験の合格率において、平成22年度以降、全国平均以上を維持している。平成26年度及び平成27年度においては4つの国家試験において合格率100%を達成した。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点到に係る状況)

1. 進路・就職状況

医学科の卒業生の進路については、そのほとんどが医療従事もしくは進学であり、医学科の教育目的とする成果を十分に上げている。卒業生のうち4～5割が秋田県で初期研修を行っている。保健学科卒業生は、そのほとんどが医療施設または保健活動機関へ就職しているが、一部進学もみられる。秋田県定着率は、年度によって変動がみられるが概ね5割程度である（資料4-57、資料4-58）。

資料4-57：就職先（地域別）

[単位：名]

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				
	県内	県外	進学等	その他																	
医学科	38	44	0	11	37	53	0	5	43	52	0	3	51	61	0	2	46	52	0	3	
保健学科	看護学	40	39	1	2	43	36	1	0	34	39	4	1	38	34	4	2	36	32	4	0
	理学療法学	10	12	0	0	8	11	0	0	7	7	0	0	14	5	0	0	13	6	0	0
	作業療法学	10	7	0	0	11	8	0	0	14	2	0	0	11	8	1	0	8	6	1	0

(出典：学務課資料)

秋田大学医学部 分析項目Ⅱ

資料4-58：医学部卒業生の主な就職先

秋田県内	秋田大学医学部附属病院、秋田組合総合病院、秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、中通総合病院、大館市立総合病院、由利組合総合病院、大曲厚生医療センター、平鹿総合病院、市立横手病院、雄勝中央病院
秋田県外	岩手県立中央病院、岩手県立胆沢病院、山形大学医学部附属病院、仙台医療センター、石巻赤十字病院、大崎市民病院、東北労災病院、公益財団法人 宮城厚生協会 坂総合病院、新潟大学医学部総合病院、新潟医療センター、新潟市民病院、群馬県清生会前橋病院、前橋赤十字病院、自治医科大学附属病院、国際医療福祉大学病院、筑波メディカルセンター、千葉大学医学部附属病院、松戸市立病院、船橋市立医療センター、君津中央病院、東大宮総合病院、川口市立医療センター、慶應義塾大学病院、国際医療福祉大学病院三田病院、東大和病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜労災病院、神奈川県厚生農業協同組合連合会相模原共同病院、静岡市立静岡病院、静岡赤十字病院、諏訪赤十字病院、市立四日市病院、兵庫県立淡路医療センター、国立病院機構九州医療センター、沖縄県立中部病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

(出典：医学科学務委員会、保健学科学務委員会)

2. 就職先への意見聴取及びその結果

医学科では、平成24年度及び25年度卒業生の就職先に対して、卒業生に対する評価やグラジュエーション・ポリシーについてのアンケート調査をおこない、26機関から回答を得た(資料4-59)。実現性、わかりやすさ、医療機関及び地域医療のニーズに合致しているという意見を7割以上の施設から得ている。卒業生に対する評価をグラジュエーション・ポリシーごとに尋ねたところ、全ての項目において「普通」レベル以上であるとの評価を得た。また、グラジュエーション・ポリシーそのものについての設問に対しても高い評価を得た(資料4-60)。

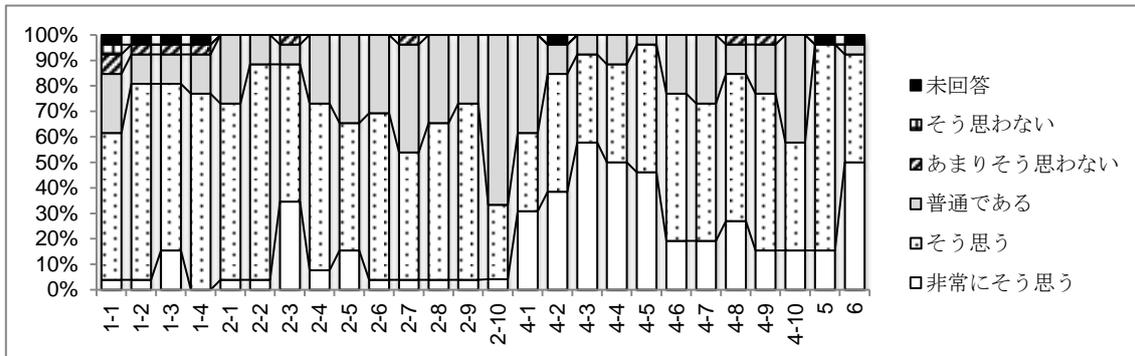
資料4-59：就職先アンケート内容

<p style="text-align: center;">第2期中期目標期間(平成22年度~27年度)における 秋田大学医学部医学科の教育成果に関する調査(初期研修病院) 調査票</p> <hr/> <p>【調査の目的】 この調査は、秋田大学医学部医学科の学部教育(学士課程)における教育成果に対して、卒業生を受け入れて下さっている初期研修病院がどのような意識を持っているのかを把握・分析し、その結果を踏まえて教育課程の編成、授業方法の改善・充実に反映させることを目的として実施するものです。</p> <hr/> <p>【回答方法】 ・選択項目については、該当する番号や項目等を○で囲んでください。 記述項目については、記述欄にご自由にお書きください。記述欄が不足の場合は、適宜余白をお使いください。</p> <hr/> <p>①非常にそう思う ②そう思う ③普通である ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>	<p>問1：グラジュエーション・ポリシーについてどのように思われますか。 次の(1)～(4)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。また、その他にお感じのことがあれば、記述欄にご自由にお書きください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="5" style="text-align: center;">回 答</th> </tr> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 実現性がある</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) わかりやすい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3) 貴医療機関のニーズに合致している</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4) 地域のニーズに合致している</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		回 答						1	2	3	4	5	(1) 実現性がある						(2) わかりやすい						(3) 貴医療機関のニーズに合致している						(4) 地域のニーズに合致している					
	回 答																																				
	1	2	3	4	5																																
(1) 実現性がある																																					
(2) わかりやすい																																					
(3) 貴医療機関のニーズに合致している																																					
(4) 地域のニーズに合致している																																					

<p>問2：貴医療機関に勤務する秋田大学の卒業生について、日頃どのように感じているかをおたずねします。それぞれの能力・知識を卒業生が有しているかについて、回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="5">回 答</th> </tr> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 幅広い教養と豊かな人間性</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(2) 医師としての自覚と倫理性</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(3) チーム医療の一員として協調して行動し、患者と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(4) 絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れることができる適応能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(5) 自ら課題を探求し、問題を解決していく能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(6) 人体の仕組みやはたらき、病因や病態のメカニズムに関する基礎医学能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(7) 社会と医学・医療の関連性等の社会医学能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(8) 疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解し、基礎となる臨床能力を発揮できる基礎的臨床能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(9) 基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決できる実践的臨床能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(10) 外国語運用能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>問5：秋田大学は、医師として求める人材を養成していると思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。</p> <p>(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない</p>		回 答						1	2	3	4	5	(1) 幅広い教養と豊かな人間性	1	2	3	4	5	(2) 医師としての自覚と倫理性	1	2	3	4	5	(3) チーム医療の一員として協調して行動し、患者と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力	1	2	3	4	5	(4) 絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れることができる適応能力	1	2	3	4	5	(5) 自ら課題を探求し、問題を解決していく能力	1	2	3	4	5	(6) 人体の仕組みやはたらき、病因や病態のメカニズムに関する基礎医学能力	1	2	3	4	5	(7) 社会と医学・医療の関連性等の社会医学能力	1	2	3	4	5	(8) 疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解し、基礎となる臨床能力を発揮できる基礎的臨床能力	1	2	3	4	5	(9) 基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決できる実践的臨床能力	1	2	3	4	5	(10) 外国語運用能力	1	2	3	4	5	<p>問4：秋田大学を卒業し、貴医療機関において初期研修を行う者について、どのようなことを在学中に身につけておいてほしいと思いますか。次の(1)～(10)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。また、これら以外に在学中に特に身につけておいてほしいことがございましたら、記入欄にご自由にお書きください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="5">回 答</th> </tr> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 幅広い教養</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(2) 倫理性</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(3) コミュニケーション能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(4) 適応能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(5) 課題探求・問題解決能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(6) 基礎医学能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(7) 社会医学能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(8) 基礎的臨床能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(9) 実践的臨床能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(10) 外国語運用能力</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>問6：貴医療機関において、今後秋田大学の卒業生を積極的に採用したいと思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。</p> <p>(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない</p>		回 答						1	2	3	4	5	(1) 幅広い教養	1	2	3	4	5	(2) 倫理性	1	2	3	4	5	(3) コミュニケーション能力	1	2	3	4	5	(4) 適応能力	1	2	3	4	5	(5) 課題探求・問題解決能力	1	2	3	4	5	(6) 基礎医学能力	1	2	3	4	5	(7) 社会医学能力	1	2	3	4	5	(8) 基礎的臨床能力	1	2	3	4	5	(9) 実践的臨床能力	1	2	3	4	5	(10) 外国語運用能力	1	2	3	4	5
	回 答																																																																																																																																																
	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(1) 幅広い教養と豊かな人間性	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(2) 医師としての自覚と倫理性	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(3) チーム医療の一員として協調して行動し、患者と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(4) 絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れることができる適応能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(5) 自ら課題を探求し、問題を解決していく能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(6) 人体の仕組みやはたらき、病因や病態のメカニズムに関する基礎医学能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(7) 社会と医学・医療の関連性等の社会医学能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(8) 疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解し、基礎となる臨床能力を発揮できる基礎的臨床能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(9) 基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決できる実践的臨床能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(10) 外国語運用能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
	回 答																																																																																																																																																
	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(1) 幅広い教養	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(2) 倫理性	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(3) コミュニケーション能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(4) 適応能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(5) 課題探求・問題解決能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(6) 基礎医学能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(7) 社会医学能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(8) 基礎的臨床能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(9) 実践的臨床能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												
(10) 外国語運用能力	1	2	3	4	5																																																																																																																																												

(出典：医学科評価委員会)

資料4-60：就職先アンケート結果



(出典：医学科評価委員会)

保健学科卒業生の就職先へも同様のアンケート調査を実施し、延べ53機関から回答を得た(資料4-61、62)。3専攻いずれも5割以上の就職先で「やや優れている」以上の回答を得ており、とりわけ看護学専攻卒業生の適正及び発展性、作業療法学専攻においてはほぼすべての問いに対して高い評価を得た。

資料4-61：保健学科就職先アンケート内容

本学卒業生（特に平成22年度以降の卒業生）に関して、専門職としての技能や適性を以下の5段階で判定し、括弧内に回答してください（ただし、どうしても判定が不能の場合には0の数字を記入ください。）

5：優れている 4：やや優れている 3：どちらでもない 2：やや劣っている 1：劣っている

■看護学専攻

1. 適性

- ① 遅刻や無断欠勤しないなど、職場内の基本的な規則を守ることができる。()
- ② 行った仕事に対して責任をもつことができる。()
- ③ 対象や対象の家族のプライバシーを尊重した態度で接することができる。()
- ④ 対象や対象の家族と必要に応じたコミュニケーションをとることができる。()
- ⑤ 対象の多様な身体的・心理的・社会的問題に気づくことができる。()
- ⑥ 他の看護師や他の職種と望ましい人間関係を作ることができる。()
- ⑦ 仕事の優先順位の判断を的確に行うことができる。()
- ⑧ 適切なセルフケアを行うことができる。()

2. 実践

- ① 理論的根拠に基づいた治療計画が構築できる。()
- ② 対象の状態を適切に観察することができる。()
- ③ 対象の病状やニーズに応じた指導を行うことができる。()
- ④ 医師または関連職種と十分な連携をとりながら援助できる。()
- ⑤ 治療や処置とケアとのかねあいを状況に応じて調整することができる。()
- ⑥ 対象の関病意欲や自立を支援する意識をもってケアすることができる。()
- ⑦ 記録物への記載が丁寧であり、内容も簡潔、明瞭である。()
- ⑧ 医療機器（心電図モニター・人工呼吸器・吸引器・酸素吸入など）を適切に操作できる。()
- ⑨ 緊急時や急変時に冷静に対処し、適切な処置を行うことができる。()
- ⑩ 重症患者の看護ケアを適切に行うことができる。()
- ⑪ 死にゆく患者やその家族の精神的支援を実践できる。()
- ⑫ リーダーの時にはメンバーの調整や指導を行い、ケアに対する責任をもつ。()

3. 発展性

- ① 先輩や同僚から積極的に学ぶ姿勢をもてる。()
- ② 看護ケアの結果を自ら評価して改善に努めることができる。()
- ③ ケースカンファレンスなどに積極的に参加し、実践力の向上を目指すことができる。()
- ④ 研究活動に主体的に取り組むことができる。()

■作業療法学専攻・理学療法学専攻

1. 適性

- ① 遅刻や無断欠勤しないなどの職場内の基本的な規則を守ることができる。()
- ② 行った仕事に対して責任をもつことができる。()
- ③ 他の作業療法士・理学療法士や他の職種と望ましい人間関係を作ることができる。()
- ④ 対象者やその家族と適切な人間関係を保つことができる。()
- ⑤ 仕事の優先順位の判断を的確に行うことができる。()
- ⑥ 作業療法・理学療法に対する探求心、意欲及び創造性がみられる。()

2. 発展性

- ① 先輩や同僚から積極的に学ぶ姿勢をもてる。()
- ② 部門の改善点などについて適切な場面で意見をすることができる。()
- ③ 学習の機会には積極的に参加をし、自らの能力を高めていくことができる。()
- ④ 研究活動に主体的に取り組むことができる。()

3. 管理運営

- ① 作業療法・理学療法について、適切な紹介と説明をすることができる。()
- ② 対象者に適した人材を活用することができる。()
- ③ 後輩の指導・教育を的確に行うことができる。()

4. 評価

- ① 対象者の評価に必要な情報を多角的な側面から収集することができる。()
- ② 適切な評価方法を選択することができる。()
- ③ 選択した評価方法を適切な方法で実施することができる。()
- ④ 評価結果から問題点を列挙できる。()

5. 治療計画

- ① 対象者のリハビリテーション・ゴールを評価にそって設定できる。()
- ② リハビリテーション・ゴールを達成するために、具体的な治療計画を立てることができる。()
- ③ 治療順序の選択を適切に行うことができる。()
- ④ 治療手段（活動）の選択を適切に行うことができる。()
- ⑤ 変化に応じて治療計画を立てることができる。()

6. 治療実施

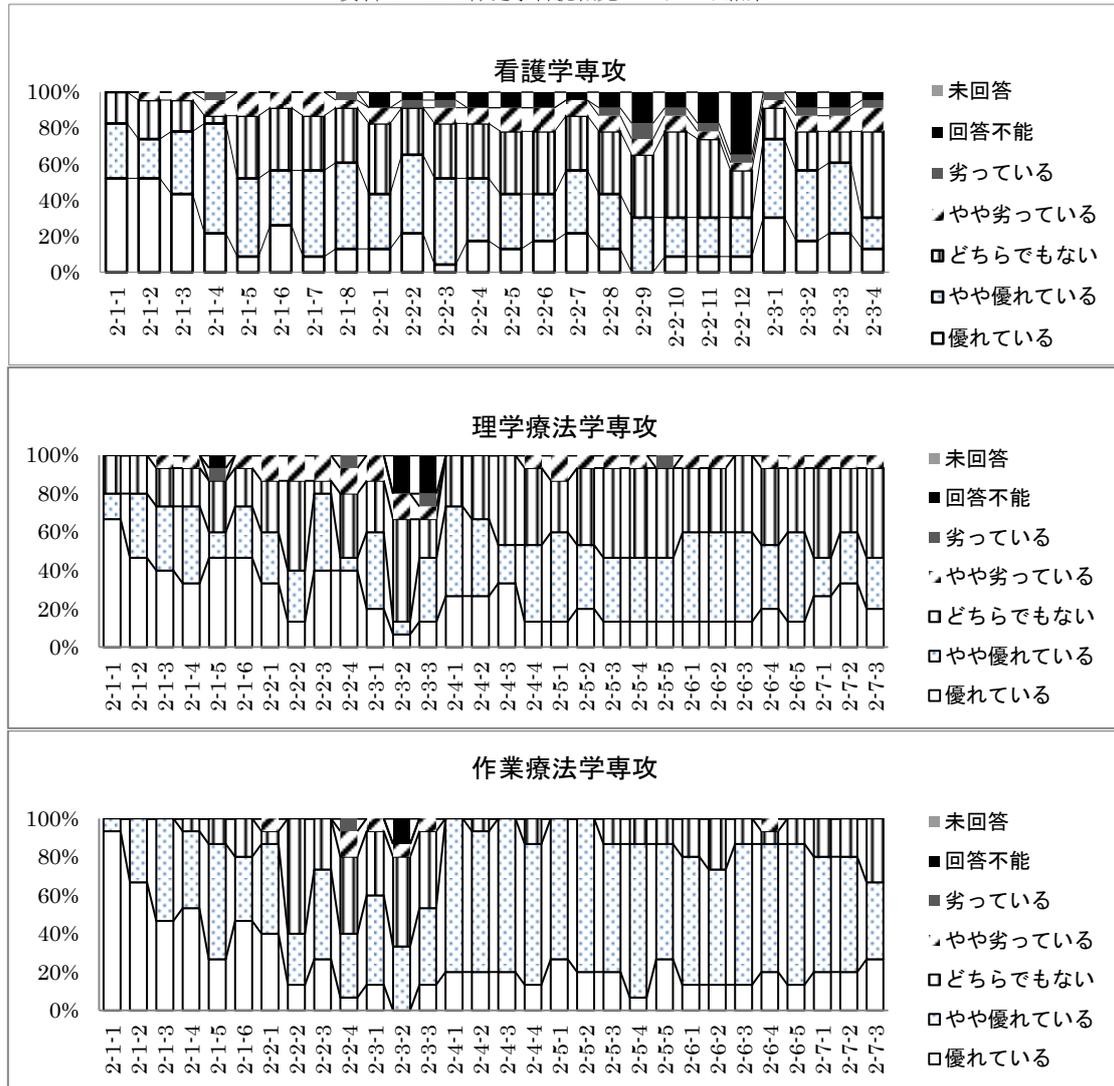
- ① 治療の目的と手段を、対象者が理解できるように説明できる。()
- ② 対象者の家族等に対して、治療に必要な説明や指導を行うことができる。()
- ③ 治療手段を適切に実施できる。()
- ④ 治療実施の際、安全性を考慮できる。()
- ⑤ 対象者の変化に応じた治療を実施できる。()

7. 記録・報告

- ① 治療上の記録及び報告内容を適切に取捨選択することができる。()
- ② 治療上の記録及び報告は簡潔にかつ明瞭にまとめることができる。()
- ③ 治療上の報告を口頭で適切に行うことができる。()

(出典：保健学科評価委員会)

資料4-62：保健学科就職先アンケート結果



(出典：保健学科評価委員会)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 医学科の卒業生のほぼすべてが医師として活動している。秋田県で初期研修を行う学生の割合は、この6年間4～5割で推移している。保健学科卒業生はほぼ100%の国家試験合格率を維持し、それぞれ看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士として活動している。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

外部委員が半数を占める教育研究カウンシルを設置した。これにより、教育課程の編成や教員採用・昇任等において意思決定過程の透明化が図られるとともに、社会のニーズを反映した学部運営をおこなう体制が整えられた。

また、講座新設・再編による教育体制の充実を図った。社会からの強い要請と医学教育の充実を図るため、地域医療政策学講座、医学教育学講座、総合診療・臨床検査診断学講座、医療情報学講座、消化管内科学講座を創設あるいは学部内改組し、必要な人材を採用した。

さらに、医学科において平成27年度入学者より、国際認証に対応した医学教育カリキュラムを開始した。初年次からのプロフェッショナルリズム教育に力を入れ、診療参加型臨床実習の充実を図っている。

加えて、チュートリアル・ステーションの改修と整備を行った。個室化により遮音するとともに、自動ドアやビデオ撮影記録装置を設置し、医学科初年次医療面接、4年次OSCE、6年次アドバンスOSCEで利用している。これにより、医学科・保健学科で実施している少人数教育と共に、学生へのきめ細やかな教育が可能となった。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

統一試験成績を活用したPDCAサイクルを活用させ、学生の学力向上に役立てることができた。客観試験データを基に学生の学力を分析し、成績開示や試験の年複数回化、自主学習スペースの拡大と開放を行い、医師国家試験の合格率など学力の向上が図られた。

5. 医学系研究科

I	医学系研究科の教育目的と特徴	5 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	5 - 4
	分析項目 I 教育活動の状況	5 - 4
	分析項目 II 教育成果の状況	5 - 22
III	「質の向上度」の分析	5 - 31

I 医学系研究科の教育目的と特徴

1. 医学系研究科の教育目的

本学は、国際的な水準の教育・研究の遂行、地域の振興と地球規模の課題の解決への寄与、及び、国の内外で活躍する有為な人材の育成を基本理念に掲げ、大学院の教育課程を充実させ、専門的知識と実践的能力を備えた高度専門職業人及び国際的水準の研究を担う研究者を養成すべく取り組んできた。医学系研究科は、医学・医療及び健康科学の分野においてその責務を果たすべく、研究科の理念及び医学専攻、医科学専攻、保健学専攻ごとの教育目標を定めている（資料5-1）。

資料5-1：医学系研究科の理念及び専攻の教育目的

<p>(目的)</p> <p>第2条 本研究科は、人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進できる国際的視野を備えた優れた研究者・高度専門医療人を育成することを目的とする。</p> <p>2 各専攻の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 医科学専攻は、医学・医療関連分野における領域横断的な諸問題の解決に有用な幅広い学問的背景を持った人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 保健学専攻は、次のとおりとする。</p> <p>イ 博士前期課程にあつては、医学・健康科学に関する高度な知識と技能を有し、医療環境や医療技術の急速な変化・発展に対応できる高い倫理性と柔軟な適応能力を備え、保健医療の中核を担える専門家を養成し、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする。</p> <p>ロ 博士後期課程にあつては、博士前期課程で修得した保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を深化させて、創造性に富む研究によって保健学の発展と保健学教育の充実を担う研究者・教育者、実践の場で自立した研究活動ができ、かつ優れたケア、指導、管理能力を持つ高度専門職者を育成する。特に、少子・高齢化にかかる諸課題を総合的に探求・解決し、地域再生への貢献ができる人材を育成することを目的とする。</p> <p>(3) 医学専攻は、人類の健康・福祉と生命科学の発展に貢献できる国際的視野を備えた研究者を育成し、高度先進医学・医療を推進することにより、地域における医学・医療の中核としての役割を担う医師・医学者を養成することを目的とする。</p>
--

(出典：秋田大学大学院医学系研究科規程)

2. 医学系研究科の特徴

本研究科は、医学専攻、医科学専攻、保健学専攻の3つの専攻より成る。

医学専攻には博士課程が置かれ、平成19年度以来、クラスター制を導入・採用している。複数の教員が研究主題ごとに研究クラスターを作り、その研究クラスターに基づいて共通の準備教育を実施し、その後専門的研究に進む方式であり、これにより、学生が講座や分野の壁を超えて学ぶことが可能である。

医科学専攻には修士課程が置かれ、医学部以外の理系学部を卒業した者を対象とし、少人数の集中的な医学教育を行っている。生体機能系及び応用機能系の領域のほか、平成27年度より医理工連携コース（教育プログラム）を開設した。

保健学専攻には、博士前期課程と博士後期課程が置かれている。博士前期課程では、個々の教員の知的資産を効率よく継承しうる教育課程を構築し、医学専攻及び医学部附属病院、他学部や学内の研究センター・機構、市町村とも連携し、専門性を重視した教育を行っているのが特徴である。博士後期課程では、出生率が低く高齢化率が高いという地域の特徴を踏まえ、「女性・小児発達支援科学分野」と「生活機能・健康行動支援科学分野」に集約して、専門教育を展開している（資料5-2）。

資料5-2：医学系研究科課程・専攻・領域・クラスター等

課程区分	専攻	領域、クラスター等
修士課程	医科学	生体機能系 応用機能系医理工連携コース（教育プログラム）
博士前期課程	保健学	看護学 リハビリテーション科学
博士後期課程		女性・小児発達支援科学分野 生活機能・健康行動支援科学分野
博士課程	医学	生体機能系クラスター 病理・病態系クラスター 臓器発生・再生系クラスター 代謝・情報系クラスター 炎症・免疫系クラスター 神経科学系クラスター 社会医学系クラスター がん治療専門医養成系クラスター 地域医療政策学・自殺予防学系クラスター

（出典：医学系研究科 学生便覧）

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者は、日本並びに世界において医療・保健・医学の分野で研究に従事する研究者、秋田県を始めとする全国の地域社会の中核的病院ならびに医学及び保健医療学系大学、医師・看護師・理学療法士・作業療法士等の医療従事者、医療行政実務者、医薬品・医療機器関係者、医学・医療の発展を還元する一般の方々である。高度な専門知識と技術を有し、最先端の医学・医療に貢献できる国際的視野を有する高度専門職医療人・研究者を育成することが期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

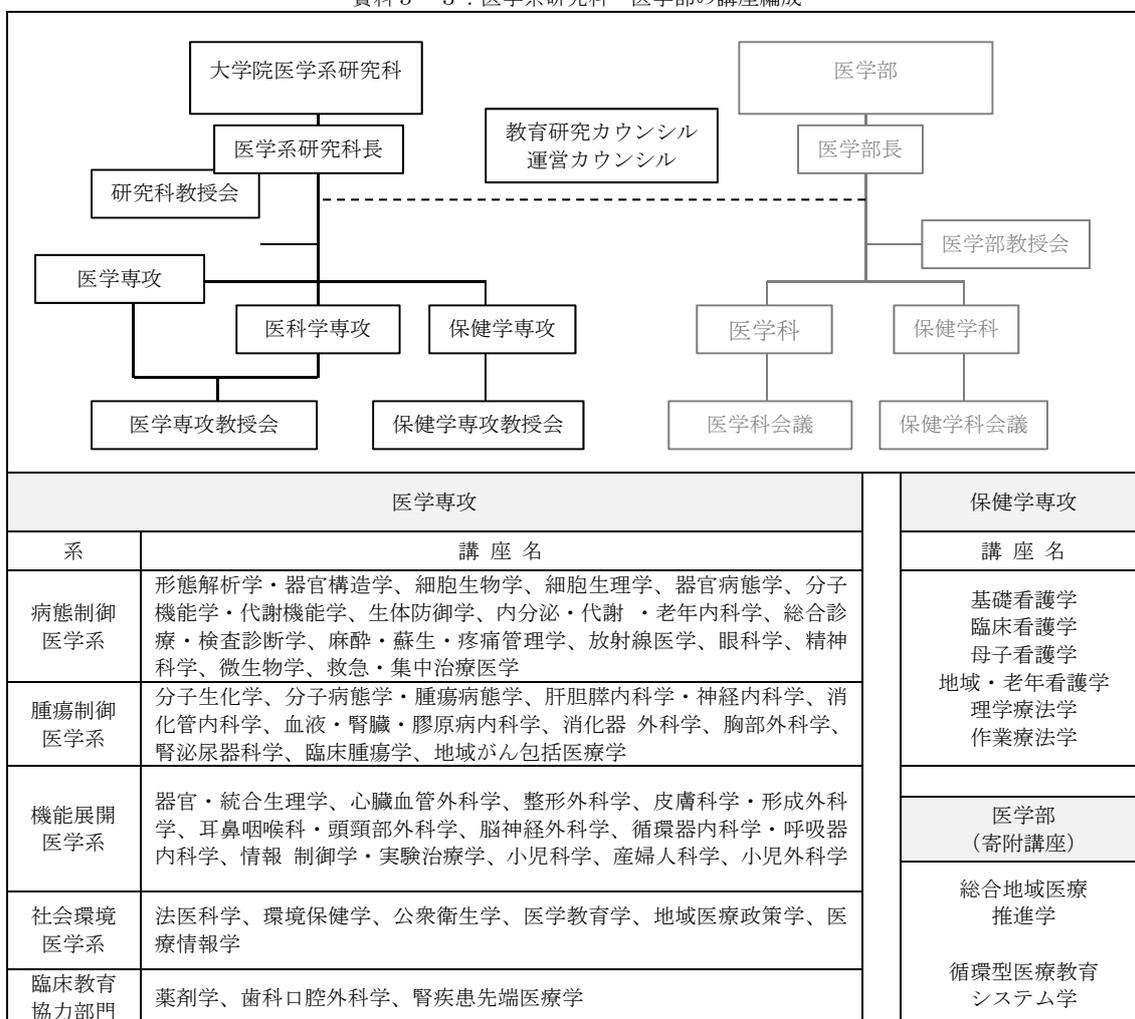
(観点に係る状況)

1. 教員組織

平成 21 年度、医学部は大学院部局化により医学系研究科として医学専攻 4 系 37 講座、保健学専攻 6 講座の組織体制でスタートした(資料 5-3)。

医学専攻は第 2 期中期目標期間中、地域医療政策学講座、医学教育学講座、総合診療・臨床検査診断学講座、医療情報学講座、地域がん包括医療学講座、消化管内科学講座を創設あるいは学部内改組し(資料 5-4)、平成 27 年 7 月現在 4 系 41 講座で構成されている。これに、臨床教育協力部門として薬剤学講座、歯科口腔外科学講座、腎疾患先端医療学講座(寄附講座)が加わる。また、秋田県からの支援により医学部に総合地域医療推進学講座と循環型医療教育システム学講座が設置されている。

資料 5-3 : 医学系研究科・医学部の講座編成



(出典：医学系研究科及び医学部組織運営規程)

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

資料5-4：第2期中期目標期間中に新設・再編された講座

平成年度	講座名	講座設置の目的
23年度	地域医療政策学講座	地域における医療政策、地域保健・医療保険・介護保険に関する研究
25年度	医学教育学講座	グローバル化に対応した医学教育を進め、臨床技術や問題解決力を重視した6年一貫医学教育プログラムを開発・実践する
25年度	総合診療・検査診断学講座	地域医療の担い手として期待されている総合医の育成と大学院及び学生教育における総合診療分野の充実を図る
25年度	医療情報学講座	医学・医療分野における情報技術の活用とIT時代の医学・医療に関する大学院教及び学生教育の充実を図る
25年度	地域がん包括医療学講座	がんプロフェッショナル養成プランネクストを通じて、地域で質の高いがん医療を行う医療人を養成する
27年度	消化管内科学講座	消化器内科医の育成と大学院・学生教育における消化管内科学領域の充実を図る

(出典：医学系研究科及び医学部組織運営規程)

医学系研究科の教員は教授以下172名の専任教員を揃え（資料5-5）、講座名が示す如く各専門分野に対応できる教員が配置されている。実践（診療等）と教育を兼務する教員が殆どであり、より専門性が高い内容の教育が必要とされる分野では、他大学や研究所等から非常勤講師を招聘して効果的な教育を行っている（資料5-6）。

資料5-5：専任教員数

専攻	系	教授	准教授	講師	助教	計
医学専攻	病態制御医学系	13	10	1	22	46
	腫瘍制御医学系	9	6	2	10	27
	機能展開医学系	10	7	2	14	33
	社会環境医学系	5	3	0	6	14
	臨床教育協力部門	-	-	-	-	-
	保健学専攻	18	8	6	19	50
	合計	55	35	11	71	172

(出典：医学系研究科・医学部・医学部附属病院概要2015)

資料5-6：兼務教員数

専攻	非常勤講師数	
	学内兼務	学外兼務
保健学専攻	2	24
医科学専攻	0	3
医学専攻	0	27

(出典：医学系研究科学務委員会資料)

2. 組織体制及び教育体制

教育に関する審議は研究科教授会で行われている（資料5-7）。また、研究科教授会の円滑な運営を図るために研究科教授会の中に医学専攻教授会及び保健学専攻教授会を設置し、各専攻に関する審議を行っている（資料5-8）。

教授会にて審議された事項は、研究科長を含む学内委員5名と外部委員5名からなる教育研究カウンスル（資料5-9）を通して外部委員の審議を受け、最終的に学長が決定する体制をとっている。

資料5-7：教授会審議事項

- | |
|--|
| (1) 学生の入学、課程の修了その他その在籍に関する事及び学位の授与に関する事。
(2) 授業及び試験に関する事。
(3) 学生の厚生補導及びその身分に関する事。
(4) 教育研究カウンスル又は運営カウンスルから付託された専門的事項。 |
|--|

(出典：医学系研究科教授会規程)

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

資料5-8：医学系研究科専攻教授会

<p>第1条 秋田大学大学院医学系研究科教授会規程（以下「研究科教授会規程」という。）第4条第1項の規定に基づき、各専攻の自主性を尊重し、かつ、研究科教授会の円滑な運営を図るため、次の専攻教授会を置く。</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 医学専攻教授会 (2) 保健学専攻教授会</p> <p>（審議事項）</p> <p>第2条 専攻教授会は、研究科教授会規程第2条に規定する審議事項のうち、医学専攻教授会にあつては博士課程（医学専攻）及び修士課程（医科学専攻）に関する一部の審議事項並びにその他専攻に関するものを、保健学専攻教授会にあつては博士前期課程及び博士後期課程に関する一部の審議事項並びにその他専攻に関するものを審議する。</p> <p>（組織）</p> <p>第3条 医学専攻教授会は、医学専攻を担当する専任の教授をもって組織する。</p> <p>2 保健学専攻教授会は、保健学専攻の専任の教授をもって組織する。</p> <p>3 各専攻教授会には、必要に応じ当該教授会の議を経て各専攻を担当する准教授及び講師並びに特任教授及び客員教授を加えることができるものとする。</p>

（出典：医学系研究科専攻教授会規程）

資料5-9：教育研究カウンスル審議事項

<p>第2条 本研究科及び本学部の重要事項を審議するため、本研究科に教育研究カウンスル及び運営カウンスルを置く。</p> <p>（教育研究カウンスル）</p> <p>第3条 教育研究カウンスルは、次の各号に掲げる事項を審議する。</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 教育課程の編成に関すること。 (2) 教員の採用及び昇任等に関すること。 (3) 教育研究に関する規程等の制定・改廃に関すること。 (4) 教育研究に関する重要なこと。</p> <p>2 教育研究カウンスルは、前項に定める審議事項のうちの一部の事項の審議を当該カウンスル以外の審議機関に付託することができる。</p> <p>（組織）</p> <p>第4条 教育研究カウンスルは、次の各号に掲げる委員で組織する。</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 研究科長 (2) 研究科長が所属する専攻以外の専攻長 (3) 前号の者を除く研究科長が指名する副研究科長1名 (4) 附属病院長 (5) 研究科長が指名する教授1名 (6) 外部委員5名 (7) その他議長が必要と認めた者</p>
--

（出典：秋田大学大学院医学系研究科カウンスル規程）

医学系研究科の各専攻にはそれぞれ課程が置かれ（再掲資料5-2）、各分野での高度専門医療人のためのプログラムが実施されている。社会からの要請に応える専門性教育をさらに推進するため、講座新設・改組（再掲資料5-4）をおこない、2つの教育コースを開設した（資料5-10）。

資料5-10：新たな教育コースの開設

年度	コース名	課程	コース開設の目的及び特徴
22年度	がん専門看護師養成（CNS）コース	博士前期課程	<ul style="list-style-type: none"> ● がん看護専門看護師を目指す看護師を対象として、がん看護分野における実践、教育、相談、調整、研究、および倫理的調整の役割を担い得る人材を養成 ● 平成23年、専門看護師教育課程認定委員会（日本看護系大学協議会に設置）による専門看護師教育課程（がん看護）の認定を受けた。
27年度	医理工連携コース（教育プログラム）	修士課程	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療現場のニーズに応じた医療機器の開発と人材育成 ● 医学研究科及び理工学研究科の教員により学部の壁を越えた教育をおこなう。

（出典：総務課調査）

医学系研究科の各専攻において学生ごとに研究指導教員を定めており（資料5-11）、学業及び生活面において心身両面からの指導と支援を行っている。

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

保健学専攻では開設当初より、原則として授業は夜間及び土曜日に開講している。また、長期履修制度やウェブ授業など、社会人大学院生に配慮した環境が整っている。

医学専攻では平成13年より社会人学生を受け入れ、第2期期間中には、社会人大学院生の就学をさらに促進するため、一般枠と社会人枠の相互移行を可能とする規程改正、夜間開講とWebクラス、短期集中演習、オンジョブトレーニング等の環境整備を行った（資料5-12）。医学専攻で学ぶ学生のほとんどは臨床医であり、地域医療体制の変化によっては一時的に研究を中断して診療に従事せざるを得ない。一般枠と社会人枠の相互移行により、これらの学生が安心して大学院に在籍することが可能となった。その結果、医学専攻における社会人大学院生の割合は第2期中期目標期間中増加しており、保健学専攻においては前期課程、後期課程ともに全て社会人学生である（資料5-18）。

資料5-11：研究指導教員

(研究指導教員) 第5条 学生の教育研究を指導するため、各学生ごとに研究指導教員を定める。
--

(出典：医学系研究科規程)

資料5-12：社会人学生の学業と生活の両立を支援する環境整備

課程	環境整備	内容
医学専攻 (博士課程)	一般枠と社会人枠の相互移行	平成25年度、在学中に一般枠と社会人枠を相互に移行できるよう規程改正。一般枠ではTA、RAを活用しつつ、研究に集中することが可能
	夜間開講とWebクラス	クラスター共通科目はほとんどが夜間開講しており、インターネットを介して視聴可能
	短期集中演習	クラスター共通科目の「統計疫学基礎・演習」及び「基礎医学実技実習」は短期集中とし、職場へ配慮
	オンジョブトレーニング	平成24年度からのネクストがんプロフェッショナル養成プランによる高度専門職医療人の育成のための科目を設置。
保健学専攻 (博士前期課程) (博士後期課程)	長期履修制度	職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えた一定の期間に計画的に教育課程を履修し課程を修了することを認める
	ウェブ授業	一部の授業はウェブでも参加可能として遠方の学生の便宜を図っている
	夜間、休日開講	社会人の便宜を図り、原則として授業は夜間および土曜日の開講、または休日の集中講義の形態で行っている

(出典：総務課調査)

また、高度化・多様化する医療の動向等を見据えて多様な学修・研究機会を設けるため、他の大学院あるいは専攻での一定期間の研究を認めており（資料5-13）、学生の派遣あるいは受け入れを行った（資料5-14）。さらに、関連する医療機関や研究機関との連携を積極的に進めている（資料5-15）。

資料5-13：他の大学院授業科目の履修

(他の大学院授業科目の履修) 第14条 研究科において教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、当該大学院の授業科目を履修させることができる。 2 前項の規定により、他の大学院の授業科目を履修しようとする者は、研究科長の許可を得なければならない。 3 第1項の規定は、教育学研究科及び医学系研究科にあつては第32条に規定する留学及び第33条に規定する休学により他の大学院（外国の大学院を含む）において学修する者に、工学資源学研究科にあつては第32条に規定する留学及び第33条に規定する休学により外国の大学院において学修する者にこれを準用する。 4 前2項の規定により修得した単位は、研究科委員会等の議を経て、合わせて10単位を限度として研究科において修得した単位とみなすことができる。
(他の専攻等の授業科目の履修) 第15条 修士課程及び博士前期課程にあつては、当該研究科規程の定めるところにより、他の専攻の授業科目を選択履修して、第19条の単位とすることができる。
(他の大学院等の研究指導) 第16条 大学院において、教育上有益と認めるときは、他の大学院（外国の大学院を含む。）又は研究所等との協議に基づき、学生が当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めるこ

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

とができる。ただし、修士課程及び博士前期課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

2 前項の規定により、他の大学院（外国の大学院を含む。）又は研究所等において 研究指導を受けようとする者は、研究科長の許可を受けなければならない。

（出典：秋田大学大学院学則）

資料5-14：他大学院での短期研究・他大学院からの短期受け入れ（人数）

区分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
博士課程	受入	1	0	0	0	2	2
	派遣	1	0	1	3	2	3

（出典：医学専攻学務委員会資料）

資料5-15：外部組織との連携による教育体制の工夫

外部組織・機関との連携例	内 容	効果の事例
秋田脳血管研究センターとの連携大学院	「脳循環代謝動態分野」を開設し、平成16年度から続いている	関連する医療機関と連携した教育実施体制の整備。現在1名在籍。
秋田大学・弘前大学・岩手医科大学の3大学で連携	がん治療専門医養成系用の共通科目の開講	関連する大学と連携した教育実施体制の整備。

（出典：総務課調査）

3. 入学者選抜方法の工夫

本研究科が入学者として求める学生像や必要な水準等をアドミッション・ポリシー（資料5-16）として定め、募集要項で詳細な情報を提供するとともに、博士課程・修士課程では、毎年7月～9月に大学院医学系研究科オープンラボ（講座訪問）を開催し、大学院の研究・教育内容、キャリアパス等の説明をおこなっている。

資料5-16：医学系研究科のアドミッション・ポリシー

<p><医学専攻（博士課程）> 本研究科では、教育目標を達成するために次のような具体的な目標を定めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院入学後の学業に支障のないだけの偏りのない知識と好奇心を持ち、生命科学や社会医学の研究に意欲を持つ人材を受け入れる。 2. 入試選抜の回数を増やし、より多くの機会を与えることにより、本研究科の目的に合致した人材の入学を促す。 3. 国内外の幅広い情報を収集し、我が国においてだけでなく他国の研究者と共同研究を行い、研究成果を世界に向けて発信できるよう、国内外を問わず様々な研究者とコミュニケーションがとれるような国際的視野を有する人材を受け入れる。 4. 国際的に幅広い人材を受け入れるために、外国人受験生に配慮した入試を行う。 5. 保健・福祉、医療経済、医療情報など様々な領域との関わりなしでは解決できない、現在の医学・医療の抱える課題を解決できるよう、豊かな教養・経験、多彩な価値観を有し、生命科学や社会医学の研究に意欲を持つ一般社会人を受け入れる。 6. 医学部学生についても、特に研究を強く志す人材については、学部課程の中途においても大学院に入学する機会を与え、早期から研究できるような柔軟な体制作りを目指す。
<p><医科学専攻（修士課程）> 本医学系研究科では、教育目標を達成するために次のような具体的な目標を定めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い知識を有し、医学的専門知識と技術の習得に意欲を持つ人材を受け入れる。 2. 他分野の専門知識を、医学・医療関連分野に応用・活用することを志す人材を受け入れる。 3. 生命科学研究者として研究成果を世界に向けて発信できるよう、国際的視野を有する人材を受け入れる。
<p><保健学専攻（博士前期課程）> 理念、目的に鑑みて、次のような入学者を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療や地域の保健医療において、指導的・管理的役割を担える専門職者となる意欲のある人 2. 地域の医療・保健問題の調査研究や問題解決に主体的に取り組み、それを通じて看護学及びリハビリテーション科学の発展に寄与できる教育者、研究者となる意欲のある人 3. 特定の専門分野に深く貢献できる高度の専門的職業人となる意欲のある人
<p><保健学専攻（博士後期課程）> 理念、目的に鑑みて、次のような入学者を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健学、特に看護学とリハビリテーション科学の領域で創造性に富む研究によって学問的基盤の確立と発展を担う研究者となる意欲のある人 2. 保健学に関する幅広い知識や専門領域における深い知識と優れた研究能力を有し、保健医療学系大学や大学院において学習者の葛藤に共感し効果的に援助できる教育者となる意欲のある人 3. 修士課程で培われた高度な専門的能力をさらに高め、実践の場において、自立した研究活動ができ、かつ優れたケア、指導、管理ができる高度専門職者を目指し、少子・高齢化に係る諸課題を総合的に探求・解決し、地域再生への貢献に意欲のある人

（出典：学生募集要項）

入試に際しては、志願理由書（博士課程）や研究希望調書（修士課程、博士前期課程）、

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

研究計画書（博士後期課程）等を事前に提出させ、目的意識や研究への意欲を評価し、これと学力検査等の結果を総合的に評価して合否を判定している（資料5-17）。

博士課程では、学力等を適切に見極める工夫として他大学院と共同で問題作成することで、出題の適正化を図っている。博士前期及び後期課程では一般入試による選抜とは別に、社会人を対象とした選抜をおこなっている（資料5-17）。

資料5-17：入学者選抜方法と主な工夫

課程	出願書類	学力検査科目等	主な工夫
博士課程 (医学専攻)	入学願書、最終学校成績証明書、志願理由書、受験許可・就学承諾書(社会人特別入試の場合)等	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語 ● 小論文 ● 面接 	<ul style="list-style-type: none"> ● 志願理由書により目的意識や研究への意欲を評価 ● 「英語」は平成18年度より弘前大学大学院と共同で作成
修士課程 (医科学専攻)	入学志願票、卒業(見込み)証明書、成績証明書、研究希望調書等	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語 ● 小論文 ● 面接 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究希望調書により研究への意欲を評価 ● 奨学金制度の充実(入学科、授業料の一部助成等)
博士前期課程 (保健学専攻)	入学志願票、卒業(見込み)証明書、成績証明書、研究希望調書等	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語(一般入試) ● 小論文 ● 面接 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会人を対象とした入試の実施
博士後期課程 (保健学専攻)	入学志願票、修了(見込)証明書、成績証明書、研究計画書、修士の学位論文等、研究業績等調書等	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語 ● 小論文 ● 専門科目及び面接(一般入試) ● 面接(社会人入試) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会人を対象とした入試の実施

(出典：平成28年度 医学系研究科各専攻の学生募集要項)

医学専攻（博士課程）は年度により増減は見られるものの、100%近い充足率を維持している（資料5-18、19）。また、第2期期間中に社会人大学院生の就学を促進するための環境整備を行った結果（再掲資料5-12）、社会人学生の占める割合が増加している。

一方、医科学専攻は平成24年度以降入学定員に達していない。ポスターやウェブサイトを利用した入試情報の提供のほか、各大学に募集要項を送付し、近隣の関係大学にはポスター及び募集要項を持参し説明することで周知に努めている。また、入学料の補助や授業料助成制度を制定するなど、学生の負担軽減に取り組んでいる。平成27年度には医理工連携コースを開設し、入学者の増加へ向けての改善策を講じた。

保健学専攻の博士前期課程は、平成27年度に1名の定員割れがあった以外、定員を充足している。博士後期課程は一時期募集定員を上回る入学者数の年度が連続したが、平成25年度以降は募集定員と入学者数が一致している。保健学専攻においては、第2期中期目標期間中に入学した学生は全て社会人学生である。

資料5-18：医学系研究科の学生定員と入学者数

専攻		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
博士課程 (医学専攻)	募集定員	30	30	30	30	30	30	
	入学者数	一般	11	11	9	8	7	6
		社会人	16	24	19	24	35	14
		計	27	35	28	32	42	20
	充足率(%)	90.0	116.7	93.3	106.7	140.0	66.7	
修士課程 (医科学専攻)	募集定員	5	5	5	5	5	5	
	入学者数	4	4	1	0	3	1	
	充足率(%)	80	80	20	0	60	20	
博士前期課程 (保健学専攻)	募集定員	12	12	12	12	12	12	
	入学者数	12	13	12	12	13	11	
	充足率(%)	100	108	100	100	108	92	
博士後期課程 (保健学専攻)	募集定員	3	3	3	3	3	3	
	入学者数	3	5	5	3	3	3	
	充足率(%)	100	167	167	100	100	100	

(出典：総務課調査)

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

資料 5-19：大学院医学系研究科・医学研究科の収容定員と在籍数（単位：名）

専攻	定員		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	入学定員	収容定員						
博士課程 (医学専攻)	30	120	112 (34) [6]	136 (37) [6]	144 (38) [4]	152 (36) [3]	170 (41) [1]	162 (37) [1]
修士課程 (医科学専攻)	5	10	9 (2) [1]	9 (2) [1]	5 (2)	1	3 (1)	4 (2)
博士前期課程 (保健学専攻)	12	24	26(18)	29(19)	29(21)	31(23)	31(23)	28(16)
博士後期課程 (保健学専攻)	3	9	7(4)*	12(8)	14(9)	13(7)	13(7)	12(6)

()内数女子、[]内数外国人留学生

*完成年度に達していないため、この時点での収容定員は6名となる

(出典：総務課調査)

4. 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

医学専攻（博士課程）では、平成 21 年に行われた大学院教育 F D の結果を受けて、平成 22 年度より遠隔地の医療機関に勤務する学生のためにインターネット授業配信システムを導入した。これにより各クラスターの講義について出席・成績などの履修状況を把握するとともに、内容に関して学生の意見を取り入れている。その結果、平成 27 年度にはクラスター共通科目の講義内容及び講義時間を全面的に改め、改善を図った（再掲資料 5-12）。

保健学専攻では、教員の教育力向上を目的とした F D 講演会を、保健学科と共同で年 1 回以上実施している（資料 5-20）。また、年度末に学生を対象に授業全般についてのアンケートをおこない、その結果を評価委員会で分析し、教授会に報告するとともに、個々の教員にフィードバックしている。

医学専攻では、医学教育の認証評価に向けて、平成 28 年度より医学科と共同で F D を開催することとなっている。

資料 5-20：保健学専攻の F D 講演会

開催年度	講演会タイトル
22年度	S C Q R M から質的研究のエッセンスを学ぶ
23年度	研究研磨を通して質的研究 (Grounded Theory Approach) のエッセンスを学ぶ
24年度	秋田から発信するこれからの医師・医療者育成教育の新展開 2013
25年度	専門職養成教育とキャリア教育
26年度	地域へつなぐ、地域でつなぐ暮らしの保健室の実践から見てきたこと
27年度	看護教育における模擬患者参加型教育方法の検討

(出典：総務課調査)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 外部委員が半数を占める教育研究カウンスルの設置により、教育課程の編成や教員の採用等についての意思決定過程を透明化し、社会のニーズを学部運営の体制整備に反映させるための制度づくりをおこなった。

博士課程（医学専攻）の入学者は年による増減はあるものの定員を満たしているが、修士課程（医科学専攻）の入学者数が定員を下回っている。ポスターやウェブサイト、郵便を利用した入試情報の提供のほか、入学料の補助や授業料助成制度を制定するなど、入試情報の周知と学生の負担軽減に取り組んでいる。平成 27 年度には医理工連携コースを開設し、入学者の増加へ向けての改善策を講じた。

また、修士課程及び博士前期課程の入学者増、社会からの要請に応える専門教育を推進するため、研究科長のリーダーシップにより 5 つの講座を新設あるいは改組を行い、がん専門看護師養成 (C N S) コースや医理工連携コース (教育プログラム) を新たに設置するなど、教育体制及び教育課程の改善に取り組んだ。

さらに、社会人大学院生の入学及び学修を促進するため、オンジョブトレーニングや夜間開講、長期履修制度、一般枠との相互移行等の環境整備を行った。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 体系的な教育課程の編成

本研究科の修了生が備えているべき基本的な素養や資質の要件をディプロマ・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成における基本方針をカリキュラム・ポリシーとして定めている（資料5-21、22）。

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーで定めた能力を踏まえ、専攻ごとに、必修科目、選択必修科目、選択科目から構成される教育課程を編成している。

資料5-21：医学系研究科のディプロマ・ポリシー

<p>医学専攻（博士課程）</p> <p>医学専攻（博士課程）では、次のような能力・知識を備え、医学専攻（博士課程）を修了した者、もしくは一定の医学研究歴を持ち、学位論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格した者に、博士（医学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進するための幅広い知識と研究技法を身につけている。 2. 世界へ向けて卓越した学術研究の成果を発信できる国際的視野を備えている。 3. 幅広い視野を身につけ、自ら問題点を抽出して研究活動を行うことができる。
<p>医科学専攻（修士課程）</p> <p>医科学専攻（修士課程）では、次のような能力・知識を備え、医科学専攻（修士課程）を修了し、修士論文の審査に合格した者に、修士（医科学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療・生命科学の幅広い知識を身につけている。 2. 研究成果を世界に向けて発信できる国際的視野を備えている。 3. 医学・医療関連分野の領域横断的な諸問題の解決に有用な幅広い学問的背景をもち、実践的な技術・技能を習得している。
<p>保健学専攻（博士前期課程）</p> <p>学位は下記の要件を備え、保健学専攻博士前期課程を修了した者に授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療人として専門分野について高度の知識と優れた技術を習得している。 ● 人間性や倫理観を裏付ける豊かな人格を持ち、幅広く高い教養を身につけている。 ● ニードのある人々の医療や保健活動に関する献身的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の統合と的確な判断を行い、必要な行動を示すことができる。 ● 障がいのある人々やその家族を理解し支援できる柔軟で豊かな人間性を身につけている。
<p>保健学専攻（博士後期課程）</p> <p>学位は下記の要件を備え、保健学専攻博士後期課程を修了した者に授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 向上心と協調性、そして地域住民の健康や福祉に寄与したいとする意志と豊かな人間性を身につけている。 ● 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、国際的視点を持ちつつ生涯を通して自らを高めることができる。 ● 患者・障がい者および住民の健康の維持・増進と健康障がいからの回復に寄与するために医療人として責任をもって行動をとることができる。 ● 患者・障がい者・家族と保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員としての役割を果たすことができる。

(出典：医学系研究科・医学部 理念 <http://www.med.akita-u.ac.jp/about/rinen.html>)

資料5-22：医学系研究科のカリキュラム・ポリシー

<p><医学専攻（博士課程）></p> <p>医学専攻では、人類の健康・福祉と生命科学の発展に貢献できる国際的視野を備えた研究者を養成し、高度先進医学・医療を推進することにより、地域における医学・医療の中核としての役割を担い、医師・医学者を養成することを目的として教育課程を編成する。特色としては大学院生の志望の多様化に対応し、より充実した教育システムを構築するため、講座横断的な教育・履修コース（クラスター）が設けられており、クラスター共通科目及びそれぞれのクラスター専門科目の講義・実習を受けることで、各自の研究を幅広い視野から効率よく進めることができる。</p>
<p><医科学専攻（修士課程）></p> <p>医科学専攻では、医学・医療関連分野における領域横断的な諸問題の解決に有用な幅広い学問的背景を持った人材を養成することを目的として教育課程を編成する。基礎科目には、医療関連分野の現状を理解して未来を展望できる人材養成のための科目、医科学の基本となる生命科学を修得するための科目等を配置し、専門科目には実践的な技術・技能を修得するため、最新の機器を利用した実習等を配置している。</p>
<p><保健学専攻（博士前期課程）></p> <p>地域の健康と福祉の問題解決に主体的に取り組み、保健医療の中核を担える高度な知識と技能を有する人材を養成するための教育課程を編成する。</p> <p>共通科目では、秋田県の保健医療の現状と課題の理解、保健医療倫理の高度な思考、指導的・管理</p>

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

的能力、並びに国際的視野を養成する。看護学領域とリハビリテーション科学領域では、様々な臨床的問題を論理的に解決するための研究指導を行う。看護学領域のがん看護専門看護師（CNS）コースでは、がん看護の高度な実践能力を育成するための科目を配置する。

<保健学専攻（博士後期課程）>
 これまでに修得した保健学に関する知識・技術・研究基盤能力を深化させ、より幅広い知識と深い洞察力、高度な論理的思考を有し、創造性に富む優れた研究活動ができる高度専門職者を育成するための教育課程を編成する。
 少子高齢化問題に焦点を当て、共通科目では、保健政策の現状と課題への深い理解と、高度な情報処理能力を養成する。女性・小児発達支援分野と生活機能・健康行動支援分野では、次世代を健やかに育てるための基盤としての女性と子供への支援、または高齢者の身体・心理・社会的特性を考慮した健康支援に繋がる、高度な学術レベルの研究を実現するための研究指導を行う。

（出典：医学系研究科・医学部 理念 <http://www.med.akita-u.ac.jp/about/rinen.html>）

(1) 博士課程（医学専攻）

博士課程では、在学期間の前半はクラスター共通基礎科目及びクラスター専門科目を複数の教員が担当して指導が行われる。後半は各研究科目において専門分野を履修する（資料5-23、24）。

平成22年度より遠隔地の医療機関に勤務する学生のためにインターネット授業配信システムを導入した。また、平成27年度には学生から得られた意見を多く取り入れ、より実践的かつ研究者として最低限必要な内容及び研究倫理に関する科目の増設等、全面的に改定した。

専門科目は44科目からなり（資料5-25）、学生は自分が希望する科目を選択し、学位取得に向けて指導教員の下、実践的な研究活動をおこなう。

資料5-23：医学専攻クラスター共通科目及び専門科目

科目区分	授業科目の名称	単位数		科目区分	授業科目の名称	単位数			
		必修	選択			必修	選択		
クラスター 共通基礎科目	生命科学概論	2		炎症・免疫系	免疫学・実習		1		
	臨床医学概論	2			免疫・アレルギー学・実習		1		
	最新医学研究	2			血液学・腎臓病・膠原病・実習		1		
	医用統計疫学基礎・演習	2			がん免疫学・実習		1		
	医学研究セミナー		1		炎症学（I）・実習		1		
	基礎医学技術実習		1		炎症学（II）・実習		1		
クラスター 専門科目	薬理学・実習					炎症と全身管理学・実習		1	
	免疫・アレルギー学・実習		1		神経科学系	イオンチャネル神経機能学・実習		1	
	呼吸器学・実習		1			神経伝達機構・実習		1	
	神経科学・実習		1			神経科学・実習		1	
	薬学・実習		1			睡眠学・実習		1	
	循環器外科学・実習		1			脳神経外科学・実習		1	
	循環器学・実習		1			運動生理学・実習		1	
	麻酔学・実習		1			神経眼科学・実習		1	
	細胞生物学・実習		1	神経耳科学・実習			1		
	生体調節外科学・実習		1	神経放射線医学・実習			1		
	生体力学・実習		1	脳代謝機能学・実習			1		
	理 病 態 系	分子病理学・実習		1		社会 医学 系	蘇生学・実習		1
		細胞病理学・実習		1			脳神経解剖学・実習		1
		肝・胆道病理学・実習		1			法医学・実習		1
		心臓血管病理学・実習		1			環境保健学・実習		1
		循環病理学・実習		1	健康増進・実習			1	
		小児外科学・実習		1	医療情報システム学・実習			1	
	臓器 発生 ・ 再生系	肺疾患・実習		1	データベース活用論			1	
		細胞の超微細構造・実習		1	医学英語・活用実習			1	
		周産期の病理学・実習		1	がんの生物学と社会医学			1	
		東洋医学・実習		1	がんの生物学と社会医学			1	
		基礎腫瘍学・実習		1	特別研究セミナー			1	
		再生医学・実習		1	化学療法と免疫療法の基礎と臨床			1	
	代 謝 ・ 情 報 系	毛髪の再生学・実習		1	がん治療 専門医養 成系		放射線療法の基礎と臨床		1
造血系の再生学・実習			1	進行がんへの対処、緩和療法、支持療法				1	
心・血管再生学・実習			1	自殺対策基本法と自殺総合対策			1		
骨・軟骨・歯の再生学・実習			1	地域における自殺の現状と対策			1		
肝臓学特論・実習			1	医療的側面からみる自殺行動			1		
代謝学特論・実習			1	自殺対策へ向けた新たな方向性			1		
地域医療 政策学 ・ 自殺予防 学系	糖尿病学特論・実習		1	自殺対策のあり方			1		
	イオンチャネル神経機能学・実習		1	自殺予防活動の実践研究			1		
	神経伝達機構・実習		1	地域医療経営学			1		
	脳・神経代謝機能学・		1	医療安全管理学			1		
				医療行政学			1		

※クラスター所属学生は5単位以上選択（がん治療専門医養成系は5単位必修）

（出典：医学系研究科医学専攻（博士課程）授業計画）

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

資料5-24：クラスター共通科目の授業科目とその概要

授業科目の名称	授業概要
生命科学研究概論 (2単位)	生命科学研究において用いられている解析技術について、主要な原理・理論を理解するとともに実験手法の医科学への応用について学ぶ。全16回。Webクラスを用いてインターネット配信される。
臨床医学研究概論 (2単位)	優れた臨床研究をおこなうための基本的研究手法及び法律と倫理を習得し、研究によって得られる知的財産の保護と活用法について学ぶ。全16回。Webクラスを用いてインターネット配信される。
最新医科学研究 (2単位)	最新の研究をオムニバス方式で紹介し、世界トップレベルの研究をおこなうための科学的思考法や研究手法について学ぶ。全16回。1単位分(8回)は英語での講義をおこなう。Webクラスを用いてインターネット配信される。
医用統計疫学 基礎・演習 (2単位)	医学統計及び臨床疫学を講義とコンピュータ演習による短期集中方式で学ぶ。
医科学研究セミナー (1単位)	学内の各講座や生体情報研究センターが主催するセミナーに、予め定められた回数以上参加することで、当該領域の研究手法や医科学研究の知見を学ぶ。
基礎医学技術実習 (1単位)	医学研究科の主に基礎系講座において、実験技術を習得する。各研究室において講義、実習及び自習を含め系30時間以上履修する。

(出典：医学系研究科医学専攻(博士課程)授業計画)

資料5-25：医学専攻専門科目の単位数及び履修方法

科目区分	授業科目の名称	単位数		履修方法	科目区分	授業科目の名称	単位数		履修方法
		必修	選択				必修	選択	
研究 科 目	形態解析学・器官構造学		15	所属講 座の科 目1科 目15単 位選択 必修		地域がん包括医療学		15	所属講 座の科 目1科 目15単 位選択 必修
	細胞生物学		15			精神科学		15	
	細胞生理学		15			皮膚科学・形成外科学		15	
	器官・統合生理学		15			小児科学		15	
	分子機能学・代謝機能学		15			放射線医学		15	
	分子生化学		15			総合診療・検査診断学		15	
	情報制御学・実験治療学		15			医療情報学		15	
	薬剤学		15			消化器外科学		15	
	分子病態学・腫瘍病態学		15			胸部外科学		15	
	器官病態学		15			心臓血管外科学		15	
	微生物学		15			脳神経外科学		15	
	生体防御学		15			小児外科学		15	
	環境保健学		15			整形外科学		15	
	公衆衛生学		15			腎泌尿器科学		15	
	法医学		15			産婦人科学		15	
	医学教育学		15			眼科学		15	
	地域医療政策学		15			耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学		15	
	消化器内科学・神経内科学		15			麻酔・蘇生・疼痛管理学		15	
	循環器内科学・呼吸器内科学		15			救急・集中医療医学		15	
	血液・腎臓・膠原病内科学		15			歯科口腔外科学		15	
	内分泌・代謝・老年内科学		15			腎疾患先端医療学		15	
	臨床腫瘍学		15			(連)脳循環代謝動態学		15	

注) クラスター専門科目については、指導教員の許可を得て、選択必修5単位のうち、2単位までは他のクラスター専門科目の単位数をもって充てることができる

(出典：医学系研究科医学専攻(博士課程)授業計画)

(2) 修士課程(医科学専攻)

修士課程は2年間という短期間であるため、集中講義形式を取り入れ、大凡の知識を身に付けた上で研究に取り組むプログラムとしている。基礎科目14単位以上と専門科目16単位以上の計30単位以上を履修する。基礎科目は臨床医学総論や細胞・人体の形態と機能、医学概論を必修とし(9単位)、それ以外に8科目の選択科目から成る(資料5-26)。

平成27年度に開設した医理工連携コースでは、本コースの学生のみを開講される選択必修科目を設け、それと各研究科が定める科目を合わせた独自の教育課程で構成されている(資料5-27、28)。

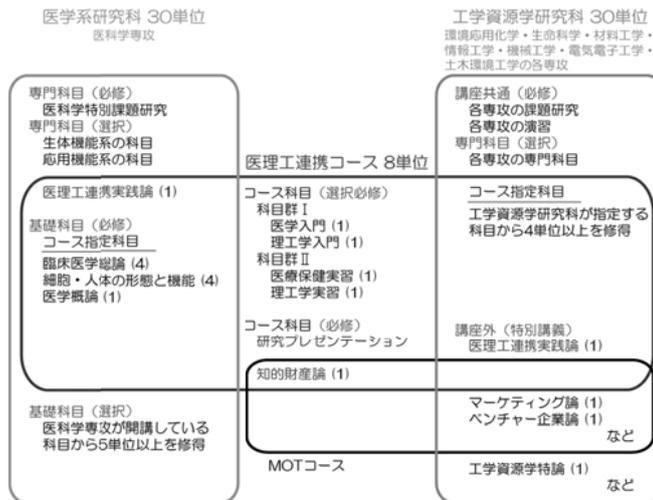
秋田大学医学系研究科 分析項目 I

資料5-26：医科学専攻の授業科目、単位数、及び履修方法

科目区分	授業科目の名称	単位数		履修方法	
		必修	選択		
基礎科目	臨床医学総論	4		5 単位以上	
	細胞・人体の形態と機能	4			
	医学総論	1			
	地域医療政策と環境保険		1		
	医学英語		1		
	先端細胞培養技術		1		
	生体分子定量技術		1		
	遺伝子組換え技術		1		
	動物実験技術		1		
	データベースの有効利用法		1		
	光学・電子顕微鏡操作法		1		
専門科目	生体機能系	バイオテクノロジーの最前線		2	8 単位以上
		分子生物学特論		2	
		再生医学		2	
		生理学・内分泌学		2	
		神経科学		2	
	免疫学		2		
	応用機能系	最新の予防医学		2	
		遺伝子診断学		2	
		画像診断学		2	
		新興・再興感染症		2	
腫瘍学			2		
	医理工連携実践論		1		
	医科学特別課題研究	8			
		17	13		

(出典：医学系研究科医科学専攻（修士課程）授業計画)

資料5-27：医理工連携コースの履修科目概要



(出典：平成 27 年度医理工連携コース（教育プログラム）履修案内)

資料5-28：医理工連携コースの履修科目

科目区分	科目名	単位数	摘要	
必修科目 (両研究科)	医理工連携実践論	1	2 単位修得すること。なお、医理工連携実践論は、各研究科の卒業要件の単位数に含めることができる。	
	知的財産論	1		
	研究プレゼンテーション	※		
選択必修科目 (両研究科)	科目群 I	1	1 単位以上修得すること。なお、医学系研究科は理工学入門、工学資源学研究科は医学入門を選択することが望ましい。	
	科目群 II	1		
	医療保健実習	1		
	理工学実習	1		
指定科目 (各研究科)	医学系	臨床医学総論	4	3 科目から 4 単位以上を修得すること。なお、いずれも医学系研究科の必修科目であり、医学系研究科医科学専攻の修了要件に含めることができる。
		細胞・人体の形態と機能	4	
		医学概論	1	
	工学資源学	先端有機材料特論	2	
		生物化学工学特論	2	
		細胞生物学特論	2	
		分子生物学特論	2	
疾患生物学特論	2			
生命無機化学特論	2			

	材料物理学特論	2	
	感覚情報工学	2	
	画像情報学	2	
	データ解析	2	
	応用電気磁気学特論	2	
	計測システム工学特論	2	
	バイオメカニクス特論	2	
	バイオ電磁気工学	2	
	通信工学特論	2	
	都市システム計画特論	2	
	構造力学特論	2	
合計		8単位以上を修得すること。	

(出典：平成 27 年度医理工連携コース（教育プログラム）履修案内)

(3) 博士前期課程（保健学専攻）

博士前期課程は看護学領域とリハビリテーション科学領域から構成される。がん看護専門看護師（CNS）コース以外の学生は、専攻共通科目 6 単位と特別研究 10 単位を含めた合計 30 単位を修了要件単位としている（資料 5-29、30）。

平成 22 年度に開設した CNS コースでは、がん看護に関する高度な理論と実践方法を専攻共通科目（必修 8 単位）と専攻分野共通・専門科目（必修 14 単位）から履修する。合計 34 単位を修了要件単位とし、修了時に CNS 認定審査の受審資格を得る（資料 5-31）。

資料 5-29：保健学専攻（博士前期課程）看護学領域の履修科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	分野別履修方法						
			基礎看護学分野			臨床看護学分野			
			必修	選択 A	選択 B	必修	選択 A	選択 B	
専攻共通	保健学特論	2	2			2			
	保健医療倫理学	2	2			2			
	保健医療管理学	2		2			2		
	国際保健医療協力論	2							
看護学領域	領域共通	看護学研究方法論	2		2			2	
		看護教育学	2						
		ヘルスプロモーション特論	2						
	基礎・地域看護学	看護職健康管理論	2		2			2	
		看護技術学特論	2						
		地域・在宅看護学特論	2						
		基礎・地域看護学演習	2	2		8			8
		基礎・地域看護学特別研究	10	10					
	臨床看護学	成人期支援看護学特論	2		2			2	
		高齢支援看護学特論	2						
		女性・小児・家族支援看護学特論	2						
		臨床看護学演習	2				2		
	臨床看護学特別研究	10				10			

(出典：保健学専攻履修案内)

資料 5-30：保健学専攻（博士前期課程）リハビリテーション科学領域の履修科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	分野別履修方法				
			理学療法学分野		作業療法学分野		
			必修	選択	必修	選択	
専攻共通	保健学特論	2	2		2		
	保健医療倫理学	2	2		2		
	保健医療管理学	2		2		2	
	国際保健医療協力論	2					
リハビリテーション科学領域	領域共通	生活機能学特論	2	2		2	
		障害保健医療学特論	2	2		2	
		生活支援技術学特論	2	2		2	
	理学療法学	基礎理学療法学特論	2				
		病態理学療法学特論	2				
		理学療法研究法特論	2	2			
		理学療法学演習	2	2			
		理学療法学特別研究	10	10			
	作業療法学	基礎作業療法学特論	2				
病態作業療法学特論		2					

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

	作業療法研究法特論	2			2	
	作業療法学演習	2			2	
	作業療法学特別研究	10			10	

(出典：保健学専攻履修案内)

資料5-31：保健学専攻（博士前期課程）がん看護専門看護師（CNS）コースの履修科目

科目区分		授業科目の名称	単位数	必修	選択	履修方法
専攻共通		保健学特論	2		2	共通科目 12単位以上
		保健医療倫理学	2	2		
		保健医療管理学	2	2		
		国際保健医療協力論	2		2	
看護学領域	領域共通	看護学研究方法論	2	2		
		看護教育学	2	2		
		ヘルスプロモーション特論	2	2		
		コンサルテーション論	2	2		
	基礎・地域看護学	看護職健康管理論	2		2	
		看護技術学特論	2		2	
		地域・在宅看護学特論	2		2	
	臨床看護学	成人期支援看護学特論	2		2	
		高齢支援看護学特論	2		2	
		女性・小児・家族支援看護学特論	2		2	
		臨床看護学演習	2		2	
	専攻分野共通	がん病態生理学	2	2		
		がん看護理論	2	2		
		がん看護援助論Ⅰ	2	2		
		がん看護援助論Ⅱ	2	2		
	専攻分野専門	がん看護学特論	2	2		
がん看護学演習		2	2			
がん看護学実習Ⅰ（がん看護実戦）		2	2			
がん看護学実習Ⅱ（がんCNS役割）		2	2			
がん看護学実習Ⅲ（がんCNS役割実践）		2	2			
がん看護課題研究		4	4			

(出典：保健学専攻履修案内)

(4) 博士後期課程（保健学専攻）

博士後期課程は、2分野の院生が共通に学ぶ共通科目を3科目設けており、学生が必要に応じて量的研究に必要な情報処理および統計学の高度な知識を学習できるようにしている。両分野ともに、共通科目2単位、博士論文の完成をもって単位認定する特別研究（6単位）を含めた専攻科目10単位、合計12単位を卒業要件単位数としている（資料5-32）。

資料5-32：保健学専攻（博士後期課程）の履修科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	分野別履修方法			
			女性・小児発達支援科学分野		生活機能・健康行動支援科学分野	
			必修	選択	必修	選択
共通科目	保健政策・医療コミュニケーション論	1	1		2	
	保健情報解析学特論	1		1	2	
	生命情報解析学特論	1				
専門科目	女性・小児発達支援科学分野	女性・小児発達支援科学特論	2	2	2	
		女性・小児発達支援科学演習A	2			
		女性・小児発達支援科学演習B	2			
		女性・小児発達支援科学特別研究	6	6		
	生活機能・健康行動支援科学分野	生活機能・健康行動支援科学特論	2			2
		生活機能・健康行動支援科学演習A	2			
		生活機能・健康行動支援科学演習B	2			
		生活機能・健康行動支援科学演習C	2			
		生活機能・健康行動支援科学特別研究	6			6

(出典：保健学専攻履修案内)

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

2. 社会のニーズに対応した教育課程の編成及び地域への教育サービス

社会のニーズに対応して各専攻に新たなクラスターや教育コースを開設した（資料5-33）。その多くが社会人学生を対象としており、同時に社会人学生が受講しやすい環境整備を行った（再掲資料5-12）。

また、地域への教育サービスの一環として、医学系研究科の教員が市民と医学のテーマで語り合う「メディカル・サイエンスカフェ」を、第1期中期目標期間より毎年開催している。平成24年度からは教育文化学部と連携し「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」として、秋田県内各地で開催している（資料5-34）。医師及び医療関係者が、病気に関することを一般の視聴者にわかりやすく説明するテレビ番組「知っとく医療のつぼ（ABS秋田放送）」が毎週放送されており、医学系研究科及び医学部附属病院の教員が多く出演している。2009年に始まり、2017年7月末現在の放送回数は316回にのぼる。その他、秋田大学主催あるいは講座が主体となった市民向け公開講座を開催している（資料5-35、36）。

また、保健学専攻では市民向け公開講座に加えて、医療従事者や自治体と連携した教育サービスを提供している（資料5-37）。とりわけ、医学系研究科の重点研究のひとつである自殺予防対策研究の一環として実施している自殺予防介入事業では、当該地区での自殺者数減少が確認されるなどの効果を上げている。

資料5-33：社会のニーズに対応した教育課程の編成

課程	教育課程に新たに編成されたクラスター・コース等	開設の経緯と教育内容
博士課程 (医学専攻)	「がん治療専門医養成系」クラスター	<ul style="list-style-type: none"> がんプロフェッショナル養成基盤推進プランネクストと連動したクラスター。 オンジョブトレーニングを特徴とし、ソーシャルネットワークサービス、地域がん医療ネットワーク、遠隔授業システムなどにより、がん治療に携わる人材を養成
博士課程 (医学専攻)	「地域医療政策学・自殺予防学系」クラスター	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療政策に係る人材育成を目的として、地域医療政策学講座を設置すると同時に開設
博士前期課程 (保健学専攻)	がん看護専門看護師コースの開設	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年開設 がん看護専門看護師を目指す看護師を対象として、がん看護分野における実践、教育、相談、調整、研究、および倫理的調整の役割を担い得る人材を養成
修士課程 (医科学専攻)	医理工連携コース（教育プログラム）の開設	<ul style="list-style-type: none"> 「医学と理工学の両方の言葉を理解できる人材を育成する」をキャッチフレーズに平成27年度開設。 医学研究科及び理工学研究科の教員により学部の壁を越えた教育をおこなう。

（出典：医学専攻シラバス、保健学専攻履修案内、医理工連携履修案内）

資料5-34：メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト開催

開催年度	開催地	内容
平成22年6月	秋田市	テーマ「最新の緑内障診断と治療」
平成22年9月	秋田市	テーマ「『死因不明社会』からの脱却を目指して」
平成22年11月	横手市	「動脈硬化発症のメカニズムと予防・治療のポイント」 *秋田市外での初の開催
平成22年12月	秋田市	テーマ「脂質の医学研究—最新状況とこれから」
平成23年6月	秋田市	テーマ「なくならない命のながれ：産婦人科の仕事」
平成23年9月	秋田市	テーマ「解剖学実習と献体」
平成23年12月	秋田市	テーマ「新しい戦略による小児疾患の予防と治療」
平成24年10月	横手市	テーマ「健康長寿社会のために～あなどれない高血圧・高血圧管理と運動～」 参加者 111名
平成24年10月	北秋田市	テーマ「健康長寿社会のために～あなどれない高血圧・高血圧管理と運動～」 参加者 190名
平成25年8月	横手市	テーマ「高齢社会を明るく元気に生きる」参加者 120名
平成25年9月	北秋田市	テーマ「高齢社会を明るく元気に生きる」参加者 200名
平成25年10月	美郷町	テーマ「高齢社会を明るく元気に生きる」参加者 110名
平成26年8月	八峰町	テーマ「高齢社会を明るく元気に生きる」
平成26年9月	潟上市	テーマ「高齢社会を明るく元気に生きる」
平成26年10月	東成瀬村	テーマ「高齢社会を明るく元気に生きる」参加者 50名
平成27年7月	仙北市	テーマ「高齢社会を明るく元気に生きる」

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

平成 27 年 10 月	能代市	テーマ「高齢社会を明るく元気に生きる」
--------------	-----	---------------------

※平成 23 年度までは医学系研究科単独開催の「メディカル・サイエンスカフェ」として実施。24 年度からは教育文化学部との共同で「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」と名称を変更し継続。
 (出典：平成 22～26 事業年度に係る業務の実績に関する報告書、秋田大学地域創生センター年報)

資料 5-35：専攻主催の秋田大学公開講座

開催年度	専攻	テーマ
22 年	医学	もっと知りましょう、緩和ケア
22 年	医学	『がん』を知って大切な人を守ろう
22 年	保健学	健康な生活習慣を身につけようー保健学からの支援ー
22 年	医学	総合自殺予防学インテンシブコース
23 年	保健学	身近な人を支える知識と技術～保健学からの提案～
23 年	医学	総合自殺予防学インテンシブコース ～地域の絆づくりと自殺予防～
24 年	保健学	睡眠についてー保健学の視点からー
24 年	医学	「総合自殺予防学インテンシブコース～地域におけるメンタルヘルスプロモーションの推進～」
25 年	保健学	腰痛ー原因別に見た対策と予防ー
25 年	医学	総合自殺予防学インテンシブコース ～地域における自殺対策の科学的エビデンスと展望～
26 年	医学	酸素を運搬する細胞『赤血球』を科学する
26 年	保健学	女性教員とやさしく学ぶ認知症講座ー対応方法・地域での取り組み・予防についてのヒントー

(出典：秋田大学公開講座 過去の実績 http://www.pcix.akita-u.ac.jp/public/pu_exhibition_old.html)

資料 5-36：講座主催の公開講座・市民講座等（がんプロ主催を含む）※

開催年月	主催講座	テーマ	参加人数
22 年 7 月	公衆衛生学講座	フォローアップ研修会	約 200 人
22 年 10 月	がんプロフェッショナル養成	「がん」を知って大切な人を守ろう	113 人
23 年 2 月	腎泌尿器科学講座	「がん治療」の未来を語る	310 人
23 年 2 月	感染・免疫アレルギー・病態検査学講座	第 17 回 アレルギー週間市民公開講座	約 100 人
23 年 2 月	がんプロ	“がん”を知って命を見つめる	約 310 人
23 年 7 月	公衆衛生学講座	第 4 回秋田メンタルヘルスサポーターフォローアップ研修会	約 200 人
24 年 3 月	産婦人科学講座	秋田美人のすこやか女性フォーラム 2012	約 100 人
23 年 8 月	北東北がんプロ 4 大学	どうする今後の北東北のがん専門医療人養成	約 200 人
24 年 2 月	北東北がんプロ 4 大学	北東北がんプロを経験して	約 50 人
24 年 3 月	感染・免疫アレルギー・病態検査学講座	第 18 回 アレルギー週間市民公開講座	約 60 人
24 年 7 月	公衆衛生学講座	第 5 回秋田メンタルヘルスサポーターフォローアップ研修会	約 200 人
24 年 11 月	がんプロ	次世代がん治療推進専門家養成プラン AKITA～秋田県の明日のがん医療を考える～	約 64 人
24 年 12 月	がんプロ	がん学 事始め～第 2 弾～「輪をもって尊しとなす 輪と和（チームと心）～」	80 人
25 年 3 月	感染・免疫アレルギー・病態検査学講座	第 19 回 アレルギー週間市民公開講座	約 60 人
25 年 7 月	がんプロ	出陣！がん医療夏の陣	約 106 人
25 年 7 月	公衆衛生学講座	第 6 回秋田メンタルヘルスサポーターフォローアップ研修会	約 200 人
26 年 1 月	がんプロ	放射線治療についてもっと知ろうよ～みんなで協力して治す治療～	77 人
26 年 1 月	がんプロ	緩和ケアを地域に広げるために～広島県緩和ケア支援センターの取り組み～	58 人
26 年 3 月	総合診療・検査診断学講座	第 20 回 アレルギー週間市民公開講座	約 50 人
26 年 3 月	がんプロ	地域がん医療を担う薬剤師の明日を考える 2014	45 人
26 年 4 月	耳鼻科咽頭科・頭頸部外科学講座	市民講座「難聴を克服する」	約 70 人
26 年 5 月	耳鼻科咽頭科・頭頸部外科学講座	市民講座「喉頭の日」	約 70 人
26 年 6 月	がんプロ	地域がん医療フォーラム in AKITA	1 部 75 人 2 部 45 人
26 年 7 月	公衆衛生学講座	第 7 回秋田メンタルヘルスサポーターフォローアップ研修会	約 200 人
26 年 8 月	耳鼻科咽頭科・頭頸部外科学講座	市民講座「鼻の日」	約 100 人
26 年 9 月	脳神経外科学講座	市民公開講座「症状からみる脳と神経の病気」	約 50 人
26 年 9 月	耳鼻科咽頭科・頭頸部外科学講座	日本脳神経外科学会市民公開講座	約 50 人
26 年 10 月	循環器内科学講座	心不全市民公開講座	約 80 人
26 年 11 月	公衆衛生学講座	「自殺予防・心の健康づくり」特別講演会	約 70 名

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

27年2月	総合診療・検査診断学講座	第21回 アレルギー週間市民公開講座	約100人
27年4月	産婦人科学講座	秋田美人のすこやか女性フォーラム 2015～女性らしく生きるために～	約100人
27年7月	公衆衛生学講座	第8回秋田メンタルヘルスサポーターフォローアップ研修会	約200人
27年11月	循環器内科学講座・脳神経外科学講座・心臓血管外科学講座	県民の命を守る秋田大学医療フォーラム「心臓・脳・大血管疾患を克服しよう」	約300人
28年3月	総合診療・検査診断学講座	第22回 アレルギー週間市民公開講座	約50人

※がんプロ：がんプロフェッショナル養成プラン（平成19～23年度）及びがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（平成24～28年度）のコア講座が主催した公開講座等
（出典：総務課調査）

資料5-37：保健学専攻における地域のニーズに対応した教育サービス

講座	内容
基礎看護学講座	行政と連携した自殺予防介入事業（自殺に関する講演会、保健師に同行しての個別訪問相談等）。
臨床看護学講座	一般住民向けメンタルヘルス等の学習機会の提供や専門職を対象とした糖尿病ケアや相談援助スキルアップ研修の提供。
地域・老年看護学講座	訪問看護師やケアマネージャーを対象とした教育プログラム（認知症サポーター養成講座等）の提供。

（出典：総務課調査）

3. 教育方法の工夫

クラスター共通科目においては、Webクラスを用いたインターネット講義や短期集中実習を導入し（再掲資料5-24）、その他の科目においては教員1名あたり学生数名の少人数教育であり、講義、実習、演習をバランスよく組み合わせ、教員とのほぼマンツーマン方式で教育効果を上げている（資料5-38）。また、社会人大学院生が無理なく修学可能な環境を整えている（再掲資料5-12）。

また、博士課程、修士課程とも、TA、RAを積極的に活用しており、学部教育や研究のサポートを行うことで大学院生にとってもメリットがあるよう工夫している。現時点ではTA、RAとも、希望通りの時間数で業務できている（資料5-39）。

医学研究者に求められる倫理観、公正性及び生命倫理等については、各課程において授業に取り入れている。博士課程及び修士課程においては、医学系研究科倫理委員会が講義を担当し、学生から卒業研究者までを包括した内容としている（資料5-40）。

資料5-38：授業形態別科目数（平成27年度）

課程（専攻名）	クラスター共通科目	クラスター選択科目	講義	実験・実習	演習	その他
博士課程（医学専攻）	*6	**73	3	54	7	0
修士課程（医科学専攻）	—	—	21	4	2	0
博士前期課程（保健学専攻）	—	—	28	10	3	0
博士後期課程（保健学専攻）	—	—	5	7	0	0

*クラスター共通科目では、インターネット授業や短期集中演習方式を取り入れている。

**クラスター選択科目は講義・実習が一体となった科目である。

（出典：総務課調査）

資料5-39：TA、RAへの採用人数

課程（専攻名）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
博士課程（医学専攻）	60	63	49	43	35	25
修士課程（医科学専攻）	6	5	4	0	1	2
博士前期課程（保健学専攻）	0	0	0	0	0	0
博士後期課程（保健学専攻）	0	0	0	0	0	0

（出典：総務課調査）

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

資料 5-40：各課程における研究倫理教育

課程 (専攻名)	研究倫理について取り扱う科目
博士課程 (医学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> ● クラスタ共通基礎科目「医学研究に関する法と倫理」：倫理委員長が講義を行う ● クラスタ共通基礎科目「治療薬・治療法開発のための臨床試験」：臨床研究支援センター長が講義を担当
修士課程 (医科学専攻)	医学概論の中で医療倫理に関する集中講義を行っている。
博士前期課程 (保健学専攻)	専攻共通科目の保健医療倫理学（必修）において保健医療の場で遭遇する倫理的課題を探求し、生命倫理への深い理解を促している。
博士前期課程 (保健学専攻)	看護学領域では、看護学研究方法論の中でも看護研究倫理について詳しく学習する場を設けている。

(出典：医学系研究科医学専攻（博士課程）授業計画，医学系研究科医科学専攻（修士課程）授業計画，保健学専攻履修案内)

4. 学生の主体的な学習を促すための取り組み

学生ごとに定められた研究指導教員を中心とした指導と支援が効果的に機能している。

社会人学生は、職務と研究との調整についても研究指導教員を通じて個別に対策を講じている。特に、医学専攻では学生の多くが臨床医であるため、地域医療に従事しながら大学院に在籍して研究を継続できるよう、支援する体制をとっている（再掲資料 5-12）。

また、大学院には在学期間の短縮についての特例があり（資料 5-41）、博士課程ではこれを具体化することで学生のモチベーション向上を図っている（資料 5-42、43）。

資料 5-41：博士課程の修了要件

(博士課程の修了要件)

第 20 条 医学系研究科博士課程の修了の要件は、当該過程に 4 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に 3 年以上在学すれば足りるものとする。

(出典：大学院学則)

資料 5-42：博士課程修了の特例を適用する場合の判定基準

2. 次の各号のいずれかに該当する場合は、課程修了の特例を適用する者として、学位論文の審査を認める。

(1) 学位提出論文が掲載された学術誌の IF が 2.0 位上であること。

なお、複数の筆頭著者に論文については、当該論文掲載誌の IF を筆頭著者の数で除した数値をもって評価の対象とする。

(2) 学位提出論文が掲載された学術誌が、JCR (Journal of Citation Research) のカテゴリのいずれかにおいて、上位 50%以内にランクされていること。

なお、複数の筆頭著者による論文については、筆頭著者が 2 名の場合は上位 25%以内、3 名の場合は上位 17%以内にランクされていること。

(3) 学位提出論文を含む在籍中の筆頭論文の IF の合計が 3.0 以上であること。

なお、複数の筆頭著者による論文については、当該論文の IF を筆頭著者の数で除した数値をもって評価の対象とする。

(出典：課程修了の特例を適用する場合の判定基準)

資料 5-43：博士課程を 3 年で修了した学生数

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
博士課程 (医学専攻)	2	3	1	3	2	2

(出典：医学専攻・医学科学務委員会資料)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーで定めた能力を踏まえて、専攻ごとに、体系的な教育カリキュラムが編成されている。博士課程はクラスター制度が

秋田大学医学系研究科 分析項目 I

機能し、修士課程・博士前期課程・博士後期課程ではオムニバス形式で少人数教育が実行されている。また、夜間開講、インターネット授業や短期集中講義を通じて社会人学生が受講しやすい環境を整える等の対策を講じた。

さらに、カリキュラムの見直しを積極的におこない、学生のニーズに沿った科目構成と研究倫理教育を取り入れるなどの改革が進んだ。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 学生が身につけた学力や資質・能力、履修・修了状況

博士課程、修士課程、博士前期課程、博士後期課程いずれにおいても、学位審査に際しては学位審査委員による口頭試問が行われ、最終的に教授会で合否が決定される。博士課程においては、英文かつ審査のある雑誌に掲載された原著論文であることが学位論文の要件となっている(資料5-44)。また、弘前大学大学院医学研究科及び岩手医科大学大学院医学研究科の教員を学位審査委員に加え、透明性を高めた学位最終審査をおこなっている。この学位論文審査体制は平成17年以来継続している。

博士課程においては、毎年25名程度が学位論文を提出し、学位を授与しているものの、医学系研究科の在籍数(資料5-19)から見ると、学位審査論文の作成が遅れ、結果として学位授与に至らない学生が増加傾向にある(資料5-45)。

保健学専攻(博士前期課程)では、平成22年度に開設したCNSコースにおいて、平成26年度までに4名の修了生ががん看護専門看護師の認定を受けた。

資料5-44: 博士課程の学位論文の要件

(学位論文の要件)	
第7 博士(甲)並びに博士(乙)の学位申請論文は、次によるものとする。	
(1) 学位申請論文は、英文によるものとする。	
(2) 学位申請論文は、単独又は共著者数名以内の論文1編とし、審査のある雑誌に掲載された原著論文、又は掲載受理証明のある原著論文原稿とする。	
(3) 共著論文の場合、学位申請者が筆頭著者であること。ただし、著者の記載順序を特別に指定している雑誌等に掲載された論文でこの条件を満たせない場合はその旨を明記する。	
(4) 共著論文の場合、筆頭著者がその論文で学位を申請すること及び学位取得後にインターネット上で論文の全文を公表することを、他の共著者が同意する旨の書類(同意書)を学位審査申請時に提出する。	
(5) 学位申請論文は秋田大学学位規程第8条により1編に限られているが、研究成果が分割され、複数の論文として発表されている場合には、それらのうち学位申請論文以外のものを「学位関連論文」として提出することができる。	

(出典: 医学系研究科医学専攻の学位論文審査に関する取扱要項)

資料5-45: 学位授与者数

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
医学専攻(博士課程)	33	21	20	25	27	27	25
医科学専攻(修士課程)	5	3	4	4	4	0	0
保健学専攻	博士前期課程	9	7	15	12	10	13
	博士後期課程	-	-	-	3	4	3

(出典: 学務委員会資料)

2. 学生の研究発表

博士課程では、実際に医学雑誌に受理された論文を学位審査論文としているため、学生は必ず論文発表を行っている。修士課程は中間発表、最終試験を課し、最終試験の審査をもって評価しているが、実際は在学中に学会発表や論文作成を経験する機会も少なくない。大学院在籍中に学会発表や論文発表により学会賞等を受けたものもある(資料5-46)。

資料5-46: 大学院生の学会表彰等

年	賞	発表タイトル
平成22年	the European Hematology Association travel award	CpG-ODN 2006 and human parvovirus B19 genome consensus sequences selectively inhibit growth and development of erythroid progenitor cells
平成23年	日本骨代謝学会学術集会 優秀ポスター賞	ラット海綿骨骨切り部に対する手術的骨折治療前PTH間欠投与の効果
平成24年	17th Congress of the European Hematology Association travel award	Identification of therapeutic candidate targets specifically expressed in myeloma side population cells

秋田大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

平成 24 年	2012 ASH Abstract Achievement Award	Bortezomib Is Effective for Down Regulation of Gene Transcriptions Specifically Expressed in Clonogenic Myeloma Side Population Cells
平成 24 年	第 73 回日本血液学会学術奨励賞	Enucleation of human erythroblasts involves non-muscle myosin IIB.
平成 24 年	秋田医学会学術奨励賞	Enucleation of human erythroblasts involves non-muscle myosin IIB.
平成 24 年	2012 年 ASH Annual Meeting, Abstract Achievement Award	MicroRNA-16 regulates BMI 1 in the clonogenic side population of refractory mantle cell lymphoma
平成 24 年	日本母性衛生学会学術論文優秀賞受賞	妊婦の唾液中の歯周病菌, その縦断的調査と臨床的意義. 母性衛生 52 (2) : 327-336, 2011
平成 25 年	第 61 回北日本産科婦人科学会学術講演会 優秀演題賞	当院における 40 歳以上の体外受精による妊娠の周産期予後に関する検討
平成 25 年	第 1 回 Heart Science Club 最優秀賞	心機能調節における Apelin を介した ACE 2 制御機構の解明
平成 25 年	米国血液学会 Travel Award	MicroRNA-150 inhibits tumor invasion and metastasis by targeting the chemokine receptor CCR 6 , in advanced cutaneous T-cell lymphoma.
平成 25 年	東北理学療法士学会 学会奨励賞	回復期脳卒中患者の 3 軸加速度計による身体活動時間と ADL との関係
平成 26 年	秋田県産科婦人科学会 (誌) 優秀論文賞	Reduced Port Surgery 導入後の当科における腹腔鏡下手術成績の検討
平成 27 年	第 35 回日本骨形態計測学会若手研究者賞	ビタミン C 欠乏 ODS ラットにおけるビタミン C とテリパラチドの骨密度改善効果
平成 27 年	第 36 回東北骨代謝・骨粗鬆症研究会 優秀演題賞	ステロイド投与ラットの骨密度および筋に対するエルデカルシントールの作用
平成 27 年	第 15 回日本骨粗鬆症学会 優秀演題賞	エルデカルシントールが閉経後骨粗鬆症患者の体幹筋力と静的・動的バランスに与える影響
平成 27 年	第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会 優秀演題賞	子宮体癌におけるリンチ症候群の臨床分布とその識別法 : 当科 360 症例の検討
平成 27 年	第 139 回東北連合産科婦人科学会 若手奨励賞	妊娠中期に低位前方切除術と人工肛門増設術を施行した S 状結腸癌合併妊娠の一例
平成 27 年	第 139 回東北連合産科婦人科学会 若手奨励賞	鼠径部に発育した性腺外卵黄嚢腫様の 1 例
平成 27 年	第 16 回 川井記念賞	地域で生活している精神障害者の居場所感と主観的 Quality of Life との関連. 厚生学の指標 61 (12) : 20-27, 2014
平成 27 年	日本血液学会 EHA Travel Award	Silencing progression of tumor suppressive microRNAs essentially contributes to develop aggressive T-cell lymphoma
平成 27 年	日本心血管インターベンション治療学会東北地方会 優秀演題賞	冠動脈ステント樹脂包埋により検討した急性心筋梗塞の 1 例
平成 27 年	第 63 回北日本産科婦人科学会 優秀演題賞	Time-lapse cinematography (T L C) によるマウス初期胚の体外培養の観察
平成 27 年	日本消化器病学会東北支部第 3 回学術奨励賞	Successful treatment with infliximab for refractory para-ileostomal ulceration in a patient with Behcet's disease
平成 27 年	ASH Abstract Achievement Award	Microrna-16 Mediates the Regulation of a Senescence-Apoptosis Switch in Cutaneous T-Cell and Other Non-Hodgkin Lymphomas
平成 27 年	JCA Scholar-in-Training Award	MicroRNA-16 mediates the regulation of a senescence-apoptosis switch in Cutaneous T-cell lymphomas
平成 27 年	平成 27 年度秋田医学会賞	Agr2 と線維芽細胞を介した癌浸潤能獲得に関する研究

(出典 : 医学専攻評価委員会)

3. 学生アンケート

授業評価については、医学専攻（博士課程）クラスター講義・実習は学生数が少人数で、また専門的な研究教育や修士課程（医科学専攻）に至っては 1 人の指導教員に対し 1 ～ 2 名の学生であるため、教員評価が行いにくい状況にある。よって卒業時にクラスター講義・実習、研究指導など項目別に大学院教育についてのアンケートをおこなっている。

医学専攻（博士課程）のクラスター共通基礎科目は、ほとんどがインターネット講義を通じて行われており、出席状況の把握とともに授業内容に関して学生の感想や意見を自由記載できるようにしている。それらの意見を踏まえ、平成 27 年度にはクラスター共通科目の講義内容を全面的に改めるなど、改善に向けての取り組みをおこなった。

保健学専攻では年度末に授業や学内環境に関するアンケート（選択及び自由記述方式）

を実施している。アンケートは評価委員会によって集計され、適宜フィードバックしている。

4. 修了生アンケート

医学系研究科の平成26年度修了生（医学専攻21名、保健学専攻18名）に対してアンケート調査を実施し（資料5-47、48）、概ね「満足している」との回答を得た（資料5-49、5-50）。とりわけ、医学専攻及び保健学専攻の指導教員、研究テーマに対する指導に関しては7割以上の修了生が「大いに満足している」あるいは「多少満足している」との回答であった。

一方、医学専攻では講義室、共同研究施設、図書館等に関しては「利用していない」あるいは「あまり満足していない」との回答が半数に上っていた。社会人大学院生はインターネット経由で聴講している者が多く、また、研究テーマによっては学内共同実験施設を利用しない学生もおり、それがアンケートに反映したものと考えられる。

資料5-47：医学専攻（博士課程）及び医科学専攻（修士課程）修了者へのアンケート内容

平成26年度大学院修了生アンケート	
①	現在の所属を次の中から選んで○を付けてください。 1. 修士課程→②・③・⑥～⑬へ 2. 博士課程→④・⑤・⑥～⑬へ
◎以下の質問は次の1～5（または6）から選び、設問の下にある括弧内の番号に○を付けてください。 1. 大いに満足している 2. 多少満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない 6. 利用していない	
(修士課程の方のみ)	
②	医科学専攻基礎科目の講義・実習について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5)
③	医科学専攻専門科目の講義について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5)
(博士課程の方のみ)	
④	医学専攻クラスター共通基礎科目の講義・演習・実習について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5)
⑤	医学専攻専門科目の講義・実習について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5)
(修士課程・博士課程共通)	
⑥	指導教員の教育に対する熱意について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5)
⑦	研究テーマに対する指導について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5)
⑧	指導教員とのコミュニケーションについて、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5)
⑨	研究室について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5・6)
⑩	講義室について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5・6)
⑪	図書館について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5・6)
⑫	附属研究施設（バイオサイエンス教育研究センター、動物実験施設など）について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5・6)
⑬	本道会館の食堂・生協について、該当するものに○を付けてください。 (1・2・3・4・5・6)

*平成26年度は修士課程の修了生はいなかった（出典：医学専攻評価委員会）

秋田大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

資料5-48：保健学専攻（博士前期課程・博士後期課程）修了者へのアンケート内容

平成26年度大学院修了生アンケート

① 現在の所属を次の中から選んで○を付けてください。
 1. 博士前期課程→②・③・⑥～⑫へ 2. 博士後期課程→④・⑤・⑥～⑫へ

◎以下の質問は次の1～5（または6）から選び、設問の下にある括弧内の番号に○を付けてください。
 1. 大いに満足している 2. 多少満足している 3. どちらとも言えない
 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない 6. 利用していない

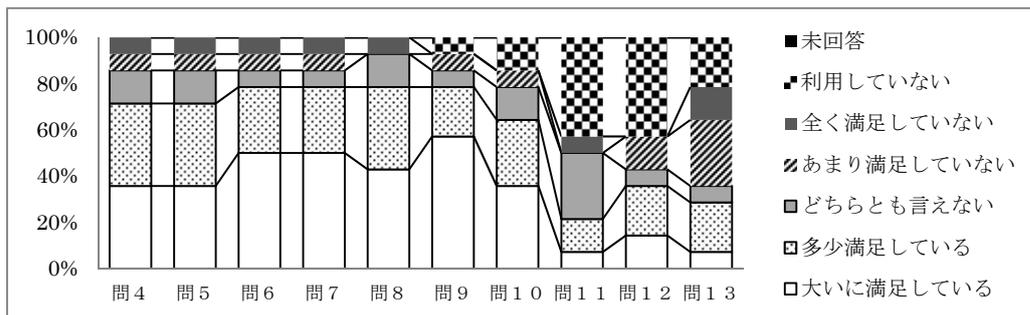
(博士前期課程の方のみ)
 ② 保健学専攻共通科目の講義について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5)
 ③ 保健学専攻領域科目の講義について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5)

(博士後期課程の方のみ)
 ④ 保健学専攻共通科目の講義について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5)
 ⑤ 保健学専攻専門科目の講義について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5)

(修士前期課程・博士後期課程共通)
 ⑥ 指導教員の教育に対する熱意について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5)
 ⑦ 研究テーマに対する指導について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5)
 ⑧ 指導教員とのコミュニケーションについて、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5)
 ⑨ 院生室について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5・6)
 ⑩ 講義室について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5・6)
 ⑪ 図書館について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5・6)
 ⑫ 中間発表会について、該当するものに○を付けてください。
 (1・2・3・4・5)

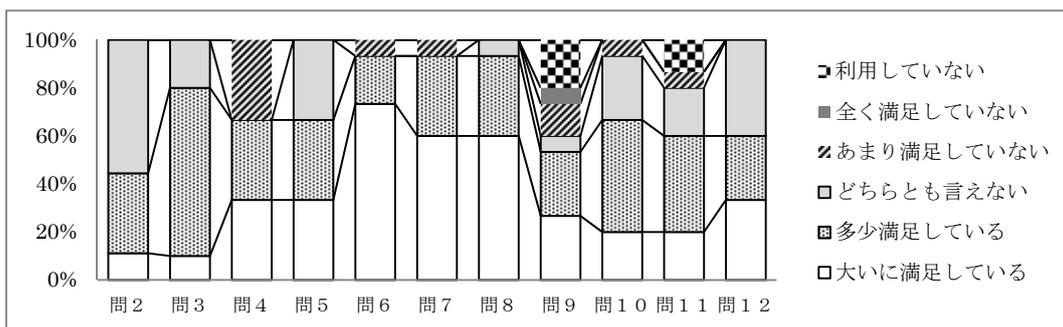
(出典：保健学専攻評価委員会)

資料5-49：医学専攻（博士課程）修了者へのアンケート結果



(出典：医学専攻評価委員会)

資料5-50：保健学専攻（博士前期課程・博士後期課程）修了者へのアンケート結果



(出典：保健学専攻評価委員会)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 博士課程の学位論文は英文で査読制度のある学術雑誌に掲載されることを要件としており、学生は必ず論文発表を行っている。学会発表も活発に行っており、論文や症例報告、学位研究に対して多くの学会賞等を受賞している。また、学生アンケートにおいて、指導教員及び研究テーマに対する指導に関して7割以上の修了生から「満足している」という、高い評価を受けた。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1. 進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況

大学院修了者の進路については、そのほとんどが医療機関、教育機関、研究機関であり、教育目的とする成果を十分に達成している。秋田県内で勤務する割合も高く、地域医療への貢献も高い(資料5-51、52)。

資料5-51：医学系研究科修了者の進路先

	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	
医学研究科※	28	5	19	1	8	0	5	1	6	0	3	0	—	—	—	—	
医学専攻 (博士課程)	—	—	1	0	10	0	15	3	16	3	22	0	21	2	22	1	
医科学専攻 (修士課程)	3	0	1	1	3	1	2	1	2	1	0	0	0	0	2	1	
保健学 専攻	前期 課程	9	0	7	0	15	0	15	0	10	0	13	0	14	14	11	0
	後期 課程	—	—	—	—	—	—	3	0	4	0	3	0	4	4	3	0

(出典：学務課資料)

資料5-52：医学系研究科修了者の産業別就職者数

	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		
	医療・福祉	その他	医療・福祉	その他	医療・福祉	その他	医療・福祉	その他	医療・福祉	その他	医療・福祉	その他	医療・福祉	その他	医療・福祉	その他	
医学研究科※	28	5	19	1	8	0	11	0	3	1	3	0	—	—	—	—	
医学系研究科 (医学専攻)	—	—	1	0	9	2	13	0	19	2	21	1	22	1	23	0	
医学系研究科 (医科学専攻)	1	2	1	1	2	2	2	1	0	3	0	0	0	0	3	0	
保健学 専攻	前期 課程	9	0	7	0	15	0	14	1	10	0	13	0	14	14	11	0
	後期 課程	—	—	—	—	—	—	3	0	4	0	3	0	4	4	3	0

※「医学研究科」は大学院部局化（21年度）以前の大学院医学系研究科の名称

（出典：学務課資料）

2. 進路先等の関係者への意見聴取等

平成24年度及び25年度修了生の就職先に対して、医学系研究科に対する評価やディプロマ・ポリシーについてのアンケート調査をおこない、医学・医科学専攻では22機関、保健学専攻では13機関から回答を得た（資料5-53、54）。各専攻のディプロマ・ポリシーについては、実現性、わかりやすさ、医療機関及び地域医療のニーズに合致しているという意見を7割以上の施設から得た。修了生に対する評価をディプロマ・ポリシーごとに尋ねたところ、全ての項目において「普通」レベル以上であるとの評価を得た（資料5-55、5-56）。

秋田大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

資料5-53：医学専攻及び医科学専攻の就職先に対するアンケート内容

問1：学位授与方針についてどのように思われますか。
次の(1)～(4)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。
また、その他にお感じのことがあれば、記述欄にご自由にお書きください。

	① 非常に そう 思う	② そう 思う	③ 普通 である	④ あまり そう 思わ ない	⑤ そう 思わ ない
(1) 実現性がある	1	2	3	4	5
(2) わかりやすい	1	2	3	4	5
(3) あなたの施設・機関のニーズに合致している	1	2	3	4	5
(4) 地域のニーズに合致している	1	2	3	4	5

問2：あなたの施設・機関に勤務する秋田大学大学院の修了生について、日頃どのように感じているかをおたずねします。
それぞれの能力・知識を修了生が有しているかについて、回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。

	① 非常に そう 思う	② そう 思う	③ 普通 である	④ あまり そう 思わ ない	⑤ そう 思わ ない
(1) 医学・医療・生命科学に関する幅広い知識と技術を有している	1	2	3	4	5
(2) 世界へ向けて学術研究成果を発信できる国際的視野と外国語運用能力に優れている	1	2	3	4	5
(3) 専門職としての能力が優れている	1	2	3	4	5
(4) 自ら問題点を抽出して的確に解決することが出来る課題解決力	1	2	3	4	5
(5) 専門分野以外の課題にも柔軟に対応することが出来る応用力がある	1	2	3	4	5
(6) 組織の中での自分の役割を認識し、的確な振る舞いが出来る組織的行動力をもっている	1	2	3	4	5
(7) 常に新しい知識・技術を吸収しようとする向上心がある	1	2	3	4	5
(8) 独創性に優れている	1	2	3	4	5
(9) 自分の意見を的確に伝えたり、相手の話を聞いたり理解するコミュニケーション能力に優れている	1	2	3	4	5
(10) 高度な倫理性	1	2	3	4	5

問4：秋田大学大学院を修了し、あなたの施設・機関に就職する者について、どのようなことを在学中に身につけておいてほしいと思いますか。次の(1)～(10)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。
また、これら以外に在学中に特に身につけておいてほしいことがございましたら、記入欄にご自由にお書きください。

	①非 常に そう 思う	② そう 思う	③普 通で ある	④あ まり そう 思わ ない	⑤そ う 思わ ない
(1) 幅広い知識と技術	1	2	3	4	5
(2) 国際的視野と外国語運用能力	1	2	3	4	5
(3) 専門的能力	1	2	3	4	5
(4) 課題解決力	1	2	3	4	5
(5) 応用力	1	2	3	4	5
(6) 組織的行動	1	2	3	4	5
(7) 向上心	1	2	3	4	5
(8) 独創性	1	2	3	4	5
(9) コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
(10) 高度な倫理性	1	2	3	4	5

問5：秋田大学大学院は、あなたの施設・機関として求める人材を養成していると思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

問6：あなたの施設・機関において、今後秋田大学大学院の修了生を積極的に採用したいと思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

(出典：医学専攻評価委員会)

秋田大学医学系研究科 分析項目Ⅱ

資料5-54:保健学専攻の就職先に対するアンケート内容

問1:学位授与方針についてどのように思われますか。

次の(1)~(4)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。

また、その他にお感じのことがあれば、記述欄にご自由にお書きください。

	① 非常に そう 思う	② そう 思う	③ 普通 である	④ あまり そう 思わ ない	⑤ そう 思わ ない
(1) 実現性がある	1	2	3	4	5
(2) わかりやすい	1	2	3	4	5
(3) あなたの施設・機関のニーズに合致している	1	2	3	4	5
(4) 地域のニーズに合致している	1	2	3	4	5

問2:あなたの施設・機関に勤務する秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻の修了生について、日頃どのように感じているかをおたずねします。それぞれの能力・知識を修了生が有しているかについて、回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。

	① 非常に そう 思う	② そう 思う	③ 普通 である	④ あまり そう 思わ ない	⑤ そう 思わ ない
(1) 専門職としての能力が優れている	1	2	3	4	5
(2) 自ら問題点を抽出して的確に解決することが出来る	1	2	3	4	5
(3) 専門分野以外の課題にも柔軟に対応することが出来る	1	2	3	4	5
(4) 組織の中での自分の役割を認識し、的確な振る舞いが出来る	1	2	3	4	5
(5) 常に新しい知識・技術を吸収しようとする向上心がある	1	2	3	4	5
(6) 独創性に優れている	1	2	3	4	5
(7) コミュニケーション能力に優れている	1	2	3	4	5
(8) 高度な倫理性を有している	1	2	3	4	5

問4:秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻を修了し、あなたの施設・機関に就職する者について、どのようなことを在学中に身につけておいてほしいと思いますか。次の(1)~(10)それぞれについて回答の選択肢の中から最も近いものに○を付けてください。

また、これら以外に在学中に特に身につけておいてほしいことがございましたら、記入欄にご自由にお書きください。

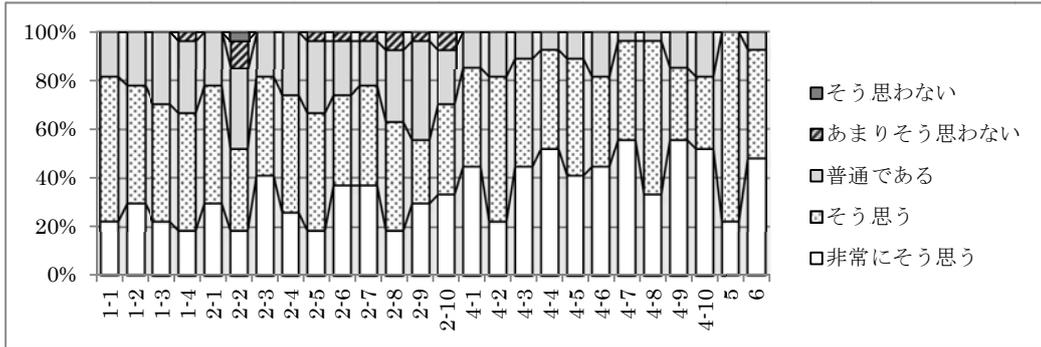
	① 非 常 に そ う 思 う	② そ う 思 う	③ 普 通 で あ る	④ あ ま り そ う 思 わ な い	⑤ そ う 思 わ な い
(1) 幅広い知識と技術	1	2	3	4	5
(2) 国際的視野と外国語運用能力	1	2	3	4	5
(3) 専門的能力	1	2	3	4	5
(4) 課題解決力	1	2	3	4	5
(5) 応用力	1	2	3	4	5
(6) 組織的行動	1	2	3	4	5
(7) 向上心	1	2	3	4	5
(8) 独創性	1	2	3	4	5
(9) コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
(10) 高度な倫理性	1	2	3	4	5

問5:秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻は、あなたの施設・機関として求める人材を養成していると思いますか。該当するものを1つ選択してください。また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

(1) 非常にそう思う (2) そう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

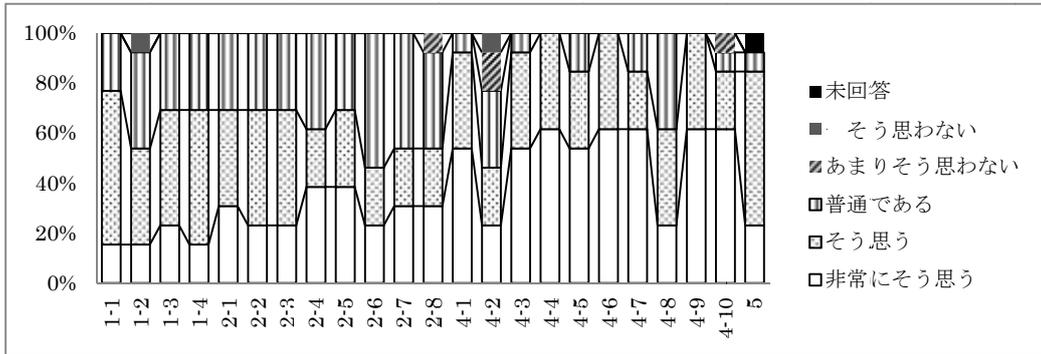
(出典:保健学専攻評価委員会)

資料5-55：医学専攻及び医科学専攻の就職先へのアンケート結果



(出典：医学専攻評価委員会)

資料5-56：保健学専攻の就職先へのアンケート結果



(出典：保健学専攻評価委員会)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 修了生の進路は、殆どが医療機関、教育機関、研究機関であり、教育目的とする成果を十分に上げている。秋田県内で勤務する割合も高く、高度医療専門人として地域医療へ貢献している。修了生及び進路先等の関係者への意見聴取においても、ほぼ満足できる結果を得ている。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

外部委員が半数を占めるカウンシル制度が発足し、教育課程の編成や教員採用・昇給等において意思決定過程の透明化が図られた。これにより、社会ニーズを反映した研究科運営をおこなう体制が整えることができた。

また、社会からの要請に応えるため、講座新設・再編により教育研究体制の充実を図った。具体的には、地域医療政策学講座、医学教育学講座、地域がん包括医療学、総合診療・臨床検査診断学講座、医療情報学講座、消化管内科学を創設あるいは学部内改組した。

さらに、社会のニーズに応える教育コースとして、がん看護専門看護師養成（CNS）コース及び医理工連携コース（教育プログラム）を設置した。前者は、がんプロフェッショナル養成プランの支援を受けてのものであり、後者は秋田大学の強みを生かした人材育成プロジェクトである。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

新設した教育コースにおいて高度医療専門技術を有する修了生を輩出した。即ち、平成22年度に開設した保健学専攻（博士前期課程）CNSコースにおいて、平成26年度までに4名が修了し、全員27年度までにがん看護専門看護師の認定（日本看護協会）を受けた。

6. 工学部

I	工学部の教育目的と特徴	6-2
II	「教育の水準」の分析・判定	6-4
	分析項目 I 教育活動の状況	6-4
	分析項目 II 教育成果の状況	6-21
III	「質の向上度」の分析	6-35

I 理工学部の教育目的と特徴

1. 理工学部の教育目的

理工学部は生命科学科、物質科学科、数理・電気電子情報学科、システムデザイン工学科の4学科からなる。学部の目的を理工学部規程に定め（資料6-1）、それに基づいて各学科の教育目的を定めている（資料6-2）。

資料6-1：理工学部の目的

(学部の目的)	
第2条	本学部は、地球環境と調和のとれた人間性豊かな社会の発展に寄与するとともに、理学・工学に関する深い理解を通して、広く社会に貢献できる技術者及び研究者を養成することを目的とする。

(出典：理工学部規程)

資料6-2：学科の構成と教育目的（理工学部：平成26年度以降）

学 科 名	教育目的（育成する人材像）
生命科学科	ライフサイエンス分野のさまざまな課題に挑戦する研究者・技術者を育成します。
物質科学科	先端機能材料や化学プロセスに携わる研究者・技術者を育成します。
数理・電気電子情報学科	数学・物理から電気・電子、情報通信の各分野をリードする多彩な人材を育成します。
システムデザイン工学科	新しいものづくりができる実践的な技術者を育成します。

(出典：秋田大学概要 2015 P.14)

2. 特徴

理工学部の前身である工学資源学部は、明治43年に創立された官立秋田鉱山専門学校の伝統を継承し、資源と工学を両輪とした特色ある教育研究を実践してきた。

しかし、我が国の資源分野ナショナルセンター機能を強化し、資源学の最前線で活躍できるグローバル人材を養成することを目的に、平成26年4月に国際資源学部を新たに設置し、機能の分化を図った。

同様に、理工学系分野においては、地域産業との密接な関わりの中、人材育成及び研究開発のリージョナルセンターとしての役目を果たしてきた。こうした機能のさらなる強化のため、これまで培われてきたものづくりの技術を中心とした教育研究に加え、自然科学の真理の探究によって育まれる新たな創造力を付与すべく、発展的に改組を行い「理工学部」を設置した。

理工学部では、理学と工学が融合した理工学を教育研究の中心に据え、更に数学・理学から工学に至る幅広い教育学問分野を包含する地域の教育拠点を構築すると共に、地域のあらゆる領域で必要とされる人材を育成するため、理工学部が中心となり地域再生の核を構築し、地域ニーズにマッチした人材を輩出するとともに、地域社会の課題解決にあたることを目指している。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者は、本学への入学を志願する高校生、在学生本人とその家族、卒業生と卒業生を受け入れる各種の事業所（企業、自治体、大学等）と教育界、及び、地域創成を担う地域産業界等と考えられる。これらの関係者の意見を把握するために様々な意見聴取を行っている（資料6-3）。

期待されている内容としては、総合力で日本・地域に貢献できる人材を養成し、上記の関係諸機関へ人材を供給することが挙げられる。併せて、地域の産業・経済活動、教育・文化など、地域創生のためのイノベーションを担うことを期待されている。

秋田大学工学部

資料6-3：アンケート実施状況

実施時期	対象者	調査内容
H25年8月	秋田県、秋田県教育委員会、県内企業など 【依頼数 51 機関／聞き取り調査】	<ul style="list-style-type: none"> ・「理工学部」の必要性（需要調査） ・高等学校教職免許（理科・数学）の要請
H25年10月	秋田県内外の企業 【依頼数 77 社／26 社から回答】	<ul style="list-style-type: none"> ・「理工学部」の必要性 ・秋田県の理工学分野のレベル（需要調査）
H25年10月	全国の高校2年生 【依頼数 4,400 名／3,646 名から回答】	<ul style="list-style-type: none"> ・「理工学部」の必要性 ・「国際資源学部」の必要性 ・秋田県の理工学分野のレベル（需要調査）
H27年11月	工学資源学部（H23～H25）卒業生 【提出 154 名】	工学資源学部の教育について
H27年11月	卒業生（H23～H25）の受け入れ企業 【提出 214 件】	工学資源学部の教育について
毎年7月	後援会役員	意見・要望の吸い上げ
毎年7月頃	県内高校教員（進路指導担当） 【55 校＋県外からの参加校】	理工学教育・大学における教育内容に関する意見交換

（出典：各種アンケート調査）

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

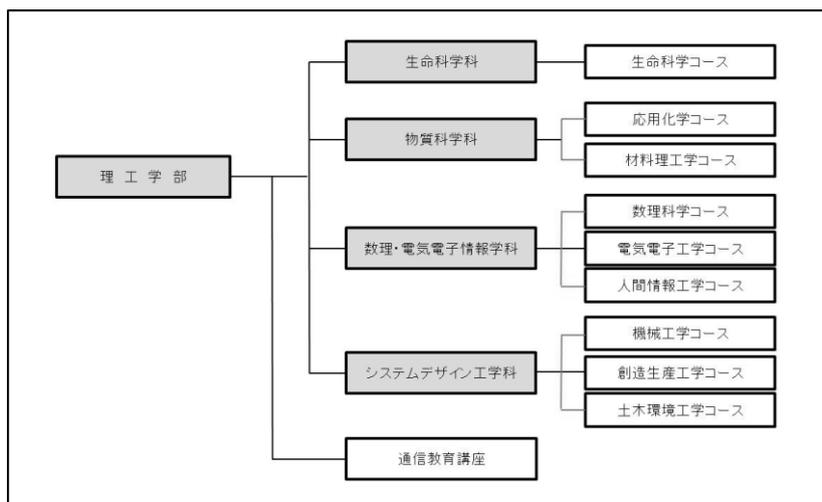
1. 教育研究組織及び教員組織の編成

理工学部は、大学の基本的な目標「地域と共に発展し地域と共に歩む」という存立の理念と第2期中期計画を踏まえ、工学資源学部を前身として平成26年4月に設置された。4学科9コースから成り、分野の融合による教育研究活動と教員組織の活性化により、特定の専門性に拘らない人材の育成を目指している(資料6-4)。

工学資源学部の7学科(生命化学科、材料工学科、環境応用化学科、情報工学科、機械工学科、電気電子工学科および土木環境工学科)を、統合・再編成し、生命科学科、物質科学科、数理・電気電子情報学科、システムデザイン工学科の4学科とした(資料6-5)。学生が複数の異なる分野の教員から指導を受けられる制度を整え、社会の要請する多角的な視点をもった人材を育成する体制を整備した。

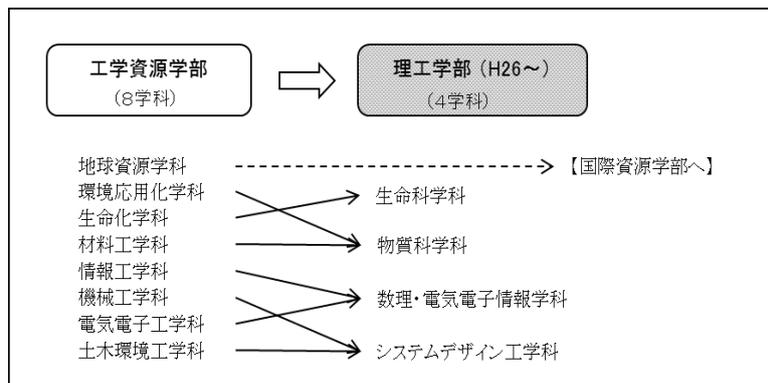
各学科ごとに、大学設置基準上必要な人数の教員を配置している(資料6-6)。また、通常の教育課程を担当する教員の他、専任業務を担う共通教員を雇用し、幅広い教員団を構成している(資料6-7)。

資料6-4: 理工学部組織図



(出典: 理工学部概要 2015)

資料6-5: 理工学部の学科改組概要図



(出典: 理工学部事務局作成、理工学部の改組について http://www.eng.akita-u.ac.jp/rikougaku_index.html)

秋田大学理工学部 分析項目 I

資料 6-6 : 学科等別の教員組織の構成と専任教員数の配置 (平成 27 年 5 月 1 日現在)

学科等の名称	専任教員数 [人]					大学設置 基準必要 教員数	非常勤 講師数 [人]
	教授	准教授	講師	助教	計		
生命科学科	4	3	2	1	10	8<4>	9
物質科学科	15	8(1)	5	9	37(1)	9<5>	6
数理・電気電子情報学科	13	10	7(2)	9	39(2)	10<5>	8
システムデザイン工学科	14	12	4	2(1)	32(1)	10<5>	8
各学科共通	1	2(1)	0	1	4(1)		15
計	47	35(2)	18(2)	22(1)	122(5)		46

※()は外国人教員数、< >は教授の数でいずれも内数 (出典：理工学部現員表等)

資料 6-7 : 専任業務担当教員の種別 (平成 27 年 5 月 1 日現在)

専任業務の担当区分	人数	概要
英語教育担当教員	1	技術英語, 専門科目等を担当
教職課程担当教員	2	教員養成を担当
入試・広報担当教員	1	入試・広報業務を担当
ものづくり創造工学担当教員	1	ものづくり実践・実習教育業務を担当

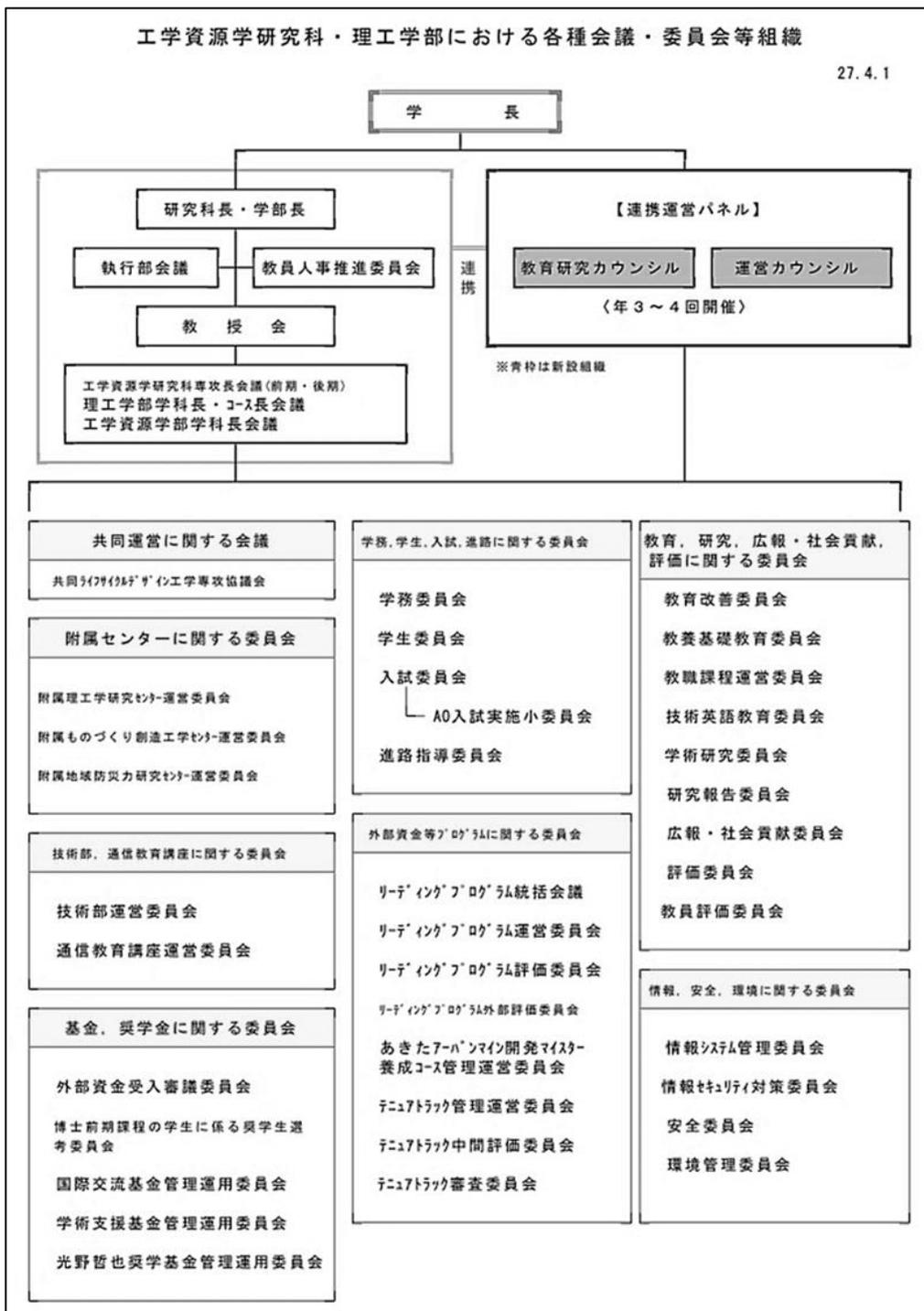
(出典：秋田大学における教育系職員の任期に関する規程)

2. 組織体制

執行部会議で学部の活動について大まかな方針が決められ、該当する委員会が審議し、専攻長・コース長等会議においてこれらの委員会の決定事項を承認し、外部識者が含まれる教育研究・運営カウンスルに答申する体制となっている (資料 6-8、9)。

教員の採用や昇任に関しては、教員人事推進委員会において資格審査委員会が構成され、当該人材の適性を確認して、教育研究カウンスルに諮られてその議を経て学長に答申する仕組みとしている。学部・研究科の予算管理、組織編成、規程改正に関わる事案は、運営カウンスルに諮られる (資料 6-10、11)。

資料6-8：理工学部における各種会議・委員会等組織



(出典：工学資源学研究科専攻長会議資料)

資料6-9：学部における主要な委員会の運営管理体制

担当組織	所掌業務
執行部会議	学部・研究科の管理運営方針（案）作成
研究科・学部教授会	研究科・学部の方針案の全教員への周知。進級・卒業判定
コース長・専攻長等会議	学部・研究科の管理運営方針を決定。教育研究・運営カウンスルへの答申
教員人事推進委員会	各コースから申請された人事案件の審議。教育研究カウンスルへの答申
評価委員会	教育研究・管理運営活動の評価・見直し。PDCAサイクルの推進

秋田大学理工学部 分析項目 I

学務委員会	カリキュラム・シラバスなど教育課程全般に関する審議
教養基礎教育委員会	教養基礎科目における教育環境の整備とTAの調整
教職課程委員会	教職科目の教育実施体制の整備（課程認定対応及び教育改善）
秋田大学全学教員養成担当者 会議委員	理工学部と教育文化学部が協働する教職課程認定科目の共通化や FD活動の推進
学生委員会	学生の賞罰、学生支援に関する審議
入試委員会	入学選抜試験の実施。入試広報に関する審議
広報・社会貢献委員会	大学のアウトリーチ活動
進路指導委員会	就職・進学を支援する活動
通信教育講座運営委員会	通信教育講座の運営
ものづくり創造工学センター 運営委員会	ものづくり創造工学センターの教育研究に関する審議
各種基金等管理運営委員会	経済的に困窮する学生への支援方策等に関する審議 国際交流基金、学術支援基金、光野哲也奨学基金、後援会基金等の運用管理

（出典：委員会等規程）

資料6-10：カウンスルの構成及び審議事項

	構成委員	審議事項
教育研究カウンスル	外部委員（3名） 1. 秋田県立大学副学長 2. 秋田工業高等専門学校長 3. 秋田県産業技術センター所長 内部委員（6名） 1. 研究科長 2. 副研究科長 3. 入試委員長 4. 学務委員長 5. 学生委員長 6. 研究科長補佐	(1)教育課程の編成に関すること。 (2)教員の採用及び昇任等に関すること。 (3)教育研究に関する規程等の制定・改廃に関する こと。 (4)その他教育研究に関する重要なこと。
運営カウンスル	外部委員（4名） 1. 東北電力秋田支店長 2. 秋田県教育庁高校教育課長 3. 秋田県産業労働部主幹 4. 理工学部後援会長 内部委員（6名） 1. 研究科長 2. 副研究科長 3. 入試委員長 4. 学務委員長 5. 学生委員長 6. 研究科長補佐	(1)学科・専攻その他重要な組織の設置・廃止に 関すること。 (2)予算に関すること。 (3)運営に関する規程等の制定・改廃に関すること。 (4)その他運営に関する重要なこと。

（出典：理工学研究科カウンスル規程）

資料6-11：カウンスルの審議状況（教育研究カウンスルと運営カウンスルの合同開催）

開催日	教育研究カウンスル	運営カウンスル	備考
平成 27 年 6 月 2 日	カウンスルの審議事項、大学院改組、 教員の人事計画、その他	カウンスルの審議事項、大学院改組、 予算配分、その他	左記のほか、書 面審議（主に教 員の人事計画） を複数回開催 している。 教育研究カウンスル （8回） 運営カウンスル （2回）
平成 27 年 11 月 20 日	研究科長適任者の意向投票日程、教員候 補適任者の選考、非常勤講師の人事計画、 理工学部の地域貢献に関する意見交換、 その他	研究科長適任者の意向投票日程、理工学 部の地域貢献に関する意見交換、その他	
平成 28 年 3 月 1 日	新年度の組織体制、規程等の改正、教員 候補適任者の選考、非常勤講師の人事計 画、第3期中期計画(案)、その他	新年度の組織体制、規程等の改正、第3 期中期計画(案)、その他	

（出典：秋田大学大学院工学資源学研究科カウンスル資料）

3. 入学者選抜

求める学生像をアドミッションポリシーとして公表している（資料6-12）。

入試委員会、AO入試実施小委員会、広報・社会貢献委員会の3つの委員会を構成し、入学者選抜方法と入試広報を恒常的に点検し見直している。

入学選抜はAO入試、推薦入試、前期日程、後期日程を実施し、受験生がその多彩な能力を適切に発揮することができるように多様な選抜をおこなっているほか、関東地区、東海地区の受験生が受験しやすいように東京と名古屋に入試会場を設けている（資料6-13、14）。また、留学生を積極的に受け入れている。その結果、定員充足率の平均は、理工学部で105.3%、工学資源学部で113.3%となっている（資料6-15、16）。

資料6-12：理工学部アドミッションポリシー

理工学部では、次のような人材を求めています。

1. 理工学を学ぶために必要な基礎学力を身に着けた人
2. エネルギー・環境問題、新しいものづくりと物質・デバイス創成、また少子高齢化や自然災害対策などの大きな社会的課題に関心を持ち、積極的に自己学習できる人
3. 研究者や技術者として世界や地域の発展に貢献する意欲を持つ人

（出典：工学資源学研究科理工学部概要 2015）

資料6-13：理工学部入試の種類及び選抜方法等

入試の種類	選 抜 方 法	対 象 者
AO	面接試験結果、講義を受講した後に提出するレポートの結果、提出書類を総合して判定	高校生、既卒生、社会人
推薦Ⅱ	センター試験の成績、調査書、推薦書を総合して判定	高校生
前期日程	センター試験の成績、個別学力検査の成績、調査書を総合して判定	高校生、既卒生、社会人
後期日程	センター試験の成績、面接試験結果、調査書を総合して判定	高校生、既卒生、社会人

（出典：理工学部事務局作成）

資料6-14：理工学部の入学状況等（平成27年5月1日現在）

入試の種類	募集人員	入学者数
AO	47	42
推薦Ⅱ	42	45
前期日程	213	202
後期日程	93	115
計	395	404

（出典：入試課調査）

資料6-15：学科別の学生定員と現員（理工学部）

平成27年5月1日現在

学 科	入学定員[人]	収容定員[人]	現員[人]					定員充足率[人]
			1年次	2年次	3年次	4年次	計	
生命科学科	45	90	46	41			87	96.7
物質科学科	110	220	115	110			225	102.3
数理・電気電子情報学科	120	240	134	124			258	107.5
システムデザイン工学科	120	240	134	128			262	109.2
計	395	790	429	403			832	105.3

※学部改編後の状況を示す（出典：秋田大学概要）

秋田大学理工学部 分析項目 I

資料 6-16：学科別の学生定員と現員（工学資源学部）

平成 27 年 5 月 1 日現在

学 科	入学定員[人]	収容定員[人]	現員[人]					定員充足率[人]
			1年次	2年次	3年次	4年次	計	
地球資源学科	※2	120	1	10	61	60	132	110
環境物質工学科	※1							
環境応用化学科	※2	110	1	3	65	55	124	112.7
生命化学科	※2	64	1	4	28	32	65	101.6
材料工学科	※2	120	1	4	74	50	129	107.5
情報工学科	※2	100	1	2	60	59	122	122
機械工学科	※2	154	2	8	88	92	190	123.4
電気電子工学科	※2	150		7	88	88	183	122
土木環境工学科	※2	102		2	59	64	125	122.5
各学科共通	(12)	24						
計	(12)	944	7	40	523	500	1,070	113.3

※（ ）内の数は3年次編入学定員（出典：秋田大学概要）

※1：平成20年度から学生募集停止 ※2：平成26年度から学生募集停止

4. 教員の教育力向上

学務委員会と教育改善委員会において、教員の指導力・教育力を向上させるため、種々のテーマでFDを毎年開催している。各学科・コースにおいても独自の教育プログラムの実現のため様々なFD活動を実施している（資料6-17）。

資料 6-17：工学資源学研究所・理工学部のFDに関する活動実績

年度	種別	テーマ	参加者
平成 22 年度	ワークショップ	学生支援改善戦略—よりきめ細やかな学生理解のために—	40
	シンポジウム	コミュニケーション能力の涵用	51
平成 23 年度	ワークショップ	学生支援改善戦略—よりきめ細やかな学生理解のために—	39
	シンポジウム	実践的教育実現のために	50
平成 24 年度	ワークショップ	学生支援改善戦略—学生へのサポートについて—	45
	シンポジウム	学生のキャリア教育と就職支援を考える	31
平成 25 年度	ワークショップ	学生支援改善戦略—学生へのサポートについて—	38
	シンポジウム	大学院進学率向上のための教育・支援戦略を考える	25
平成 26 年度	ワークショップ	学生への主体的・能動的な学びを喚起する教育の実践を目指して	33
	シンポジウム	学生支援改善戦略—発達障がいを持つ学生へのサポートについて考える—	32
平成 27 年度	ワークショップ	教育改善のための総括的評価法—ルーブリックの活用とその設定方法—	36

（出典：総合学務課資料）

また、学生による授業評価を平成16年から実施している。

第1期中期目標期間（平成21年度後期）と第2期中期目標期間（平成27年度前期）の結果を比較すると、Q11以外では、0.5程度の差が確認できる。また、第1期中期計画期間中の数値の伸び（平成16年度後期と平成22年度後期の比較）は最大でも0.3程度であるが、一方で、第2期中期計画期間中の数値の伸び（平成23年度前期と平成27年度前期の比較）は0.5程度であり、第1期中期期間に比較して第2期中期期間は大幅に高い数値を示している。授業評価で優秀な教員は表彰されており、教育改善の動機づけになっている（資料6-18～21）。

秋田大学理工学部 分析項目 I

教員が他の教員の授業を参観する同僚授業評価も導入しており、全教員が同僚評価で評価される。学生と同僚の授業評価の結果は教員の処遇（賞与等）に反映されている（再掲資料6-18）。

資料6-18：学生授業評価・同僚授業評価の実施科目数

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
開講科目総数	425	538	520	503	465	469
学生授業評価	422	437	446	474	437	442
同僚授業評価	26	23	19	20	17	16

（出典：学生による授業評価報告書、総合学務課調査）

資料6-19：学生授業評価調査書

見 本

「学生授業評価調査書」

この授業評価は、授業改善及び教育的効果をもとめるとして実施します。
成績に影響することはありません。よろしくご協力願います。

評 価 者	学籍番号	学科
	年次	氏名

授業科目コード _____

授業科目名 _____ (必修・選択・自由)

担当教員名 _____

以下の設問について、該当する○を黒く(●)ぬりつけてください。
回答日：平成 年 月 日

質 問 項 目		1. そう思う (はい)	2. どちらかといえ ばそう思う。	3. どちらとも言え ない。	4. どちらかといえ ばそう思わない。	5. そう思わない (いいえ)。	6. わからない、ま たは該当しない。
1. 授業の目的や達成目標及び評価基準が明確に示されていましたか。	○	○	○	○	○	○	○
2. 授業の内容は、シラバスと一致していましたか。	○	○	○	○	○	○	○
3. 授業はよく準備されていましたか。	○	○	○	○	○	○	○
4. 説明は明確でわかりやすいものでしたか。	○	○	○	○	○	○	○
5. 授業内容は興味深いものでしたか。	○	○	○	○	○	○	○
6. 授業の内容は、理解できる分量でしたか。	○	○	○	○	○	○	○
7. 授業の進む速さは適切でしたか。	○	○	○	○	○	○	○
8. 学習の課題、問題演習等の指示が適切に行われましたか。	○	○	○	○	○	○	○
9. 授業に対する教員の熱意が感じられましたか。	○	○	○	○	○	○	○
10. あなたは授業の内容を理解し、目標を達成できたと思いますか。	○	○	○	○	○	○	○
11. この授業に対する学習時間(授業時間を除く)は授業1回あたり、どのくらいですか。	○	○	○	○	○	○	○

*11の質問は下記の選択肢から選んでください。
1. 3時間以上 2. 2~3時間 3. 1~2時間 4. 30分~1時間 5. 30分未満 6. ほとんどない

① この授業を受講して良かったと思う点がありましたら書いてください。

② この授業及び学習環境について何か要望がありましたら書いてください。

（出典：学生授業評価調査書）

秋田大学理工学部 分析項目 I

資料6-20：第2期中期計画期間における学生による授業評価集計結果

	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27
	前期	後期	前期								
Q1	4.05	4.10	4.07	4.14	4.11	4.30	4.29	4.39	4.42	4.48	4.50
Q2	4.02	4.05	4.04	4.12	4.10	4.25	4.24	4.30	4.43	4.47	4.51
Q3	4.06	4.13	4.12	4.16	4.12	4.30	4.31	4.38	4.42	4.46	4.48
Q4	3.71	3.83	3.79	3.89	3.86	4.02	3.99	4.13	4.11	4.19	4.19
Q5	3.78	3.89	3.86	3.94	3.89	4.07	4.04	4.18	4.17	4.23	4.24
Q6	3.62	3.73	3.69	3.79	3.75	3.92	3.92	4.01	4.02	4.08	4.11
Q7	3.76	3.86	3.83	3.89	3.87	4.05	4.05	4.13	4.16	4.21	4.24
Q8	3.93	3.99	3.99	4.06	4.02	4.21	4.22	4.29	4.35	4.42	4.44
Q9	3.97	4.04	4.02	4.08	4.04	4.21	4.22	4.30	4.34	4.38	4.42
Q10	3.43	3.51	3.47	3.59	3.55	3.71	3.71	3.80	3.82	3.90	3.91
Q11	2.11	2.17	2.13	2.32	2.31	2.29	2.27	2.27	2.19	2.26	2.22

(出典:数値で解剖する工学資源学研究所平成27年度版)

資料6-21：第1期中期計画期間における学生による授業評価集計結果

	平成16	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	後期	前期	後期								
Q1	3.95	3.91	3.88	3.84	3.88	3.82	3.83	3.81	3.91	3.94	4.01
Q2	/	/	/	/	/	3.84	3.81	3.79	3.90	3.94	3.98
Q3	3.90	3.92	3.90	3.88	3.88	3.82	3.81	3.81	3.93	3.96	4.04
Q4	3.48	3.53	3.50	3.48	3.49	3.44	3.49	3.45	3.59	3.58	3.68
Q5	3.53	3.56	3.58	3.54	3.56	3.51	3.57	3.51	3.66	3.65	3.75
Q6	3.40	3.40	3.41	3.38	3.37	3.36	3.40	3.36	3.48	3.50	3.57
Q7	3.52	3.52	3.55	3.52	3.50	3.48	3.52	3.48	3.58	3.65	3.70
Q8	3.68	3.76	3.71	3.73	3.71	3.70	3.69	3.71	3.79	3.86	3.90
Q9	3.79	3.83	3.77	3.75	3.75	3.73	3.74	3.71	3.85	3.85	3.93
Q10	3.18	3.23	3.23	3.18	3.19	3.21	3.19	3.20	3.32	3.35	3.37
Q11	1.70	1.67	1.84	1.84	2.01	2.00	1.96	2.05	2.11	2.09	2.06

※Q2はH19年から実施

(出典:数値で解剖する工学資源学研究所平成21・22年度版)

5. 自己点検・評価

教育研究カウンスルからの付託を受けて、評価委員会、教員評価委員会及び教育改善委員会において、教育課程の専門的事項を審議し、当該カウンスルに答申している（資料6-22）。

工学系の学科・コースでは、JABEEによる外部評価を受審することで、教育の質を点検している。受審結果は良好である（資料6-23）。

資料6-22：学部の教育内容・教育方法の自己評価・点検の体制

担当組織	取り組み内容
評価委員会	教育研究活動を評価し、点検・見直して教育活動のPDCAサイクルを推進する。
教員評価委員会	学生による授業評価、同僚評価などの結果を基に教員の評価を行う。
教育改善委員会	FD活動の実施、授業評価、JABEE受審・更新の促進、情報交換を行う。

(出典:委員会等規程)

資料6-23：工学系学科・コース J A B E E 認定状況

認定学科・コース	直近の認定状況	備 考
環境応用化学科・応用化学コース	22. 4. 1～28. 3. 31	当初認定 (17. 4. 1～)
材料工学科・材料理工学コース	27. 4. 1～33. 3. 31	当初認定 (16. 4. 1～)
機械工学科・機械工学コース	26. 4. 1～29. 3. 31	当初認定 (18. 4. 1～)
電気電子工学科	23. 4. 1～26. 3. 31	当初認定 (19. 4. 1～)
土木環境工学科・土木環境工学コース	27. 4. 1～30. 3. 31	当初認定 (16. 4. 1～)

(出典：J A B E E 技術者教育プログラム認定審査)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 学部改組を実施して、多様化する社会の要請に応えられる体制を整えた。

大学設置基準上必要な人数の教員を配置するほか、専任業務を担う専任業務教員を配置して、学生を第一とする教育実施体制を整備している。教育実施体制は種々の委員会により適切に管理運営されている。

教育の質保障のため、FD・SDを開催し、各種委員会による自己点検とJ A B E Eによる外部評価による教育の質保障を加えて、教育研究カウンスルによる教育課程の検査を実施している。

入学定員の充足率は、100%前後で推移している。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 体系的な教育課程の編成

各学科で授与する学位及びその基準、教育の目的を踏まえてカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定め、体系的に授業科目を開設・編成している(資料6-24～26)。

教育科目は、教養教育科目、基礎教育科目、専門科目の3つに分類され、教養教育科目と基礎教育科目については全学組織としての教育推進総合センターが、専門科目については理工学部改革WG、学務委員会及びコース教員が連携して編成した。

工学系の各学科・コースではJ A B E Eを受審し、講義、演習、実験、実習、セミナーなどの学習時間に関するデータを分析し、バランスのよいカリキュラムを構成している。

情報工学科では国際標準カリキュラムに準拠した情報処理学会のJ O 7に沿ってカリキュラムを構成した(資料6-26、27)。

すべての科目について、科目群、分野、水準、専攻等を示すナンバリングを導入しており、授業の内容・レベル等を示すことで適切な履修を手助けするほか、留学等の単位互換において、教育課程の国際的同等性を保証するためにも利用される(資料6-28、29)。

資料6-24：授与学位一覧

【理工学部】

学科の名称	授与する学位
生命科学科	学士(理学)
物質科学科	学士(理工学)
数理・電気電子情報学科	学士(理学)、学士(工学)
システムデザイン工学科	学士(工学)

【工学資源学部】

学科の名称	授与する学位
地球資源学科	学士(資源学)、学士(工学)
環境応用化学科	学士(工学)
生命化学科	学士(理学)、学士(工学)
材料工学科	学士(工学)
情報工学科	学士(工学)
機械工学科	学士(工学)
電気電子工学科	学士(工学)
土木環境工学科	学士(工学)

(出典：秋田大学学則)

資料6-25：理工学部カリキュラムポリシー

<p>理工学部では、次のような方針に基づいて、教育課程を構成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理工学専門基礎を徹底理解させる教育 各分野で必要な数学、理科（物理、化学、生物）を専門基礎教育とし、特定の専門分野に限らず広く学び、理解を深め、それぞれの専門においては論理的思考によって自ら課題発見ができる力を養います。 2. 応用力や創造性を重視した専門教育 ものづくり基礎実践、プロジェクトゼミ、創造工房実習、フィールド実習、卒業課題研究などを通じて、創造性と即戦力を養います。 3. 社会における科学技術の役割の学習 環境と安全、技術者倫理、技術史、鉱業史などの学習を通じて、広く社会性を養います。 4. 国際性を養う専門教育 海外交流（留学の奨励と外国人留学生との交流推進）、テクニカルコミュニケーション、外国文献講読、TOEIC演習などグローバルスタンダードな教育を行います。 5. プロポーザル能力の養成 研究プロポーザル、卒業課題研究などを通じて、相手を納得させる説明能力と意見を競うコミュニケーション能力を磨き、競争社会で勝てる力を養成します。 6. 情報処理能力の養成 情報処理の技法などを通じて、急速に進展する情報化社会に必要な情報活用能力を養います。 7. 職業意識を高める実践教育 初年次ゼミ、テクノキャリアゼミ、インターンシップなどを通じて、コアとする専門性の意識を高めます。 8. 大学、学部、学科を越えた履修範囲 自由科目、他大学との単位互換など、自己の専門を越えた分野について履修範囲を広げ、地域に貢献できるオールラウンダーとしての知識と実力を増強します。

(出展：工学資源学研究所・理工学部概要 2015)

資料6-26：理工学部ディプロマポリシー

<p>理工学部では、次のような知識、技術並びに積極的に社会に向かう姿勢を身につけた学生に、「学士（理工学）」「学士（理学）」および「学士（工学）」の学位を授与しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学と工学が融合した理工学の幅広い知識と論理的な思考力を持ち、グローバル社会や地域の諸問題に挑戦する技術者・研究者としての能力を身につけたと認定された場合、学士（理工学）が授与されます。 2. 理学系と数学に関する幅広い基礎知識や問題解決能力および社会的義務と責任を認識できる技術者・研究者としての知識・技術・創造性を身につけたと認定された場合、学士（理学）が授与されます。 3. 工学系の先端分野・学際分野および高齢化、再生エネルギーや新たな産業の創出など地域の諸問題へ対応できる技術者・研究者としての知識・技術を身につけたと認定された場合、学士（工学）が授与されます。 以降は3種の学位を授与する学生に共通して身につけてもらう目標です。 4. 地球的視点から多面的に物事を考える能力。 5. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任を理解する能力。 6. 数学をはじめとする自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力。 7. 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを応用できる能力。 8. 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力。 9. 日本語による論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力。 10. 自主的に、継続的に学習できる能力。 11. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力。

(出展：工学資源学研究所・理工学部概要 2015)

秋田大学理工学部 分析項目 I

資料6-27：卒業に必要な履修科目・単位数（理工学部）

学科及びコース名	教養教育科目	基礎教育科目	専門教育科目	合計
生命科学科 生命科学コース	22 単位以上	18 単位以上	84 単位以上	124 単位以上
物質科学科 応用化学コース 材料理工学コース	22 単位以上 22 単位以上	20 単位以上 22 単位以上	82 単位以上 80 単位以上	124 単位以上 124 単位以上
数理・電気電子情報学科 数理科学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース	22 単位以上 22 単位以上 22 単位以上	21 単位以上 21 単位以上 18 単位以上	81 単位以上 81 単位以上 84 単位以上	124 単位以上 124 単位以上 124 単位以上
システムデザイン工学科 機械工学コース 創造生産工学コース 土壌環境工学コース	22 単位以上 22 単位以上 22 単位以上	19 単位以上 19 単位以上 19 単位以上	83 単位以上 83 単位以上 83 単位以上	124 単位以上 124 単位以上 124 単位以上

(出典：秋田大学理工学部履修案内)

資料6-28：生命科学科 生命科学コースのカリキュラム（例示）

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育 基礎教育科目	初年次ゼミ 「生命科学入門」 主題別科目 大学英語 I スポーツ実技 I	主題別科目 大学英語 II スポーツ理論 II	主題別科目 大学英語 II					
	基礎生命科学 基礎生物学演習 基礎化学 I 基礎物理学 情報処理の技法 基礎数学 I 基礎数学 II	基礎生物学 基礎化学 II 基礎化学 III 基礎化学実験		基礎生物学実験				
専門科目		生命科学概論 生命基礎物理学	生化学 I 細胞生物学 I 生体機能学 分析化学 I 無機化学 有機化学 生命物理化学 化学実験 I ボランティア参加	生化学 II 細胞生物学 II 生体防御学 分析化学 II 分光化学 理論化学 I 化学実験 II テクニカルコミュニケーション	分子生命科学 分子生物学 分子細胞生物学 疾患生物学 I 生命無機化学 理論化学 II 生物学実験 I 生物学実験 II 環境と安全 インターシップ I・II	分子適応生物学 疾患生物学 II 生命有機化学 生命電気化学 界面化学 高分子化学 基礎配属研究 生命科学実験 外国文献講読 I 生命倫理学 知的財産権概論 インターシップ I・II	研究プロジェクト 卒業課題研究 外国語文献講読 II 創造工房実習 TOEIC 演習	研究プロジェクト 卒業課題研究 外国語文献講読 III 技術者倫理

(出典：秋田大学理工学部履修案内)

秋田大学工学部 分析項目 I

資料6-29：授業科目コードのナンバリング

授業科目コードのナンバリング
 本学部では授業科目コードに、各授業科目の「分野」と「水準」を表す番号を付す「ナンバリング」を導入している。授業の内容やレベルがわかるように、授業コードを構成している。授業科目コードは4つの2桁の数からなる。
 1 科目群 2 分野 3 水準 4 通し番号

(授業科目コードの例)

① 目群 ② 分野 ③ 水準 ④ 通し番号

「環境と安全」 30 72 20 01

①科目群		②分野			
	科目群	コード			
教養教育科目	初年次ゼミ	50			
	主題別科目	51			
	国際言語科目	52			
	スポーツ文化科目	53			
	国際資源学部	55			
基礎教育科目	教育文化学部	56			
	医学部	57			
	理工学部	58			
専門教育科目	学部共通科目	30			
	学科共通科目	31			
	コース共通科目	32			
	生命科学コース専門科目	33			
	応用化学コース専門科目	34			
	材料理工学コース専門科目	35			
	数理科学コース専門科目	36			
	電気電子工学コース専門科目	37			
	人間情報工学コース専門科目	38			
	機械工学コース専門科目	39			
	創造生産工学コース専門科目	40			
	土木環境工学コース専門科目	41			
	学部外科目	42			
	◆分野を表す番号の概要				
	分類	番号	説明		
	A	11～29	科学分野表における「人文社会系」の分野に対応		
	B	31～49	科学分野表における「理工系」の分野に対応		
C	51～69	科学分野表における「生物系」の分野に対応			
D	71～89	科学分野表における「総合系」の分野に対応			
E	91～99	大学における学習に必要なスキル等			
◆分野を表す番号					
A	B	C	D	E	
哲学	11 数学	31 生物科学	51 情報学	71 英語	91
芸術学	12 天文学	32 基礎生物学	52 環境学	72 外国語	92
文学	13 物理学	33 人類学	53 デザイン学	73 キャリア形成	93
言語学	14 地球惑星科学	34 農学	54 生活科学	74 大学学習法 (アカデミックスキル)	94
史学	15 プラズマ科学	35 薬学	55 科学教育・教育工学	75 教職に関する科目	95
人文地理学	16 基礎化学	36 基礎医学	56 科学社会学・科学技術史	76	
文化人類学	17 複合化学	37 境界医学	57 文化財科学・博物館学	77	
法学	18 材料化学	38 社会医学	58 地理学	78	
政治学	19 機械工学	39 内科系臨床医学	59 社会・安全システム科学	79	
経済学	20 電気電子工学	40 外科系臨床医学	60 リハビリテーション科学	80	
経営学	21 土木工学	41 歯学	61 健康・スポーツ科学	81	
社会学	22 建築学	42 看護学	62 子ども学	82	
心理学	23 材料工学	43	生体分子科学	83	
教育学	24 プロセス・化学工学	44	脳科学	84	
地域研究	25 資源工学	45	技術者倫理	85	
	応用物理学	46			
	理学	47			
	理工学	48			
	工学	49			
				その他	99
③水準					
番号	水準	説明			
10	接続・入門	高等学校との接続性を意識した水準、または大学での学習の基盤形成に重きを置く水準 (履修年次は主に初年次)			
20	基礎	中核的水準の前段階として学ぶ基礎的水準			
30	中核	専門分野の中核的水準			
40	発展	中核的水準より発展的な水準 (大学院との接続性をも視野に入る水準(履修年次は主に4年次))			

(出典：秋田大学理工学部履修案内)

2. 学部改組による教育課程編成の改善

多様化する社会の要請に対応するため、平成26年の学部改組に際し、関係者から意見聴取を行い、その調査結果に従って多様な分野を専門とできる教育課程を拡充した。

生命化学科を生命科学科として再編し理学教育を強化したほか、数理科学コースを新設し、秋田県で初めて数学・物理学を専門とできる教育課程を整備した。秋田県内では理学を学ぶ教育課程が限定的であったが、これにより県内の進路先が拡大された。また、理工学の学士を取得できる物質科学科を設置した。

工学分野においても、宇宙工学と創造的なものづくりを学ぶことができる創造生産工学コースを新設し、実践的な工学を目的とする教育課程を加えることで工学分野の教育課程を拡充した。

3. 学生の能力向上のための取組

分野や組織の枠組みにとらわれず、学生の能力や自主性を伸ばすための仕組みづくりを

行っている。

(1) 理数学生育成アドバンストコース

平成 23 年度文部科学省理数学生育成支援事業「独創的発想に富む科学者育成プログラム—出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト—」(通称：理数学生アドバンストコース)の採択により通常の教育課程に加え、意欲ある学生をさらに伸ばす教育課程を編成した。

学業成績が優秀な学生を選抜し、大学 1 年次から特別のカリキュラム・セミナー・早期研究室配属等の機会を体系的に提供することで、国際的に活躍できる独創性に富んだ研究者の育成を目指している(資料 6-30~32)。

本事業は平成 26 年度で終了したが、平成 27 年度以降も理数学生育成アドバンストコースは継続する(海外の大学等の視察を除く)。

資料 6-30：理数学生育成アドバンストコース概要

(出典：プログラム内容 <http://www.helix.eng.akita-u.ac.jp/program.html>)

資料 6-31：理数学生育成アドバンストコース 参加学生数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	計
平成 23 年度	9	—	—	—	9
平成 24 年度	8	9	—	—	17
平成 25 年度	10	13	9	—	32
平成 26 年度	8	12	13	7	40

(出典：理数学生育成支援プログラム「独創的発想に富む科学者育成プログラム—出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト—」最終報告書)

資料 6-32：理数学生育成アドバンストコース 海外大学・研究機関訪問実績

平成 23 年度	スタンフォード大学・カリフォルニア州立大学アーバイン校(アメリカ) ・大学院生の指導のもと、レーザー光を用いた分析化学の実験を体験 ・得られたデータを解析するためのシステムに関する説明を受けた
平成 24 年度	フライベルク工科大学(ドイツ) ・化学・生物学と情報(数学)の 2 グループに分かれ、講義・実験・実習 ・ドミトリイ入寮
平成 25 年度	ブリティッシュコロンビア大学(カナダ) ・学部と大学院の授業に参加 ・博士課程学生による博士論文公聴会に出席 ・タンパク質構造解析のための結晶形成、構造解析用の X 線結晶構造回折装置等の研究室を見学

平成 26 年度	ワシントン大学・マイクロソフト本社（アメリカ） ・生化学のセミナー受講 ・実験、研究室訪問 ・ステムセル研究センター 再生医療関連研究室の視察
----------	--

（出典：理数学生育成支援プログラム「独創的発想に富む科学者育成プログラム
ー出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクトー」最終報告書）

（2）学生自主プロジェクト

学生の主体的な学習を促すための取り組みとして、学生自主プロジェクトを推進している（資料6-32）。平成22年度から25年度までの実施予定であったが、28年度まで事業継続となった。

学生が地域フィールドの中で自ら企画・立案したプロジェクトを実施し、具体的な製品化、ベンチャー起業、特許取得を目指す。これまでに、75件のプロジェクトが実施された（資料6-33）。

資料6-32：学生自主プロジェクト概要

<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション能力、問題解決能力、価値判断力を持ち、地域の現実に課題意識を持った人材を育成 2. 学生の主体的なプロジェクトを支援 3. 地域を志向した大学として、学生の地域に対する知識・理解を深め、地域の課題解決、地域振興策 4. プロジェクトマネジメント能力、問題発見能力・問題解決能力、プレゼンテーション応力・ディベート能力、Engineering Design能力の涵養

（出典：ものづくり創造工学センター作成）

資料6-33：学生プロジェクトの実施状況

平成 22 年度	発電プロジェクト、CANSAT・ハイブリッドロケット開発・実験プロジェクト等 (計7件/参加学生数:計51人)
平成 23 年度	秋田大学ソーラーカープロジェクト、すもうロボプロジェクト等 全国規模のコンテストでの入賞やプロジェクト内容を学会の学生セッションで発表し、学生賞を受賞。 (計10件/参加学生数:計108人)
平成 24 年度	鳥人間プロジェクト、秋田大学3D化プロジェクト等 各種イベントにおける活動紹介、県内高校とのコラボレーション活動など、地域へ飛び出すプロジェクト活動を展開。 (計11件/参加学生数:計79人)
平成 25 年度	3Dプリンターモデルプロジェクト、からくりプロジェクト等 (計13件/参加学生数:計105人)
平成 26 年度	からくりプロジェクト等 「からくりプロジェクト」は、秋田大学発の学生ベンチャー企業「トライガルフ」の創設にまで発展している。 (計17件/参加学生数:計134人)
平成 27 年度	秋田大学3D化プロジェクト、ハイブリッドロケット打ち上げプロジェクト、KAJIYAプロジェクト、WAXプロジェクト等 KAJIYAプロジェクト、WAXプロジェクトはH29年度に製品化・起業に向けて準備中である。 (計17件/参加学生数:計107人)

（出典：附属ものづくり創造工学センター運営委員会）

4. 通信教育講座

国立大学法人として唯一の文部科学省認定社会通信教育を開講している。科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースと、資源系、材料系、電気電子系の基

秋田大学理工学部 分析項目 I

礎及び専門を学べる 8 コースが開設されている。科目履修生として任意の科目を自由に選択して履修することもできる（資料 6-34）。

生涯学習活動に関する資格である生涯学習インストラクター資格制度の対象講座であり、講座を修了した段階で取得を申請することができる。本学教員が執筆した教科書を使用し、レポートによる添削指導のほかに、学内スクーリング（実験・実習主体）と学外スクーリング（講義主体）を実施している。

現在、受講者の年齢層は 40 代以上が 6 割（うち 3 割が 60 代以上）を占め、最終学歴は大学卒及び大学院修了者が 7 割を占める。職業・専門教育のみならず教養目的の受講も多く、幅広い年齢層の受講希望者、高齢者の修了者の増加がみられる（資料 6-35、36）。

資料 6-34：各コース内容

コース	科 目
地球科学コース	一般地質学、資源と地球環境、地球化学、鉱物学、岩石学、鉱床学、エネルギー地質学、応用地質学、応用地球物理学、地震、火山
資源開発コース	一般地質学、資源開発工学概論、地殻開発工学、鉱物資源開発、地下環境、石油資源開発、海洋資源開発、輸送システム、資源処理工学、廃水処理
材料工学基礎コース	材料構造学、材料強度物性学、材料物理化学、金属製錬学、金属材料学、セラミック材料学、材料加工学、材料電子物性学
材料工学専門コース	非鉄金属製錬学、鉄鋼製錬学、機能材料学、機能材料学、複合材料学、材料表面工学、凝固加工学、組織制御学
電気・電子基礎コース	数学、物理学、電気磁気学、電気回路学、電気計測工学、電子物性デバイス工学、電子回路学、電子計測工学
電気系専門コース	電気材料学、電力工学、電気機器工学、パワーエレクトロニクス、システム工学、制御工学、電子計算機工学、電子計算機工学 II
電子系専門コース	システム工学、制御工学、電子計算機工学、電子計算機工学、通信工学、高度信号伝送工学、オプトエレクトロニクス、電子応用
一般科学技術コース	数学、物理学、初等工業力学、資源開発工学概論、材料工学概論、応用化学概論、機械工学概論、電気・電子工学概論、情報工学概論、一般地質学、資源と地球環境、土木環境工学概論

（出典：通信教育講座作成）

資料 6-35：通信教育講座 受講者の年齢層 （28.1.1 現在）

年齢構成	男	女	合計
～19 歳	2	0	2
20 歳から 29 歳	36	11	47
30 歳から 39 歳	70	15	85
40 歳から 49 歳	70	15	85
50 歳から 59 歳	58	15	73
60 歳以上	58	1	59
合 計	294	57	351

（出典：通信教育講座調査）

資料 6-36：通信教育講座 受講者の最終学歴等 （平成 28 年度 1 月 1 日現在）

区分	大学院修	大学卒	短大卒	高専卒	専修学修	高卒	中卒	他学校卒	小計
男	68	139	6	5	6	56	1	0	281
女	8	31	5	1	1	8	0	1	55
計	76	170	11	6	7	64	1	1	336

区分	大学院在	大学在	短大在	高専在	その他	小計	合計
男	2	10	0	0	1	13	294
女	1	1	0	0	0	2	57
計	3	11	0	0	1	15	351

(出典：通信教育講座調査)

5. 社会貢献のための取り組み

教育・研究成果を地域に還元するため、社会貢献についても積極的に取り組み、様々な事業を実施している。

(1) 産学官連携プロジェクト

学部内の研究成果を秋田県内企業等に移転し、活用を図るため、産学連携推進協議会を設立した。研究成果情報を県内企業に公開・技術移転し、活用することを学部教員に働きかけ、産学官連携プロジェクトを実施している（資料6-37）。

資料6-37：産学官連携プロジェクト

専攻等	論文区分	卒論・修論テーマ	実施年度					
			H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
情報工学科	卒論	堤防等の植生の画像分析処理方法の検討	○	○	○	○	○	○
	卒論	物流の庫内業務における作業の効率化に関する検討 (平成22年度までは、「倉庫内巡回経路の最適化に関する検討」)	○	○	○	○	○	○
	卒論	相転移解析法を援用したトラフィック状態の同定に関する研究 (平成22年度までは、「R/S box diagramの散布形状に着目したトラフィック異常検知」) (平成24年度までは、「統計的異常検知法による攻撃トラフィックの識別に関する研究」)	○	○	○	○	○	-
電気電子工学科	卒論	無電解Agめっきの耐マイグレーション性の研究	○	-	-	-	-	-
環境物質工学科	卒論	長期備蓄原油の水分分離に関する研究 (平成22年度までは、「地中タンク長期備蓄原油の含有水分挙動に関する研究」) (平成23年度までは、「地中タンク長期備蓄原油の混油系でのスラッジ及び含有水分挙動に関する研究」)	○	○	○	-	-	-
環境物質工学専攻	修論	自動車排ガス浄化用三元触媒の開発研究	○	○	-	-	-	-
環境物質工学専攻	修論	石油系軽油代替燃料の製造・普及に関する調査研究	-	-	-	-	○	○

(出典：理工学部調査・作成)

(2) 能代宇宙イベント

ものづくり創造工学センターが中心となり、学内に一般社団法人あきた宇宙コンソーシアムを設置し、毎年「能代宇宙イベント」を主催することで地域の理工学教育への啓発を図っている（資料6-38）。

資料6-38：能代宇宙イベント概要

開催時期	毎年8月
会場	能代宇宙広場
来場者数	平成22年度 約1,000人（競技参加者400人、一般見学者600人） 平成23年度 約2,400人（競技参加者400人、一般見学者2,000人） 平成24年度 約3,400人（競技参加者400人、一般見学者3,000人） 平成25年度 約1,050人（競技参加者550人、一般見学者500人） ※来場者数の減少は悪天候の影響によるもの 平成26年度 約2,400人（競技参加者900人、一般見学者1,500人） 平成27年度 約3,300人（競技参加者800人、一般見学者2,500人）

実施内容（対象）	<p>能代宇宙イベントは、糸川英夫博士による秋田県道川海岸でのペンシルロケット打上げ 50 周年を記念して、2005 年より秋田県能代市の支援と地元との協力のもとに実施している。</p> <p>本イベントは、大学生によるロケットの打上げや、缶サット（小型模擬人工衛星）のフライバック及びランバック競技会、高校生によるロケットや缶サットを用いた全国大会、中学生によるモデルロケット秋田県大会、小学生によるロケット教室等を実施することで宇宙への関心を高め、宇宙教育の促進を目指す全国規模の宇宙教育プログラムである。</p>
----------	---

（出典：附属ものづくり創造工学センター運営委員会）

（3）子どもものづくり教室

ものづくり創造工学センターが中心となり、子どもものづくり教室を開催し、若い世代の科学への関心を向上させる取り組みを行っている（資料 6-39）。

資料 6-39：子どもものづくり教室 開催実績

開催年度	開催回数	参加者数
平成 22 年度	5 回	小学生等 計 82 名、保護者 計 64 名
平成 23 年度	10 回	小学生等 計 192 名、保護者 計 161 名
平成 24 年度	10 回	小学生等 計 175 名、保護者 計 144 名
平成 25 年度	12 回	小学生等 計 237 名、保護者 計 216 名
平成 26 年度	11 回	小学生等 計 272 名、保護者 計 255 名
平成 27 年度	9 回	小学生等 計 143 名、保護者 計 128 名

（出典：附属ものづくり創造工学センター運営委員会）

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由） 各学科・コースの学位授与方針に従い、工学系コースでは J A B E E で求められるバランスのよいカリキュラムや情報処理学会標準の J O 7 を援用して国際通用性のある体系的な教育課程を構成している。

正課以外に学生の能力を高めるプログラムとして、理数学生アドバンスコースでは、ネイティブ教員による科学英語の授業、海外研修の実施、早期卒業などを実施している。

学生自主プロジェクトでは、学生の主体的なプロジェクトを実施することで、幅広い能力を身に付けることを支援している。

また、生涯教育として理工系分野の通信教育を担っており、幅広い年齢層の受講生を受け入れている。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 学習成果の評価

成績評価及び単位修得については、明文の規程を定め、実施している（資料6-40）。

極度に多様化した理工学分野の専門性を担保するため、4年次に研究プロポーザルを2単位、卒業課題研究を8単位取得することを必須とし、学生自身が独自に研究活動を行い、当該分野を専門とする教員の評価を受けることを義務付けている。

資料6-40：単位修得・成績基準

(単位修得の認定)

第10条 単位修得の認定は、科目試験による。科目試験は、筆記試験その他の方法で行う。

(成績)

第11条 試験の成績は、S、A、B、C、Dの5種の評語をもって表わし、S、A、B、Cを合格とする。

(出典：理工学部規程)

2. 単位取得・成績等の状況

留年率、休学率、退学率に関しては、理工学部は平成26年度の開設であるため、就職状況などの影響がまだなく、傾向の把握にはまだ時間が必要である（資料6-41、42）。

学生のメンタルヘルスについては、教職員と保健管理センターとの協力体制を強化し、留年・休学・退学の防止に努めている。また、工学資源学部では平成17年に、授業や友人関係、家族の問題、健康や将来に対する不安について相談できる「なんでも相談室」を開設し、修学上の問題に対応している。

資料6-41：留年率・休学率・退学率の推移（理工学部）

[単位：%]

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
生命科学科	留年率					4.5	3.4
	休学率					2.3	2.3
	退学率					2.3	2.3
物質科学科	留年率					3.5	4.0
	休学率					0.0	1.3
	退学率					0.0	1.8
数理・電気電子情報学科	留年率					5.2	4.3
	休学率					0.7	1.9
	退学率					1.5	0.0
システムデザイン工学科	留年率					3.7	3.4
	休学率					1.5	1.9
	退学率					0.7	0.0

(出典：秋田大学基本データ、総合学務課調査)

資料6-42：留年率・休学率・退学率の推移（工学資源学部）

[単位：%]

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地球資源学科	留年率	5.6	7.3	10.1	6.4	9.4	6.8
	休学率	2.8	2.4	3.2	4.0	5.8	3.0
	退学率	10.0	6.7	14.1	11.3	4.9	11.3

秋田大学理工学部 分析項目Ⅱ

環境応用化学科	留年率	7.1	6.5	7.9	8.9	6.8	8.1
	休学率	2.2	3.3	3.5	1.6	4.7	5.6
	退学率		5.1	10.0	4.9	1.6	4.8
生命化学科	留年率	4.0	2.3	2.3	4.6	5.1	4.6
	休学率	2.0	2.3	1.5	3.1	3.0	4.6
	退学率		5.9	2.9	12.1	3.0	0.0
環境物質工学科	留年率	8.1					
	休学率	7.0					
	退学率	7.4					
工学資源学部 材料工学科	留年率	8.0	8.1	9.4	6.9	9.5	11.6
	休学率	2.3	2.2	4.0	2.5	4.3	3.9
	退学率	1.6	6.2	9.0	3.1	3.0	7.8
工学資源学部 情報工学科	留年率	9.8	14.0	13.6	7.8	7.9	5.7
	休学率	1.7	4.3	5.0	3.3	5.3	4.1
	退学率	3.6	3.7	13.1	12.7	5.3	5.3
工学資源学部 機械工学科	留年率	7.6	5.8	9.3	3.8	9.2	5.3
	休学率	2.1	1.1	3.4	1.9	2.9	5.3
	退学率	6.9	6.8	9.0	6.7	9.1	2.4
工学資源学部 電気電子工学科	留年率	5.9	6.3	8.5	5.4	7.7	6.6
	休学率	2.4	1.4	1.7	2.3	3.5	4.4
	退学率	8.2	4.7	3.5	3.7	3.7	3.7
工学資源学部 土木環境工学科	留年率	8.7	8.3	9.6	5.8	4.5	3.2
	休学率	0.0	3.0	3.8	3.7	5.6	1.6
	退学率	5.3	5.9	3.6	7.5	1.9	3.6

(出典：秋田大学基本データ、総合学務課調査)

3. 資格等取得

所定の科目・単位の取得が特定の資格取得に結び付いており、卒業生の専門能力の担保の一助となっている（資料6-43）。

また、J A B E E の認定を受けたコースでは、卒業生全員に J A B E E 修了証が授与されるとともに、技術士・技術士補の資格試験に際してはその一部が免除されている（再掲資料6-23）。

さらに、学部改組以前から取得が可能であった理科、工業科の高校一種免許に加えて、平成27年には数学の高校一種免許の教職課程も認定された。今後も地域の理数系高等学校教員や工業科教員の養成が期待されている（資料6-44）。

資料6-43：卒業により取得につながる主な資格（申請中を含む）

事 項	資格の種類	取得可能コース等
所定の科目・単位を修得し、卒業後所定の実務経験を経ること等により取得できる	電気主任技術者【申請中】	数理・電気電子情報学科 電気電子工学コース
	測量士・測量士補	システムデザイン工学科 土木環境工学コース
	ボイラー・タービン主任技術者	システムデザイン工学科 機械工学コース 創造生産工学コース 他

秋田大学工学部 分析項目Ⅱ

	ダム水路主任技術者	システムデザイン工学科 土木環境工学コース 他
	陸上特殊無線技士・海上特殊無線技士 【申請中】	数理・電気電子情報学科 電気電子工学コース
所定の科目・単位を修得し卒業すること等により、試験の一部が免除される	火薬類取扱保安責任者	全学科 全コース 「火薬学」を修得
	電気通信主任技術者【申請中】	数理・電気電子情報学科 電気電子工学コース
	技術士・技術士補	物質科学科 応用化学コース 材料理工学コース システムデザイン工学科 機械工学コース 土木環境工学コース
所定の科目・単位を修得し、卒業後所定の実務経験を経ること等により受験資格を得ることができる	ボイラー技士	システムデザイン工学科 機械工学コース
	土木施工管理技士【申請中】	システムデザイン工学科 土木環境工学コース 他
	管工事施工管理技士【申請中】	数理・電気電子情報学科 電気電子工学コース 人間情報工学コース システムデザイン工学科 機械工学コース 創造生産工学コース 土木環境工学コース 他
所定の科目・単位を修得すること等により、受験資格を得ることができる	危険物取扱者（甲種）	全学科 全コース 化学に関する科目を15単位以上修得

(出典：卒業により取得につながる資格（申請予定）<http://www.riko.akita-u.ac.jp/examination/qualify.html>)

資料6-44：教員免許状取得・教員採用状況

	高等学校教諭一種 免許状（工業）〔人〕	高等学校教諭一種 免許状（理科）〔人〕	教員採用者数
平成22年度	35		1
平成23年度	28	9	3
平成24年度	36	12	0
平成25年度	13	15	2
平成26年度	16	20	1
平成27年度	9	11	2

※数学については改組後の卒業生がいないため未算出

(出典：総合学務課調査，就職支援課調査)

4. 学生の顕著な活動成果

(1) 理数学生アドバンストコース

理数学生アドバンストコース参加学生と一般学生の成績を比較すると、各年代で理数学生アドバンストコースの学生が一般学生を上回っている。また、研究活動を早期に開

秋田大学工学部 分析項目Ⅱ

始することで、さらに、日本財団平成 26 年度笹川科学研究助成の受託や学術論文の採録など、学部学生の時点で多くの研究成果を挙げており、将来の科学技術を担う人材の育成が実践されている（資料 6-45、46）。

資料 6-45：平成 26 年度成績比較（GPA 平均）

区 分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
参加学生	3.130	2.910	2.950	3.080
一般学生	2.240	2.220	2.180	2.15

（出典：理数学生育成支援プログラム「独創的発想に富む科学者育成プログラム
- 出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト -」最終報告書）

資料 6-46：参加学生の研究成果（平成 24～26 年度）

研究助成	1 件
論文数	2 件
国際研究集会：ポスター発表	4 件
国際研究集会：口頭発表	3 件
国内研究集会：ポスター発表	16 件
国内研究集会：口頭発表	18 件

（出典：理数学生育成支援プログラム「独創的発想に富む科学者育成プログラム
- 出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト -」最終報告書）

（2）学生自主プロジェクトの教育成果

学生自主プロジェクトの目的の一つであるベンチャー起業が実現されて、平成 26 年度の「からくりプロジェクト」がベンチャー起業まで展開した。さらに、いくつかのプロジェクトが起業を準備している（資料 6-47）。

資料 6-47：学生自主プロジェクト 学生プロジェクトの成果

年度	事 項
平成 26 年度	「からくりプロジェクト」：秋田大学発のベンチャー企業「トライガルフ」の起業
平成 27 年度	KAJIYA プロジェクト：南極探検用のチタン合金製の器具を開発 WAX プロジェクト：スノーボード用の特殊ワックスを開発 それぞれ H29 年度に製品化・起業に向けて準備中である。

（出典：学部事務局調査）

（3）各種表彰等

各種学会の研究集会で学生が研究発表を行い、表彰を受けている（資料 6-48）。

資料 6-48：学生の表彰

受賞年	賞を授与する団体（学会）	賞の名称	賞を与えられた発表・論文のタイトル等
H22	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部 学生奨励賞	残留ファイルの検出を目的としたファイル 操作ログの検出法に関する検討
H23	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部 学生奨励賞	ALOS AVNIR-2 データを用いた宝仙湖の水質 状況に関する検討
H23	東北地区若手研究者研究発表会	平成 24 年東北地区若 手研究者研究発表会優 秀発表賞	倍音成分とその包絡形状に着目した音高認 識の一方法
H24	日本化学会東北支部	平成 24 年度化学系学 協会東北大会 優秀ポ スター賞	剛直な大環状化合物をモノマーとする芳香 族ポリエーテルの合成

秋田大学理工学部 分析項目Ⅱ

H24	情報処理学会	第74回全国大会 情報処理学会推奨卒業論文	立方体表面上のクイーン問題およびルーク問題
H24	情報処理学会	第74回全国大会 学生奨励賞	立方体表面上のクイーン問題およびルーク問題
H25	日本知能情報ファジィ学会東北支部	日本知能情報ファジィ学会東北支部研究会奨励賞	河川堤防における植生の種別と比率推定に関する検討
H25	東北地区若手研究者研究発表会	平成26年東北地区若手研究者研究発表会優秀発表賞	一般調和解析による足音の特徴抽出に関する検討
H25	日本機械学会	畠山賞	成績優秀な学生に与えられる賞
H25	空気調和・衛生工学会	空気調和・衛生工学会賞	成績優秀な学生に与えられる賞
H26	日本知能情報ファジィ学会東北支部	日本知能情報ファジィ学会東北支部研究会奨励賞	テキスト情報を活用した SVM による河川堤防における植生の種別と比率推定に関する検討
H26	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部学生奨励賞	情報漏洩の防止を目的としたコピー操作の検出
H26	秋田化学技術協会	優秀発表賞	N-アルキルポリアミドを用いた新規ブロック共重合体の合成と特性解析
H26	日本機械学会	畠山賞	成績優秀な学生に与えられる賞
H26	第18回秋田県腎不全研究会	優秀発表賞受賞	運動後急性腎不全を合併症に持つ低尿酸血症患者の URAT1 の遺伝子解析
H27	公益社団法人地盤工学会	第50回地盤工学研究発表会 優秀論文発表者賞	盛土併用真空圧密を模擬した三軸試験機による泥炭の強度および変形特性 その1 -せん断弾性係数の変化-
H27	日本知能情報ファジィ学会東北支部	日本知能情報ファジィ学会東北支部研究会奨励賞	情景動画画像を用いた夜間の最高速度標識の抽出に関する基礎検討
H27	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部学生奨励賞	口唇の動き特徴を用いたコマンド識別法の改善に関する基礎検討
H27	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部学生奨励賞	無症候性脳梗塞の簡易判定のための巧緻動作の解析
H27	日本機械学会	畠山賞	成績優秀な学生に与えられる賞

(出典：学部事務局調査・作成)

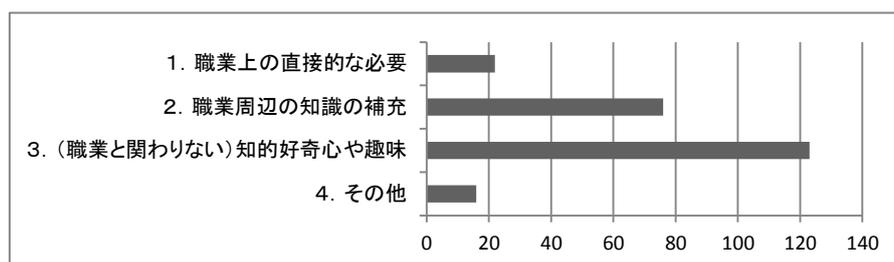
4. 通信教育講座の教育成果

平成27年度末までに、通算約1,840名の修了生を社会に輩出し、平成22年から27年まで毎年1名の受講生が成績優秀者として文部科学大臣賞を受けている(資料6-49)。

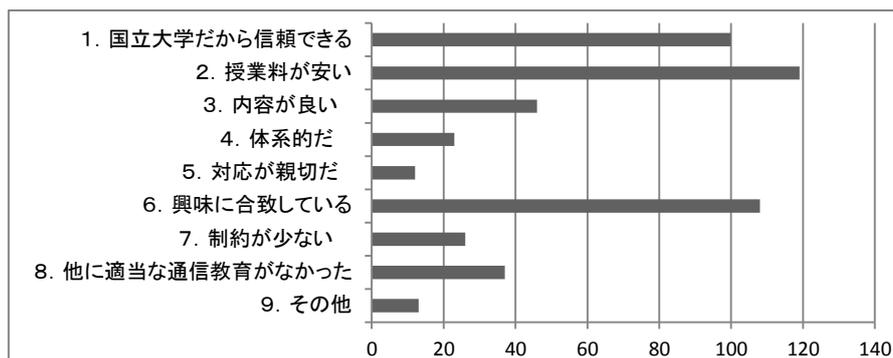
資料6-49：平成22年度以降の通信教育講座入学者のアンケート集計結果

(回答者数：218人 (複数回答) 単位：件数)

《受講の動機》



《受講に当たり、決め手となった本講座の特徴》



(出典：秋田大学理工学部通信教育に関するアンケート)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由) 第2期中期計画期間の学生授業評価結果が、第1期中期計画期間に比べて大幅に改善されており学生の満足度が向上している。

研究集会で表彰されるなど標準的な学習成果レベルを上回る学生もいる。理数学生アドバンストコースでは国際研究集会での発表や笹川科学研究助成の受託など、学生自主プロジェクトではベンチャー起業など、高いレベルの学習成果を残している。通信教育講座では、毎年1名の受講生が文部科学大臣賞を表彰している。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1. 進路・就職状況

就職支援のために、進路指導委員会を設置し、各学科・コースの情報共有を図り、就職推進課と協力して、学生に就職関連情報を提供し指導する組織的体制を構築した。各コースでは、就職担当教員を任命し、学生に個別指導を行っている。1年次では、初年次ゼミでキャリア教育の授業を、2・3年次でもインターンシップ科目を開講し、学生のキャリア形成について指導している。

卒業者の進路としては、就職者が5～6割、進学者が3～4割を占めている(資料6-50)。就職先の業種としては、製造業、情報通信業、建設業、サービス業が多く、公務員も増加傾向にある。各学科の専門性を活かした業種に就職している(資料6-51、52)。

資料6-50：進路状況

	卒業者数	進学者数	就職者数		その他	未就職者
			県内	県外		
平成22年度	461	183	232		32	14
			46	186		
平成23年度	468	167	252		33	16
			57	195		
平成24年度	465	132	275		44	14
			43	232		
平成25年度	485	169	271		38	7
			57	214		
平成26年度	483	176	275		22	10
			52	223		
平成27年度	479	165	290		23	1
			46	244		

(出典：秋田大学概要)

秋田大学理工学部 分析項目Ⅱ

資料6-51：就職状況（産業別）

区分／年度	農林・水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究・専門技術	宿泊・飲食業	生活関連・娯楽業	医療・福祉	学校教育	教育学習支援業	複合サービス業	サービス業	公務員	その他	就職者合計
平成22年度	0	2	35	92	4	28	6	9	2	3	0	2	0	2	1	1	1	11	32	1	232
平成23年度	0	4	28	118	5	17	12	5	1	0	0	1	0	1	3	2	4	12	39	0	252
平成24年度	0	6	29	98	4	33	17	5	3	1	0	0	0	2	0	2	10	22	43	0	275
平成25年度	1	5	45	70	2	23	18	13	6	0	0	3	0	1	2	1	2	23	56	0	271
平成26年度	1	5	35	87	2	37	12	7	4	0	0	1	0	0	1	3	6	19	55	0	275
平成27年度	2	6	37	83	11	31	14	3	6	0	6	1	2	2	3	3	8	5	66	1	290

（出典：秋田大学概要）

資料6-52：最近3年間における主な就職先

学 科	主 な 就 職 先
地球資源学科	秋田県庁、旭ガラス、アラビア石油、上田石灰製造、宇部興産、応用地質、核燃料サイクル開発機構、久保田建設、経済産業省、鉱研工業、ジャパン石油、新日本石油、石油資源、大成基礎設計、太平洋セメント、中外鉱業、千代田化工建設、東部ガス、ドリコ、東芝セラミック、日鉱探開、日鉄鉱業、日特建設、日本板硝子、日本海洋掘削、日本空調サービス、日本原燃、パブリックコンサルタント、東日本旅客鉄道、復権技術コンサルタント、富士総合研究所、物理計測コンサルタント、宮城県立工業高校、三菱マテリアル資源開発、三星鉱業、ヤンマー農機、住友金属鉱山
環境応用化学科	青森県庁、青森市役所、秋田市役所、北海道庁、ニチアス、協同油脂、石炭エネルギーセンター、ニプロファーマ、関西保温工業、フルヤ金属、TDK由利本荘、日揮プラントソリューション、材料科学技術振興財団、千代田アドバンスト・ソリューションズ、アルプス電気、東日本旅客鉄道、昭和電工、セイシン企業、バイタルネット、フジキン、アイシン産業、相田化学工業、秋田石油備蓄、秋田プリマ食品、東電化工業、日本海事検定協会、河西工業、サーマル、芝浦電子、島津アクセス、東北フジクラ、武蔵野香料化学研究所、ROKI、クリナップ、河野光学レンズ、千代田工商、テルモヒューマンクリエイティブ、日研総業、日発精密工業、日揮プランテック、日鉄鉱業、日本クラウンコルク、日本合成化工、日本プロセス、日本リファイン、光ガラス、フジモトHD、前田道路、丸三製紙、三つ星鉱業

秋田大学理工学部 分析項目Ⅱ

生命化学科	山形県庁、鶴岡市役所、新潟市役所、大仙市役所、ニプロ、ヤンセンファーマ、日新薬品、ロキテクノ、秋田プリマ食品、東北フジパン、丸善食品工業、フレッシュダイナー、秋田日産自動車、アイ・アール・システム、SMBC日興証券、タリーズコーヒージャパン、ナイス、ハシモトホーム、ノジマ、メディアリンク、システムエグゼ、北日本コンピュータサービス、東北環境科学サービス、秋田県分析科学センター、東日本電信電話、郵便局
材料工学科	秋田県庁、岩手県庁、静岡県庁、JR東日本、日本原燃、いすゞ自動車、日立システムズ、アカオアルミ、東北芝浦電子、オリエンタルエンジニアリング、東洋精箔、日発精密工業、トヨタテクニカルディベロップメント、中央電気工業、角館芝浦電子、日本大昭和板紙
情報工学科	秋田県庁、秋田県警察本部、山形県庁、金融庁、国税庁、秋田大学、JR東日本、JR北海道、JTB東北、ロンシール工業、三菱ビルテクノサービス、トヨタテクニカルディベロップメント、ジェイテクト、凸版印刷、ソレキア、菱栄テクニカ、協栄産業、JUKI電子工業、NLTテクノロジー、宮腰精機、NECソフト、NTT-ME、インクリメントP、NTTデータMSE、神田通信機、ナカヨ通信機、日本無線、パイオニアシステムテクノロジー、ソフトクリエイト、新日鉄住金ソリューションズ、TDCソフトウェアエンジニアリング、東北インフォメーションシステム、日立システム、アイシーエス、日立超LSIシステムズ、ADK富士システム、富士通アドバンストエンジニアリング、リコーITソリューションズ
機械工学科	秋田県庁、秋田市役所、YKK、古河機械金属、DOWA、いすゞ、三菱マテリアル、JR東日本、富士重工、トヨタ自動車工業、竹田設計工業、スズキ、サーマル、ミツミ、東芝、宮腰デジタルシステム、アキタ電子システム、デンソーテクノ、JUKI電子、昭和電工
電気電子工学科	秋田県庁、岩手県庁、国土交通省東北運輸局、東京消防庁、DOWAホールディングス、JR東日本、NECエンジニアリング、NTT東日本、秋田放送、アルプス電気、五洋電子、指月電機製作所、スズキ、住友ベークライト、大豊工業、竹中工務店、タニタ、テルモ、デンソーテクノ、東芝ITコントロールシステム、東京電力、東北電力、北海道電力、トヨタ自動車東日本、トヨタテクニカルディベロップメント、日本無線、日立ソリューションズ東日本、富士通、富士通ゼネラル、富士重工業、本田技研工業、ミツミ電機、明電舎、矢崎総業、ユアテック
土木環境工学科	国土交通省（東北地整、関東地整、中部地整、北陸地整、近畿地整）、秋田県庁、青森県庁、岩手県庁、宮城県庁、山形県庁、福島県庁、栃木県庁、群馬県庁、東京都庁、千葉県庁、長野県庁、新潟県庁、愛知県庁、秋田市役所、札幌市役所、函館市役所、八戸市役所、盛岡市役所、仙台市役所、山形市役所、新潟市役所、横浜市役所、JR北海道、JR東日本、JR東日本東北工事事務所、JR東日本コンサルタンツ、ネクスコ・エンジニアリング東北、ネクスコ・メンテナンス東北、第一建設工業、ユニオン建設、仙建工業、川田建設、日本国土開発、西松建設、ショーボンド建設、植木組、名工建設、日鉄住金パイプライン&エンジニアリング

※理工学部は平成26年度設置のため学年進行中

(出典：工学資源学部広報誌「ERA」)

2. 卒業生への意見聴取及びその結果

平成27年度に教育効果、教育内容などについて卒業生にアンケート調査を実施した(資料6-53)。

教養基礎教育で学んだことは役立っているか(問3)、教養基礎教育で学んだことは意義があるか(問9)という設問については、意義を認めないわけではないが明確に卒業後に役立つと答えた卒業生は必ずしも多くなかった。

一方で、専門分野が現在の仕事・業務に関係あるかどうか(問11)、専門分野が仕事・業務で役立っているかどうか(問12)、専門分野で学んだことは意義があるか(問14)という設問については肯定的な回答が大部分を占め、ほとんどの卒業生が、学習した専門分野は仕事・業務に関連し役立っていると判断している。

在学中に身についた事柄(問25)については、専門能力(4)や新しい知識・技術を吸収しようとする向上心(2)、組織的行動力(8)に関しては肯定的な回答を得た。一方で、外国語運用能力(3)と独創性(6)に関しては否定的な回答が得られた。特に外国語の習得について満足度が低いことが、今後の課題となっている(資料6-54)。

(学部卒業生)

秋田大学工学資源学部の教育成果に関する調査票

【調査の目的】
この調査は、秋田大学工学資源学部の学部教育(学士課程)における学習成果に対して、卒業生がどのような意識を持っているのかを把握・分析し、その結果を踏まえて教育課程の更なる改善・充実を進めることを目的として実施するものです。

【回答方法】
選択式の項目：該当する番号を別紙回答用紙にご記入ください。「その他」を選択した場合は、番号のほかに、()内にも該当する事情をご記入ください。
記述式の項目：回答用紙の記述欄に、ご自由にお書きください。記述欄が不足の場合は、適宜余白をお使いください。

I. あなたの在学中のことについておたずねします。

問1：あなたの入学及び卒業年について、該当するものを1つ選択してください。
(1) 入学年： 1.H20年度 2.H21年度 3.H22年度 4.その他()
(2) 卒業年： 1.H23年度 2.H24年度 3.H25年度

問2：あなたが卒業した学科について、該当するものを1つ選択してください。
1.地球資源学科 2.環境物質工学科・環境応用化学科 3.生命化学科
4.材料工学科 5.情報工学科 6.機械工学科 7.電気電子工学科
8.土木環境工学科

II. 秋田大学で学んだ教養基礎教育についておたずねします。

(参考) 教養基礎教育の目的……特定の専門に偏ることなく、幅広い領域に学問的関心を持ち、社会の変化や多様性に自律的かつ柔軟に対応できる素養を身に付けるとともに、専門の内容を深く理解するための基礎となる能力を習得する。

問3：教養基礎教育で学んだことは卒業後、役立っていますか。該当するものを1つ選択してください。1か2を選択された方は問4へ、3か4を選択された方は問5へお進みください。
1.大いに役立っている 2.多少役立っている
3.あまり役立っていない 4.全く役立っていない

問4：問3で、1または2と答えた方におたずねします。
(1) 特にどの分野が役立っていますか。該当するものを1つ選択してください。
1.初年次ゼミ 2.目的・主題別科目 3.教養ゼミナール 4.国際言語科目
5.スポーツ科学 6.基礎教育科目 7.情報処理関連科目

(学部卒業生)

(2) どのような場面で役立っていますか。該当するものを1つ選択してください。
1.職業活動 2.社会活動 3.趣味・娯楽 4.社交 5.子どもの教育
6.その他()

問5：問3で、3または4と答えた方におたずねします。
教養基礎教育としてどのような分野が必要だと思いますか。具体的な分野や科目等がございましたらお書きください。
(記述欄)

問6：今後のあなたの生活の中で、教養基礎教育のどの分野を役立てたいと考えますか。該当するものを1つ選択してください。
1.初年次ゼミ 2.目的・主題別科目 3.教養ゼミナール 4.国際言語科目
5.スポーツ科学 6.基礎教育科目 7.情報処理関連科目

問7：問6で選択した分野を、あなたの生活のどのような場面で役立てたいと考えますか。該当するものを1つ選択してください。
1.職業活動 2.社会活動 3.趣味・娯楽 4.社交 5.子どもの教育
6.その他()

問8：社会に出て、大学在学中に教養基礎教育のどの分野をもっと勉強しておけば良かったと思いますか。該当するものをすべて選択してください。(複数回答可)
1.初年次ゼミ 2.目的・主題別科目 3.教養ゼミナール 4.国際言語科目
5.スポーツ科学 6.基礎教育科目 7.情報処理関連科目 8.その他()

問9：教養基礎教育で学んだことは、あなたにとって意義があると思いますか。該当するものを1つ選択してください。
1.大いに意義がある 2.多少意義がある 3.あまり意義がない
4.全く意義がない

問10：教養基礎教育について何かご意見があればお書きください。
(記述欄)

III. 秋田大学で学んだ専門教育についておたずねします。

問11：あなたが大学時代に学んだ専門分野は、現在の仕事や業務と関連がありますか。該当するものを1つ選択してください。
1.大いに関連がある 2.多少関連がある 3.あまり関連が無い
4.全く関連がない

(学部卒業生)

問 12: あなたが大学時代に学んだ専門教育は、現在の仕事や業務に役立っていると思いますか。該当するものを1つ選択してください。

1. 大いに役立っている 2. 多少役立っている 3. あまり役立っていない
4. 全く役立っていない

問 13: 社会に出て、大学在学中にどのような分野をもっと勉強しておけば良かったと思いますか。具体的な分野や科目等がございましたらお書きください。

(記述欄)

問 14: 専門教育で学んだことは、あなたにとって意義があると思いますか。該当するものを1つ選択してください。

1. 大いに意義がある 2. 多少意義がある 3. あまり意義がない
4. 全く意義がない

問 15: 専門教育について何かご意見があればお書きください。

(記述欄)

IV. 在学中の秋田大学の状況についておたずねします。

問 16: 在学中の秋田大学の教育環境（施設・設備等）について、どのくらい満足していましたか。該当するものを1つ選択してください。

また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらかといえば不満 4. 不満

(記述欄)

問 17: 在学中の秋田大学のサービス（学務や学生支援の窓口対応・就職支援等）について、どのくらい満足していましたか。該当するものを1つ選択してください。

また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらかといえば不満 4. 不満

(記述欄)

V. 本学卒業後のあなたの仕事についておたずねします。

問 18: 卒業直後に就いた仕事を選択した理由について、該当するものを3つまで選択してください。

(学部卒業生)

1. 自分のやりたい仕事である
2. 自分の専門を生かすことができる
3. 自分の業務上の知識や技能等に関して、向上を図ることを期待できる
4. 良好な業績や経営の安定性
5. 将来的な有望性
6. 給与等の待遇や福利厚生
7. 社会に貢献できる仕事である
8. 職場訪問や実習等
9. 保護者や教員等からの勧め
10. 勤務地
11. その他 ()

問 19: 現在の仕事について、該当するものを1つ選択してください。

1. 企業・団体の事務・営業職 2. 企業・団体の技術・研究職 3. 教員
4. 公務員 (3を除く) 5. 大学院に在学している 6. その他 ()

問 20: 現在の仕事の業種について、該当するものを1つ選択してください。1を選択された方は問 21へ、それ以外を選択された方は問 22へお進みください。

1. 農林水産業 2. 鉱業 3. 建設業 4. 製造業 5. 電気・ガス・水道業
6. 情報通信業 7. 運輸業・郵政業 8. 卸・小売業 9. 金融・保険業
10. 不動産業 11. 飲食・宿泊業 12. 医療・福祉 13. 学校教育
14. その他教育関係・学務支援業 15. 複合サービス・サービス業
16. 公務員 (国家・地方) 17. その他 ()

問 21: 問 20 で1を選択された方は、その内訳として該当するものを1つ選択してください。

1. 食料・飲料・たばこ 2. 繊維工業 3. 印刷・問屋運業 4. 化学・石油・石炭
5. 鉄鋼業・非鉄金属 6. はん用・業務用機械 7. 電子部品・デバイス
8. 電気・情報通信機器 9. 輸送用機械機器 10. その他製造業

問 22: 卒業後、現在の仕事に就くまでに転職をしましたか。1を選択された方は問 24へ、2を選択された方は問 23へお進みください。

1. 転職していない 2. 転職した

問 23: 問 22 で2を選択された方におたずねします。

(1) 転職の回数として該当するものを1つ選択してください。

1. 1回 2. 2回 3. 3回 4. その他 (回)

(2) 転職の理由として、該当するものを選択してください。(複数回答可)

1. 仕事内容 2. 残業や休日出勤 3. 給料、休暇取得等 4. 人間関係

(学部卒業生)

5. 勤務地 6. その他 ()

問 24: あなたは現在の仕事の内容に満足していますか。該当するものを1つ選択してください。また、差し支えなければその理由を記述欄にお書きください。

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらともいえない
4. どちらかといえば不満 5. 不満

(記述欄)

問 25: 仕事をする上で、次のようなことが在学中に身についたと思いますか。次の(1)～(10)について、それぞれ選択肢の中から最も近いものを1つを選択してください。

項 目	選 択 肢	非常に そう思う	そう思う	普通	あまりそう 思わない	そう 思わない
(1) 幅広い教養		1	2	3	4	5
(2) 常に新しい知識・技術を吸収しようとする 向上心		1	2	3	4	5
(3) 外国語運用能力		1	2	3	4	5
(4) 専門的能力		1	2	3	4	5
(5) 専門分野以外の課題にも柔軟に対応する ことが出来る応用力		1	2	3	4	5
(6) 積極性		1	2	3	4	5
(7) 課題を的確に解決することができる課題 解決力		1	2	3	4	5
(8) 組織の中での自分の役割を認識し、的確 な振る舞いが出来る組織的行動力		1	2	3	4	5
(9) 自分の意見を的確に伝えたり、相手の話 を聞いて理解するコミュニケーション能力		1	2	3	4	5
(10) 高度な論理性		1	2	3	4	5

※ 本学の将来設計を考える際の参考とさせていただきます。
秋田大学や大学教育全般、あるいはこの調査についてのご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にお書き下さい。

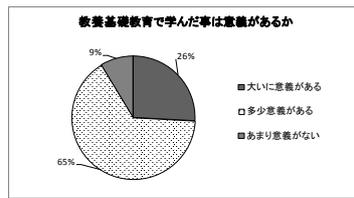
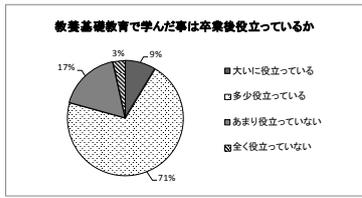
(記述欄)

ご協力、ありがとうございました。

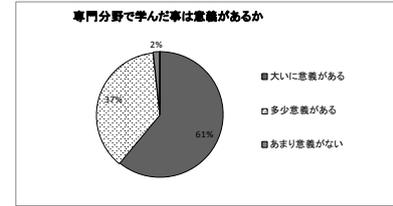
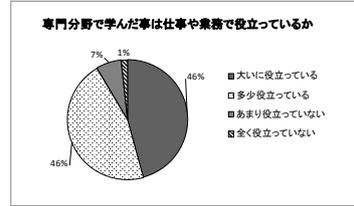
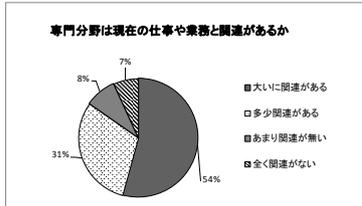
(出典：秋田大学工学資源学部の教育成果に関する調査票)

資料6-54：卒業生アンケート調査結果

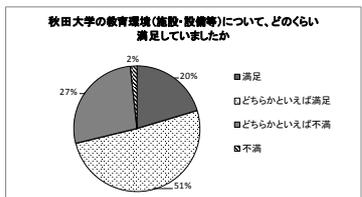
◆教養基礎教育に関すること



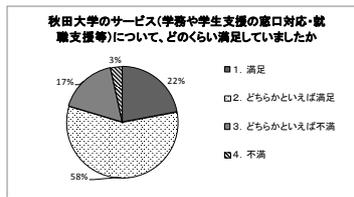
◆教養基礎教育に関すること



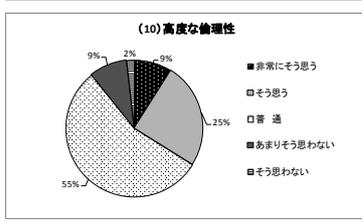
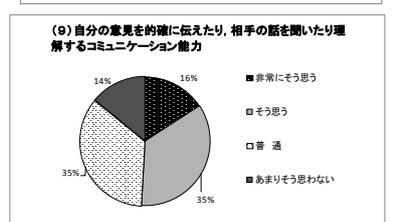
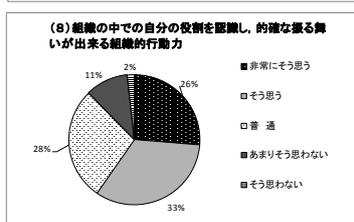
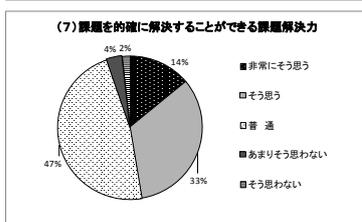
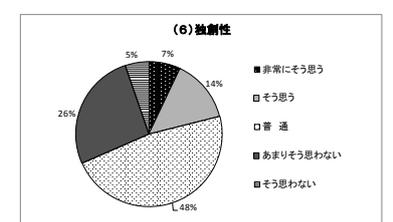
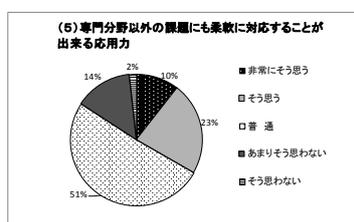
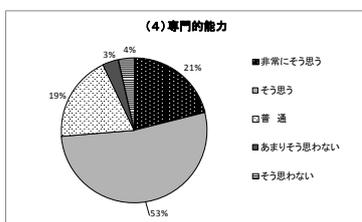
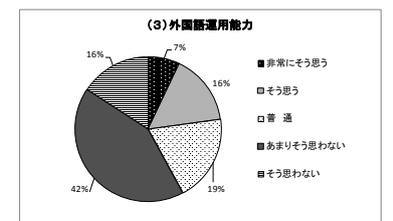
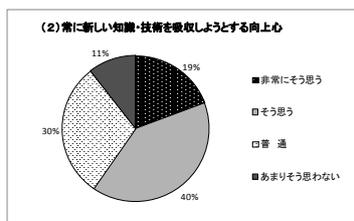
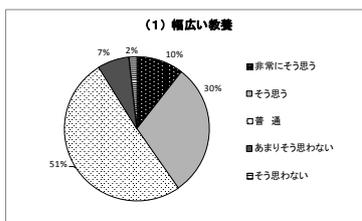
◆教育環境（施設・設備）についての満足度



◆サービス（窓口対応・就職支援等）についての満足度



◆在学中に身についた事柄



(出典：秋田大学工学資源学部の教育成果に関する調査(平成27年11月実施))

(出典：学部事務局作成)

3. 採用企業への意見聴取及びその結果

平成27年度に、卒業生の進路先の企業・団体に、教育効果、教育内容などについてアンケート調査を実施した(資料6-55)。

卒業生の有する能力・知識(問1)について、常に新しい知識・技術を吸収しようとする向上心(2)、専門分野以外の課題にも柔軟に対応することができる応用力(5)、組織的行動力(8)、コミュニケーション能力(9)については過半数を超える肯定的回答を得た。一方で、専門能力(4)については、肯定的回答は半数に届いておらず、卒業生と採用企業の意見の相違がみられる。

しかし採用企業の多くは、求める人材を育成しているか(11)、今後も卒業生を積極的に採用したいか(12)という問いに肯定的な意見を示しており、満足度は総体的に高いと判断する(資料6-56)。

資料6-55: 秋田大学工学資源学部の教育成果に関する調査表

	企業等向け(学部卒業)																																																																																		
秋田大学工学資源学部の教育成果に関する調査																																																																																			
<p>【調査の目的】 この調査は、秋田大学工学資源学部の学部教育(学士課程)における教育成果に対して、卒業生を受け入れてくださっている事業所(会社・学校・行政機関など)がどのような意識を持っているのかを把握・分析し、その結果を踏まえて教育課程の編成、授業方法の改善・充実に反映させることを目的として実施するものです。</p> <p>【回答方法】 選択式の項目: 該当する番号を別紙回答用紙にご記入ください。「その他」を選択された場合は、番号のほか、()内にも該当する事項をご記入ください。 記述式の項目: 回答用紙の記述欄に、ご自由にお書きください。記述欄が不足の場合は、適宜余白をお使いください。</p>																																																																																			
<p>1. 貴事業所に勤務する秋田大学工学資源学部の卒業生(特に、平成23年度~25年度に卒業した者)についておたずねします。</p> <p>問1: 貴事業所に勤務する秋田大学の卒業生について、日頃どのように感じているかをおたずねします。次の(1)~(10)に掲げる能力・知識を卒業生が有しているかについて、それぞれ選択肢の中から最も近いもの1つを選択してください。</p>																																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 10%;">選択肢</th> <th style="width: 10%;">非常に そう思う</th> <th style="width: 10%;">そう思う</th> <th style="width: 10%;">普通</th> <th style="width: 10%;">あまりそう 思わない</th> <th style="width: 10%;">そう 思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1)幅広い教養</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(2)常に新しい知識・技術を吸収しようとする 向上心</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(3)外国語運用能力</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(4)専門的能力</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(5)専門分野以外の課題にも柔軟に対応する ことが出来る応用力</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(6)独創性</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(7)課題を的確に解決することができる課題 解決力</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(8)組織の中で自分の役割を認識し、的確 な振る舞いが出来る組織的行動力</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(9)自分の意見を的確に伝えたり、相手の話 を傾いたり理解するコミュニケーション能力</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>(10)高度な論理性</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> </tbody> </table>	項目	選択肢	非常に そう思う	そう思う	普通	あまりそう 思わない	そう 思わない	(1)幅広い教養		1	2	3	4	5	(2)常に新しい知識・技術を吸収しようとする 向上心		1	2	3	4	5	(3)外国語運用能力		1	2	3	4	5	(4)専門的能力		1	2	3	4	5	(5)専門分野以外の課題にも柔軟に対応する ことが出来る応用力		1	2	3	4	5	(6)独創性		1	2	3	4	5	(7)課題を的確に解決することができる課題 解決力		1	2	3	4	5	(8)組織の中で自分の役割を認識し、的確 な振る舞いが出来る組織的行動力		1	2	3	4	5	(9)自分の意見を的確に伝えたり、相手の話 を傾いたり理解するコミュニケーション能力		1	2	3	4	5	(10)高度な論理性		1	2	3	4	5						
項目	選択肢	非常に そう思う	そう思う	普通	あまりそう 思わない	そう 思わない																																																																													
(1)幅広い教養		1	2	3	4	5																																																																													
(2)常に新しい知識・技術を吸収しようとする 向上心		1	2	3	4	5																																																																													
(3)外国語運用能力		1	2	3	4	5																																																																													
(4)専門的能力		1	2	3	4	5																																																																													
(5)専門分野以外の課題にも柔軟に対応する ことが出来る応用力		1	2	3	4	5																																																																													
(6)独創性		1	2	3	4	5																																																																													
(7)課題を的確に解決することができる課題 解決力		1	2	3	4	5																																																																													
(8)組織の中で自分の役割を認識し、的確 な振る舞いが出来る組織的行動力		1	2	3	4	5																																																																													
(9)自分の意見を的確に伝えたり、相手の話 を傾いたり理解するコミュニケーション能力		1	2	3	4	5																																																																													
(10)高度な論理性		1	2	3	4	5																																																																													
	(記述欄)																																																																																		
	II. 事業所として、秋田大学にお感じになっていることについておたずねします。																																																																																		
<p>問4: 秋田大学は、貴事業所(あるいは業種)として求める人材を養成していると思えますか。該当するものを1つ選択してください。 また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。</p> <p>1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない</p>																																																																																			
	(記述欄)																																																																																		

企業等向け（学部卒業）

問5：貴事業所において、今後秋田大学の卒業生を積極的に採用したいと思いますが、該当するものを1つ選択してください。
また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。
1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

(記述欄)

問6：貴事業所の業種について、該当するものを1つ選択してください。☑を選択された方は問7へ、それ以外を選択された方は問8へお進みください。
1. 農林水産業 2. 鉱業 3. 建設業 4. 製造業 5. 電気・ガス・水道業
6. 情報通信業 7. 運輸業・郵政業 8. 卸・小売業 9. 金融・保険業
10. 不動産業 11. 飲食・宿泊業 12. 医療・福祉 13. 学校教育
14. その他教育関係・学修支援業 15. 複合サービス・サービス業
16. 公務員（国家・地方） 17. その他（ ）

問7：問6で☑を選択された方は、その内訳として該当するものを1つ選択してください。
1. 食料・飲料・たばこ 2. 繊維工業 3. 印刷・同関連業 4. 化学・石油・石炭
5. 鉄鋼業・非鉄金属 6. はん用・業務用機械 7. 電子部品・デバイス
8. 電気・情報通信機器 9. 輸送用機械機器 10. その他製造業

Ⅲ. 秋田大学工学資源学部の学位授与方針についておたずねします。
(学位授与方針については、5ページをご参照ください。)

(参考) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）……学位授与に関する基本的な方針で、学生が卒業・修了するまでにどのような知識・技術・態度等を習得すべきかを明文化したものです。

問8：学位授与方針についてどのように思われますか。
次の(1)～(4)の項目について、それぞれ選択肢の中から最も近いもの1つを選択してください。
また、その他にお感じのことがあれば、記述欄にご自由にお書きください。

選 目	選 択 肢	非常に そう思う	そう思う	普 通	あまりそう 思わない	そう 思わない
(1) 実現性がある		1	2	3	4	5
(2) わかりやすい		1	2	3	4	5
(3) あなたの事業所のニーズに合致している		1	2	3	4	5
(4) 地域のニーズに合致している		1	2	3	4	5

- 3 -

企業等向け（学部卒業）

(記述欄)

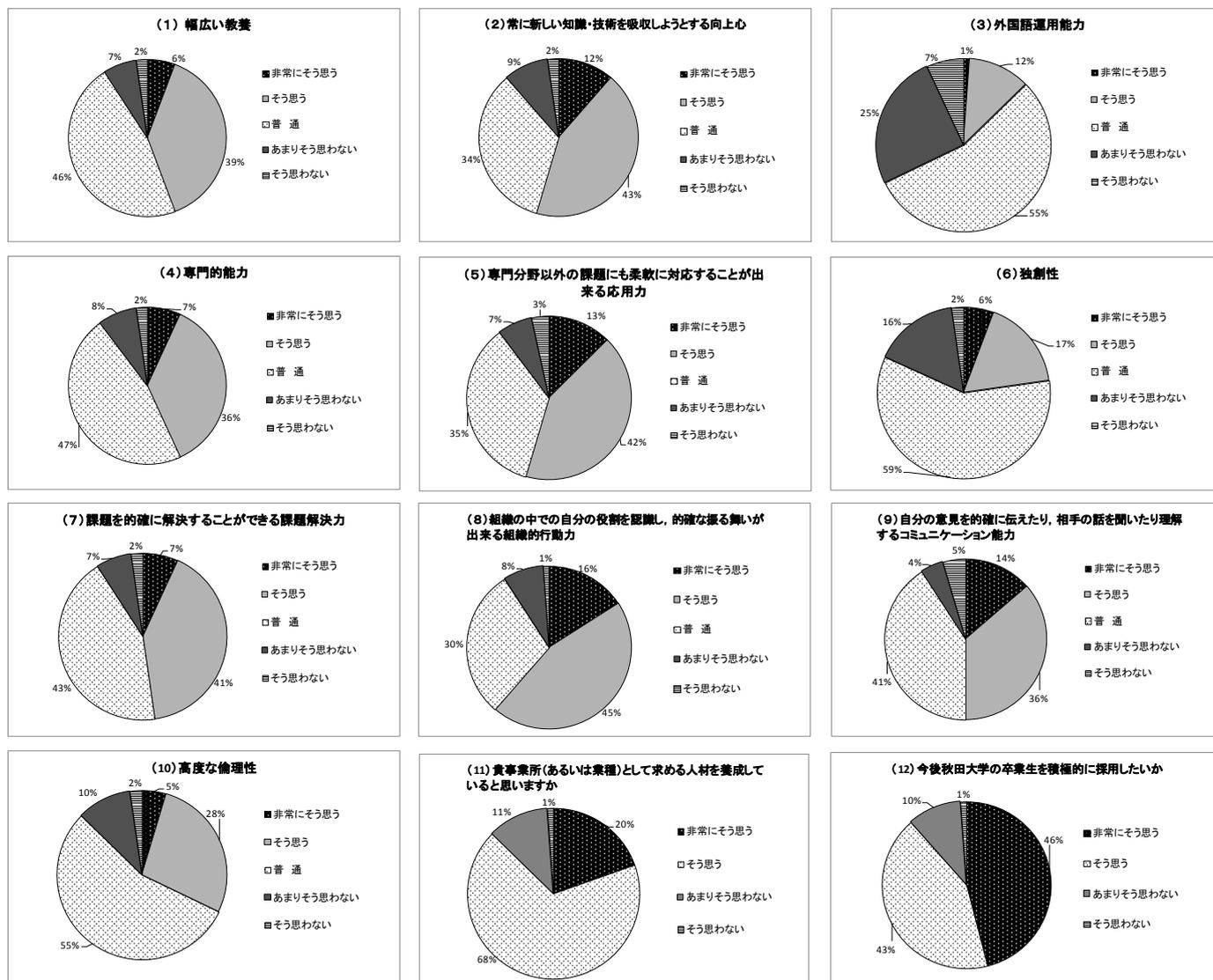
※ 本学の将来設計を考える際の参考とさせていただきたいと思います。
秋田大学や大学教育全般、あるいはこの調査についてのご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にお書きください。

(記述欄)

ご協力、ありがとうございました。

(出典：秋田大学工学資源学部の教育成果に関する調査表)

◆秋田大学の卒業生が有している能力・知識



(出典：秋田大学工学資源学部の教育成果に関する調査(平成27年11月実施))

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 学部と就職推進課の連携した就職支援体制を整備しており、就職希望者の就職率は95%以上である。専門に関連する企業に就職する学生が多く、教育課程で学んだ事が学生のキャリア形成に役立っている。

採用企業は、今後の理工学部卒業生の採用にも肯定的な意見を示している。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

工学資源学部を改組し、理工学部と国際資源学部の二つの学部を平成 26 年度に新設した。理工学部では、学部改組によって、理学と工学の両面で教育課程の大幅な改善を行った。生命科学科の教員・学生定員を増強し、秋田県で初めて数学・物理学分野を専門とする数理科学コースを新設する等、理学教育を強化した。

また、宇宙工学と実践的なものづくりを学べる創造生産工学コースを新設して工学教育の範囲を拡充した。

自己評価・点検の仕組みとして、外部委員が半数を占める教育研究カウンシルを設置した。

また、第 1 期中期計画期間と第 2 期中期計画期間中における学生による授業評価結果を比較すると、大幅な改善が認められる。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

平成 23 年文部科学省理数学生育成支援事業に採択された「独創的発想に富む科学者育成プログラム―出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト―」では、笹川科学研究助成の受託や学術論文の採録、国際研究集会での発表などの研究成果を残した。

学生自主プロジェクトでは学生によるベンチャー企業の創設を初めて実現し、さらにいくつかのプロジェクトでベンチャー起業を準備している。

7. 工学資源学研究科

I	工学資源学研究科の教育目的と特徴	・ ・ 7 - 2
II	「教育の水準」の分析・判定	・ ・ ・ ・ ・ 7 - 6
	分析項目 I 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・ 7 - 6
	分析項目 II 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・ 7 - 33
III	「質の向上度」の分析	・ ・ ・ ・ ・ 7 - 54

I 工学資源学研究所の教育目的と特徴

1. 工学資源学研究所の教育目的

工学資源学研究所は、8つの専攻（地球資源学専攻、環境応用化学専攻、生命科学専攻、材料工学専攻、情報工学専攻、機械工学専攻、電気電子工学専攻、土木環境工学専攻）と秋田県立大学と共同運営する共同ライフサイクルデザイン工学専攻からなる博士前期課程、及び、5つの専攻（資源学専攻、生命科学専攻、環境機能物質工学専攻、生産・建設工学専攻、電気電子情報システム工学専攻）からなる博士後期課程から構成される。研究所の目的を定め（資料7-1）、それに基づいて各専攻の教育目的を定めている（資料7-2、3）。

資料7-1：研究科の目的

(研究科の目的)	
第2条	研究科は、人間社会が持続的に発展するための総合・学際的かつ先端的科学技術のさらなる展開を図り、優れた人格と国際性を有する高度な能力を持つ技術者、研究者を養成することを目的とする。

(出典：工学資源学研究所規程)

資料7-2：工学資源学研究所博士前期課程各専攻の教育の目的

専攻名	教育の目的(育成する人材像)及び特徴
地球資源学専攻	地球科学、物理学、化学を基礎にした鉱物資源・エネルギー資源の探査、これらの地下資源の開発・輸送、地下環境計測、地下利用など広く地殻の開発と利用に関する理論と技術、および地震・地滑り・火山噴火等の火災予測とその防止対策技術等にわたる高度な教育・研修を行い、新しい資源開発及び地殻利用を促進させる技術者の育成を目指す。また、資源の多くは地球上に偏在し、資源・エネルギー問題は国際的な関わりを有することから、海外の資源の調査・開発、技術援助等の分野で活躍できる国際的な資源系技術者の養成を目指す。
環境物質工学専攻 (平成24年4月募集停止)	自然環境と調和した豊かな人間社会を実現するために、新機能物質の開発とその評価、資源の循環・再生、エネルギーの有効利用、生体機能の利用など、化学を基盤として環境との関わりを重視した教育を行う。特に「化学物質」および「化学プロセス」についてマイクロからマクロにわたり幅広い視点から現象を分析する能力を有し、環境と技術の調和を図ることができる視野の広い人材の育成を目指す教育を行う。
環境応用化学専攻 (平成24年4月設置)	自然環境と調和した豊かな人間社会を実現するために、新機能物質の開発とその評価、資源の循環・再生、エネルギーの有効利用、生体機能の利用など、化学を基盤として環境との関わりを重視した教育を行う。特に「化学物質」および「化学プロセス」についてマイクロからマクロにわたり幅広い視点から現象を分析する能力を有し、環境と技術の調和を図ることができる視野の広い人材の育成を目指す。
生命科学専攻 (平成24年4月設置)	広汎かつ深い知識を持つ、独創性の高い研究・開発が出来る研究者を育成する。具体的には、生体分子の構造と生理機能、生体分子の相互作用から種々の生態情報伝達を含めた生命現象を包括的に理解し、それらの応用について思考し、実践できる人材の育成を目指すものであり、基礎生命科学から医学・薬学・農学・生命工学などの応用生命科学まで、広範で深い知識と解析能力を養い、独創性の高い研究を実行できる人材、国際的に活躍できる人材を育成する。
材料工学専攻	新産業のシーズの創出や技術革新のブレークスルーには、それを支える新しい機能材料の開発が不可欠であり、とくに次世代機能材料としてエネルギー関連材料ならびに知能材料の開発が求められている。本専攻では、これらの要望に応えるため、材料工学に関する幅広い知識と次世代機能材料の開発能力を有する人材を養成するとともに、材料開発を通して地域産業に貢献できる人材の育成を目指す。
情報工学専攻	情報技術とその関連技術の急速な拡大・発展に伴い、社会システムそのものが変わろうとしている。本専攻では、情報技術の進化に柔軟に対応し、情報工学の専門分野に関する高度な知識を備え、健全なユビキタス社会を創世出来るような人材の育成を目指す。
機械工学専攻	機械工学の専門分野は益々その領域を広げ、複雑化、学際化している。本専攻では、これらの変化に柔軟に対応し、機械工学の専門分野に関する高度な知識を備え、国際的な活躍及び地域貢献できるような上級技術者・研究者の養成を目指す。
電気電子工学専攻	電気電子工学の諸分野の進展は目覚ましく多様な分野に変化を遂げつつある。エレクトロニクス技術に対する社会の期待と要求も、エネルギー問題、環境や福祉の問題とも関連し大きく変化している。これらの諸問題の解決に指導的な役割を果たすことが期待できる創造性豊かな研究者及び高度な知識と能力を備えた専門技術者を養成する。

秋田大学工学資源学研究科

土木環境工学専攻	広い視野に立つて土木環境工学専攻分野における研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を身につけるため、設計、施工、維持管理等ハード技術分野と地域・環境計画等ソフト技術分野に重点を置いた教育研究を行う。
共同ライフサイクルデザイン工学専攻 (H24年4月設置)	近年、高度に発展を続ける産業社会においては、新たな要求が次々と生じている。そして、従来の枠組みでは対応しきれない課題も多く見出されるようになってきた。特に最近では、環境に関連する要求が顕著になり、環境負荷の低減、循環型社会の形成などといった問題が日増しに強くなってきている。そしてそのような要求に答えるための一つの方法として、企画・設計から廃棄にいたるまでの製品の全てのライフサイクルを考慮した設計が近年注目されるようになって来た。本共同専攻はこのような理由から設置されたものであり、ライフサイクルデザインに関連する広範囲の知識に基づいて、国際的な視点から循環型社会の形成に貢献する人材や、環境に配慮しつつ地域社会の活性化に貢献する人材を育成してゆくことが本専攻の目的である。

(出典：大学院の目的 <http://www.eng.akita-u.ac.jp/outline/purpose.html>
工学資源学研究科設置計画書「設置趣旨」)

資料 7-3：工学資源学研究科博士後期課程各専攻の教育の目的

専攻名	教育の目的(育成する人材像)及び特徴
資源学専攻	鉱物資源、エネルギー資源等の多様な資源の生成・賦存環境を考慮した探査、生産、開発およびそれらに伴う環境問題に関する科学技術、資源素材リサイクル技術、環境調和型新素材の開発技術等の先端的な資源学についての教育研究を行う。これにより社会の要請に応え得る新たな資源学の幅広い知識と高度の専門技術を修得した人材を育成する。
生命科学専攻 (H26年4月設置)	先端的基础生命科学と応用生命科学の二領域をカバーし、生命の基本原理の解明のみならず、分子から個体までの生命現象の解明とその幅広い応用、ならびに予想される超高齢化社会など深刻化する諸問題の解決という、大きな社会的関心と要請に応える教育と研究を目指す。 このような活動を通じて、直面する課題の解明を自立して遂行する能力とそれを支える豊かな専門知識を有し、リーダーシップを発揮して、国際的にも活躍できる高度な研究能力と豊かな創造性を備えたハイレベルな人材を養成する。
機能物質工学専攻	物質や材料は、現代の科学技術において、中核的な役割を担っている。昨今の著しい科学技術の進歩に十分対応し得るか否かは、物質に種々の機能を付与し、かつ要求に適った新物質をいかに合理的に開発していくかにかかっている。それには従来の分類による金属工学、材料工学、無機工業工学、有機合成化学、化学工学等の学問研究分野に精通した専門的基礎知識に加えて、それらの分野の枠組みにこだわらない総合的かつ高度な理解力・創造力が要求される。すなわち、物質の持つ巨視的な特性と機能について分子、原子、イオンあるいは電子という構成要素とそれらの結合や構造の本質から微視的に理解すると共に、それらの特性を改変制御するという視点が重要である。本専攻は、これらの人材養成プログラムを物質工学の面から支えている。さらに、急激な社会環境の変化、すなわち、 1) 地球環境問題が大きくクローズアップされ、産業活動と人間生活のあり方に大きな変革が求められているとともに、これに対して地球環境問題に国際的なイニシアチブを発揮できる人材が求められていること 2) 環境問題への対応と資源の効率的利用を促進するため循環型社会の形成が強く志向され、それに貢献できる人材が求められていること 3) 情報化社会の進展の中でそれを支えるもの造りに的確に対処できる人材が求められていること 4) 国家的な研究開発課題であるナノテクノロジー・材料に対応、貢献できる人材が求められていること などにも積極的に対応すべく、教育内容の充実を図る。 本専攻では、このような見地から「機能材料工学」、「環境応用化学」の2講座を設置し、前期課程を修了した学生のみならず、現在研究開発に活躍している技術者を対象として物質・材料の物性、物質の反応性、材料の製造プロセス、解析・合成など新機能物質、新素材開発の基礎から応用に至るまでの総合的な教育研究を行い、将来の物質工学への要求に応えうる優れた研究者や技術者を養成することを目的とする。
生産・建設工学専攻	我が国の高度成長を支え、経済発展を短期間で実現させた要因は、ものづくりや生産基盤構築に対して卓越した能力をもつ国民性と工学教育によるところが大きいと思われる。今後、新たな対応が迫られている教育課題として、進行する少子高齢化社会と情報技術革命への対応、地球規模でのエネルギー確保、地球・地域環境を守る循環型社会基盤の構築などがある。これらに対処するために組織的なものづくりと生活基盤整備を目指すとともに、地球環境を配慮し持続可能で安定した社会の発展に寄与できる人材を養成する。
電気電子情報システム工学専攻	今日の技術社会の実現は、電気電子工学および情報工学の学問的な寄与によるところが大きく、電気電子技術を基盤とした情報技術(IT)の一層の進展が、今後の高度情報化社会の発展の大きな推進役になるものと期待されている。 電気電子工学および情報工学の分野を有機的に統合し、電気情報基盤システム工学講座および電子情報基盤システム工学講座の2講座を設け、急速に進歩する科学技術に対応できる幅広い知識と高度の専門技術を修得した人材を育成する。

(出典：大学院の目的 <http://www.eng.akita-u.ac.jp/outline/purpose.html>
生命科学専攻設置計画書「設置趣旨」)

2. 特徴

国内で唯一の鉱山学部・鉱山学研究所を前身とする工学資源学研究所は、資源サイクル分野・エネルギー分野・環境安全分野に強い人材や、付帯する工業技術の研究開発人材の育成に強みを持つことを特徴とする。

共同ライフサイクルデザイン工学専攻（博士前期課程／秋田県立大学との共同運営）、資源ニューフロンティア特別教育コース（博士前期・後期課程5年一貫教育）、医学系研究所医科学専攻と連携した医理工連携コース（博士前期課程）等、社会の様々な要請に応える教育課程を持つ。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者は、本研究科への入学を志願する大学生、在学生とその家族、修了生と修了生を受け入れる各種の事業所（企業、自治体、教育機関等）と地域産業界等と考えられる。これらの関係者の意見を十分に把握するために様々な意見聴取を行っている（資料7-4）。

アンケート結果から、資源学を中心にしながらも、社会の様々な課題の解決のため、新しい専門分野の教育プログラムを加えた分野融合型の教育組織が期待されていることがわかる。

資料7-4：アンケート実施状況

実施時期	対象者	調査内容
平成 23 年 5 月	工学資源学部生命化学科 3 年次生	生命科学専攻（博士前期）の設置に関わるアンケート
	修了生の就職先として想定される主要な企業 【依頼数 122 社／23 社から回答】	
平成 25 年 5 月	工学資源学研究所生命科学専攻博士前期課程 2 年次生	生命科学専攻（博士後期）の設置に関わるアンケート
	修了生の就職先として想定される主要な企業 【依頼数 20 社／18 社から回答】	
平成 26 年 10 月	工学資源学部 3 年次生	理工学研究科（博士前期）への進学希望調査
	工学資源学研究所修士 1 年次生	理工学研究科（博士後期）への進学希望調査
平成 26 年 11 月	理工学部 1 年次生	理工学研究科（博士前期）への進学希望調査
	工学資源学部 2 年次生	理工学研究科（博士後期）への進学希望調査
平成 26 年 11 月	秋田県内企業【18 社】	理工学研究科の設置に関わるアンケート
平成 26 年 12 月	工学資源学研究所修了生（前・後期課程）の受け入れ企業 【依頼数 107 社／54 社から回答】	理工学研究科の設置に関わるアンケート
平成 27 年 11 月	工学資源学研究所修了生（前・後期課程／平成 23～25 年度） 【提出 87 名】	工学資源学研究所の教育について

秋田大学工学資源学研究科

平成 27 年 11 月	工学資源学研究科修了生 (前・後期課程/平成 23~25 年度) の受け入れ企業 【提出 106 件】	工学資源学研究科の教育について
毎年 7 月実施	後援会役員	意見・要望の吸い上げ

(出典：工学資源学研究科調査)

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

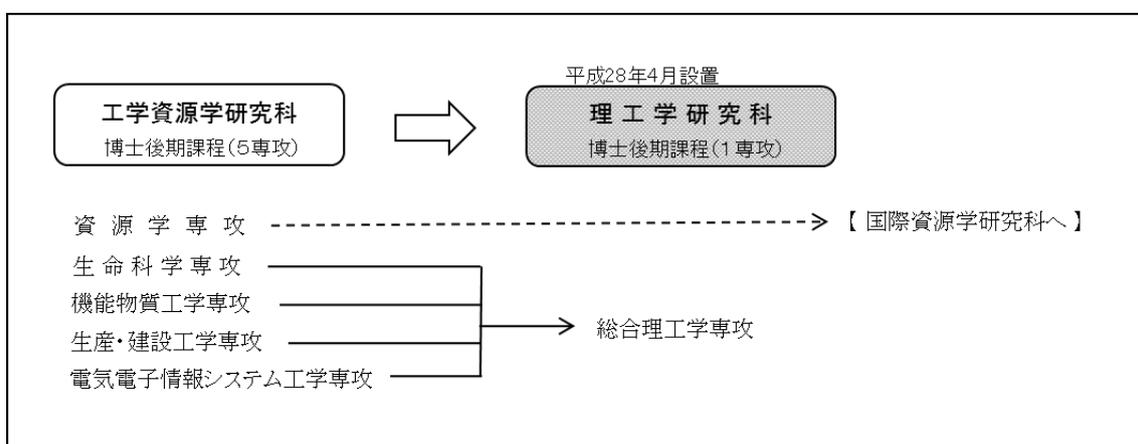
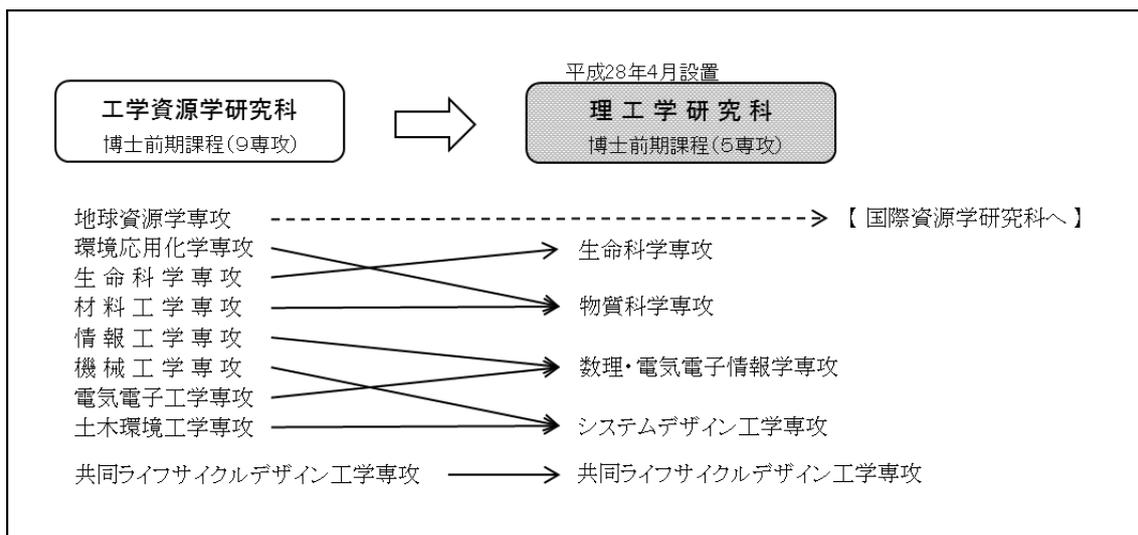
観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 教育研究組織及び教員組織の編成

博士前期課程 9 専攻、博士後期課程 5 専攻から構成されており (資料 7-5)、専攻ごとに大学設置基準上必要な人数の教員を配置している (資料 7-6、7)。

資料 7-5 : 大学院改組の概要図



(出典：理工学研究所作成)

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料 7-6 : 各専攻における指導教員数および非常勤講師数 (博士前期課程)

平成27年5月1日現在 [単位: 人]

専攻名		指導教員数			非常勤講師		
		研究指導	補助教員	計	学内	学外	計
博士前期課程	地球資源学専攻	10	5	15	5	0	5
	環境応用化学専攻	8	6	14	1	0	1
	生命科学専攻	7	2	9	1	0	1
	材料工学専攻	13	4	17	0	0	0
	情報工学専攻	7	4	11	1	0	1
	機械工学専攻	12	8	20	0	1	1
	電気電子工学専攻	12	4	16	1	0	1
	土木環境工学専攻	4	3	7	0	1	1
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	6	1	7	0	10	10
合計		79	37	116	9	12	21

(出典: 工学資源学研究科調査)

資料 7-7 : 各専攻における指導教員数および非常勤講師数 (博士後期課程)

平成27年5月1日現在 [単位: 人]

専攻名		指導教員数			非常勤講師		
		研究指導	補助教員	計	学内	学外	計
博士後期課程	資源学専攻	15	10	25	0	0	0
	生命科学専攻	8	1	9	0	0	0
	機能物質工学専攻	18	4	22	0	0	0
	生産・建設工学専攻	17	7	24	0	0	0
	電気電子情報システム工学専攻	20	3	23	0	0	0
合計		78	25	103	0	0	0

(出典: 工学資源学研究科調査)

2. 組織体制

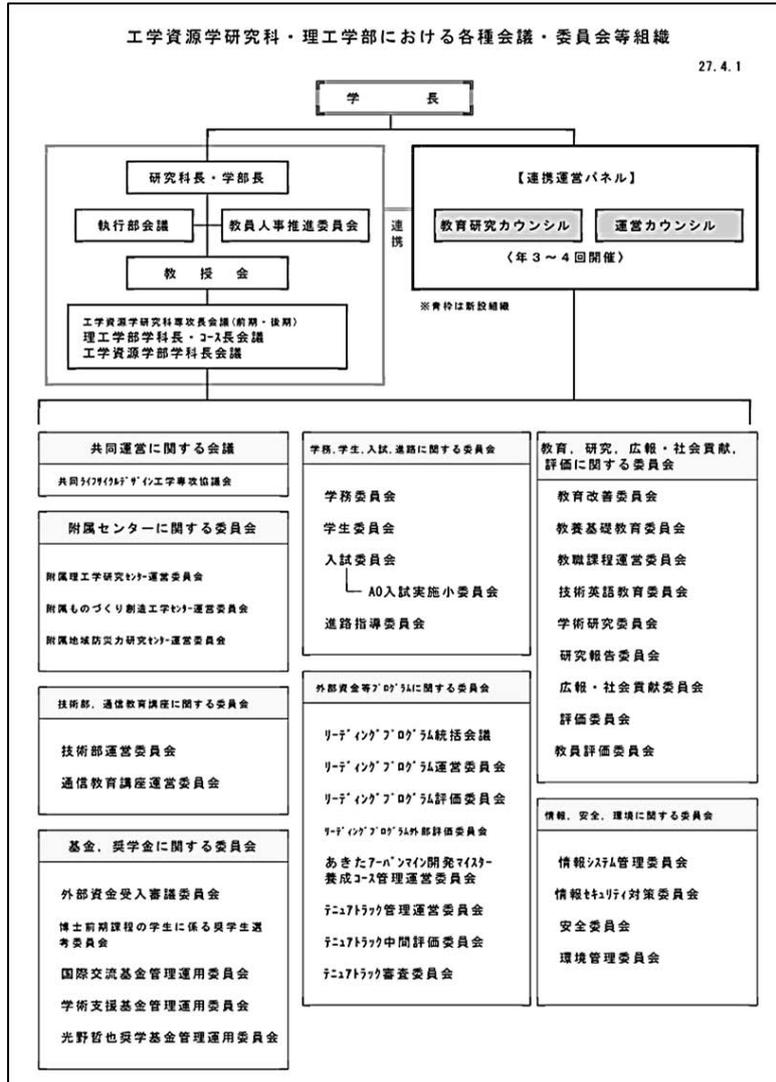
執行部会議で研究科の活動について大まかな方針が決められ、該当する委員会が審議し、専攻長・コース長等会議においてこれらの委員会の決定事項を承認し、教育研究・運営カウンスルに答申する体制となっている(資料7-8、9)。

教員の採用や昇任に関しては、教員人事推進委員会において資格審査委員会が構成され、当該人材の適性を確認し、教育研究カウンスルに諮られ、その議を経て学長に答申する。学部・研究科の予算管理、組織編成、規程改正に関わる事案は、運営カウンスルに諮られる(資料7-10、11)。

共同ライフサイクルデザイン工学専攻では、秋田大学と秋田県立大学の教職員で構成される「秋田大学と秋田県立大学の共同大学院における共同ライフサイクルデザイン工学専攻協議会」を年に4回開催し、運営管理を審議している。

秋田大学工学資源学研究所 分析項目 I

資料 7-8 : 工学資源学研究所における各種会議・委員会等組織



(出典：工学資源学研究所専攻長会議資料)

秋田大学工学資源学研究所 分析項目 I

資料 7-9：研究科における主要な委員会の運営管理体制

担当組織	所掌業務
執行部会議	学部・研究科の管理運営方針（案）作成
研究科・学部教授会	研究科・学部の方針案の全教員への周知。進級・卒業判定
コース長・専攻長等会議	学部・研究科の管理運営方針を決定。教育研究・運営カウンスルへの答申
教員人事推進委員会	各コースから申請された人事案件の審議。教育研究カウンスルへの答申
評価委員会	教育研究・管理運営活動の評価・見直し。P D C Aサイクルの推進
学務委員会	カリキュラム・シラバスなど教育課程全般に関する審議
学生委員会	学生の賞罰、学生支援に関する審議
入試委員会	入学選抜試験の実施。入試広報に関する審議
広報・社会貢献委員会	大学のアウトリーチ活動
進路指導委員会	就職・進学を支援する活動
リーディングプログラム統括会議	資源ニューフロンティア特別教育コース（博士課程）に関する運営管理
理工学研究センター運営委員会	理工学研究センターの教育研究活動に関する審議
各種基金等管理運営委員会	経済的に困窮する学生への支援方策等に関する審議 国際交流基金、学術支援基金、光野哲也奨学基金、後援会基金等の運用管理

（出典：委員会等規程）

資料 7-10：カウンスルの構成及び審議事項

カウンスルの名称	構成委員	審議事項
教育研究カウンスル	外部委員（3名） 1. 秋田県立大学副学長 2. 秋田工業高等専門学校長 3. 秋田県産業技術センター所長 内部委員（6名） 1. 研究科長 2. 副研究科長 3. 入試委員長 4. 学務委員長 5. 学生委員長 6. 研究科長補佐	(1)教育課程の編成に関する事。 (2)教員の採用及び昇任等に関する事。 (3)教育研究に関する規程等の制定・改廃に関する事。 (4)その他教育研究に関する重要な事。
運営カウンスル	外部委員（4名） 1. 東北電力秋田支店長 2. 秋田県教育庁高校教育課長 3. 秋田県産業労働部主幹 4. 理工学部後援会長 内部委員（6名） 1. 研究科長 2. 副研究科長 3. 入試委員長 4. 学務委員長 5. 学生委員長 6. 研究科長補佐	(1)学科・専攻その他重要な組織の設置・廃止に関する事。 (2)予算に関する事。 (3)運営に関する規程等の制定・改廃に関する事。 (4)その他運営に関する重要な事。

（出典：理工学研究科カウンスル規程）

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料 7-11：カウンスルの審議状況（教育研究カウンスルと運営カウンスルの合同開催）

開催日	教育研究カウンスル	運営カウンスル	備 考
平成 27 年 6 月 2 日	カウンスルの審議事項、大学院改組、 教員の人事計画、その他	カウンスルの審議事項、大学院改組、 予算配分、その他	左記のほか、書 面審議(主に教 員の人事計画) を複数回開催 している。 教育研究カウ ンシル (8 回) 運営カウ ンシル (2 回)
平成 27 年 11 月 20 日	研究科長適任者の意向投票日程、教員候 補適任者の選考、非常勤講師の人事計画、 理工学部地域貢献に関する意見交換、 その他	研究科長適任者の意向投票日程、理工学 部の地域貢献に関する意見交換、その他	
平成 28 年 3 月 1 日	新年度の組織体制、規程等の改正、教員 候補適任者の選考、非常勤講師の人事計 画、第 3 期中期計画(案)、その他	新年度の組織体制、規程等の改正、第 3 期中期計画(案)、その他	

(出典：工学資源学研究科カウンスル資料)

3. 入学者選抜

求める学生像や必要な水準等をアドミッションポリシーとして公表している（資料 7-12～14）。一般入試、私費外国人留学生入試、外国人留学生特別入試、英語による特別コース入試、協定校推薦入試、渡日前入試制度、推薦入試といった入試を実施している。

博士前期課程では、平成 24 年度の改組・再編により、一つの専攻に偏在していた充足率の分散が図られ改善された。平成 25 年度には、充足率が 80%を下回る専攻が全体の約半数を占める事態となったが、給付型の奨学金制度の拡充などの措置を講じた結果、平成 27 年度現在、専攻全体の平均は 102.6%と適正值となった。

博士後期課程では、平成 22 年度から平成 27 年度の定員充足率の平均は 98.2%で概ね適正值である（資料 7-15）。

資源ニューフロンティア特別教育コースや J I C A との連携締結による留学生受け入れの増加に加え、外国人のための進学説明会などを利用した外国人向け入試広報を強めたことで外国人の入学が増えている（資料 7-16）。

資料 7-12：工学資源学研究科のアドミッションポリシー

《博士前期課程・博士後期課程共通》

<p>1. 資源、環境、リサイクル、エネルギー、機能材料、防災、福祉・バリアフリー工学、情報・通信、メカトロニクス、エレクトロニクス、生命科学などの先端工学および先端科学に関する勉学及び研究に意欲を持ち、基礎的な学力や問題解決能力、高い倫理観、国際的視野を持った人材を受け入れる。</p> <p>2. 社会人学生や留学生にとっても学びやすい環境を用意し、豊かな経験や多彩な価値観を持ち、意欲ある学生を積極的に受け入れる。</p>
--

課 程 名	アドミッションポリシー
博士前期課程	専門的な知識や技術の修得により、積極的に社会に還元する意志の強い人材を受け入れる。各専攻分野において、意欲的に勉学及び研究に取り組む優秀な学生に対しては、推薦入試制度を設けて積極的に受け入れる。
博士後期課程	高度な工学技術の開発や科学的課題の究明により、それぞれの専門分野において、指導的立場で貢献することをめざす人を受け入れる。

(出典：工学資源学研究科・理工学部概要 2015)

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料 7-13 : 工学資源学研究科博士前期課程各専攻のアドミッションポリシー

専攻名	アドミッションポリシー
地球資源学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 地球科学や資源開発に関する分野に興味や勉強・研究意欲を持ち、学部で学んだこれらの分野知識をさらに深め、より高度な専門的知識を身につけた技術者・研究者を目指す人 学部で学んだ知識を基礎として、新たに地球科学や資源開発に関する知識を学び、それらを活用し、地球科学や資源開発分野での活躍を目指す人 社会人としてのキャリアを基礎とし、地球科学や資源開発に関する知識を学び、社会人としてのキャリアアップを目指す人
環境応用化学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 新機能物質の開発や循環再生、化学エネルギーの有効利用、生物機能の利用等の、環境に調和した素材づくりと先端技術の開発に関する勉強及び研究に意欲を持った人 化学及び物理に関わる基礎的な学力や問題解決能力、高い論理観、国際的視野を持ってそれを実践し得る技術者を目指す人
生命科学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 生命科学に関する基本的な学力を備え、自ら考え行動する積極性のある人 生命科学に興味を持ち、生命科学の重要な課題を、自らの研究により解決しようとする人 生命科学分野の研究者や技術者となって、社会に貢献することを目指す人
材料工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 金属、半導体、セラミックス、磁性体などの機能材料に関する勉強と研究に意欲を持ち、それらの高度な研究と開発を目指す人 地域産業の現状を理解し、地域産業が求める新しい機能材料の開発を目指す人
情報工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 人間と計算機システムの相互作用や対話型操作を実現し、医療、福祉、環境、防災、減災などの地域社会の課題に活用して、高齢者にも優しく豊かな社会の構築に貢献したい人 数学や理論物理学に強い興味を持ち、数理科学的研究手法を学び論理的な思考力を身に付けて、それを複雑化する社会の諸問題の解明に活用する意欲のある人 情報工学や数理科学の研究者/技術者としてグローバル社会で活躍するために、異文化理解能力と国際言語能力を習得し、高い倫理感を持って問題の解決に当たろうという意思を持つ人
機械工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 機械工学の十分な基礎知識を身につけ、この分野の研究に積極的に取り組む意欲がある人 機械技術者、研究者として持続可能な社会形成に貢献する意欲がある人 国際的視野で先進的ものづくりを目指す意欲がある人
電気電子工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 自然科学の体系を系統的に理解し、それを応用して新しい技術を創造する意欲と旺盛な好奇心を持ち能動的で自覚的に課題研究・解決に取り組む意欲がある人 エンジニアや研究者として『夢』を抱き、電気エネルギー、光・電子デバイス、情報通信、制御システムなどの電気電子工学を通して、高度な技術開発能力を備え国際的に活躍しようという意思を持つ人 地域や国際社会での諸問題に関心を持ち、研究者・技術者として高い倫理感を持って問題の解決に当たろうという意思を持つ人
土木環境工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 自然環境と人間環境が調和した社会基盤の整備に関する勉強及び研究に意欲を持ち、基礎的な学力や問題解決能力、高い倫理観、国際的視野を持った人 意欲的に勉強及び研究に取り組む優秀な学生に対しては、推薦入試制度を設けて積極的に受け入れる 社会人や留学生にとって学びやすい環境を用意し、豊かな経験や多彩な価値観を持ち、意欲ある人を積極的に受け入れる
共同ライフサイクル デザイン工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 循環型社会の形成や地域社会の活性化に関する勉強及び研究に意欲を持ち、基礎的な学力や柔軟な対応能力、高い倫理観、国際的視野を持った人 意欲的に勉強及び研究に取り組む優秀な学生に対しては、推薦入試制度を設けて積極的に受け入れる 社会人学生や留学生にとって学びやすい環境を用意し、豊かな経験や多彩な価値観を持ち、意欲ある学生を受け入れる

(出典：平成 27 年度工学資源学研究科学生募集要項)

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料7-14：工学資源学研究科博士後期課程各専攻のアドミッションポリシー

専攻名	アドミッションポリシー
資源学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資源、環境、リサイクルなどに関わる応用地球科学、地球システム工学、分子工学、化学工学などの分野の高度な専門知識の修得と研究に意欲を持ち、専門分野に関する高い学力と問題解決能力、倫理観、国際的視野を持った人 2. 地球の探求、新たな資源の開発、地球環境問題などに関連する分野において、国際的に活躍する研究者や技術者を目指す意欲のある人 3. 社会人学生や留学生にとっても学びやすい環境、制度を用意し、豊かな経験や多彩な価値観を持ち、意欲ある学生を積極的に受け入れる
生命科学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎から応用まで幅広く理解でき、研究を進めるに十分な基礎的専門知識と思考力がある人 2. 諸課題を学際的に解決し、社会に貢献したいとの意欲がある人 3. 生命科学分野全般の発展に寄与し、この分野の指導的役割を担おうとする意欲のある人
機能物質工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的要請の高い種々の機能物質に関する基礎学理の探求と革新的技術開発を行い、次世代の社会を担う人材を目指す人 2. エネルギー、環境、元素戦略並びに機能材料等の様々な研究課題の研究・開発を行い、グローバルな視点を持ち産業社会をリードする指導的人材を目指す人 3. 量子機能材料、材料物性科学、材料プロセス、環境分子設計、環境反応プロセス、環境素材開発等の研究分野における基礎学理を探求するとともに、その成果をもとにした革新的技術開発を目指す人
生産・建設工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な社会を担う機械システムや、安全、安心な社会基盤の発展に寄与する高度な研究に意欲を持ち、優れた工学的素養、高い倫理観、国際的視野を有する人 2. 科学技術や環境に関心を持ち、学際領域の諸問題に対して果敢に挑戦し、新しい分野を創造・開拓しようとする意欲のある人 3. 社会人や留学生にとっても良好な研究環境を用意し、豊かな経験や多彩な価値観を備えた研究意欲のある人材を受け入れる
電気電子情報システム 工学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子工学あるいは情報工学のある分野に精通しており、単独の分野では解決が困難な問題に対して複数分野を横断的かつシステムとして有機的に統合して解決しようとする意欲のある人 2. 電気情報基盤システム工学あるいは電子情報基盤システム工学の技術を駆使して、高度情報化社会のさらなる発展の推進者としての役割をグローバルな視点に立ち国際的に果たそうという意思を持っている人 3. 上記の問題解決や役割を果たす際に、研究者あるいは技術者としての高い倫理観を持って臨もうとする強い意欲を持っている人

(出典：平成 27 年度工学資源学研究科学生募集要項)

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料 7-15 : 工学資源学研究科各専攻における収容定員に見る充足率 (基準日 : 各年度 5 月 1 日現在)

【博士前期課程】

専攻名		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地球資源学専攻	収容定員	36	36	35	34	34	34
	現員数	34	36	44	39	34	39
	定員充足率	94.4	100.0	125.7	114.7	100.0	114.7
環境物質工学専攻	収容定員	48	48	24			
	現員数	77	67	27			
	定員充足率	160.4	139.5	112.5			
環境応用化学専攻	収容定員			20	40	40	40
	現員数			18	29	34	50
	定員充足率			90.0	72.5	85.0	125.0
生命科学専攻	収容定員			12	24	24	24
	現員数			10	22	24	26
	定員充足率			83.3	91.6	100.0	108.3
材料工学専攻	収容定員	36	36	41	46	46	46
	現員数	52	48	37	40	49	54
	定員充足率	144.4	133.3	90.2	86.9	106.5	117.3
情報工学専攻	収容定員	32	32	32	32	32	32
	現員数	28	36	34	21	27	32
	定員充足率	87.5	112.5	106.2	65.6	84.3	100.0
機械工学専攻	収容定員	48	48	50	52	52	52
	現員数	69	76	59	42	54	60
	定員充足率	143.7	158.3	118.0	80.7	103.8	115.3
電気電子工学専攻	収容定員	52	52	56	60	60	60
	現員数	58	70	78	62	49	49
	定員充足率	111.5	134.6	139.2	103.3	81.6	81.6
土木環境工学専攻	収容定員	24	24	23	22	22	22
	現員数	21	30	22	13	11	13
	定員充足率	87.5	125.0	95.6	59.0	50.0	59.0
共同ライフサイクル デザイン工学専攻	収容定員			12	24	24	24
	現員数			12	18	15	19
	定員充足率			100.0	75.0	62.5	79.1
合 計	収容定員	276	276	305	334	334	334
	現員数	339	363	341	288	298	343
	定員充足率	122.8	131.5	111.8	86.2	89.2	102.6

【博士後期課程】

専攻名		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
資源学専攻	収容定員	12	12	12	12	12	12
	現員数	17	18	16	13	18	21
	定員充足率	141.6	150.0	133.3	108.3	150.0	175.0
生命科学専攻	収容定員					3	6
	現員数					4	2
	定員充足率					133.3	33.3
機能物質工学専攻	収容定員	12	12	12	12	11	10
	現員数	15	11	12	9	6	5
	定員充足率	125.0	91.6	100.0	75.0	54.5	50.0

秋田大学工学資源学研究所 分析項目 I

生産・建設工学専攻	収容定員	12	12	12	12	11	10
	現員数	7	9	11	11	9	10
	定員充足率	58.3	75.0	91.6	91.6	81.8	100.0
電気電子情報システム工学専攻	収容定員	12	12	12	12	11	10
	現員数	11	11	11	8	11	7
	定員充足率	91.6	91.6	91.6	66.6	100.0	70.0
合 計	収容定員	48	48	48	48	48	48
	現員数	50	49	50	41	48	45
	定員充足率	104.1	102.0	104.1	85.4	100.0	93.7

(出典：総合学務課調査)

資料 7-16：外国人留学生数（各年度 5 月 1 日現在）

区 分		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	
工学資源学研究所	正規	国費	5	3	2	5	7	13
		私費	22	22	37	33	36	43
	非正規	国費		0	0	2	1	1
		私費		0	0	0	1	0

(出典：秋田大学概要)

4. 教員の教育力向上

学務委員会と教育改善委員会において、教員の指導力・教育力を向上させるため、種々のテーマでFDを毎年開催している。各専攻・コースにおいても独自の教育プログラムの実現のためFDを実施している（資料7-17）。

また、学生による授業評価を平成22年度後期から実施している（資料7-18）。学生による授業評価では、Q5（授業外学習時間に関する質問）以外は4以上の高い水準で推移しており、学生が高い学習意欲を維持しながら学んでいることが推察される。更なる改善のため、今後、授業外学習時間の増加に関するFDの開催などを計画している（資料7-19）。

資料 7-17：工学資源学研究所・理工学部のFDに関する活動実績

年度	種別	テーマ	参加者
平成 22 年度	ワークショップ	学生支援改善戦略－よりきめ細やかな学生理解のために－	40
	シンポジウム	コミュニケーション能力の涵用	51
平成 23 年度	ワークショップ	学生支援改善戦略－よりきめ細やかな学生理解のために－	39
	シンポジウム	実践的教育実現のために	50
平成 24 年度	ワークショップ	学生支援改善戦略－学生へのサポートについて－	45
	シンポジウム	学生のキャリア教育と就職支援を考える	31
平成 25 年度	ワークショップ	学生支援改善戦略－学生へのサポートについて－	38
	シンポジウム	大学院進学率向上のための教育・支援戦略を考える	25
平成 26 年度	ワークショップ	学生への主体的・能動的な学びを喚起する教育の実践を目指して	33
	シンポジウム	学生支援改善戦略 －発達障がいを持つ学生へのサポートについて考える－	32
平成 27 年度	ワークショップ	教育改善のための総括的評価法 －ルーブリックの活用とその設定方法－	36

(出典：総合学務課資料)

秋田大学工学資源学研究所 分析項目 I

資料 7-18 : 大学院博士前期課程学生授業評価調査書

「大学院博士前期課程学生授業評価調査書」

この授業評価は、授業改善および教育的効果を高めることを目的としています。成績に影響することはありません。よろしくご協力願います。

学籍番号		氏名		年次		専攻	
------	--	----	--	----	--	----	--

授業科目名：
科目コード：
教員名：

以下の設問については、右のような基準で応えて下さい。
なお、回答は該当する基準番号に対応する○を黒く(●)ぬりつぶして下さい。

	そう思う(はい)	どちらかといえばそう思う	どちらとも言えない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない(いいえ)	わからない、または該当しない
--	----------	--------------	-----------	----------------	-------------	----------------

1. 授業目的や内容等は、シラバスに記載されたものと一致していましたか。	○	○	○	○	○	○
2. 授業内容は興味深いものでしたか。	○	○	○	○	○	○
3. この授業を受けたことで新しい知識や考え方が身につきましたか。	○	○	○	○	○	○
4. あなたは授業内容を理解し、目標を達成できたと思いますか。	○	○	○	○	○	○
5. 授業内容を理解するために、資料調査や学習(授業時間は除く)に時間を十分にかけて取り組みましたか。	○	○	○	○	○	○

①この授業を受講して良かったと思う点がありましたら具体的に書いてください。

②この授業および学習環境について何か要望がありましたら具体的に書いてください。

③この科目を受講した動機について具体的に書いてください。

(出典：大学院博士前期課程学生授業評価調査書)

資料 7-19 : 大学院生による授業評価集計結果

(1が低い評価で、5が高い評価)

実施時期 質問項目	平成22年度 ※(後期)	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
Q1	4.57	4.44	4.62	4.66	4.75	4.73	4.75	4.64	4.71	4.71
Q2	4.50	4.31	4.56	4.59	4.72	4.66	4.74	4.51	4.68	4.65
Q3	4.48	4.29	4.51	4.57	4.66	4.69	4.74	4.49	4.63	4.61
Q4	3.88	3.85	4.01	4.10	4.32	4.21	4.26	4.03	4.22	4.13
Q5	3.73	3.71	3.70	4.02	4.09	4.08	3.91	3.89	3.92	3.95

※本格実施に向けた試行

(出典：数値で解剖する工学資源学研究所 27年度版)

5. 自己点検・評価

教育研究カOUNシルからの付託を受けて、評価委員会、教員評価委員会及び教育改善委員会において、教育課程の専門的事項を審議し、当該カOUNシルに答申している(資料7-20)。

在学生、修了生とその受け入れ企業・団体にアンケートを実施し、教育効果と社会ニーズを把握して教育改善のP D C Aサイクルを推進している。

資料 7-20：学部の教育内容・教育方法の自己評価・点検の体制

担当組織	取り組み内容
評価委員会	教育研究活動を評価し、点検・見直して教育活動のPDCAサイクルを推進する。
教員評価委員会	学生による授業評価、同僚評価などの結果を基に教員の評価を行う。
教育改善委員会	FD活動の実施、授業評価、JABEE受審・更新の促進、情報交換を行う。

(出典：各委員会規程抜粋)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 大学設置基準上必要な人数の教員を配置しており、学生を第一とする教育実施体制を整備している。教育実施体制は種々の委員会により適切に管理運営されている。

入学定員の充足率の平均は、前期課程で 102.6%、後期課程で 98.2%と適正值である。

教育の質保障のため、FD・SDを開催し、各種委員会による自己点検と教育研究カウンスルによる教育課程の検査を実施している。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 体系的な教育課程の編成

教育課程の構成並びに授与する学位は、学生便覧に明記され、各専攻の教育目的および特徴に即した体系的な教育プログラムを構成している(資料7-21~23)。

博士前期課程では、専門性を深める教育科目に加えて、起業精神の養成、倫理教育、ノンアカデミックスキルの教育科目を開講し、社会で活躍できる人材育成に努めている。コースワークを重視し、講義、演習、実験、実習、セミナーをバランスよく配置した多数の専門科目を揃えている(資料7-24)。

博士後期課程では、専門科目や共通科目を開講しており、必修科目計6単位以上、選択科目の各自の専門に即した専門科目Aを計4単位以上および、所属講座以外の関連分野の広い応用能力を修得するため専門科目Bを計2単位以上の科目を履修できるように開講している(資料7-25~27)。

資料 7-21：工学資源学研究科ディプロマポリシー

(博士前期課程)

工学資源学研究科博士前期課程では、次のような知識、技術、態度等を身につけた学生に、「修士(資源学)」、「修士(工学)」および「修士(理学)」の学位を授与しています。

地球規模となった資源環境、エネルギー問題の解決のために、国際的に活躍できる技術者・研究者としての高度な知識・技術を身につけるとともにそれらを応用できると認定された場合に、修士(資源学)が授与されます。

国際的視野に立って工学の先端的分野・学際的分野および地域課題としての高齢化や新たな産業の創出などへ対応できる技術者・研究者としての高度な知識・技術を身につけ、それらを応用できると認定された場合に、修士(工学)が授与されます。

国際的視野に立って生命科学に関する幅広い基礎知識や問題解決能力及び社会的義務と責任を認識できる技術者・研究者としての高度な知識・技術を身につけ、それらを応用できると認定された場合に、修士(理学)が授与されます。

以下は3種類(資源学・工学・理学)の修士号を授与する学生に共通して身につけてもらう目標です。

- 該当する専攻の専門技術に関する高度な知識とそれらを問題解決に応用できる能力
- 継続的に学習でき、業務・研究を遂行できる能力
- 技術者・研究者として倫理規範を守り、業務・研究を遂行する能力
- 技術者・研究者として業務・研究を遂行するためのコミュニケーション能力
- 業務等における協働力やマネジメント能力
- 技術者・研究者として、社会の課題を抽出し、具現化する能力

〈博士後期課程〉

工学資源学研究科博士後期課程では、博士前期課程で要求される能力のほかに、次のような知識、技術、態度等を身につけた学生に、「博士（資源学）」、「博士（工学）」および「博士（理学）」の学位を授与しています。

地球規模となった資源環境、エネルギー問題の解決のために、課題を自ら見出し、課題を解決する方法を提案し、その結果の妥当性を検証する能力を有し、学術的意義、新規性、創造性、応用的価値等のある課題解決方法が身についたことが認定された場合に、博士（資源学）が授与されます。

国際的視野に立って工学の先端的分野・学際的分野および地域課題において、課題を自ら見出し、課題を解決する方法を提案し、その結果の妥当性を検証する能力を有し、学術的意義、新規性、創造性、応用的価値等のある課題解決方法が身についたことが認定された場合に、博士（工学）が授与されます。

科学の専門的な知識を有し、科学によって解決すべき重要な課題に取り組み、その独創的な解決方法を自ら考案し、解決のための新たな方法論を実験等により実証し、解決に至る論理的根拠を学術的に考察できる能力を身につけたと認定された場合に、博士（理学）が授与されます。

（出典：工学資源学研究科理工学部概要 2015）

資料 7-22：工学資源学研究科カリキュラムポリシー

〈博士前期課程・博士後期課程共通〉

環境と調和のとれた科学技術の発展をリードできる人材養成を目指すとともに、実践的、創造的能力を備えた技術者養成、高度技術開発能力を備えた国際的に通用する技術者、研究者の養成を目指します。教育プログラムとしては、博士前期課程と博士後期課程のプログラムを用意しています。

各課程においては、人材養成の目的を達成すべく、それぞれ次の方針に基づき教育を行います。

〈博士前期課程〉

1. 環境との調和を念頭に、各専門分野において基礎から応用まで幅広い高度な専門知識を身に付ける能力を養成します。
2. 各専門分野の研究を通じた教育により、研究の推進能力に加え、高い倫理性を備え、自ら課題解決に取り組める能力を養成します。
3. 論文発表や口頭発表などを通じて、自らの研究成果や考えを国内外に発信できるコミュニケーション能力と英語力を養成します。

〈博士後期課程〉

1. 各研究分野での高度で幅広い専門知識を修得するとともに、自らの研究を企画・立案でき、それを推進できる能力の養成、さらに研究成果を取りまとめ、国内外に発信できる高度なコミュニケーション能力を養成します。
2. 常に未踏の分野に興味を持ち、挑戦できる先駆的研究者を目指す高い志と倫理性を兼ね備えた能力を養成します。
3. 各研究分野において、国内外のリーダーとしてその分野の研究をリードできる能力を養成します。

（出典：工学資源学研究科理工学部概要 2015）

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料 7-23 : 教育課程の編成

課 程	専 攻 名	教育課程の構成	授与する学位
博士前期課程	地球資源学専攻	選択科目 (専門科目、講座外科目) 必修科目 (特別講義、演習、課題研究)	修士(資源学)／修士(工学)
	環境応用化学専攻 材料工学専攻 情報工学専攻 機械工学専攻 電気電子工学専攻 土木環境工学専攻		修士(工学)
	共同ライフサイクル デザイン工学専攻	選択科目 (専門科目、 共通基礎・倫理関係科目) 必修科目 (専門科目の一部、 セミナー、課題研究)	修士(工学)
	生命科学専攻	選択科目 (専門科目、講座外科目) 必修科目(演習、課題研究)	修士(理学)
博士後期課程	資源学専攻	選択科目(専門科目) 必修科目 (特別演習、特別教育研修、 論文計画および特別実験)	博士(資源学)／博士(工学)
	機能物質工学専攻 生産・建設工学専攻 電気電子情報 システム工学専攻		博士(工学)
	生命科学専攻	選択科目(専門科目) 必修科目 (専門科目の一部、 特別演習、特別実験)	博士(理学)

(出典：学位規程)

資料 7-24 : 工学資源学研究科科目単位数および共通単位 (博士前期課程) 平成 27 年度

専 攻 名	必修科目		選択科目	
	単位数	科目数	単位数	科目数
地球資源学専攻	14 (14) 単位	16 (16) 科目	93 (33) 単位	51 (19) 科目
環境応用化学専攻	14 (14) 単位	17 (17) 科目	54 (26) 単位	33 (18) 科目
生命科学専攻	12 (12) 単位	2 (2) 科目	66 (46) 単位	26 (16) 科目
材料工学専攻	14 (14) 単位	17 (17) 科目	56 (22) 単位	32 (15) 科目
情報工学専攻	14 (14) 単位	17 (17) 科目	45 (21) 単位	25 (13) 科目
機械工学専攻	14 (14) 単位	17 (17) 科目	70 (20) 単位	25 (13) 科目
電気電子工学専攻	14 (14) 単位	17 (17) 科目	74 (25) 単位	40 (15) 科目
土木環境工学専攻	14 (14) 単位	17 (17) 科目	36 (28) 単位	20 (11) 科目
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	14 (10) 単位	4 (2) 科目	88 (68) 単位	49 (39) 科目

※ () は講座共通及び講座外科目分で内数

工学資源学研究所特別講義（講座外）

地球資源学専攻

授 業 科 目	単位数
特別講義（工学資源特論）	1
特別講義（マーケティング論）	1
特別講義（ベンチャー起業論）	1
特別講義（国際関係論）	1
特別講義（資源・工業経済論）	1
特別講義（リスクマネジメント）	1
特別講義（生命科学論）	1
特別講義（資源開発工学特論）	1
特別講義（資源分離プロセス特論）	1
特別講義（金属リサイクル工学特論）	1
特別講義（マテリアルプロセス工学）	1
特別講義（レアメタル製錬学）	1
特別講義（資源環境論）	1
特別講義（石炭資源生産論）	1

環境応用化学専攻，材料工学専攻，情報工学専攻，機械工学専攻，電気電子工学専攻，土木環境工学専攻

授 業 科 目	単位数
特別講義（工学資源特論）	1
特別講義（マーケティング論）	1
特別講義（ベンチャー起業論）	1
特別講義（国際関係論）	1
特別講義（資源・工業経済論）	1
特別講義（リスクマネジメント）	1
特別講義（生命科学論）	1
特別講義（資源開発工学特論）	1
特別講義（資源分離プロセス特論）	1
特別講義（金属リサイクル工学特論）	1
特別講義（マテリアルプロセス工学）	1
特別講義（レアメタル製錬学）	1
特別講義（資源環境論）	1
特別講義（石炭資源生産論）	1
特別講義（医理工連携実践論）	1

生命科学専攻

授 業 科 目	単位数
特別講義（マーケティング論）	1
特別講義（ベンチャー起業論）	1
特別講義（国際関係論）	1
特別講義（資源・工業経済論）	1
特別講義（リスクマネジメント）	1
特別講義（生命科学論）	1
特別講義（資源開発工学特論）	1
特別講義（資源分離プロセス特論）	1
特別講義（金属リサイクル工学特論）	1
特別講義（マテリアルプロセス工学）	1
特別講義（レアメタル製錬学）	1
特別講義（資源環境論）	1

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

特別講義（石炭資源生産論）	1
特別講義（医理工連携実践論）	1

工学資源学研究科特別講義（講座外）

共同ライフサイクルデザイン工学専攻

授 業 科 目	単位数
特別講義（工学資源特論）	1
特別講義（マーケティング論）	1
特別講義（ベンチャー起業論）	1
特別講義（国際関係論）	1
特別講義（資源・工業経済論）	1
特別講義（リスクマネジメント）	1

（出典：工学資源学研究科学生便覧）

資料7-25：工学資源学研究科科目単位数および共通単位（博士後期課程）

専攻名	必修科目		選択科目	
	単位数	科目数	単位数	科目数
資源学専攻	6 (6) 単位	4 (4) 科目	70単位	35科目
生命科学専攻	8 (6) 単位	5 (4) 科目	20単位	10科目
機能物質工学専攻	6 (6) 単位	4 (4) 科目	50単位	25科目
生産・建設工学専攻	6 (6) 単位	6 (6) 科目	68単位	34科目
電気電子情報システム工学専攻	6 (6) 単位	4 (4) 科目	46単位	23科目

※（ ）は講座共通及び講座外科目分で内数

（出典：工学資源学研究科学生便覧）

資料7-26：博士後期課程（MOT履修科目）

授業科目	単位数	区分
特別講義 マーケティング論	1	選択
特別講義 ベンチャー起業論	1	必修
特別講義 資源・工業経済論	1	選択
特別講義 リスクマネジメント	1	選択
技術戦略学	1	選択
財務・金融工学	1	必修
知的財産論	1	選択
経営戦略学	1	選択
企業行動論	1	選択
特許情報活用論	1	選択

（出典：工学資源学研究科学生便覧）

資料7-27：大学院における授業形態ごとの開設科目数（平成27年度）

課 程	専 攻 名	講義	実験	演習・実習	課題研究
博士前期課程	地球資源学専攻	63	0	8	1
	環境応用化学専攻	45	0	9	1
	生命科学専攻	37	0	12	1
	材料工学専攻	46	0	8	1
	情報工学専攻	37	0	8	1
	機械工学専攻	52	0	8	1
	電気電子工学専攻	52	0	8	1
	土木環境工学専攻	34	0	8	1
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	44	0	8	1

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

課 程	専 攻 名	講義	実験	演習・実習	教育研修・論文計画
博士後期課程	資源学専攻	35	1	1	2
	生命科学専攻	11	1	1	2
	機能物質工学専攻	25	1	1	2
	生産・建設工学専攻	34	1	3	2
	電気電子情報システム工学専攻	23	1	1	2

【博士前期課程】

専攻名	科 目 名
地球資源学専攻	(演習・実習) 地球資源学演習、プレゼンテーション技法、工業英語 I、工業英語 II、インターンシップ I、インターンシップ II、自主プロジェクト I、自主プロジェクト II
環境応用化学専攻	(演習・実習) 工学英語、環境応用化学演習、プレゼンテーション技法、工業英語 I、工業英語 II、インターンシップ I、インターンシップ II、自主プロジェクト I、自主プロジェクト II
生命科学専攻	(演習・実習) 生命科学ゼミナール I、生命科学ゼミナール II、生命科学論文購読 I、生命科学論文購読 II、生命科学演習、プレゼンテーション技法、工業英語 I、工業英語 II、インターンシップ I、インターンシップ II、自主プロジェクト I、自主プロジェクト II
材料工学専攻	(演習・実習) 材料工学特別演習、プレゼンテーション技法、工業英語 I、工業英語 II、インターンシップ I、インターンシップ II、自主プロジェクト I、自主プロジェクト II
情報工学専攻	(演習・実習) 情報工学特別演習、プレゼンテーション技法、工業英語 I、工業英語 II、インターンシップ I、インターンシップ II、自主プロジェクト I、自主プロジェクト II
機械工学専攻	(演習・実習) 機械工学演習、プレゼンテーション技法、工業英語 I、工業英語 II、インターンシップ I、インターンシップ II、自主プロジェクト I、自主プロジェクト II
電気電子工学専攻	(演習・実習) 電気電子工学演習、プレゼンテーション技法、工業英語 I、工業英語 II、インターンシップ I、インターンシップ II、自主プロジェクト I、自主プロジェクト II
土木環境工学専攻	(演習・実習) 土木環境工学演習、プレゼンテーション技法、工業英語 I、工業英語 II、インターンシップ I、インターンシップ II、自主プロジェクト I、自主プロジェクト II
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	(演習・実習) ライフサイクルデザイン工学セミナー、プレゼンテーション技法、インターンシップ I、インターンシップ II、プレゼンテーション、実践英語 A、英語プレゼンテーション A、フィールドワーク (実践科目)

【博士後期課程】

専攻名	科 目 名
資源学専攻	(実験・演習・実習、教育研修・論文計画) 資源学特別実験、資源学特別演習、資源学特別教育研修、論文計画
生命科学専攻	(実験・演習・実習、教育研修・論文計画) 特別実験、特別演習、特別教育研修、論文計画
機能物質工学専攻	(実験・演習・実習、教育研修・論文計画) 機能物質工学特別実験、機能物質工学特別演習、機能物質工学特別教育研修、論文計画
生産・建設工学専攻	(実験・演習・実習、教育研修・論文計画) 生産・建設工学特別実験、生産システム工学特別演習、社会基盤工学特別演習、福祉システム工学特別演習、生産・建設工学特別教育研修、論文計画
電気電子情報システム工学専攻	(実験・演習・実習、教育研修・論文計画) 電気電子情報システム工学特別実験、電気電子情報システム工学特別演習、電気電子情報システム工学特別教育研修、論文計画

2. 大学院改組による教育課程編成の改善

多様化する社会の要請に対応するため、第2期中期計画期間中に教育課程を大幅に拡充した。

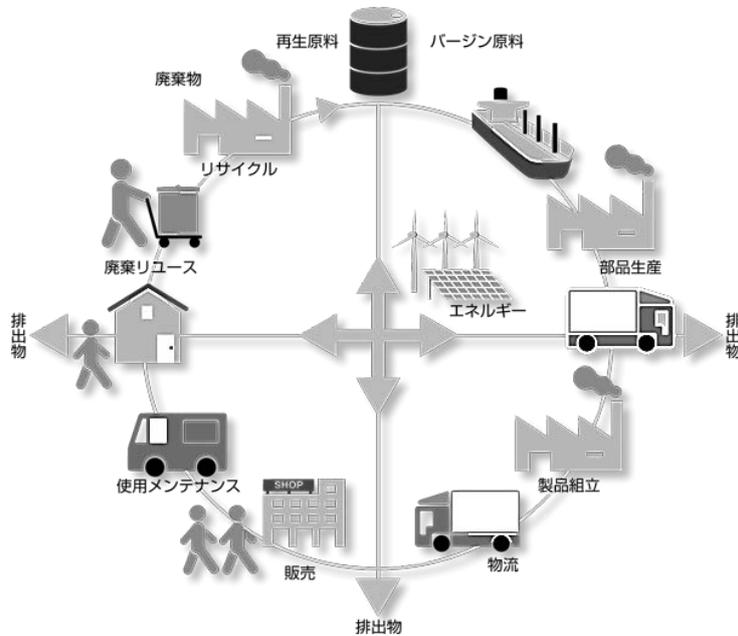
(1) 共同ライフサイクルデザイン工学専攻

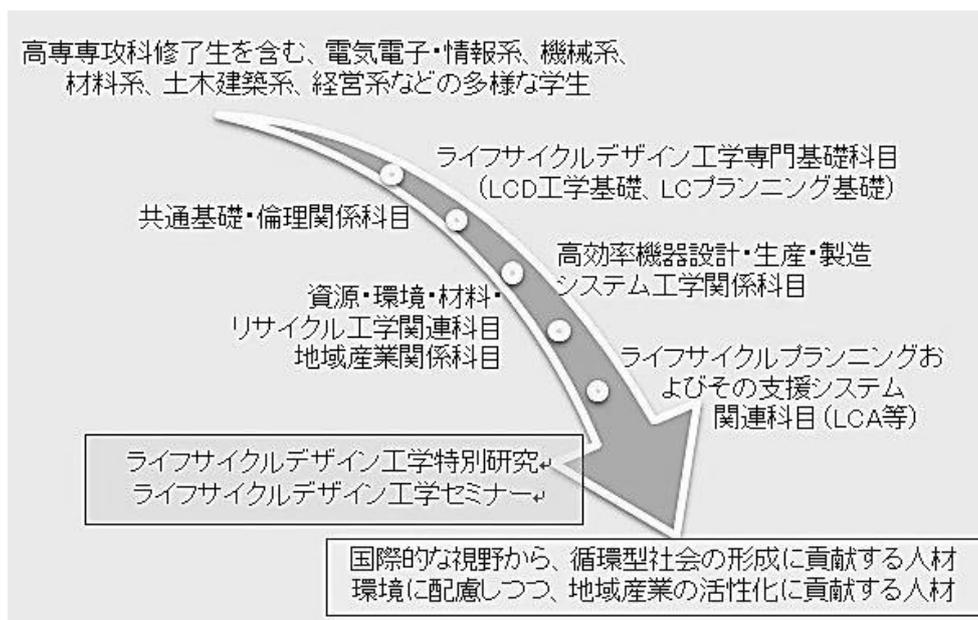
秋田県立大学との連携により、平成24年度に開設した。

工学資源学研究科の特徴である資源・環境・リサイクルの研究分野と、秋田県立大学大学院システム科学技術研究科の特徴である経営工学分野を融合し、製品の企画設計からリサイクルや廃棄に至るライフサイクルデザイン工学を体系化し、環境負荷の低減、循環型社会の形成に重要な役割を担い地域社会の発展に貢献できる人材を養成する共同専攻である(資料7-28)。

開講科目は両大学の教員が開講し、両大学の学生は、双方の大学の授業科目を履修することができる(資料7-29)。

資料7-28：ライフサイクルデザインの概念図及び概要等





大学院博士前期課程組織図



(出典：ライフサイクルデザインとは <http://www.akita-pu.ac.jp/daigakuin/lcd/about.html>
 共同専攻の概要 <http://www.akita-pu.ac.jp/daigakuin/lcd/concept.html>)

資料 7-29：共同ライフサイクルデザイン専攻の科目

講座	区分	授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
ライフサイクル戦略学	専	ライフサイクルプランニング基礎	2		県立大
		ライフサイクルデザイン工学基礎	2		秋田大
		ライフサイクルアセスメント		2	県立大
		ライフサイクルデザイン工学特論		2	秋田大
環境調和型システム工学	専	熱流体エネルギー移動・変換工学		2	秋田大
		電磁エネルギー変換工学		2	秋田大
		マイクロ加工工学特論		2	秋田大
		次世代自動車工学		2	県立大
		環境電磁工学		2	県立大
		先端機能材料工学特論		2	秋田大
		応用物性学		2	秋田大
都市環境論		2	県立大		

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

講座共通	門 科 目	ライフサイクルデザイン製品技術論		2	県立大
		環境型生産管理論		2	県立大
		ライフサイクルデザイン工学特別講義 I		1	秋田大
		ライフサイクルデザイン工学特別講義 II		1	秋田大
		地域産業論		2	秋田大
		電子デバイス工学		2	秋田大
		電子制御機械工学特論		2	秋田大
		音環境工学		2	県立大
		資源システム設計学特論		2	秋田大
		岩盤工学特論 II		2	秋田大
		資源経済学特論		2	秋田大
		素材生産工学特論		2	秋田大
		環境・エネルギー工学		2	県立大
		都市システム計画特論		2	秋田大
		ライフサイクルデザイン工学セミナー	2		秋田大
ライフサイクルデザイン工学課題研究	8		秋田大		
講座外	共通 基 礎 ・ 倫 理 関 係 科 目	リサイクルプロセス設計特論		2	秋田大
		プレゼンテーション技法		1	秋田大
		インターンシップ I		1	秋田大
		インターンシップ II		2	秋田大
		技術者倫理特論 I		2	秋田大
		技術者倫理特論 II		2	秋田大
		特別講義（工学資源学特論）		1	秋田大
		特別講義（マーケティング論）		1	秋田大
		特別講義（ベンチャー起業論）		1	秋田大
		特別講義（国際関係論）		1	秋田大
		特別講義（資源・工業経済論）		1	秋田大
		特別講義（リスクマネジメント）		1	秋田大
		プレゼンテーション		2	県立大
		実践英語 A		2	県立大
		英語プレゼンテーション A		2	県立大
		風土・文化構造論		2	県立大
		科学技術と倫理		2	県立大
		感性情報と環境の心理		2	県立大
		地域社会と家族		2	県立大
		生体情報と運動の生理		2	県立大
		フィールドワーク（実践科目）		2	県立大
		知的所有権論 A		2	県立大
		標準化論 A		2	県立大
信頼性工学 A		2	県立大		
失敗工学 A		2	県立大		

（出典：工学資源学研究科学生便覧）

(2) 資源ニューフロンティア特別教育コース

平成 24 年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラムに採択された（資料 7-30、31）。

秋田大学を含む国内外の資源系大学教員をプログラム担当者に加え、資源分野に留まらず、資源国との国際関係や国際経済、異文化理解、資源リテラシーといった文理融合色が強いコースワークを構築し、講義は全て英語で行われている。

医学系研究科（レアアース等の生体影響）や教育学研究科（異文化理解等）の教員が加わり、研究科の枠を超えた横断的な教育研究体制をとっている。資源国での地質調査

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

や海外でのフィールドワークなど多くの実践教育を取り入れ、海外の資源系大学と連携した5年一貫博士課程教育システムの構築し、多くの外国人留学生も受け入れて国際的な活動を展開している。

PE審査 (Preliminary Examination) やQE審査 (Qualifying Examination)、定期的な発表会などを実施し、学生の質保証と教育の実質化に努めている。また、世界的な研究者を招いた研究交流、指導補助の機会を頻繁に設けている。

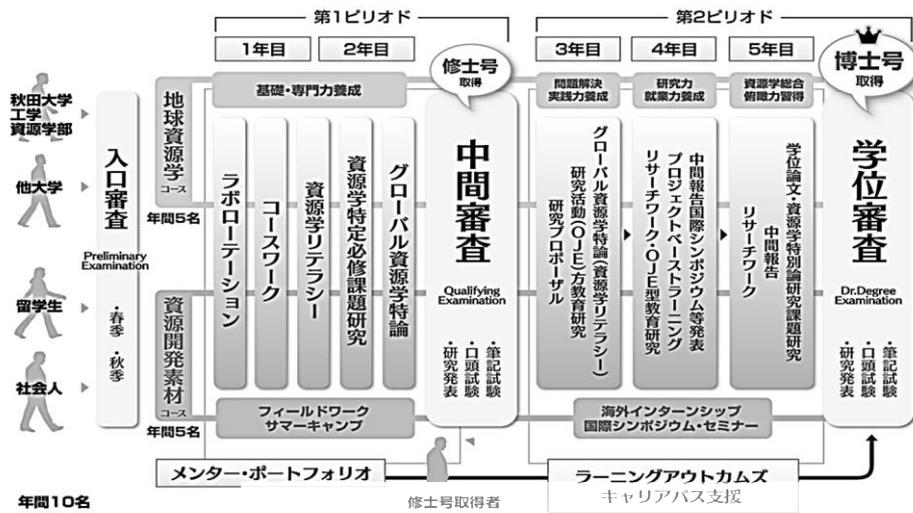
資料7-30：プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数（各年度3月31日現在）

区 分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
プログラム募集定員数（実数）	10 人	10 人	10 人	10 人
① 応募学生数	4 人	9 人	7 人	8 人
うち留学生数	2 人	9 人	6 人	7 人
うち自大学出身者数	4 人 (2 人)	1 人 (1 人)	2 人 (1 人)	2 人 (1 人)
うち他大学出身者数	0 人 (0 人)	8 人 (8 人)	5 人 (5 人)	6 人 (6 人)
うち社会人学生数	0 人 (0 人)			
うち女性数	0 人 (0 人)	7 人 (7 人)	3 人 (3 人)	3 人 (3 人)
② 合格者数	3 人	7 人	6 人	8 人
うち留学生数	2 人	7 人	5 人	7 人
うち自大学出身者数	3 人 (2 人)	0 人 (0 人)	2 人 (1 人)	2 人 (1 人)
うち他大学出身者数	0 人 (0 人)	7 人 (7 人)	4 人 (4 人)	6 人 (6 人)
うち社会人学生数	0 人 (0 人)			
うち女性数	0 人 (0 人)	6 人 (6 人)	2 人 (2 人)	3 人 (3 人)
③ ②のうち受講学生数	3 人	7 人	5 人	8 人
うち留学生数	2 人	7 人	4 人	7 人
うち自大学出身者数	3 人 (2 人)	0 人 (0 人)	2 人 (1 人)	2 人 (1 人)
うち他大学出身者数	0 人 (0 人)	7 人 (7 人)	3 人 (3 人)	6 人 (6 人)
うち社会人学生数	0 人 (0 人)			
うち女性数	0 人 (0 人)	6 人 (6 人)	2 人 (2 人)	3 人 (3 人)
プログラム合格倍率 (①応募学生数/②合格者数)	1.33 倍	1.29 倍	1.17 倍	1.00 倍
充足率 (合格者数/募集定員)	30.00%	70.00%	60.00%	80.00%

（出典：リーディング事務局調査）

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料 7-31: 5年一貫プログラム「資源ニューフロンティア特別教育コース」



(出典: 博士課程教育リーディングプログラム申請資料)

(3) 医理工連携コース

秋田大学大学院医学系研究科と連携する教育プログラムとして、平成 27 年に開設された。新しい製品の研究開発のみならず、秋田県の医療産業の発展に貢献できる人材の輩出を目的とする。医学と理工学の双方の知識を備え、医療現場のニーズを把握してその解決に取り組み、地域医療の発展と産業創出、ひいては日本国民のQOL向上に貢献する研究者、技術者、コーディネータとなる人材を輩出することを目指す(資料 7-32)。

「医理工連携実践論」「知的財産論」「研究プレゼンテーション」を必修科目とし、医学系研究科と工学資源学研究科の双方の科目を履修する(資料 7-33、34)。

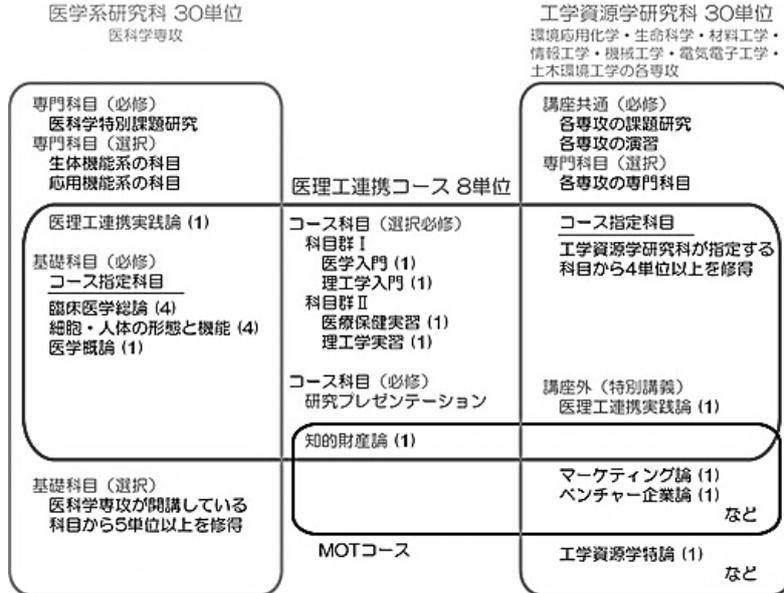
資料 7-32: 医理工連携コースの概略図



(出典: 平成 27 年度医理工連携コース(教育プログラム)履修案内)

秋田大学工学資源学研究所 分析項目 I

資料 7-33：医理工連携コースの履修科目概要



(出典：平成 27 年度医理工連携コース（教育プログラム）履修案内)

資料 7-34：医理工連携コースの履修科目

科目区分	科目名	単位数	摘要
必修科目 (両研究科)	医理工連携実践論	1	2 単位修得すること。なお、医理工連携実践論は、各研究科の卒業要件の単位数に含めることができる。
	知的財産論	1	
	研究プレゼンテーション	※	
選択必修 科目 (両研究科)	科目群 I	1	1 単位以上修得すること。なお、医学系研究科は理工学入門、工学資源学研究所は医学入門を選択することが望ましい。
	科目群 II	1	
	医療保健実習	1	
	理工学実習	1	
指定科目 (各研究科)	医学系	4	3 科目から 4 単位以上を修得すること。なお、いずれも医学系研究科の必修科目であり、医学系研究科医科学専攻の修了要件に含めることができる。
	臨床医学総論	4	
	細胞・人体の形態と機能	4	
	医学概論	1	
	工学資源学	2	
	先端有機材料特論	2	
	生物化学工学特論	2	
	細胞生物学特論	2	
	分子生物学特論	2	
	疾患生物学特論	2	
	生命無機化学特論	2	
	材料物理学特論	2	
	感覚情報工学	2	
	画像情報学	2	
	データ解析	2	
	応用電気磁気学特論	2	
	計測システム工学特論	2	
バイオメカニクス特論	2		
バイオ電磁気工学	2		
通信工学特論	2		
都市システム計画特論	2		
構造力学特論	2		
合計			8 単位以上を修得すること。

(出典：平成 27 年度医理工連携コース履修案内)

(4) 理工学研究科・国際資源学研究所の開設準備

工学資源学研究所を改組し、平成 28 年度から理工学研究科・国際資源学研究所を開設する準備を進めた。

改組においては、生命科学専攻を強化し、秋田県で初めて大学院レベルで数学・物理学を専門にできる数理科学コースと、宇宙工学と創造的なものづくりを学ぶことができる創造生産工学コースを新設した。また理工学の修士を取得できる物質科学専攻を設置した(資料 7-35)。

秋田大学工学資源学研究所 分析項目 I

資料 7-35：第 2 期中期期間中の改組・教育プログラムの新設

設置・新設時期	改組・組織変更	組織変更・教育プログラム新設の目的
平成 24 年 4 月	環境応用化学専攻設置 【博士前期課程】	新機能物質の開発とその評価、資源の循環・再生、エネルギーの有効利用、生体機能の利用など、化学を基盤として環境との関わりを重視した教育
平成 24 年 4 月	生命科学専攻設置 【博士前期課程】	生体分子の構造と生理機能、生体分子の相互作用から種々の生態情報伝達を含めた生命現象を包括的に理解することを重視する教育研究の実現
平成 24 年 4 月	秋田県立大学と 共同ライフサイクルデザイン 工学専攻の設置 【博士前期課程】	工学資源学研究所の特徴である資源・環境・リサイクルなどの研究分野と、秋田県立大学大学院システム科学技術研究所の特徴である経営工学研究分野の「強み」を融合した共同大学院
平成 24 年 12 月	資源ニューフロンティア 特別教育コースの新設 【博士課程】	(5 年一貫教育) 博士課程教育リーディングプログラム(オンリーワン型) の開設
平成 25 年 4 月	あきたアーバンマイン開発 マイスター養成コース設置 【博士前期課程】	秋田県と連携し、履修証明制度のもと、環境・リサイクルに関する基礎理論や応用技術を学ぶコース
平成 26 年 4 月	生命科学専攻設置 【博士後期課程】	生体分子の構造と生理機能、生体分子の相互作用から種々の生態情報伝達を含めた生命現象を包括的に理解することを重視する教育研究の実現
平成 27 年 4 月	医理工連携コースの新設 【博士前期課程】	秋田大学大学院医学系研究科医科学専攻と工学資源学研究所の連携によるプログラム
平成 27 年 4 月	国際資源学研究所の設置申請 【博士前期課程・後期課程】	資源のグローバルリーダー人材の養成
平成 27 年 4 月	理工学研究科の設置申請 【博士前期課程・後期課程】	リージョナルセンター機能の強化と理数系科目の強化 生命科学専攻の増強、数理科学コースと創造生産工学コースの新設 理学、理工学、工学(修士・博士)の学位

(出典：工学資源学研究所・理工学部概要)

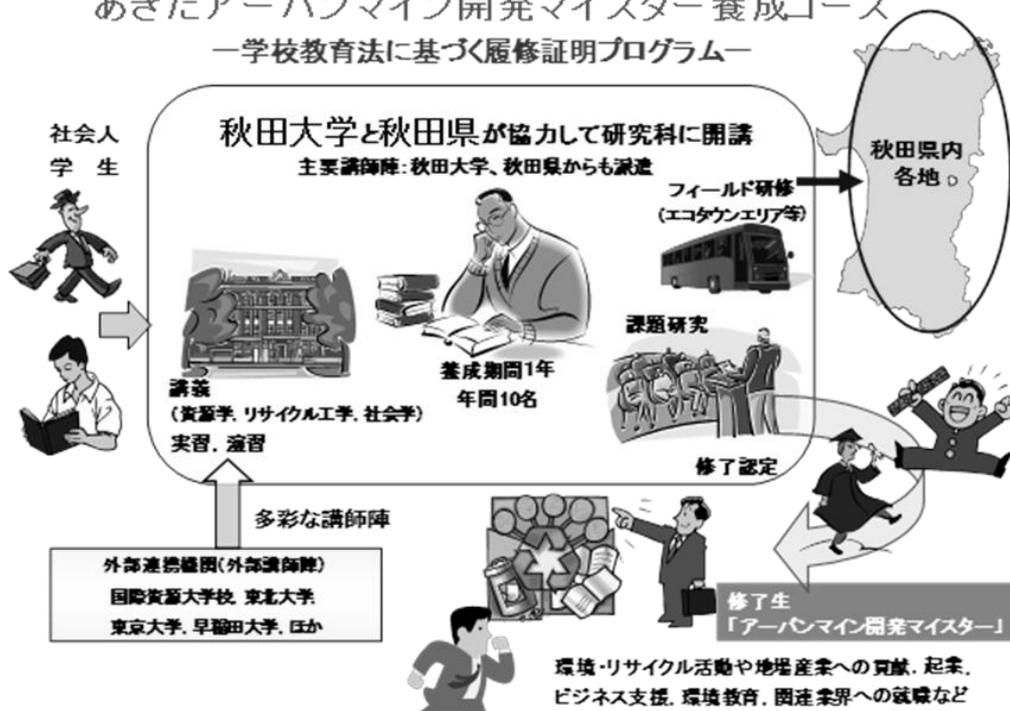
3. あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース

文部科学省の支援により平成 20 年度から平成 24 年度まで、秋田県における環境・リサイクル産業の振興・拡大及び環境教育等に貢献できる人材の養成を目的に、あきたアーバンマイン開発アカデミーを開設し、合計 75 名のアーバンマイン開発マイスターを誕生させている。

平成 25 年度からは、秋田県との連携により、学校教育法に基づく履修証明制度によるあきたアーバンマイン開発マイスター養成コースを開講した(資料 7-36、37)。修了者に対して、履修証明書を交付し、アーバンマイン開発マイスターの称号を授与している(資料 7-38、39)。

資料 7-36 : あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース

あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース
—学校教育法に基づく履修証明プログラム—



(出典 : あきたアーバンマイン開発マイスター養成コースパンフレット)

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料 7-37: あきたアーバンマイン開発マスター養成コース カリキュラム

分類		NO.	授業科目名	授業時間		大学院 共通科目	
コース科目A群	資源学	1	元素の誕生と分布および生体機能	3	15	成因論 地球資源	
		2	秋田発の鉱物資源探査法	6			
		3	鉱物資源と地球環境	3			
		4	世界の金属資源と資源開発	3			
	工学 リサイクル	5	資源分離とリサイクル	6	15	精製論 資源分離	
		6	金属精錬とリサイクル技術	6			
		7	環境調和型資源循環と分離技術	3			
	工学 資源リサイクル	8	化学で見る資源と環境問題	3	15	資源利用工学 資源化学・	
		9	化学反応とエネルギー工学	3			
		10	有機資源の化学	3			
		11	排水・排ガス処理技術および人工物とリサイクル	6			
	社会学	12	リサイクルの新システム	3	15	設計論 リサイクル システム	
		13	リサイクル性設計論	6			
		14	資源開発とリサイクルの経済学	6			
コース科目A群 総時間数				60			
コース科目B群	資源学	15	リサイクル推進力と経済論	3	40.5		
		16	都市鉱山開発の課題と未来展望	3			
	工学 リサイクル	17	バイオマスの有効利用	1.5			
		18	石油と代替燃料に関する環境化学概論	3			
	社会学	19	リスクマネジメント	3			
		20	バイオマス利用と県内の廃棄物リサイクル	1.5			
		21	秋田県の環境・リサイクル産業の振興等について	3			
		22	秋田県の環境・リサイクルへの取組	3			
		23	エコタウン企業内の取組と秋田県における技術課題	3			
		24	リサイクル関連産業の振興	3			
		25	エコタウン企業内の具体的な取組	3			
		26	資源利用と産業エコロジー	4.5			
		27	地球エネルギー資源論	3			
		28	知的財産活用演習	3			
	特別講義 アーバンマイン 開発	29	環境とリサイクルに関する法及び規制	3			12
		30	プラスチックのリサイクル	3			
31		地球環境・資源・リサイクルの現状と課題	3				
32		製品ライフサイクル設計	3				
コース科目B群 総時間数				52.5			
アーバンマイン開発課題研究 (課題探求型授業)				11.5			
フィールド研修(3回×6H)				18			
時間数総計				142			

(出典: あきたアーバンマイン事務局調査)

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

資料 7-38 : あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース 受講状況 (平成 22 年度以降抜粋)

年度	入学年月	入学人数	受講者人数	受講者内訳	修了年月	修了人数	修了者内訳
H22 年度	H22 年 4 月	Ⅲ 期生 17	46	Ⅰ 期生 14 Ⅱ 期生 15 Ⅲ 期生 17	H22 年 9 月 H23 年 3 月	28	Ⅰ 期生 13 Ⅱ 期生 15
H23 年度	H23 年 4 月	Ⅳ 期生 21	38	Ⅰ 期生 1 Ⅲ 期生 16 Ⅳ 期生 21	H24 年 3 月	15	Ⅲ 期生 15
H24 年度	H24 年 4 月	Ⅴ 期生 12	34	Ⅰ 期生 1 Ⅳ 期生 21 Ⅴ 期生 12	H25 年 3 月	32	Ⅰ 期生 1 Ⅳ 期生 20 Ⅴ 期生 11

(出典 : あきたアーバンマイン事務局調査)

資料 7-39 : あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース 受講状況

年度	入学年月	入学人数	受講人数	修了年月	修了人数
H25 年度	H25 年 4 月	8	8	H26 年 3 月	5
H26 年度	H26 年 4 月	5	8	H27 年 2 月	4
H27 年度	H27 年 4 月	10	10	H28 年 2 月	9

(出典 : あきたアーバンマイン事務局調査)

4. 国際的な資源開発に係る取組

開発途上国において持続可能な資源開発を促進し、社会経済の発展に貢献すると共に、国際社会への鉱物資源の安定供給、ひいては、我が国の資源確保に寄与する知日派・親日派の人材が生まれるよう育成を進めることを目的に、平成 25 年に国際協力機構 (JICA) と資源分野の戦略的連携を合意した。

JICA 研修員の受け入れによる途上国の行政官の育成を支援する日本政府の事業「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブプログラム (修士課程およびインターンシッププログラム) : ABE イニシアティブ」および「持続的な鉱物資源開発を担う人材の育成と人的ネットワークの強化 : 資源の絆」に協力して、途上国の人材を受け入れている (資料 7-40)。

また、平成 25 年度に「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム : 資源人育成国際特別プログラム」も採択され、資源国から大学院生を受け入れ人材育成を行っている。

これらの取組は、国際資源学部及び国際資源学研究科へと引き継がれている。

資料 7-40 : 受け入れ者数 (各年度 3 月 31 日現在)

年度/専攻名	地球資源学専攻	環境応用化学専攻	土木環境工学専攻	計
平成 26 年度	1	1	1	3
平成 27 年度	6	0	0	6

(出典 : 総合学務課調査)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) 各専攻の学位授与方針に従い、コースワークを重視して体系的な教育課程を構成している。

大学院改組を実施して、共同ライフサイクルデザイン工学専攻、資源ニューフロンティア特別教育コース、医理工連携コース、あきたアーバンマイン開発マイスター養成コースを設置した。目的が明確な資源系の教育プログラムの設置により、工学資源学研究科の重

秋田大学工学資源学研究科 分析項目 I

要なテーマである資源教育の実効性をより高めている。これらの教育プログラムは、資源政策に関わる A B E イニシアティブでも活用されており、J I C A などの国際協力にも役立つと同時に、秋田大学のグローバル化にも寄与している。

中期計画最終年度には、更なる教育プログラムの拡充のため理工学研究科及び国際資源学研究科の設置を申請し認可されている。

以上のことから、期待される水準を上回ると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 学習成果の評価

成績評価及び単位修得については、明文の規程を定め、実施している(資料7-41)。

修了要件として、演習2単位、課題研究10単位を習得することが必修とされている。演習と課題研究では、新規性の高い研究成果が求められており、研究集会における発表などを経て、修士論文を書くことが求められる。研究指導教員が審査して、新規性、学術的な意義、工学的な応用性を評価して評価される。

高度に多様化した理工学分野の専門性を担保するため、課題研究の成績は、当該分野を専門とする複数の教員に対し、当該学生が修士論文を基にして実施した研究を説明することで評価される。

資料7-41：単位修得・成績基準

(授業科目の履修)

第6条 学生は、必修科目及び選択科目を通じて、博士前期課程にあつては30単位以上、博士後期課程にあつては12単位以上を修得しなければならない。

【中略】

(単位の修得)

第8条 履修科目に係る単位修得の認定は、試験による。ただし、研究報告等の審査をもってこれに代えることができる。

2 単位の成績は、A、B、C及びDをもって表示し、A、B及びCを合格とする。

(学位論文の提出要件)

第9条 学位論文を提出できる者は、博士前期課程又は博士後期課程を修了するために必要な所定の単位(当該年度中に修得見込みの単位を含む。)を修得した者とする。

(最終試験)

第10条 最終試験は、博士前期課程又は博士後期課程を修了するために必要な所定の単位を修得した者につき、学位論文の審査が終わった後に行う。

(出典：工学資源学研究科規程)

2. 単位取得・成績等の状況

留年率、休学率、退学率については、概ね平均的な水準を示している。

学生のメンタルヘルスに問題を持つ学生に対しては、組織的に教職員と保健管理センターが対応する協力体制が作られている。工学資源学研究科では、平成17年に授業や友人関係、家族の問題、健康や将来に対する不安について相談できる「なんでも相談室」を開設し、学生の悩みに対応している。

3. 資格等取得

所定の科目・単位の取得が、特定の資格取得に結び付いており、卒業生の専門能力の担保の一助となっている。

理科、工業科の高校専修免許が認定されており、地域の理工系高等学校教員養成の役割が期待されている(資料7-42)。

秋田大学工学資源学研究科 分析項目Ⅱ

資料 7-42：工学資源学研究科博士前期課程学生の高等学校教諭修士免許（工業）取得件数

[単位：人]

専攻名 修了年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地球資源学専攻	3	1	0	0	0	0
環境物質工学専攻	2	1	1			
環境応用化学専攻			0	0	0	3
生命科学専攻			0	0	0	0
材料工学専攻	6	1	0	2	0	0
情報工学専攻	0	0	0	0	2	0
機械工学専攻	1	1	2	0	0	1
電気電子工学専攻	3	4	0	2	1	1
土木環境工学専攻	1	0	1	0	1	0
共同ライフサイクルデザイン工学専攻			0	1	0	0
計	16	8	4	5	4	5

(出典：総合学務課調査)

4. 学生の顕著な成果

(1) 資源ニューフロンティア特別教育コースの教育成果

資源ニューフロンティア特別教育コースの学生が、第 14 回国際ビジネス経済会議で最優秀賞（経済部門）を受賞したほか、日本地球掘削科学コンソーシアムの国際深海科学掘削計画（IODP）メンバーとして国内 4 名の中に選ばれ、2 ヶ月間の洋上航海と調査活動を行った学生も在籍している。また、世界的に権威のある学会 Society of Economic Geologist の Student Chapter をプログラム学生が中心となって組織し、著名な研究者等を招へいするなど学術交流活動を展開している。

(2) 表彰等

ほとんどの学生が、国内外の研究集会において研究発表を実施しており、毎年、入学生定員の 1 割弱程度の学生が表彰を受けている（資料 7-43）。また、学生の一人は平成 25 年度日本学術振興会特別研究員（DC）にも採用されている。

資料 7-43：学生の表彰

受賞年	賞を授与する団体 (学会)	賞の名称	賞を与えられた発表・論文のタイトル等
H22	電気学会東北支部	電気学会東北支部 優秀論文賞	口唇の動き特徴を用いた非接触コマンド入力 インターフェースの提案
H22	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部 奨励賞	画像特徴を考慮した情景画像における看板内 文字列領域の抽出アルゴリズムに関する検討
H22	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部 奨励賞	ALOS AVNIR-2 による鳥海山沿岸海域における 地下水湧出地点の検出
H22	日本素材物性学会	日本素材物性学会年会 優秀論文発表賞	室内取得データにおける人物の顔領域に着目 した白飛び判定に関する検討
H22	計測自動制御学会	計測自動制御学会東北支部 優秀発表奨励賞	物体の表面振動速度計測による空気中におけ る非接触イメージングの一方方法
H22	The 30th Symposium on Ultrasonic Electronics	Symposium on Ultrasonic Electronics : Young Scientist Award	The Application of Sonication for Purifying Soil Contaminated with Microorganism
H22	日本素材物性学会	優秀論文発表賞	アパタイト型 $\text{La}_3\text{A}_2\text{Si}_6\text{O}_{26}$ (A=Ca, Sr, Ba) 担持 Pt 触媒の調製と窒素酸化物浄化特性

秋田大学工学資源学研究科 分析項目Ⅱ

H22	日本素材物性学会	優秀論文発表賞	ラクチドの開環重合による AB2 型分岐オリゴマー及び長鎖分岐ポリ乳酸の合成
H22	第 5 回国際イオン交換学会	Incentive Student Poster Award	Synthesis of a Hydrocalumite-type Compound from steel converter slag using alkali fusion
H22	第 5 回国際イオン交換学会	Incentive Student Poster Award	The pH Measurement of Precipitation Using a Glass Electrode with Ionic Liquid Junction as a Salt Bridge
H22	日本分析化学会	第 59 回年会 若手ポスター賞	降水の pH 測定に用いるイオン液体型ジャンクションを備えた pH 電極の開発
H22	日本分析化学会	日本分析化学会東北支部 若手交流会 優秀発表賞	ナノ粒子の共焦点光散乱イメージングによる癌細胞内タンパク質可視化の検討
H22	日本分析化学会	若手交流会 優秀発表賞受賞	ナノ粒子の共焦点光散乱イメージングによる癌細胞内タンパク質可視化の検討
H22	5th International Conference on Ion Exchange	The Incentive Student Poster Award	The pH Measurement of Precipitation Using a Glass Electrode with Ionic Liquid Junction as a Salt Bridge
H23	土木学会東北支部	平成 22 年度土木学会 東北支部 研究奨励賞	利用者意識からみた地方都市中心市街地の喫煙環境に関する研究
H23	公益社団法人 土木学会東北支部	土木学会東北支部技術研究発表会 優秀講演者賞	盛土併用真空圧密工法を想定した圧密応力履歴を受けた高有機質土の変形挙動と強度増加
H23	日本知能情報ファジィ学会東北支部	日本知能情報ファジィ学会 東北支部研究会奨励賞	口唇の動き特徴におけるばらつきに着目した喜びの感情検出に関する検討(2)
H23	東北地区若手研究者研究発表会	平成 24 年東北地区 若手研究者研究発表会	倍音成分とその包絡形状に着目した音声認識の一方法
H23	電気学会	電気学会 優秀論文発表賞	RNA における HB 形ステッピングモータの解析モデルに関する研究
H23	計測自動制御学会	計測自動制御学会東北支部 研究発表奨励賞	画像による主観評価に用いる視線計測システムの開発
H23	電気学会東北支部	平成 23 年度優秀論文発表賞	RNA における HB 形ステッピングモータの解析モデルに関する研究
H23	日本化学会東北支部	平成 23 年度化学系学協会 東北大会 優秀ポスター賞	アパタイト型リン酸塩担持 Pt 触媒の NO 還元特性に対する担体組成の影響
H23	6th Asia Pacific Chemical Reaction Engineering Symposium (APCRE' 11, Beijing, China)	Excellent Poster Presentation Awards	Recycling and cleaning of FGD gypsum by carbon reduction
H23	第 28 回シクロデキストリンシンポジウム	ポスター賞	二置換ピレン修飾シクロデキストリン類による二本鎖 DNA 検出
H23	日本化学会東北支部	平成 23 年度化学系学協会東北大会 優秀ポスター賞	チオール基を有する 5 残基ペプチドで修飾した金ナノ粒子の細胞内導入効率の検討
H23	化学系学協会東北地方大会	優秀ポスター賞	チオール基を有する 5 残基ペプチドで修飾した金ナノ粒子の細胞導入効率の検討
H24	土木学会	土木学会平成 24 年度 全国大会第 67 回年次 学術講演会優秀講演者	角材と合板を利用した応急橋

秋田大学工学資源学研究科 分析項目Ⅱ

H24	情報処理学会	情報処理学会第17回 IOT研究会学生奨励賞	ネットワークトラフィック変化検知のための 視覚的表現法に関する検討
H24	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部 奨励賞	NOAA-AVHRR データを対象としたランレングス 行列による地上基準点の自動抽出に関する検 討
H24	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部 奨励賞	顔領域における白飛びに着目した人物画像の 印象度判定に関する検討
H24	計測自動制御学会	計測自動制御学会東北支部 優秀発表奨励賞	ニューラルネットワークによるステッピング モータ制御用前置補償要素の調整法の改善
H24	IEEE Sendai Section	IEEE Sendai Section Student Awards: The Encouragement Prize	平成24年度電気関係学会東北支部連合大会： "Negative Group Delay and Slope Characteristics of F-SIR Structure by Short-Via in an Output Line"
H24	情報ディスプレイ研究会	情報ディスプレイ研究会学生 奨励賞	焦点可変機能を有する液晶素子を用いた3次 元画像システム
H24	東北地区若手研究者研 究発表会	平成25年東北地区 若手研究者研究発表会 優秀発表賞	振動速度を用いた超音波計測およびイメージ ングに関する研究
H24	日本鑄造工学会	奨励賞	凝固収縮によるマクロ偏析生成に及ぼす鑄型 形状の影響
H24	日本金属学会東北支部	東北支部研究発表大会 銅賞	熔融塩電析法によるIr-Pt-Al合金コーティン グと耐酸化性
H24	電子情報通信学会	会長賞	「レーザ加熱機構を有する局所磁気光学カー 効果計測技術の開発」
H24	日本素材物性学会	優秀論文発表賞	米ぬか活性炭を用いた固体塩基触媒の調製
H24	日本化学会東北支部	平成24年度化学系学協会 東北大会 優秀ポスター賞	アパタイト型ケイ酸塩担持Pt触媒の調製と C ₃ H ₆ 燃焼触媒活性
H24	日本化学会東北支部	平成24年度化学系学協会 東北大会 優秀ポスター賞	「SrTiO ₃ /TiO ₂ 酸化物複合体の熱電性能向上に 関する研究」
H24	秋田化学技術協会	第47回研究技術発表会 優秀発表賞	HfLaNb ₂ O ₇ と第四級ホスホニウム塩を用いた塩 基触媒活性を有する有機無機複合体の合成
H24	資源・素材学会東北支部	ポスター賞銀賞	廃電子基板の高温高压酸浸出と浸出液の中和 実験
H24	資源・素材学会東北支部	ポスター賞銀賞	廃電子基板中有用金属の回収を目的とした塩 化揮発挙動と湿式処理プロセスの検討
H24	日本機械学会	三浦賞	業績優秀な院生に与えられる賞
H25	公益社団法人 地盤工 学会	第48回地盤工学研究発表会 優秀論文発表者賞	月面模擬土の弾性波速度におよぼす主応力比 の影響
H25	電気学会	平成24年電気学会 優秀論文発表賞	ALOS AVNIR-2 データを用いた八郎湖の水質状 況解析に関する検討
H25	情報処理学会	情報処理学会 推奨修士論文認定証	可搬記録媒体からPC内にコピーされた残留フ ァイルの検出手法の開発
H25	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部 奨励賞	ALOS AVNIR-2 データを用いた宝仙湖の水質状 況解析
H25	静電気学会	静電気学会全国大会 「トレック・戸戸奨励賞」	等価回路モデルを用いた水トリー先端の電界 シミュレーション

秋田大学工学資源学研究所 分析項目Ⅱ

H25	IEEE Sendai Section	IEEE Sendai Section Student Awards: The Best Paper Prize	平成 25 年度電気関係学会東北支部連合大会： "Basic Study of Available Bandwidth Measurement Principle by Using Pair of Packet Pair"
H25	映像情報メディア学会 The Society for Information Display	H25 20th International Display Workshop, "Poster Award"	Switchable Liquid Crystal Window for Daylight Control with Asymmetrical Incident Angle
H25	日本鑄造工学会	奨励賞	フラクタルを用いた凝固組織形態の評価
H25	日本鉄鋼協会	第 166 回秋季講演大会 学生ポスターセッション 努力賞	フラクタルを用いた凝固組織変化の評価
H25	日本磁気学会学	桜井講演賞	「L10 型(Fe _{1-x} Mnx)50Pt50 薄膜への Mn イオン照射による強磁性-常磁性フラットパターンの作製」
H25	日本化学会東北支部	平成 25 年度化学系学協会東北大会及び日本化学会東北支部 70 周年記念国際会議 (International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan) 優秀ポスター賞	Acid-base properties of organic-inorganic composite synthesized from HLaNb ₂ O ₇ and quaternary ammonium salt
H25	秋田化学技術協会	第 48 回研究技術発表会 ポスター発表賞	イオン交換ゼオライトを用いたバイオオイルモデル化合物の接触改質
H25	資源・素材学会	若手ポスター賞	浮選及び加圧酸浸出を用いた浮選尾鉱等からの Cu 回収プロセスの検討
H25	日本機械学会	三浦賞	業績優秀な院生に与えられる賞
H25	日本スキー学会	日本スキー学会 優秀発表賞	小型力センサを用いた雪面反力計測システムの開発に関する研究
H25	日本素材物性学会	素材物性学国際会議 ICMR2013 優秀論文賞	Resource-saving Twisted Diamond Saw Wire (ADW) with High-speed Cutting Performance
H25	精密工学会東北支部	精密工学会東北支部 学術講演会 優秀講演奨励賞	金属ろう付け固定砥粒型ダイヤモンドソーワイヤを用いた各種金属材料への切断
H25	日本スキー学会	日本スキー学会論文賞	実滑走におけるスキーヤーの 3 次元姿勢計測とターンの運動解析に関する研究
H25	素材物性国際会議	優秀論文賞	Purification of Protein-Modified Gold Nanoparticle by Gel Filtration Chromatography
H26	日本セラミックス協会 東北北海道支部	(同支部研究発表会) 優秀発表賞	安定化ジルコニアセラミックスの微細構造に及ぼす異方形状粒子添加の影響
H26	情報処理学会東北支部	情報処理学会東北支部 奨励賞	無症候性脳梗塞の簡易判定のためのタブレット端末を用いた巧緻動作の解析
H26	日本素材物性学会	優秀論文発表賞	リチウムイオンキャパシタの充放電特性に及ぼす電極材料の影響
H26	静電気学会	静電気学会全国大会「優秀論文賞」, 「エクセレントプレゼンテーションアワード」	回転対称等価回路モデルの作成と低水トリード進展率における損失電流の検討

秋田大学工学資源学研究科 分析項目Ⅱ

H26	電気学会	平成 26 年電気学会 優秀論文発表賞	リチウムブレドレープ量と動作線圧範囲の異なるリチウムイオンキャパシタのサイクル特性
H26	電気学会	電気学会全国大会 「優秀論文発表賞」	電気泳動処理後のタンパク質を対象とした THz 波による非染色可視化技術の構築
H26	日本セラミックス協会	「先進フォトニクス材料の創成と展開」 最優秀ポスター賞	「真空紫外励起による 2 成分系希土類スカンジウムホウ酸塩の固有発光と自己束縛励起子からのエネルギー移動」
H26	腐食防食学会東北支部	腐食防食学会東北支部 講演会 優秀論文発表賞	熔融塩電析法による Fe-Cr 合金の表面シリコン化と耐熔融塩腐食性
H26	第 23 回ソノケミストリー討論会	奨励賞	超音波を部分的に使用した粗大なスコロダイト粒子の合成
H26	日本化学会東北支部	平成 26 年度化学系学協会 東北大会 優秀ポスター賞	鉄担持バイオチャー/亜漚青炭の水蒸気ガス化
H26	5th International Conference on Sustainable Energy and Environment	Best Paper Award	Bio-oil upgrading using iron and mesoporous silica-alumina catalysts
H26	日本素材物性学会	優秀論文発表賞	無機塩を分散剤に用いた多層カーボンナノチューブの新規分散法
H26	日本工学教育協会	日本工学教育協会 第 62 回年次大会 研究講演会発表賞	モデルロケットを用いた中学生向け体験型学習の試みー中学生モデルロケット秋田県大会の実施とその効果ー
H26	砥粒加工学会	2014 年度砥粒加工学会 学術講演会 優秀講演賞	固定砥粒型ダイヤモンドソーワイヤを用いたジルコニウムへの切断事例
H26	日本機械学会	三浦賞	業績優秀な院生に与えられる賞
H27	The Institute of Industrial Applications Engineers	Best Student Paper Award	Land Cover Classification Using RapidEye Data to Estimate the Amount of Disaster Waste
H27	電気学会	マグネティックス技術委員会 研究奨励賞	トロイダル巻線を用いたフェライト磁石モータの高効率化に関する考察
H27	電気学会	電気学会優秀論文発表賞	トロイダル巻線によるフェライト磁石モータの銅損低減効果
H27	日本素材物性学会	平成 27 年度年回 優秀論文発表賞	固体中におけるき裂部の超音波伝搬の可視化
H27	静電気学会	静電気学会全国大会「宍戸賞」, 「エクセレントプレゼンテーションアワード」	汚染土壌からの動電学的手法によるセシウム除去に及ぼす有機酸の影響
H27	映像情報メディア学会 The Society for Information Display	H27 22nd International Display Workshop, "Poster Award"	Mechanism of low driving voltage in polymer stabilized reverse mode cell
H27	電気学会東北支部	電気学会東北支部 優秀論文賞	フェライト粒子のモーションコントロールによる微生物の殺菌効果
H27	電気学会	平成 27 年電気学会 優秀論文発表賞	リチウムイオンキャパシタのサイクル特性に及ぼす負極炭素材料の影響
H27	粉体粉末冶金協会	優秀講演発表賞	バインダーレス WC 基硬質セラミックスの機械的性質に及ぼす TiC 添加の影響

秋田大学工学資源学研究科 分析項目Ⅱ

H27	The 35th Symposium on Ultrasonic Electronics	Symposium on Ultrasonic Electronics : Young Scientist Award	Synthesis of Large Scorodite Particle Using Ultrasound Irradiation and Carbon Dioxide
H27	2 nd Asia-Oceania Sonochemical Society Conference	2nd RUNNER-UP POSTER AWARD	Size and Morphology of Scorodite Particles Synthesized using Partial Ultrasound Irradiation
H27	日本セラミックス協会 東北北海道支部	平成 27 年度日本セラミックス協会東北北海道支部研究発表会「優秀発表賞」	アルカリ土類金属含有リン酸塩を担体とした貴金属触媒の排ガス浄化特性
H27	秋田化学技術協会	第 50 回研究技術発表会 優秀発表賞	温度応答性分離膜の合成とその分離特性の評価
H27	秋田化学技術協会	第 50 回研究技術発表会 優秀発表賞	ヘキサデシルトリブチルホスホニウムイオンを構造規定剤として用いたメソ多孔体の合成における pH の影響
H27	日本素材物性学会	優秀論文発表賞	可溶性ポリエーテルニトリルを保護剤とした Pd ナノ粒子の合成
H27	日本化学会東北支部	平成 27 年度化学系学協会 東北大会 優秀ポスター賞	Synthesis of Hyperbranched Poly(ether nitrile)s-Stabilized Palladium Nanoparticles
H27	資源・素材学会東北支部	ポスター賞銅賞	高不純物粗銅を用いた電解精製に関する陽極組織と Ag の影響
H27	資源・素材学会	若手ポスター賞	加圧酸浸出法における硫砒銅鉱の浸出挙動
H27	情報処理学会	第 77 回全国大会 学生奨励賞	One-way Jumping Finite Automata
H27	International Conference on Soft Computing and Software Engineering	Student Travel Award	Analysis of a Monte Carlo Tree Search in Knight- Amazons
H27	溶接学会東北支部	溶接学会東北支部奨学賞	中高炭素鋼の摩擦攪拌接合に関する研究
H27	International Business & Economy Conference	Best Paper Award (Economics Category)	Relationship between Mining Revenue, Government Consumption, Exchange Rate and Economic Growth in Botswana
H27	日本素材物性学会	日本素材物性学会 山崎賞	Influence of the Cutting Condition on Cutting Performance with Twisted Fixed Abrasive Diamond Saw Wire (ADW)
H27	7 th Asia-Pacific Congress on Sports Technology (Barcelona)	Young Investigators Award	An attempt for developing the measurement system of reaction force from snow surface for private ski boots by compact force sensors
H27	日本機械学会	三浦賞	業績優秀な院生に与えられる賞
H27	日本スキー学会	日本スキー学会優秀発表賞	スノーボードにおけるモーメントと圧力中心を用いたカービングターンの運動解析に関する研究

(出典：工学資源学研究科調査・作成)

(水準) 期待される水準を上回る

秋田大学工学資源学研究所 分析項目Ⅱ

(判断理由) 国内外の研究集会や誌上で研究発表を推奨しており、ほとんどの学生が複数回の研究発表を行っている。また、多くの学生が国内外の研究集会で表彰を受けている。日本学術振興会特別研究員(DC)の採用も1件ある。資源ニューフロンティア特別教育コースの学生は特筆すべき成果(IODPメンバーへの選抜)を残している。

学生による授業評価では、4以上の高い水準で推移しており、学生が高い学習意欲を維持しながら学んでいる

以上のことから、期待される水準を上回ると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1. 進路・就職状況

就職支援のために、進路指導委員会を設置し、各専攻の情報共有を図り、就職推進課と協力して、学生に就職関連情報を提供し指導する組織的体制を構築した。各専攻では、就職担当教員を任命し、学生に個別指導を行っている。

就職者は卒業生数の90%前後を推移しており、高い水準を保っている。

就職先の業種としては、製造業、電気・ガス等、情報通信、建設業、サービス業が多い。各専攻に応じて、就職企業の傾向が異なり、各専攻の専門性を活かした業種に学生が就職している。公務員や教員となる修了者数は横ばいに推移している。県内への就職は減少傾向にある(資料7-44~47)。

資料7-44：工学資源学研究所修了者の就職状況

[単位：人]

	卒業生数	進学者数	就職者数		その他	未就職者
			県内	県外		
平成22年度	157	6	140		5	6
			27	113		
平成23年度	180	8	159		7	6
			26	133		
平成24年度	173	5	160		7	1
			17	143		
平成25年度	155	10	139		4	2
			17	122		
平成26年度	129	7	116		5	1
			22	94		
平成27年度	170	10	149		11	0
			16	133		

(出典：秋田大学概要、就職支援課調査)

資料7-45：就職状況(産業別)

区分/年度	農林・水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究・専門技術	宿泊・飲食業	生活関連・娯楽業	医療・福祉	学校教育	教育学習支援業	複合サービス業	サービス業	公務員	その他	就職者合計
平成22年度	0	4	7	69	10	8	0	2	0	0	0	0	0	0	7	2	1	23	7	0	140

秋田大学工学資源学研究科 分析項目Ⅱ

平成 23 年度	0	4	7	95	13	10	7	1	0	0	0	0	0	0	5	0	1	7	9	0	159
平成 24 年度	0	8	20	80	4	20	7	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2	9	5	0	160
平成 25 年度	0	9	15	75	6	7	5	2	0	1	0	0	0	0	6	0	0	10	3	0	139
平成 26 年度	0	10	6	68	4	7	3	0	1	0	0	0	0	0	7	1	0	3	6	0	116
平成 27 年度	0	3	14	86	10	16	6	1	0	0	4	0	0	1	1	0	5	2	0	0	149

(出典：秋田大学概要)

資料7-46：工学資源学研究科（博士前期課程各専攻）の最近3年間における主な就職先

専攻名	主な就職先
地球資源学専攻	アサノ大成基礎エンジニアリング、朝日航洋、アサヒホールディングス、アジア航測、アフガニスタン鉱山省、出光興産、エイト日本技術開発、オーリス、関西マテック、キタック、鉱研工業、合同資源産業、神戸製鋼所、国際石油開発帝石、コスモ石油、澁澤倉庫、昭和石材工業所、石炭エネルギーセンター、石油天然ガス・金属鉱物資源機構、センチュリーホーム、大地コンサルタント、太平洋金属、太平洋セメント、ダイヤモンドコンサルタント、丹羽由、東邦アーステック、成友興業、日揮プラントソリューション、日鉄鉱業、日特建設、日本地下探査、物理計測コンサルタント、三田商店、奥山ボーリング、三井金属鉱業、東海工業
環境応用化学専攻	秋田エルピーダメモリ、秋田県産業技術センター、秋田石油備蓄、アサカ理研、イノアックコーポレーション、小野組、川嶋、関西保温工業、協同油脂、グリーンスタンプ、クレハ、黒崎白土工業、群栄化学工業、ケーヒン・サーマル・テクノロジー、高圧ガス工業、三共精粉、石炭エネルギーセンター、太陽社電気、多摩化学工業、東北環境科学サービス、東北フジクラ、トッパンNECサーキットソリューションズ、ニチアス、日鉄住金環境、ニプロ、ニプロファーマ、日本化薬、日本乳化剤、日本ピグメント、日本錬水、東日本旅客鉄道、光ガラス秋田事業所製造工場、富士製薬工業、富士石油、フルヤ金属、ミネックス、向学舎グループ、メルテックス、山本製作所、ユードム
生命科学専攻	WDBエウレカ、秋田県庁、秋田市役所、一般社団法人日本海事検定協会、シクロケムバイオ、太平物産、高研、東和薬品、ニプロ、ニプロファーマ、弘前市役所、富士製薬工業、みちのく銀行、陽進堂、横浜ファーマシー
材料工学専攻	DOWAホールディングス、IHIエアロスペース・エンジニアリング、NECトーキン、NLTテクノロジー、NOK、YKK、アイジー工業、アイメタルテクノロジー、アダマンド工業、アドバネクス、アライドマテリアル、

秋田大学工学資源学研究科 分析項目Ⅱ

	<p>アルファシステムズ、イトー Casting、イハラサイエンス、エフ・シー・シー、キャノンアネルバ、熊谷機械設計、クロタニコーポレーション、ケーヒン・サーマル・テクノロジー、コダマコーポレーション、サンディスク、三和テック、ジェイテクト、ジヤトコ、スズキ、住友電装、セントラル硝子、大豊工業、大昌電子、タンガロイ、ディスコ、東北特殊鋼、トヨタ紡織、新潟原動機、日産自動車、日鐵住金建材、日本軽金属、日本原燃、日本製鋼所、日本電産コパル、浜名湖電装、東日本旅客鉄道、日立建機、マニー、三井ミーンハナイト・メタル、ユタカ技研、ワールドインテック、日本高周波鋼業</p>
情報工学専攻	<p>ADK富士システム、CSSクレセント、JR東日本旅客鉄道、NECソリューションイノベータ、アキタ電子システムズ、アルプス技研、イーエムエス新潟、インクリメントP、協栄産業、航空自衛隊、システムリサーチ、新日鉄ソリューションズ、ソレキア、凸版印刷、トヨタテクニカルディベロップメント、ナカヨ通信機、ニークシステムテクノロジー、日本テクニカルシステム、菱神電子エンジニアリング、日立金属、日立システムズ、富士通アドバンストエンジニアリング、富士通システムズ・イースト、北海道旅客鉄道、横河レンタ・リース、大日本印刷、日立ソリューションズ東日本、農中情報システム、菱栄テクニカ、裕幸計装</p>
機械工学専攻	<p>DOWAホールディングス、JFEエンジニアリング、JR東日本旅客鉄道、NECパーソナルコンピュータ、NOK、YKK、YKK-AP、秋田県産業技術センター、秋田市役所、アクエスティ、いすゞ自動車、岡谷精工工業、加藤鉄鋼、(株)アルトナー、北日本コンピュータサービス、極東開発工業、コガネイ、五洋電子、サーマル、佐藤商事、ジェイテクト、新明和工業、スズキ、住友電装、セイコーエプソン、竹中工務店、椿本チエイン、中菱エンジニアリング、新潟トランス、日揮プラントソリューション、ニプロ、日本ケミコン、日本原子力研究開発機構、日本電産トーソク、八戸港湾運送、八光グループ、浜名エンジニアリング、東日本旅客鉄道、日立ニコトランスミッション、日立パワーソリューションズ、フォーラムエンジニアリング、古河機械金属、北海道旅客鉄道、前澤工業、三菱電機特機システム、三菱マテリアル、ミツミ電機、宮腰デジタルシステム、リコー光学、愛三工業、旭ダイヤモンド工業、三菱電機エンジニアリング、小松製作所、昭和電工、竹田設計工業、東芝プラントシステム、東北パイオニア、東和コンピュータマネージメント、日本ケミコン、日立エンジニアリング・アンド・サービス、富士重工業</p>
電気電子工学専攻	<p>ADK富士システム、AIS、DOWAホールディングス、DRD、DTS、IDX、JR東日本旅客鉄道、KYB、NECネットエスアイ、NLTテクノロジー、NTT東日本、NTTファシリティーズ、SMC、秋田県立大館工業高等学校、アダマンド工業、アマダ、アルプス電気、エイ・ダブリュ・エンジニアリング、エーピーアイ、きんでん、コニカミノルタ、五洋電子、サンテクノ、三和工機、シンフォニアテクノロジー、スズキ自動車、住友ベークライト、ソフトバンク、大豊工業、竹中工務店、中菱エンジニアリング、ツガミ、テルモ、デンソーテクノ、東京電力、東京ドローイング、東北電力、東洋エンジニアリング、トヨタ自動車東日本、トヨタテクニカルディベロップメント、長野計器、日本アビオニクス、日本精機、日本無線、日本リーテック、野口製作所、日立オートモティブ、日立ソリューションズ東日本、フジクラ、不二越、富士重工業、富士通 BSC、富士通システムズイースト、富士通ゼネラル、北海道電力、本田技研工業、三菱電機エンジニアリング、三菱マテリアルテクノ、ミツミ電機、明電舎、裕幸計装、由利本荘市役所、理研軽金属工業、リコーテクノロジーズ、住友ベークライト、大豊工業、東洋熱工業、日立アロカメディカル、日立公共システムエンジニアリング、矢崎</p>

秋田大学工学資源学研究所 分析項目Ⅱ

	総業、裕幸計装
土木環境工学専攻	J R 東日本旅客鉄道、青森県庁、秋田県庁、秋田県土地改良事業団体連合会、秋田県立秋田工業高等学校、秋田市役所、川金ホールディングス、群馬県庁、サムシングホールディングス、ショーボンド建設、第一建設工業、地崎道路、鉄建建設、東京都庁、栃木アンカー工業、日本国土開発、八戸市役所、ピーエス三菱、大阪ガス
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	デザイン工学専攻、J F E 電制、J R 東日本旅客鉄道、アイシンAW、旭ダイヤモンド工業、斉藤工機、高砂熱学工業、東北電力、トヨタ自動車、ニチコン、日本電設工業、日本精工、富士重工業、ミツミ電機、栗原工業、日立住友重機械建機クレーン、矢橋工業

(出典：就職支援課資料)

資料 7-47：工学資源学研究所（博士後期課程各専攻）の最近 3 年間における主な就職先

専 攻 名	主 な 就 職 先
資源学専攻	秋田大学、(財) 国際鉱物資源開発協力協会、日鉄鉱業株式会社資源開発部、ボツワナ国際科学技術大学、宇宙システム開発利用推進機構、奥山ボーリング株式会社、産業技術総合研究所
機能物質工学専攻	MONGOLIAN STATE UNIVERSITY OF EDUCATION、秋田県立由利高等学校、秋田大学、アモイタングステン国立タングステン技術開発研究センター、岩手スリーエム株式会社、第 1 希元素化学工業株式会社、三井金属鉱業株式会社、産業技術総合研究所
生産・建設工学専攻	秋田大学、奥山ボーリング株式会社、日本ケミコン株式会社
電気電子情報システム工学専攻	秋田大学、ザンビア大学、大連民族学院、ヤフー株式会社、角館高校、秋田公立美術大学

(出典：就職支援課資料)

2. 修了生への意見聴取及びその結果

平成 27 年度、教育効果、教育内容などについて博士前期課程修了生および博士後期課程修了生にアンケート調査を実施した（資料 7-48）。

(1) 博士前期課程

専門分野が現在の仕事・業務に関係あるかどうか（問 3）、専門分野で学んだ事は意義があるか（問 6）、身に付けた課題解決・発見能力は仕事や業務で役立っているか（問 4）については、肯定的な回答が多数を占め、ほとんどの修了生にとって、学習した専門分野は仕事・業務に関連し役立っていると考えられる。

在学中に身についた事柄（問 17）については、幅広い教養（1）、専門的能力（4）、新しい知識・技術を吸収しようとする向上心（2）、組織的行動力（8）、課題解決力（7）に関しては肯定的な回答が過半数を占める一方で、外国語運用能力に関しては否定的な回答が多く、今後の課題である。大学院改組において外国人教員を 4 人雇用し、英語教育を強化する（資料 7-49）。

(2) 博士後期課程

専門分野が現在の仕事・業務に関係あるかどうか（問 3）、専門分野で学んだ事は意義があるか（問 6）、身に付けた課題解決・発見能力は仕事や業務で役立っているか（問 4）については、肯定的な回答が多数を占め、ほとんどの修了生にとって、学習した専門分野は仕事・業務に関連し、かつ、役立っていると判断される。

在学中に身についた事柄（問 17）については、専門的能力（4）や新しい知識・技術を吸収しようとする向上心（2）、組織的行動力（8）、課題解決力（7）、専門分野以外の課題にも柔軟に対応できる応用力（5）に関しては肯定的な回答が得られた。

後期課程修了者は、専門分野以外の課題にも柔軟に対応できる応用力に関して満足度

が高く、博士後期課程では専門性の深化だけでなく、汎用的な研究能力も養われていると考えられる（資料7-50）。

資料7-48：秋田大学大学院工学資源学研究科の教育成果に関する調査票

(大学院修了生)

秋田大学大学院工学資源学研究科の教育成果に関する調査票

【調査の目的】

この調査は、秋田大学大学院工学資源学研究科の大学院教育（博士前期課程・博士後期課程）における学習成果に対して、修了生がどのような意識を持っているのかを把握・分析し、その結果を踏まえて教育課程の更なる改善・充実を進めることを目的として実施するものです。

【回答方法】

選択式の項目：該当する番号を別紙回答用紙にご記入ください。「その他」を選択した場合は、番号のほか、() 内にも該当する事柄をご記入ください。

記述式の項目：回答用紙の記述欄に、ご自由にお書きください。記述欄が不足の場合は、適宜余白をお使いください。

I. あなたの在学中のこと（本学での最終学歴）についておたずねします。

問1：あなたの入学及び修了年について、該当するものを1つ選択してください。

- (1) 入学年：1.H21年度 2.H22年度 3.H23年度 4.H24年度 5.その他()
 (2) 修了年：1.H23年度 2.H24年度 3.H25年度

問2：あなたが修了した専攻について、該当するものを1つ選択してください。

- 1.地球資源学専攻 2.環境物質工学専攻・環境応用化学専攻 3.生命科学専攻
 4.材料工学専攻 5.情報工学専攻 6.機械工学専攻 7.電気電子工学専攻
 8.土木環境工学専攻 9.共同ライフサイエンスデザイン工学専攻
 21.資源学専攻 22.機能物質工学専攻 23.生産・建設工学専攻
 24.電気電子情報システム工学専攻

II. 秋田大学大学院で学んだ専門教育についておたずねします。

問3：あなたが大学院時代に学んだ専門分野は、現在の仕事や業務と関連がありますか。該当するものを1つ選択してください。

- 1.大いに関連がある 2.多少関連がある 3.あまり関連がない
 4.全く関連がない

問4：あなたが大学院時代に身につけた課題解決・発見能力は、現在の仕事や業務に役立っていると思いますか。該当するものを1つ選択してください。

- 1.大いに役立っている 2.多少役立っている
 3.あまり役立っていない 4.全く役立っていない

(大学院修了生)

問5: 社会に出て、大学院在学中にどのような分野をもっと勉強しておけば良かったと思いますか。具体的な分野や科目等がございましたらお書きください。

(記述欄)

問6: 専門分野で学んだことは、あなたにとって意義があると思いますか。該当するものを1つ選択してください。

1. 大に意義がある 2. 多少意義がある 3. あまり意義がない
4. 全く意義がない

問7: 専門教育について、何かご意見があればお書きください。

(記述欄)

Ⅲ. 在学中の秋田大学の状況についておたずねします。

問8: 在学中の秋田大学の教育環境(施設・設備等)について、どのくらい満足していましたか。該当するものを1つ選択してください。

また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらかといえば不満 4. 不満

(記述欄)

問9: 在学中の秋田大学のサービス(学務や学生支援の窓口対応・就職支援等)について、どのくらい満足していましたか。該当するものを1つ選択してください。

また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらかといえば不満 4. 不満

(記述欄)

Ⅳ. 本学大学院修了後のあなたの仕事についておたずねします。

問10: 修了直後に就いた仕事を選択した理由について、該当するものを3つまで選択してください。

1. 自分のやりたい仕事である
2. 自分の専門を生かすことができる
3. 自分の業務上の知識や技能等に関して、向上を図ることを期待できる
4. 良好な業績や経営の安定性
5. 将来的な有望性

- 2 -

(大学院修了生)

6. 給与等の待遇や福利厚生
7. 社会に貢献できる仕事である
8. 職場訪問や実習等
9. 保護者や教員等からの勧め
10. 勤務地
11. その他()

問11: 現在の仕事について、該当するものを1つ選択してください。

1. 企業・団体の事務・営業職 2. 企業・団体の技術・研究職 3. 教員
4. 公務員(3を除く) 5. 大学院に在学している 6. その他()

問12: 現在の仕事の業種について、該当するものを1つ選択してください。1を選択された方は問13へ、それ以外を選択された方は問14へお進みください。

1. 農林水産業 2. 鉱業 3. 建設業 4. 製造業 5. 電気・ガス・水道業
6. 情報通信業 7. 運輸業・郵政業 8. 卸・小売業 9. 金融・保険業
10. 不動産業 11. 飲食・宿泊業 12. 医療・福祉 13. 学校教育
14. その他教育関係・学修支援業 15. 複合サービス・サービス業
16. 公務員(国家・地方) 17. その他()

問13: 問12で1を選択された方は、その内訳として該当するものを1つ選択してください。

1. 食料・飲料・たばこ 2. 繊維工業 3. 印刷・関連運業 4. 化学・石油・石炭
5. 鉄鋼業・非鉄金属 6. はん用・業務用機械 7. 電子部品・デバイス
8. 電気・情報通信機器 9. 輸送用機械機器 10. その他製造業

問14: 修了後、現在の仕事に就くまでに転職をしましたか。1を選択された方は問16へ、2を選択された方は問15へお進みください。

1. 転職していない 2. 転職した

問15: 問14で2を選択された方におたずねします。

(1) 転職の回数として該当するものを1つ選択してください。

1. 1回 2. 2回 3. 3回 4. その他(回)

(2) 転職の理由として、該当するものを選択してください。(複数回答可)

1. 仕事内容 2. 残業や休日出勤 3. 給料、休暇取得等 4. 人間関係
5. 勤務地 6. その他()

問16: あなたは現在の仕事の内容に満足していますか。該当するものを1つ選択してください。また、差し支えなければその理由を記述欄にお書きください。

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらともいえない
4. どちらかといえば不満 5. 不満

- 3 -

(大学院修了生)

(記述欄)

問17: 仕事をする上で、次のようなことが在学中に身についたと思いますか。次の(1)～(10)について、それぞれ選択肢の中から最も近いものを1つを選択してください。

選 択 肢	非常に そう思う	そう思う	普通	あまりそう 思わない	そう 思わない
(1) 幅広い教養	1	2	3	4	5
(2) 常に新しい知識・技能を吸収しようとする 向上心	1	2	3	4	5
(3) 外国語運用能力	1	2	3	4	5
(4) 専門的能力	1	2	3	4	5
(5) 専門分野以外の課題にも柔軟に対応する ことが出来る応用力	1	2	3	4	5
(6) 協働性	1	2	3	4	5
(7) 課題を的確に解決することができる課題 解決力	1	2	3	4	5
(8) 組織中での自分の役割を認識し、的確 な振る舞いが出来る組織的行動力	1	2	3	4	5
(9) 自分の意見を的確に伝えたり、相手の話 を聞き取り理解するコミュニケーション能力	1	2	3	4	5
(10) 高度な論理性	1	2	3	4	5

※ 本学の将来設計を考える際の参考とさせていただきます。秋田大学や大学教育全般、あるいはこの調査についてのご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にお書き下さい。

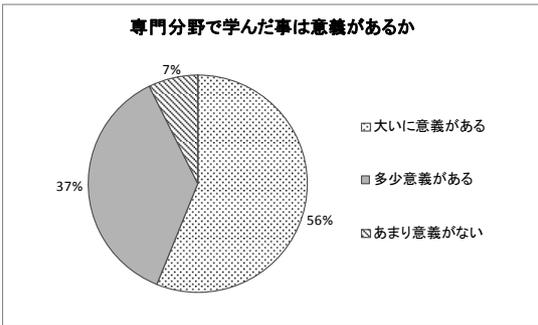
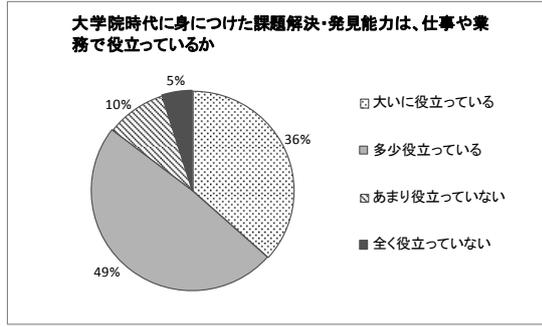
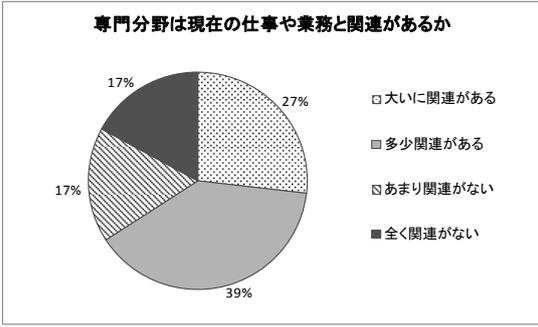
(記述欄)

ご協力、ありがとうございました。

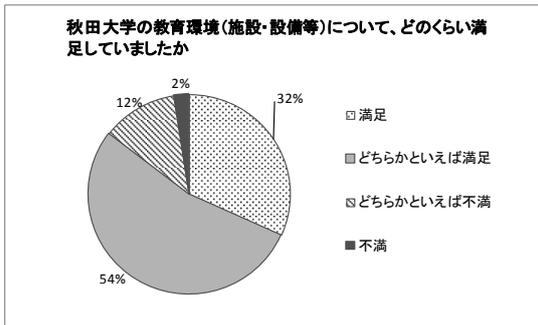
- 4 -

(出典：工学資源学研究所の教育成果に関する調査票)

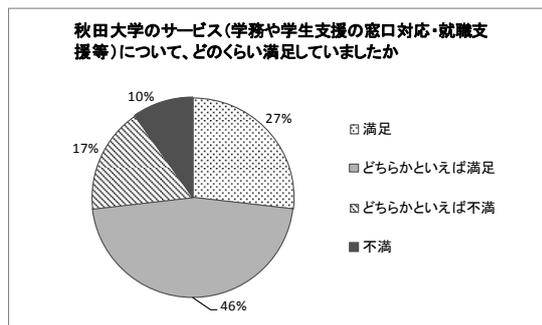
◆専門教育に関すること



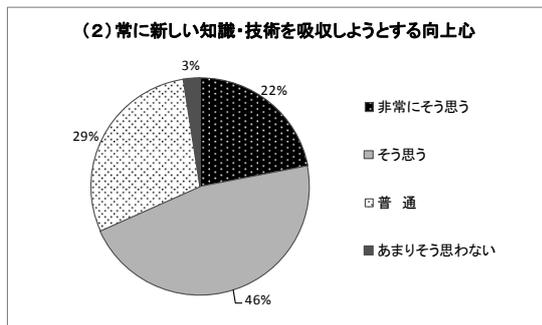
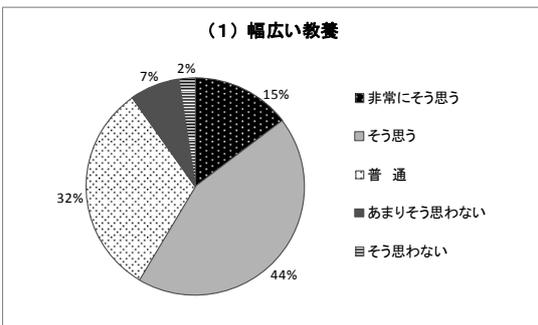
◆教育環境(施設・整備)についての満足度

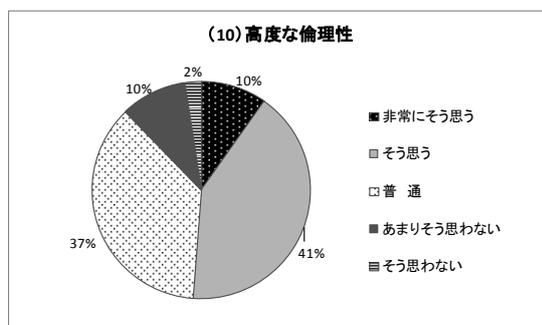
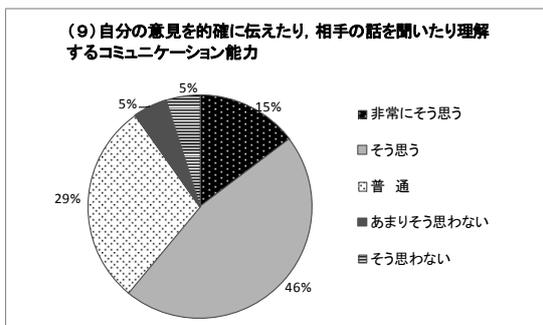
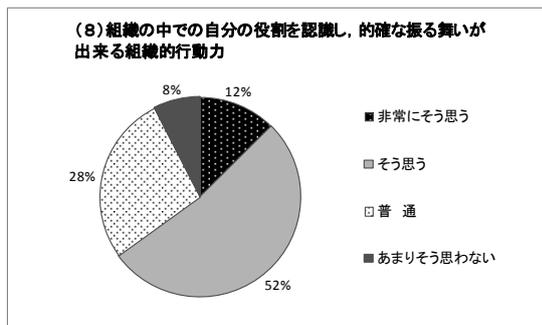
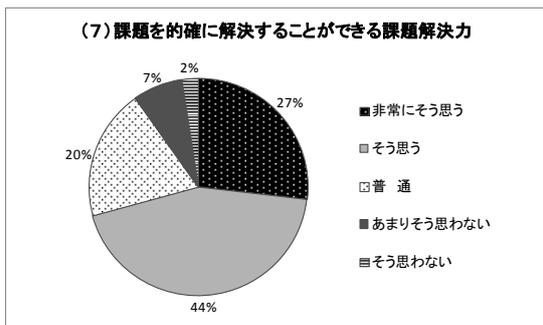
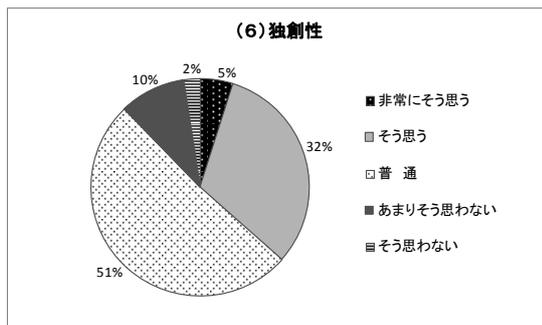
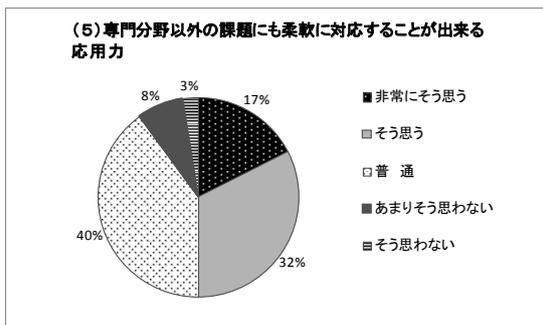
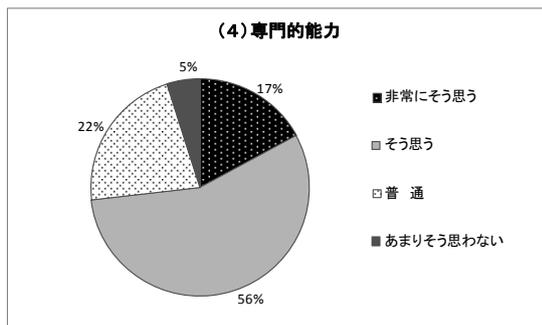
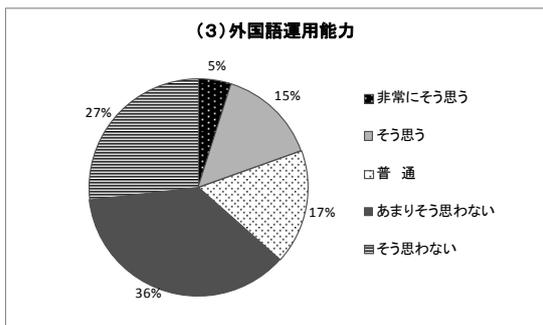


◆サービス(窓口対応・就職支援等)についての満足度



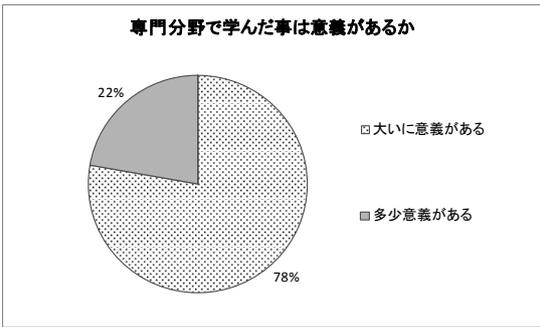
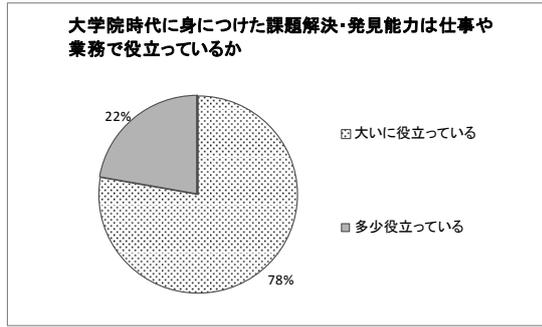
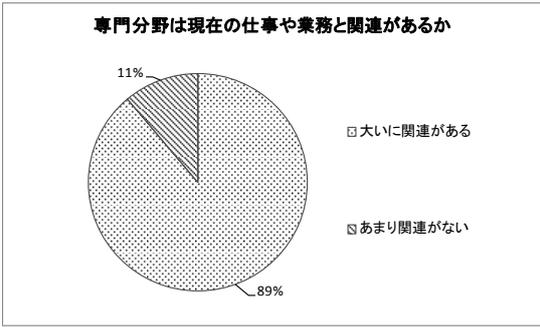
◆在学中に身についた事柄



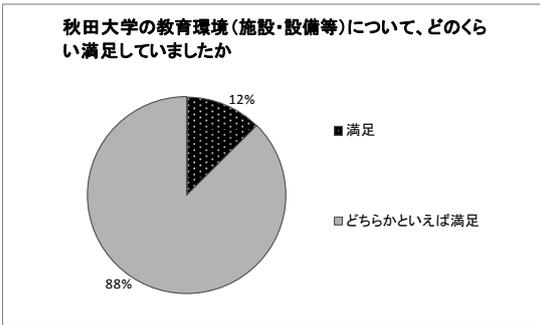


(出典:工学資源学研究科の教育成果に関する調査(平成27年11月実施))

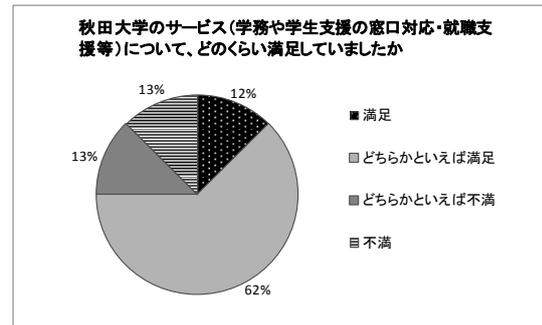
◆専門教育に関すること



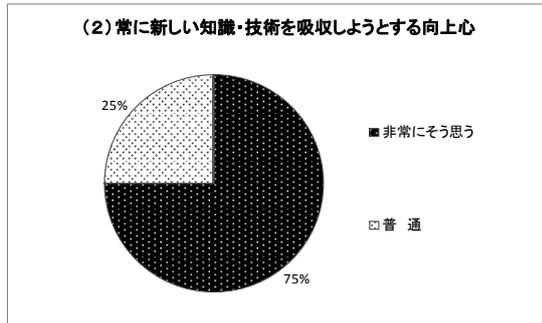
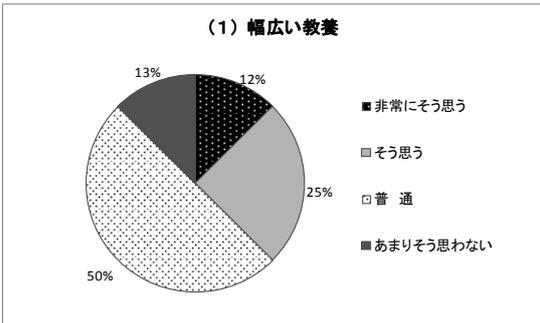
◆教育環境(施設・整備)についての満足度

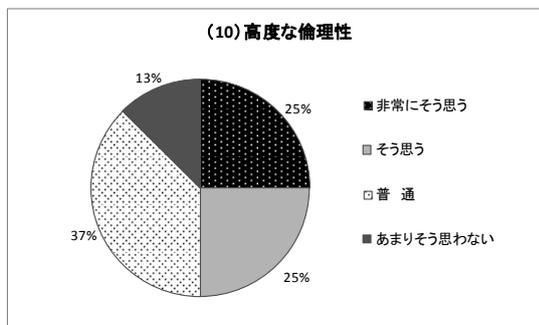
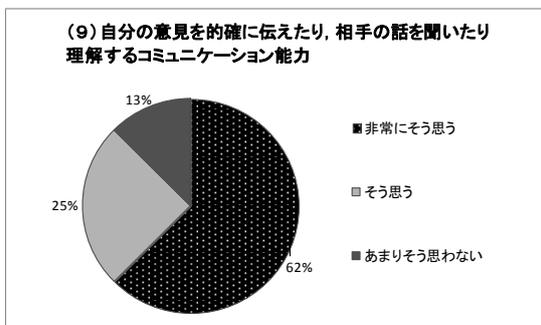
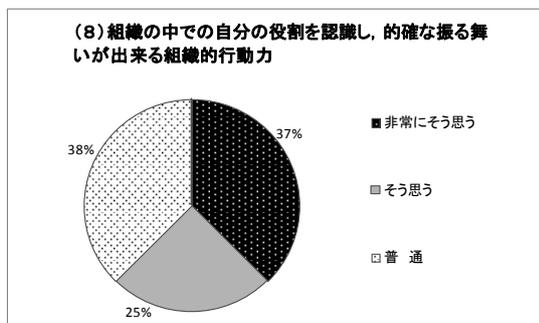
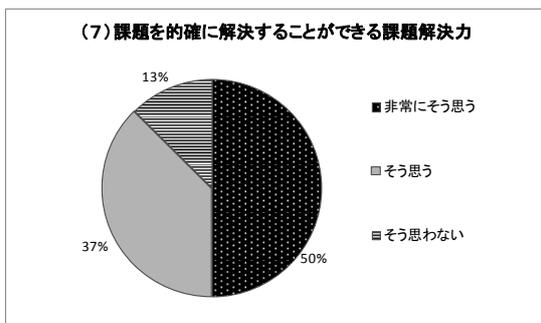
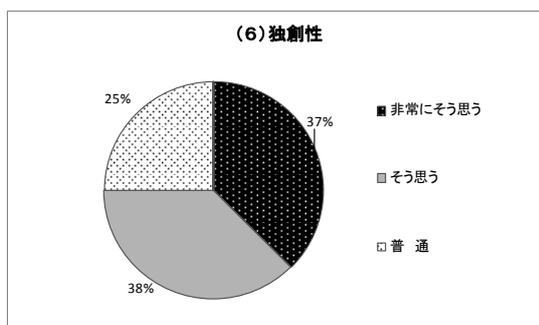
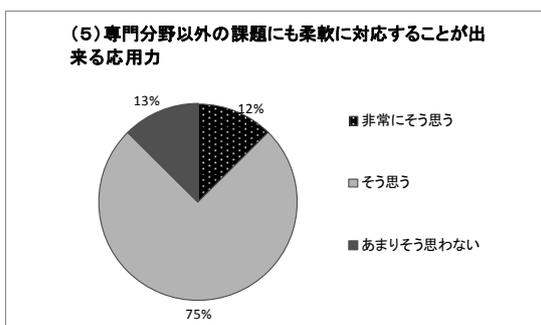
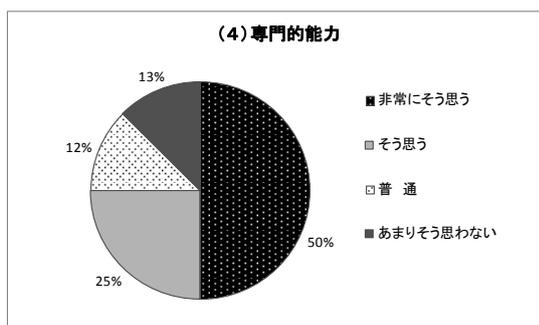
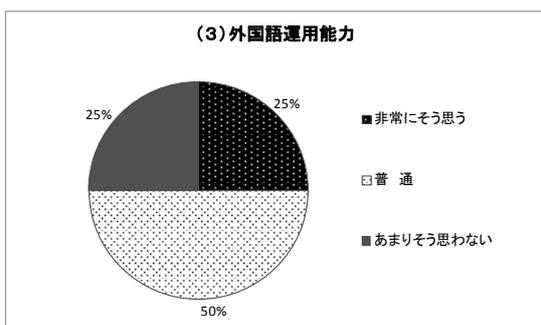


◆サービス(窓口対応・就職支援等)についての満足度



◆在学中に身についた事柄





(出典：工学資源学研究科の教育成果に関する調査(平成27年11月実施))

3. 採用企業への意見聴取及びその結果

平成 27 年、修了生（博士前期課程・博士後期課程）の進路先の企業・団体に、教育効果、教育内容などについてアンケート調査を実施した（資料 7-51）。

修了生の有する能力について（問 1）、常に新しい知識・技術を吸収しようとする向上心（2）、専門的能力（4）、課題解決力（7）、組織的行動力（8）、コミュニケーション能力（9）について過半数を超える肯定的回答を得た。一方で、外国語運用能力（3）、独創性（6）、倫理性（10）については、肯定的回答は半数に届いていないことから、今後の重要な課題である。

また、今後の修了生の採用については、100%近くが肯定的な意見を示している（資料 7-52）。

資料 7-51：秋田大学大学院工学資源学研究所の教育成果に関する調査

企業等向け（大学院修了）

秋田大学大学院工学資源学研究所の教育成果に関する調査

【調査の目的】
この調査は、秋田大学大学院工学資源学研究所の大学院教育（博士前期課程・博士後期課程）における教育成果に対して、修了生を受け入れてくださっている事業所（会社・学校・行政機関など）がどのような意識を持っているのかを把握・分析し、その結果を踏まえて教育課程の編成、授業方法の改善・充実に反映させることを目的として実施するものです。

【回答方法】
選択式の項目：該当する番号を別紙回答用紙にご記入ください。「その他」を選択された場合は、番号のほか、（ ）内にも該当する事柄をご記入ください。
記述式の項目：回答用紙の記述欄に、ご自由にお書きください。記述欄が不足の場合は、適宜余白をお使いください。

1. 貴事業所に勤務する秋田大学大学院工学資源学研究所の修了生（特に、平成 23 年度～25 年度に修了した者）についておたずねします。

問 1：貴事業所に勤務する秋田大学大学院の修了生について、日頃どのように感じているかをおたずねします。次の（1）～（10）に掲げる能力・知識を修了生が有しているかについて、それぞれ選択肢の中から最も近いもの 1 つを選択してください。

項目	選択肢	非常に そう思う	そう思う	普通	あまりそう 思わない	そう 思わない
(1) 幅広い教養		1	2	3	4	5
(2) 常に新しい知識・技術を吸収しようとする 向上心		1	2	3	4	5
(3) 外国語運用能力		1	2	3	4	5
(4) 専門的能力		1	2	3	4	5
(5) 専門分野以外の課題にも柔軟に対応する ことが出来る応用力		1	2	3	4	5
(6) 独創性		1	2	3	4	5
(7) 課題を的確に解決することができる課題 解決力		1	2	3	4	5
(8) 組織の中での自分の役割を認識し、的確 な振る舞いが出来る組織的行動力		1	2	3	4	5
(9) 自分の意見を的確に伝えたり、相手の話 を聞いたり理解するコミュニケーション能力		1	2	3	4	5
(10) 高度な倫理性		1	2	3	4	5

・ 1 ・

企業等向け（大学院修了）

問2：秋田大学大学院の修了生はどのような良い点がありますか。お気づきのことがございましたらご自由にお書きください。

(記述欄)

問3：秋田大学大学院を修了し、貴事業所に勤務する者について、どのようなことを在学中に身につけておくべきだとお考えですか。次の(1)～(10)の事項について、それぞれ選択肢の中から最も近いものを1つを選択してください。

また、これら以外に在学中に特に身につけておきたいことがございましたら、記入欄にご自由にお書きください。

項目	選択肢	非常に そう思う	そう思う	普通	あまりそう 思わない	そう 思わない
(1)幅広い教養		1	2	3	4	5
(2)常に新しい知識・技術を吸収しようとする 向上心		1	2	3	4	5
(3)外国語運用能力		1	2	3	4	5
(4)専門的能力		1	2	3	4	5
(5)専門分野以外の課題にも柔軟に対応する ことが出来る応用力		1	2	3	4	5
(6)独創性		1	2	3	4	5
(7)課題を的確に解決することができる課題 解決力		1	2	3	4	5
(8)組織の中で自分の役割を認識し、的確 な振る舞いのできる組織的行動力		1	2	3	4	5
(9)自分の意見を的確に伝えたり、相手の話 を聞いたり理解するコミュニケーション能力		1	2	3	4	5
(10)高度な倫理性		1	2	3	4	5

(記述欄)

Ⅱ. 事業所として、秋田大学にお感じになっていることについておたずねします。

問4：秋田大学大学院は、貴事業所（あるいは業種）として求める人材を養成している
と思いますが、該当するものを1つ選択してください。

また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

(記述欄)

- 2 -

企業等向け（大学院修了）

問5：貴事業所において、今後秋田大学大学院の修了生を積極的に採用したいと思いま
すか。該当するものを1つ選択してください。

また、具体的にご意見がございましたら、記述欄にお書きください。

1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

(記述欄)

問6：貴事業所の業種について、該当するものを1つ選択してください。1を選択され
た方は問7へ、それ以外を選択された方は問8へお進みください。

1. 農林水産業 2. 鉱業 3. 建設業 4. 製造業 5. 電気・ガス・水道業
6. 情報通信業 7. 運輸業・郵政業 8. 卸・小売業 9. 金融・保険業
10. 不動産業 11. 飲食・宿泊業 12. 医療・福祉 13. 学校教育
14. その他教育関係・学修支援業 15. 複合サービス・サービス業
16. 公務員（国家・地方） 17. その他（ ）

問7：問6で1を選択された方は、その内訳として該当するものを1つ選択してくださ
い。

1. 食料・飲料・たばこ 2. 繊維工業 3. 印刷・同梱運業 4. 化学・石油・石炭
5. 鉄鋼業・非鉄金属 6. はん用・業務用機械 7. 電子部品・デバイス
8. 電気・情報通信機器 9. 輸送用機械機器 10. その他製造業

Ⅲ. 秋田大学大学院工学資源学研究所の学位授与方針についておたずねします。
(学位授与方針については、5～6ページをご参照ください。)

(参考) 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)……学位授与に関する基本的な方針で、学生が卒業・修
了するまでにどのような知識・技術・態度等を習得すべきかを研文化したものです。

問8：学位授与方針についてどのように思われますか。

次の(1)～(4)の項目について、それぞれ選択肢の中から最も近いものを1つ
を選択してください。

また、その他にお感じのことがあれば、記述欄にご自由にお書きください。

項目	選択肢	非常に そう思う	そう思う	普通	あまりそう 思わない	そう 思わない
(1) 実現性がある		1	2	3	4	5
(2) わかりやすい		1	2	3	4	5
(3) あなたの事業所のニーズに合致 している		1	2	3	4	5
(4) 地域のニーズに合致している		1	2	3	4	5

- 3 -

企業等向け（大学院修了）

(記述欄)

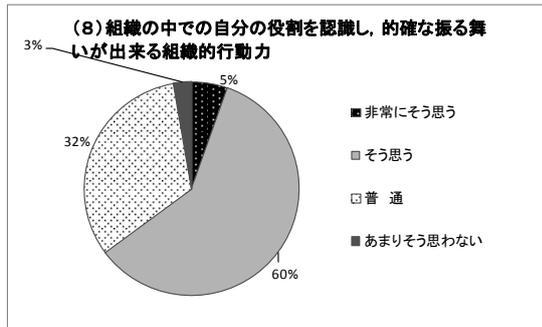
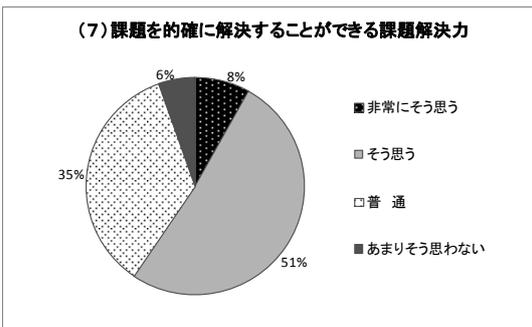
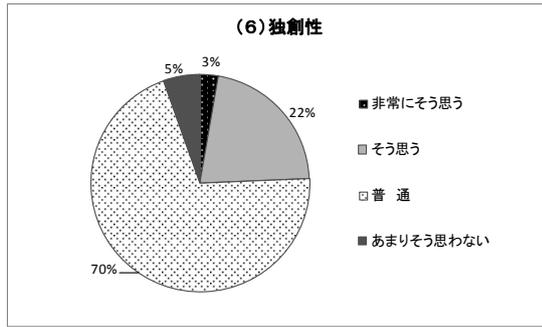
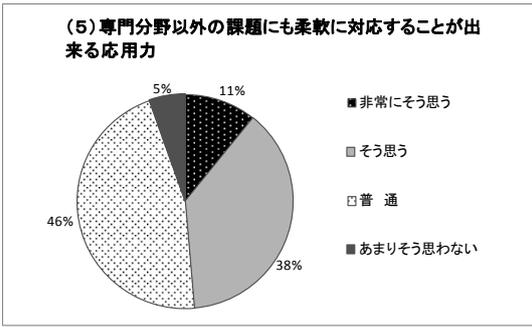
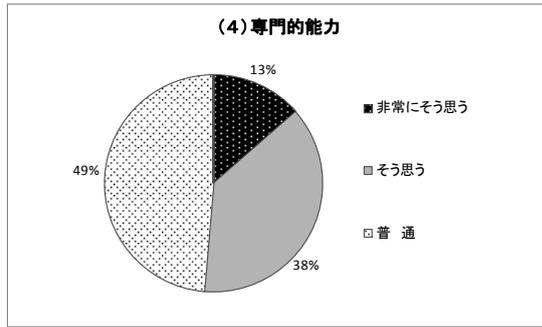
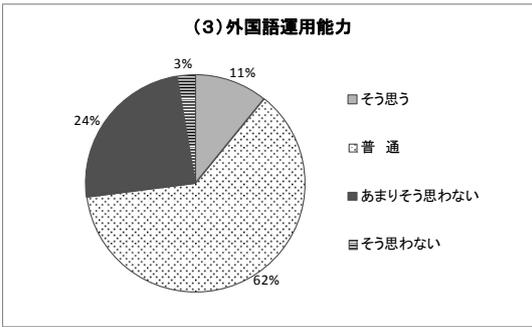
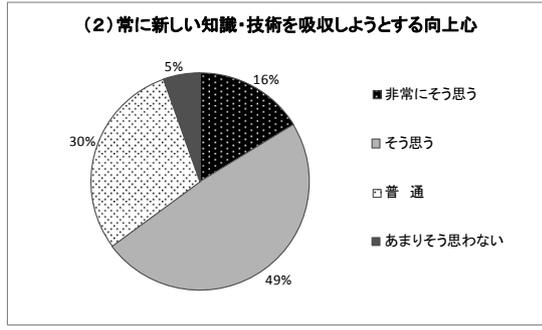
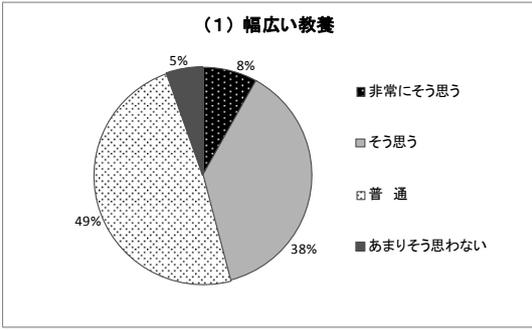
※ 本学の将来設計を考える際の参考とさせていただきます。
秋田大学や大学院教育全般、あるいはこの調査についてのご意見・ご感想など
がございましたら、ご自由にお書きください。

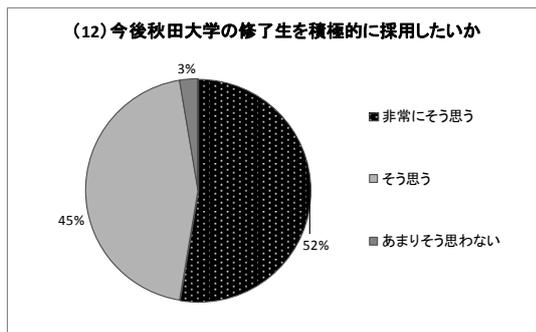
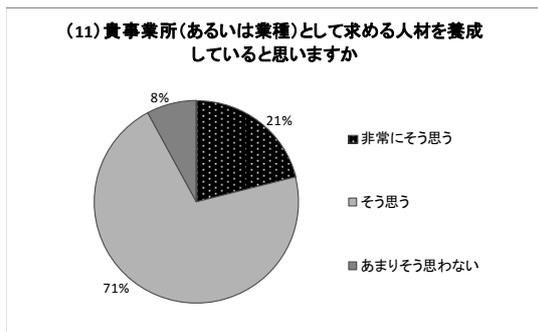
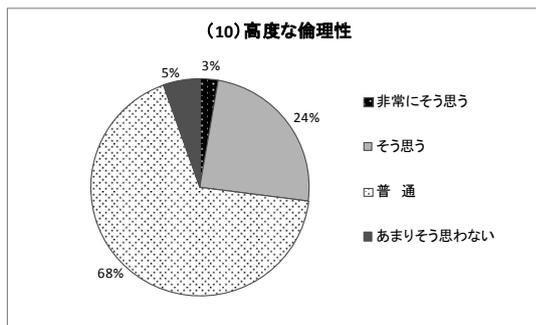
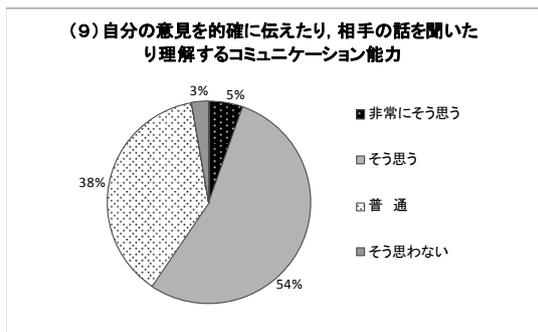
(記述欄)

ご協力、ありがとうございました。

(出典：工学資源学研究所の教育成果に関する調査)

◆秋田大学の修了生が有している能力・知識





(出典:工学資源学研究科の教育成果に関する調査(平成27年11月実施))

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 研究科と就職推進課が連携した就職支援体制を整備し、就職希望者の就職率は95%以上である。

教育課程で学んだ事が学生のキャリア形成に役立っている。採用企業は、今後の修了生の採用にも100%近が肯定的な意見を示している。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

共同大学院（共同ライフサイクルデザイン工学専攻）の設置、博士課程教育リーディングプログラム「資源ニューフロンティア特別教育コース」の採択、医理工連携コースの設置など、教育プログラムを拡充した。

平成 27 年には、工学資源学研究科（8 専攻）を改組して、理学、理工学、工学の 3 つの修士・博士を取得できる理工学研究科、及び、資源学の修士・博士を取得できる国際資源学研究科の設置を準備した。資源学、理学、工学の専門性の高い教育プログラムを構築したことで、多彩な教育課程を整備した。

また、自己評価・点検の仕組みとして、外部委員が半数を占める教育研究カウンシルを設置した。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

平成 25 年度日本学術振興会特別研究員（DC）に採用されたことをはじめ、多くの表彰を受けている。

平成 24 年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラムに採択された資源ニューフロンティア特別教育コースで、第 14 回国際ビジネス経済会議で最優秀賞（経済部門）を受賞したほか、日本地球掘削科学コンソーシアムの国際深海科学掘削計画（IODP）メンバーとして国内 4 名の中に選ばれるなど高いレベルの教育研究活動を実施した。